

第4回自然環境保全基礎調査

# 動植物分布調査報告書

(哺乳類)

平成5(1993)年3月

環境庁自然保護局

---

---

---



## 序

本報告書は、第4回自然環境保全基礎調査の一環として行われた動植物分布調査（全種調査）のうち哺乳類についての調査結果をとりまとめたものである。

我が国に産する全ての動植物について、分布の現状とその時系列的变化を把握するためには、一つ一つの確実なデータ（いつ、どこに、何がいたか、それを誰が確認したか）を丹念に収集し、蓄積することが必要である。

しかし、動物は移動するものであり、身を守るために姿を隠す習性があるなど一般に人目に触れる機会が少なく、また形態等が類似しているものがあり、多くの種について確実なデータを得ることはなかなか容易ではない。

従って、全国にわたるこの種の調査を実施するためには、種の分類、同定に関する確かな知識と能力を有する専門研究者の永年にわたる協力が不可欠である。

幸いにも本調査にあたっては、学会等を中心に、前回調査員数を上回るおよそ2,600名の専門家の理解と協力が得られた。

この全種調査は、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、昆虫類（トンボ類、セミ類、チョウ類、ガ類の一部、甲虫類の一部）、貝類（淡水産貝類及び陸産貝類）を対象として実施し、それらの結果を9分冊の報告書にまとめたものである。（なお、鳥類の調査内容は一部の種の集団繁殖地および集団ねぐらの分布に限定しているため、他の分類群と異なる。）

今回の調査は、第3回自然環境保全基礎調査全種調査と組み合わせてより詳細な分布情報を得る目的で実施され、結果をとりまとめるにあたっては第3回調査と併せる形で集計を行っている。この結果、約63万件の分布情報が寄せられ、およそ2,300枚の分布図が作成された。しかし、専門家の少なさや地域的偏在、あるいは調査期間の制約などの事情により、分布状況を的確に表現するに至らなかったものも相当数にのぼっている。このため検討会（分科会）において、それぞれの分布図毎に検討し、分布表現の程度を判定し、短いコメントを付すこととした。このコメントは、今後調査を継続する際に、あるいは、本資料を活用する際に充分留意されるべきものである。

なお、本報告書の作成にあたり、分布図及び集計表の作成等、情報の集計業務については、環境庁自然保護局からの請負業務として（財）自然環境研究センターが実施した。

最後に、本調査の企画立案からまとめに至るまで御指導頂いた検討会（分科会）の学識経験者の方々並びに、貴重な時間をさいて分布情報の提供に御協力頂いた専門家の皆様、（社）大日本獺友会の皆様、各都道府県の鳥獣保護員の皆様に心から感謝の意を表する次第である。

平成5（1993）年3月  
環境庁自然保護局

日本から記録されている全哺乳類のうち、全国の専門家より寄せられた126種の分布情報をもとに種ごとの分布図が作成され、前回、第3回調査報告書の改訂版としてその集大成がこの度発刊される運びとなった。

ここに使われた分布情報は専門家が直接採集あるいは同定した標本に基づき、あるいは観察したデータを集積したものであるため、その情報価値はきわめて高いものである。哺乳類の場合、昼行性あるいは大型で目撃情報の得やすいものは比較的少なく、大多数のものが夜行性小型種であるため、それらは標本採集によらないかぎり正確な同定が困難なものである。したがって、例えば鳥類の場合のように多くの愛好家による観察情報が有効な資料になりうるのと違って、哺乳類におけるこの種の情報収集は、限られた専門家が長年にわたって収集した資料の提供を受けない限りほとんど不可能なことである。

情報提供者が少なく、新たな情報がほとんど得られなかった海獣類を除けば、今回集積された分布情報は前回のものより著しく増加しており、分布図は全体としてより現実的なものとなっている。特に広域分布種や普通種などでは前回調査時の情報量がきわめて少なく、また片寄ったものであったのに対して、今回は予想される分布域内において連続分布を示唆するほど充実したものが多くなった。いうまでもなく、予想される生息域でも情報を欠く区画がまだ多数残されているので、それらを埋めるような今後とも絶えず努力がなされるべきである。また、一方では各専門家や各種の情報源から得られるデータを経常的に能率よく収集し、保存するようなシステムを作ることが肝要である。そのようなシステムができていない現在では、まだデータ収集の間隔が広く精度も粗いため、分布の拡大・縮小などを細かく追跡することはできない。今後はこのようなシステムの整備と、長期運用の実現ができることを切に望むものである。

完全ではないものの、今回のような一国の哺乳類全種の分布図作成を試み、この程度の精度でそれを作ったものは諸外国でもあまり多くないであろう。北アメリカでも一部の州、例えばニューメキシコ州の哺乳類について類似のものがある。今後は鳥類についてのイギリスの例にみられるような精度の高いものが作れることを希望したい。ともあれ、この事業にご協力をいただいた多くの情報提供者と共に今回の事業の完了を喜ぶと共に、担当者の一人として各位のご協力に対し感謝の意を表す次第である。

# 目 次

## 第 1 部 調査方法

1	動植物分布調査（全種調査）概要	1
2	取りまとめの方法	10
3	第 3 回基礎調査（全種調査）との相違点	16
4	哺乳類の調査実施状況	17

## 第 2 部 調査結果

I	分布図	21
II	集計表	149
III	考察	158
	< 総 論 >	158
	< 各 論 >	159
1	モグラ目	159
2	コウモリ目	162
3	サル目	163
4	ウサギ目・ネズミ目	165
5	ネコ目	178
6	アザラシ目	182
7	ウシ目	184
IV	まとめ	185

## 第 3 部 資 料

1	第 4 回自然環境保全基礎調査検討会及び分科会名簿	187
2	第 4 回自然環境保全基礎調査動植物分布調査実施要綱	188
3	動植物分布調査票の記入のしかた	190
4	調査対象種一覧	193
5	調査対象種変更点一覧	200
6	調査協力者名簿	204
7	分布図索引（和名 50 音順）	206



# 第 1 部 調 査 方 法



## 1. 動植物分布調査（全種調査）概要

### （1）目的

本調査は、第4回自然環境保全基礎調査・動植物分布調査の一環として動物の主要分類群の全種（または一部の種）を対象に専門研究者の参加・協力を得て実施したものである。（図1-1）

自然環境保全基礎調査の目的は、全国的視点から我が国における自然環境の現状を科学的に把握し、自然環境保全施策の推進のための基礎資料を提供することである。野生動物についていえば、人間を含むあらゆる動物は、大気・水・土地やその上に生育する植物（植生）等の環境に依存して生息するとともに、生態系を構成する一員としてそれを支えている側面があるが、中には、環境条件の変化等さまざまなインパクトにより絶滅の危機に頻している種もあり、一方、一部の帰化動物に代表されるように一定条件の下で分布域を著しく拡大するような種もある。

このため、野生動物に関する自然環境保全施策として、当面、絶滅のおそれのある種の保護や、人間生活との関わりの中で適切な保護管理を要する種に対する施策が優先的に講じられているところである。

自然環境保全基礎調査の一環として行う動植物分布調査（全種調査）は、これら施策の対象となるべき種の洗い出しや、今後講ずべき施策の検討のための、基礎的かつ客観的資料を提供する目的で、究極的には我が国に産する動物群の全種に関する全国的分布の現状及び経年変化の状況を把握しようとするものである。

### （2）調査の内容及び方法

全種調査は、究極的には我が国に産する全ての動物種について、分布の現状を把握するとともに調査の積み重ねにより経年変化状況も把握しようとするものである。

このために必要な最小限の情報は「いつ、どこに、何が」いたかということである。また、必要に応じ情報源をたどるためには「誰が」報告したかということも重要である。

本調査では、調査対象種が多く、また、多数の調査員（専門研究者）の協力を得て実施するため、調査項目は上記に示すできるだけ単純かつ客観的な資料を得るためのものに絞りこんだ。

これらの調査項目に関する具体的な調査方法及び調査体制ならびに今回調査における調査対象種については、平成元年度に実施した「第4回自然環境保全基礎調査（動物分布調査）における調査手法の検討調査」に引続き、環境庁が設置した自然環境保全基礎調査検討会の下に動物の各分類群毎に設けた分科会（以下「分科会」という。）における検討作業を経て下記のとおり決定された。

なお鳥類は、一部の種の集団繁殖地および集団ねぐらの状況について、分布、個体数、環境等を調査したため、本報告書に記述されている調査方法、取りまとめ方法とは異なる方法で実施された。

#### ① 調査対象種

今回の調査では、生態系の主要な位置を占め、生物学的知見の蓄積がある等の要件を満たし、さらに調査実施体制の構築が可能という観点を加味

して次の分類群に属する全部または一部の種・亜種を対象とした。

- ア. 哺乳類（全種）
- イ. 両生類・爬虫類（ 〃 ）
- ウ. 淡水魚類（ 〃 ）
- エ. 昆虫類（トコジメ類・セミ類・チョウ類の全種及びガ類・甲虫類の一部）
- オ. 陸産及び淡水産貝類（全種）
- カ. 鳥類（集団繁殖地及び集団ねぐらを形成する一部種）

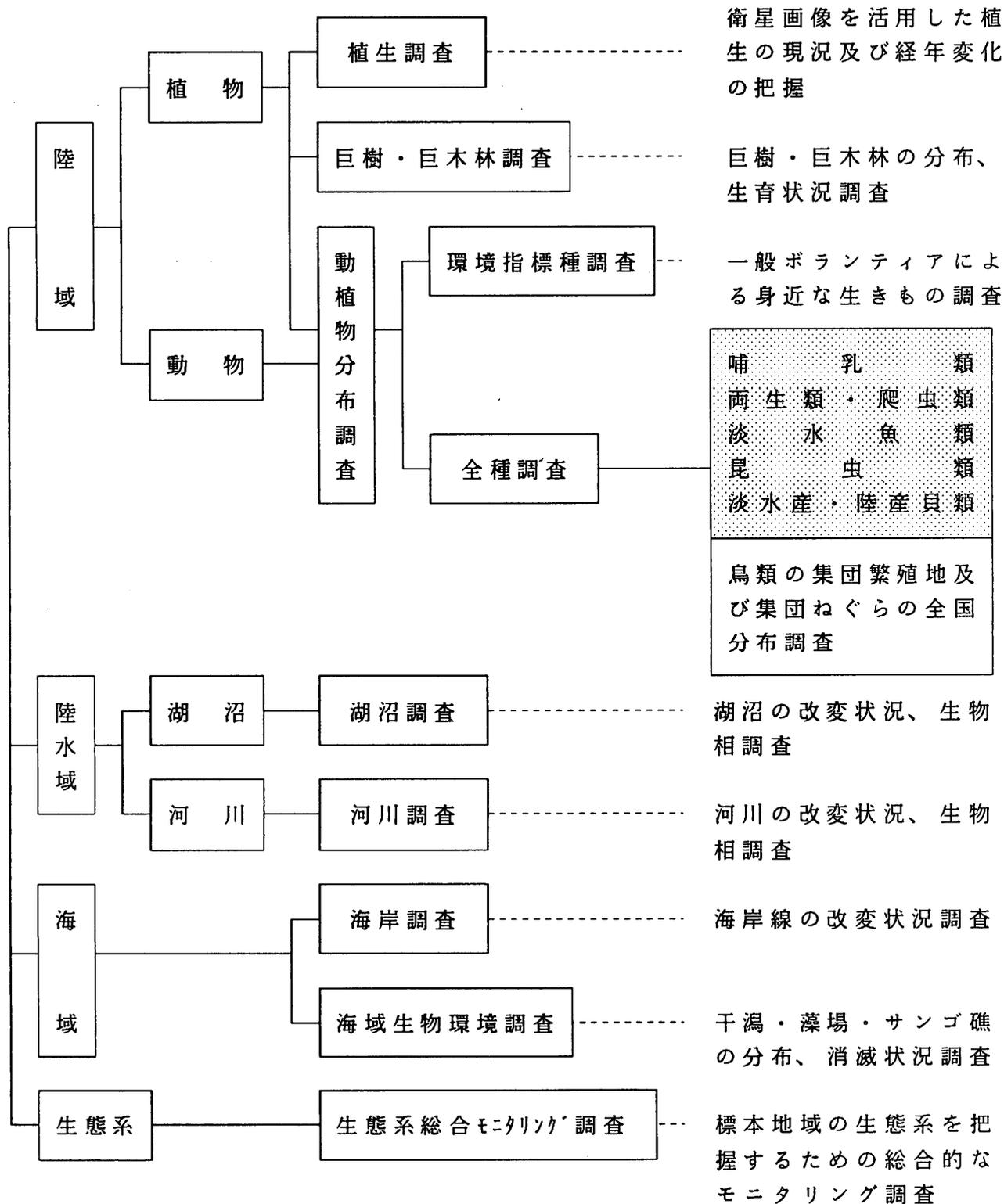


図 1 - 1 第 4 回自然環境保全基礎調査骨子

これらの調査対象種について、本調査における種名の呼称の統一をはかるとともに既存の知見を整理するため、第3回自然環境保全基礎調査の動物分布調査に先立ちとりまとめられた「動物分布調査のためのチェックリスト」（環境庁、1983）を参考にして、各分科会において新たに第4回調査用の調査対象種一覧（巻末資料4）を作成した。この際、第3回調査以降分類学上の変更が生じた種については、別途調査対象種変更点一覧（巻末資料5）としてとりまとめた。

調査対象一覧は、種の学名及び和名を対応させるとともに（淡水魚類を除く）電算処理のためのコード番号が付されている（巻末資料参照）。

#### ②分布地

調査対象種の分布地を記録する方法としては、地名呼称によるあいまいさを避け、電算処理を容易とするために、「標準地域メッシュ・システム」（昭48.7.12 行政管理庁告示第143号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード」）による第3次地域区画（「標準地域メッシュ」または「3次メッシュ」ともいう。本報告書では以下「3次メッシュ」という。）を基本とした。この3次メッシュの大きさは、タテ（緯度差）30秒、ヨコ（経度差）45秒であり、概ね1 km×1 kmである。

なお、補助情報として従来どおりの地名による表記も採用し、メッシュコードのチェックが可能となるようにした。なお、今回調査では、一部過去の記録も収集したため、3次メッシュの特定が不可能な場合には「第2次地域区画」（以下「2次メッシュ」という。約10 km×10 kmの範囲で、1/25,000地形図1枚分に対応する。）により記録した。

#### ③調査時期

今回調査は、全分類群について平成2年度～3年度に実施した。（さらに、とりまとめの段階で平成4年度以降のデータも若干補足されている。）

また、今回調査は、全種調査としては第2回目（第1回目は第3回自然環境保全基礎調査において実施された。）であるが、調査期間中のデータのみでは分布図を作成するには不十分であったため、過去の記録、標本等であっても、現在の分布を反映していると考えられる情報については積極的に収集した。

調査年月日は、実際に記録（観察もしくは標本採集）された時点を調査票に記入し、過去の記録については、さらに調査票記入者のほかに、観察または採集者名及び標本所蔵場所を明記することとした。

#### ④調査体制

第4回基礎調査の動植物分布調査（鳥類を除く）では、第3回調査に引き続き全国各地の調査員（専門研究者）が、自らのフィールドで得た情報を直接環境庁に報告し、環境庁はこれらの報告を集大成して調査員に還元することにより、今後の継続的情報収集に資する調査網づくりと調査精度の向上を目指す調査体制を採用した。

特に動物の分布調査においては、そもそも目指す動物との出合の機会は偶然性に左右され、少数の調査員に限られた期間に十分なデータを収集することは困難であるため、継続的・反復的調査の必要性が高い。

また、本調査（全種調査）では、調査対象分類群が多岐に上ることから、

調査員は、種の分類・同定に関する確かな知識と能力を備えていることが必須である。

このため、原則として分類群毎に、分科会検討員や学会等から推薦されただけ広範な専門研究者に対し、環境庁から直接、調査への協力要請を行い、承諾頂いた方々について調査員として依頼し、調査体制を作った。

調査員数は全分類群を通じ、延べ2,602人である。

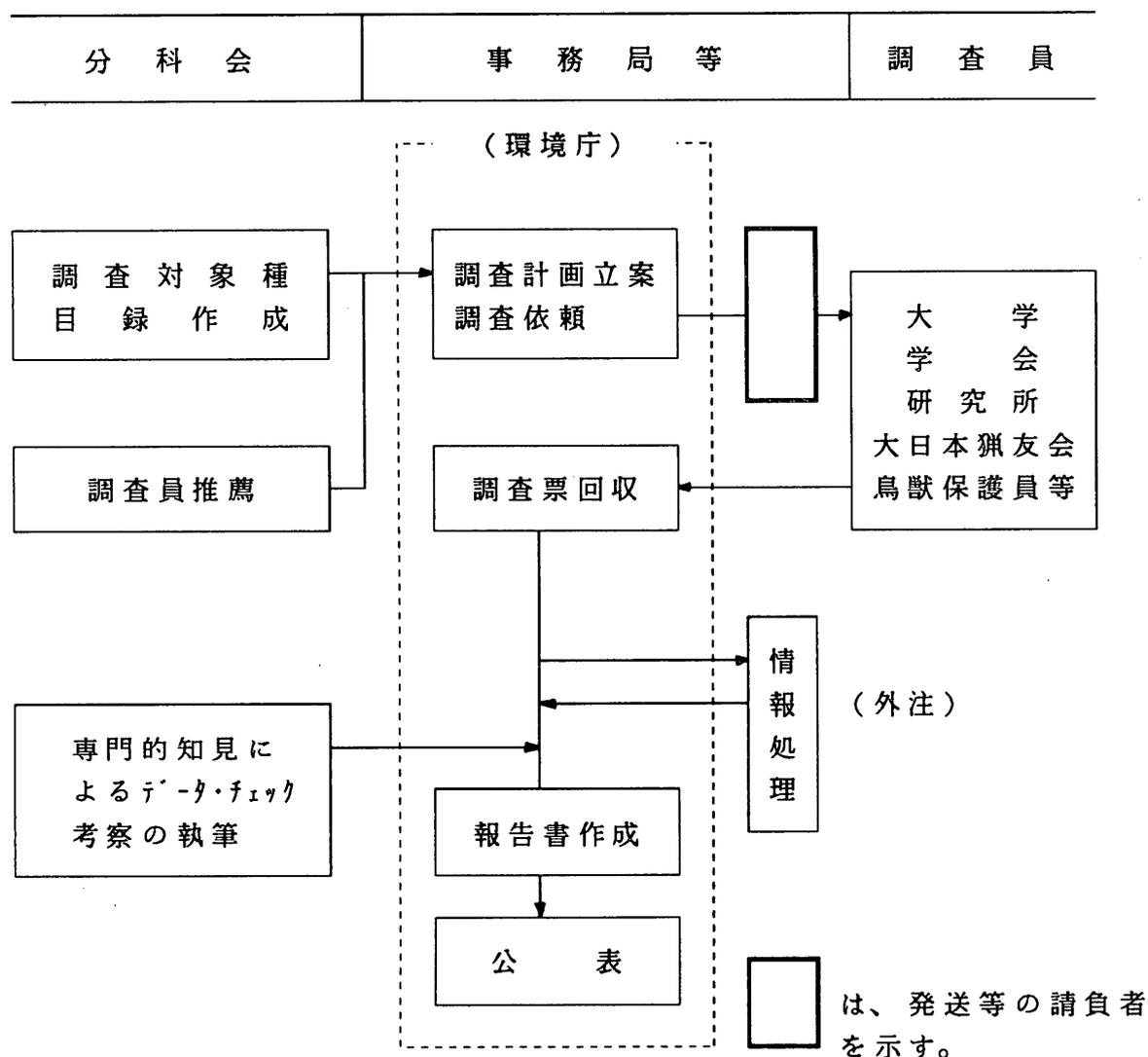


図 1 - 2 調査体制

#### ⑤実施方法

各調査員には、調査実施要綱等（巻末資料参考）のほか、次に示す調査票、メッシュ地形図を送付し、原則として平成4年3月31日までに調査結果を環境庁あて返送するよう依頼した。

##### ア. 調査票

調査票は、分類群別に、図1-3に示すような2種類の様式のものを使用した。これは、調査員の作業の便を考慮したもので、「調査地」毎の情

報整理には、タテ型の調査票（E票）、「種」毎の情報整理には、ヨコ型の調査票（N票）というように自由に選択して使用できることとした。

#### イ. メッシュ地形図

調査地（分布地）のメッシュコードを読みとるために、5万分の1地形図上に3次メッシュ区画線等を加刷した「1／5万メッシュ地形図」を作成し、各調査員より申告のあった調査地域分を配布した。（図1-4）

# 自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

E		7 4		哺乳類	
調査者名		調査者コード			
(姓)	(名)				
カタカナ	メッシュコード				
調査年月日		年	月	日	日
1 9					
調査地	都道府県	市区町村			

- |                   |                      |                     |
|-------------------|----------------------|---------------------|
| (食虫目)             | (翼手目)                |                     |
| 0001 アズミトガリネズミ    | 0019 クビワオオコウモリ       | 0036 ノレンコウモリ        |
| 0002 テビトガリネズミ     | 0020 オキナワオオコウモリ      | 0037 アブラコウモリ        |
| 0003 カラフトヒメトガリネズミ | 0021 オガサワラオオコウモリ     | 0038 モリアブラコウモリ      |
| 0004 シントウトガリネズミ   | 0022 キクガシラコウモリ       | 0039 クロオオアブラコウモリ    |
| 0006 オオアシトガリネズミ   | 0023 コキクガシラコウモリ      | 0136 オガサワラアブラコウモリ   |
| 0131 サドガリネズミ      | 0024 イリオモテコキクガシラコウモリ | 0137 コウライオオアブラコウモリ  |
| 0007 コジネズミ        | 0132 オキナワコキクガシラコウモリ  | 0040 ヒメホリカワコウモリ     |
| 0008 オナガジネズミ      | 0133 ヤエヤマコキクガシラコウモリ  | 0041 クビワコウモリ        |
| 0009 ジネズミ         | 0025 カグラコウモリ         | 0042 ヤマコウモリ         |
| 0010 オリイジネズミ      | 0026 クロアカコウモリ        | 0043 コヤマコウモリ        |
| 0011 ジャコウネズミ      | 0027 モモジロコウモリ        | 0044 ヒナコウモリ         |
| 0012 カワネズミ        | 0028 ドーベントンコウモリ      | 0046 チチブコウモリ        |
| 0013 ヒメヒミズ        | 0029 ウスリホオヒゲコウモリ     | 0047 ウサギコウモリ        |
| 0014 ヒミズ          | 0030 オゼホオヒゲコウモリ      | 0048 ニホンユビナガコウモリ    |
| 0015 ミズラモグラ       | 0032 シナノホオヒゲコウモリ     | 0049 リュウキュウユビナガコウモリ |
| 0016 モグラ          | 0033 ヒメホオヒゲコウモリ      | 0138 ニホンテングコウモリ     |
| 0017 コウベモグラ       | 0034 クロホオヒゲコウモリ      | 0051 ニホンコテングコウモリ    |
| 0018 サドモグラ        | 0134 エゾホオヒゲコウモリ      | 0052 クチバテングコウモリ     |
|                   | 0135 フジホオヒゲコウモリ      | 0053 オヒキコウモリ        |
|                   | 0035 カグヤコウモリ         |                     |

(裏面に続く)

※生息確認種に○印をつける

- |                |                 |                 |
|----------------|-----------------|-----------------|
| (霊長目)          | 0079 ハタネズミ      | 0105 オコジョ       |
| 0054 ニホンザル     | 0080 マスクラット     | 0106 ミンク        |
| 0055 タイワンザル    | 0081 アカネズミ      | 0107 アナグマ       |
| (ウサギ目)         | 0082 ミヤケアカネズミ   | 0108 カワウン       |
| 0056 ナキウサギ     | 0083 カラフトアカネズミ  | 0109 ラッコ        |
| 0057 アマミノクロウサギ | 0084 ヒメネズミ      | 0110 ハクビシン      |
| 0058 ユキウサギ     | 0085 セスジネズミ     | 0111 インドマングース   |
| 0059 ノウサギ      | 0086 カヤネズミ      | 0112 イエネコ(野生化)  |
| 0060 カイウサギ     | 0087 ハツカネズミ     | 0113 ツシマヤマネコ    |
| (げっ歯目)         | 0088 オキナワハツカネズミ | 0114 イリオモテヤマネコ  |
| 0061 タイワンリス    | 0089 アマミゲネズミ    | (鱈脚目)           |
| 0062 エソリス      | 0090 クマネズミ      | 0115 アシカ        |
| 0063 ニホンリス     | 0091 ドブネズミ      | 0116 トド         |
| 0064 シマリス      | 0092 ケナガネズミ     | 0117 オットセイ      |
| 0065 ホンドモモンガ   | 0093 ヌートリア      | 0118 セイウチ       |
| 0066 エゾモモンガ    | (食肉目)           | 0119 ゼニガタアザラシ   |
| 0067 ムササビ      | 0094 ヒグマ        | 0120 ゴマフアザラシ    |
| 0068 ヤマネ       | 0095 ツキノワグマ     | 0121 ワモンアザラシ    |
| 0069 ミカドネズミ    | 0096 アライグマ      | 0122 クラカケアザラシ   |
| 0070 エソヤチネズミ   | 0139 カニクイアライグマ  | 0123 アゴヒゲアザラシ   |
| 0071 シコタンヤチネズミ | 0097 タヌキ        | (偶蹄目)           |
| 0072 リシリムクゲネズミ | 0098 キツネ        | 0124 ニホンイノシシ    |
| 0073 ミヤマムクゲネズミ | 0099 イヌ(野犬)     | 0125 リュウキュウイノシシ |
| 0074 ニイガタヤチネズミ | 0100 テン         | 0126 ニホンジカ      |
| 0075 トウホクヤチネズミ | 0101 クロテン       | 0127 ツシマジカ      |
| 0076 ワカヤマヤチネズミ | 0102 チョウセンイタチ   | 0128 エゾシカ       |
| 0077 カゲネズミ     | 0103 イタチ        | 0129 ニホンカモシカ    |
| 0078 スミスネズミ    | 0104 イイズナ       | 0130 ヤギ(野生化)    |

備考(標本所蔵場所、引用文献、生息環境等)

環境庁自然保護局自然環境調査室

図 1 - 3 - 1 第 4 回動植物分布調査票 E 票 (表・裏)

# 自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

E		7 4	哺乳類
①	②-⑧	⑨	⑩
調査者名		調査者コード	
(姓)	(名)		
カタカナ	メッシュコード	⑪-⑬	
調査年月日		年	月
		日	日
		⑭-⑯	
調査地	都道府県	市区町村	

※生息を確認した種の番号に○印をつけて下さい。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 0054 ニホンザル     | 0100 テン         |
| 0059 ノウサギ      | 0101 クロテン       |
| 0061 タイワンリス    | 0102 チョウセンイタチ   |
| 0062 エノリス      | 0103 イタチ        |
| 0063 ニホンリス     | 0107 アナグマ       |
| 0064 シマリス      | 0110 ハクビシン      |
| 0067 ムササビ      | 0112 イエネコ (野生化) |
| 0093 ヌートリアル    | 0124 ニホンイノシシ    |
| 0094 ヒグマ       | 0125 リュウキュウイノシシ |
| 0095 ツキノワグマ    | 0126 ニホンジカ      |
| 0096 アライグマ     | 0127 ツシマジカ      |
| 0139 カニクイアライグマ | 0128 エゾシカ       |
| 0097 タヌキ       | 0129 ニホンカモシカ    |
| 0098 キツネ       | 0130 ヤギ (野生化)   |
| 0099 イヌ (野生化)  |                 |

注・調査者コード、メッシュコード及び調査年は必ず記入して下さい。

・生息の確認は、足跡、糞等によるものでなく、実際に目で確認したもののみとします。

環境庁自然保護局自然環境調査室

図1-3-2 第4回動植物分布調査票 E票 (鳥獣保護員用)

(鳥獣保護員には、哺乳類の一部の種に限って調査を依頼したため、鳥獣保護員用の調査票は別途作成された。)

### 自然環境保全基礎調査動植物分布調査票

<b>N</b>		74	<b>哺乳類</b>
調査者名 (姓) _____ (名) _____ カタカナ _____	調査者コード _____	種名コード _____	

メッシュコード	調査地	年	月	日	生息環境
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____

_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____
_____	_____	19	_____	_____	_____

標本所産場所  
\_\_\_\_\_

環境庁自然保護局自然環境調査室

図1-3-3 第4回動植物分布調査票 N票 (表・裏)



## 2. 取りまとめの方法

### (1) 情報処理の内容と方法

情報処理は図1-5の手順で進められた。

#### ①入力

調査員より返送された調査票は、記入の不備等を点検した上で、分類群別、調査票種別(タテ型、ヨコ型)毎に整理番号を付し、分類群別マスターファイル(MT)を作成した。

なお、調査地(分布地)のメッシュコードは、前述のとおり行政管理庁告示の「標準地域メッシュシステム」に則り、日本工業規格(JIS C 6304)として指定されている区分方法(経緯度法)を用いている。(図1-6参照)

#### ②データの点検

データの記入ミスあるいは調査対象種の誤認等を訂正するため、次に示す3通りの方法でデータの点検を行い、必要に応じ調査者に照会するなどにより、所要の訂正を行った。

なお、本作業を行うにあたっては、マスターファイルを編集し、作業用ファイルを作成するとともに、分布図出力及び調査票検索システムを作成した。

点検の結果、訂正等を要するデータについては、マスターファイルに遡って訂正した。

#### ア. 論理チェック

データの中にあってはならない空白もしくは許されたもの以外の数字、符号、文字がないかどうかを点検するとともに、各項目のコード番号として用いられている範囲(レンジ)外のコード番号がないかどうかを点検した。

#### イ. メッシュコードの点検

第3回自然環境保全基礎調査の植生調査数値情報との照合を行い、明らかに陸地(内水面を含む)を含まないメッシュコードの記入された調査票を検索し、調査票記入の調査地(地名)もしくは調査者への照会に基づき訂正を行った。

#### ウ. 専門家による点検

各分類群毎の分科会検討委員等によって抽出された、分布図上で、明らかに誤りと考えられるデータ、これまでの知見に照らして疑問のあるデータについて、調査票に遡って点検を行い、必要に応じ調査員に照会を行った上で所要の訂正又は削除を行った。

#### ③分布図及び集計表の出力

上記の作業を経た訂正後のマスターファイルを再編集し、その後に第3回自然環境保全基礎調査動植物分布調査結果のマスターファイルと合併した上で本報告書掲載の分布図及び集計表の出力を行った。

### (2) 調査結果の検討及び考察

調査結果については、分類群毎に分科会で下記のとおり検討を行った。

#### ①分布図の表示単位

本調査の原データは、前述の通り3次メッシュ(約1km×1km)単位で収集されたが、今回のとりまとめにおいて作成する分布図は次の観点から2次メッシュ(約10km×10km)単位で表示することとした。

- ア. 全国的分布図として見る場合、見やすいものであること。
- イ. 生息地の公表による乱獲を防止するため、生息地が特定されないようにできるだけ広い単位であること。
- ウ. 各種開発に当たり、配慮すべき地域（貴重種の生息地等）に関する基礎的情報をあらかじめ提供することは、自然環境保全上重要であるので、上記イ. の観点も踏まえ公表可能な表示単位であること。

#### ② 公表を控えるべきデータの取り扱い

第2回自然環境保全基礎調査・動物分布調査では、上記①－イ. の観点から、分布地を全て非公表とした調査対象種もあった。

今回調査でも、調査員からの申し出により、3次メッシュでの公表を差し控えるべきデータが若干数報告されたが、上記①－ウ. の趣旨に則り、調査員の了解が得られたデータについては、2次メッシュ情報のみ入力し、分布図に表示することとした。

#### ③ 分布図についてのコメント

今回調査では、調査の期間が限られており、また分類群あるいは地域によっては、十分な調査員数が確保できなかったこと等から、調査対象種全てについて従来から知られている分布パターンを十分表した分布図が作成されたわけではない。

そこで、分布図の誤った解釈や不適切な引用を避けるために、各分科会検討員によりそれぞれの調査対象種がどの程度従来から知られている分布パターンを表現できているかについて類型区分の判定を行い、分布図上に短いコメントとして明記することとした。

#### ④ 考 察

調査結果に関する考察は、各分科会において選出された担当者により執筆された。

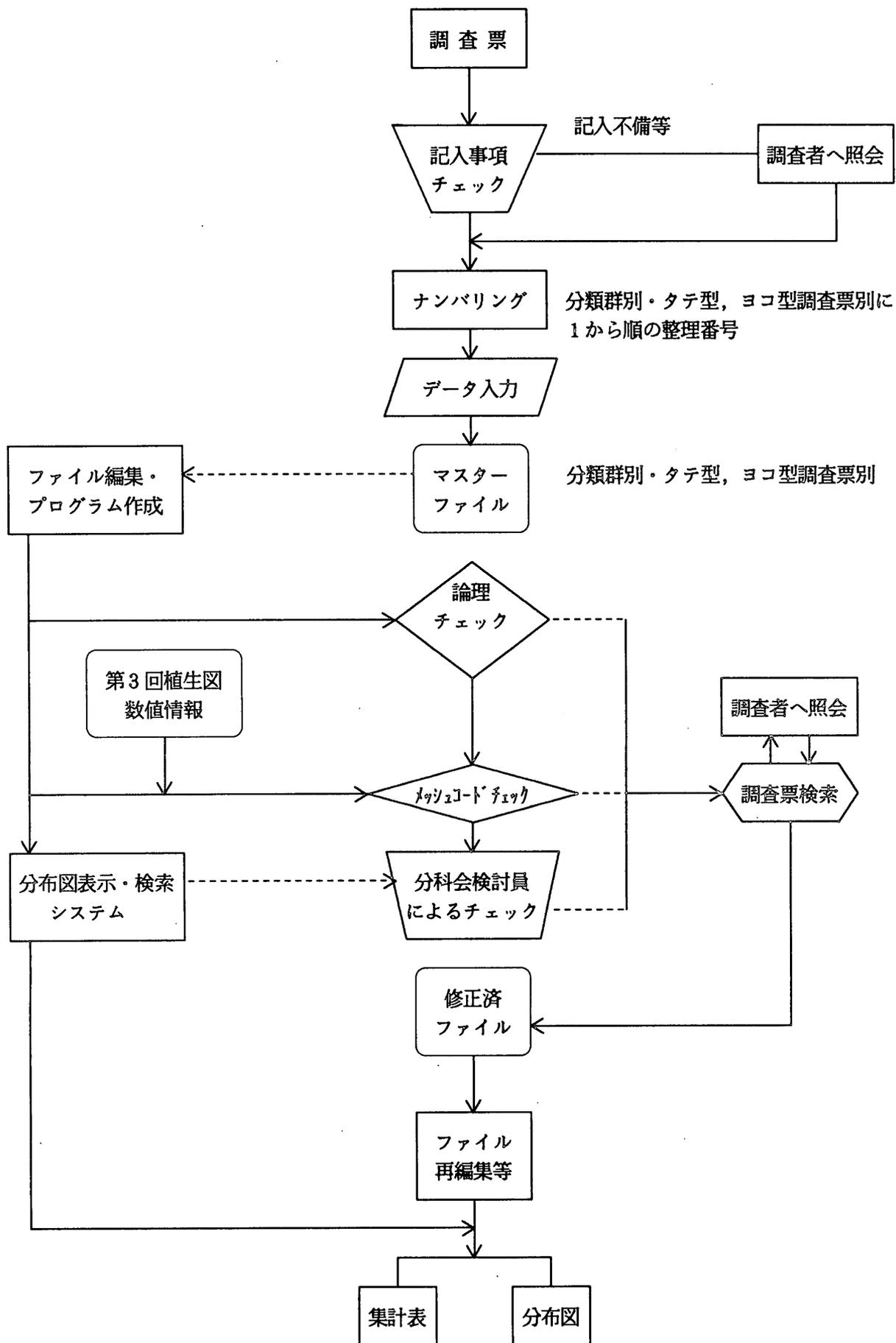


図1-5 情報処理の手順

■メッシュコードの付け方

「標準地域メッシュ・システム」(昭48. 行政管理庁告示第143号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準地域メッシュコード」)は、一定の経線、緯線で地域を網の目状に区画する方法を用いている(下図のとおり)。

第1次地域区画は、経度差1度、緯度差40分で区画された範囲を指す。第2次地域区画は、第1次地域区画を縦横8等分したもので、第3次地域区画は第2次地域区画を縦横10等分したものである。一般に、この第3次地域区画のことを「標準地域メッシュ」あるいは「第3次メッシュ」と呼ぶ。

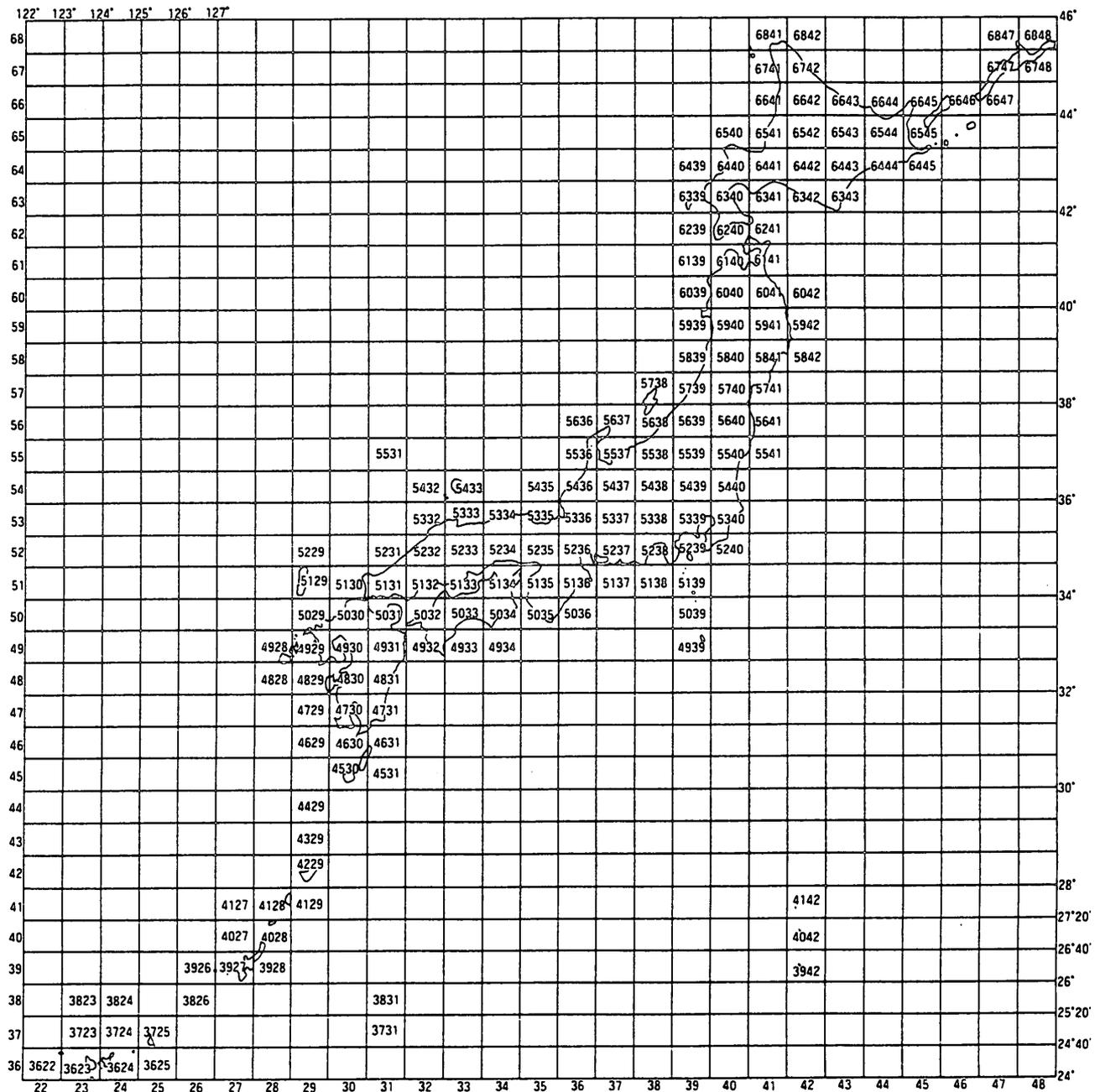


図1-6 第1次地域メッシュコード一覧

表 1-1 メッシュコードの付け方

	メッシュコードの桁数	メッシュコードの付け方	例
第1次地域区画	4桁	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上2桁：南端緯度×1.5 (但し、分の単位も含む)</li> <li>●下2桁：西端経度の下2桁</li> <li>●南端緯度36° 00' 西端経度138° の場合 &lt;上2桁=36×1.5=54&gt; &lt;下2桁=38&gt; → メッシュコードは [5438]</li> </ul>	<p>約80×80km</p>
第2次地域区画	6桁	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上4桁：第1次地域区画のメッシュコード</li> <li>●5桁目：第1次地域区画の縦の等分区画に南から0～7の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする</li> <li>●6桁目：第1次地域区画の横の等分区画に西から0～7の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする</li> <li>●右図の○印のメッシュコードは [543823]</li> </ul>	<p>約10×10km</p>
基準地域メッシュ・第3次地域区画	8桁	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上6桁：第2次地域区画のメッシュコード</li> <li>●7桁目：第2次地域区画の縦の等分区画に南から0～9の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする</li> <li>●8桁目：第2次地域区画の横の等分区画に西から0～9の番号を付け、これをそれぞれの区画を示す数字とする</li> <li>●右図の○印のメッシュコードは [54382343]</li> </ul>	<p>約1×1km</p>

(3) 分類群別の調査状況

分類群別の調査状況を表1-2に示す。

表1-2 分類群別調査状況

分類群	(1) 調査 対象 種数	(2) 報告の あった 種数	(3) 延べ報告件数 分布情報総数	(4) 延べ報告 3次メッシュ数	(5) 報告2次 メッシュ数 全国:4,730	(6) 調査 員数
哺乳類	135	126	229,710	225,542	4,154	1,370
両生類・爬虫類	147	121	11,887	10,408	1,600	78
淡水魚類	280	265	60,467	44,319	2,380	205
昆虫類						
トンボ類	203	165	22,850	18,428	1,789	63
チョウ類	294	263	167,618	128,520	2,795	423
セミ類	32	32	6,146	5,563	1,311	32
ガ類	119	98	21,561	14,363	543	81
甲虫類						
ハシロウ・クワガタ	59	53	4,326	3,322	977	80
ハナカミキリ類	160	154	12,676	10,607	964	41
陸産及び淡水産貝類	1,134	992	92,335	71,209	2,854	229
計	2,563	2,269	629,576	532,281	19,367	2,602

注)

- (1) 調査対象種数：各報告書の巻末資料に示された調査対象種（亜種）（コード番号が付されたもの）の数である。
- (2) 報告のあった種数：本調査の結果、分布に関する報告がされた（分布図が作成された）種（亜種）の数である。
- (3) 延べ報告件数：各調査票に記載された報告を、「種-調査者-メッシュコード-調査年月」という単位で整理して得られた分布情報の総数である。
- (4) 延べ報告メッシュ数：上記(3)の分布情報から、同一種、同一メッシュにおける報告を統合し、「種-メッシュコード」という単位で整理して得られた数である。（各報告書の表2-1に示された「種別・都道府県別3次メッシュ集計表」の総合計の数）
- (5) 報告メッシュ数：当該分類群において、いずれかの種の報告が得られた2次メッシュ（2次メッシュ）の数である。（各報告書の表1-4、図1-7に表示されたメッシュ数）
- (6) 調査員数：各分類群毎に、報告を寄せられた調査員の数。

### 3. 第3回基礎調査（全種調査）との相違点

第3回基礎調査（全種調査）は、哺乳類分布調査としては初めて全種を対象とした。そのため、生息地が限定され、かつ研究の進んだ種については密な情報が得られたが、広域に分布し研究者の関心の低い種については相対的に疎な情報しか得られず、種によって分布図の完成度（情報の精粗）が大きく異なった。

この点を幾分でも解消するために、第4回調査では広域に分布する種を中心に調査体制を拡大した。体制の拡大は以下の2点でなされた。

第一は、狩猟獣、有害鳥獣駆除で頻りに捕獲される種の分布調査を環境庁の要請と協力のもと、大日本猟友会が実施したことである。この調査は第4回基礎調査の一環として位置付けられ、結果は本報告書でまとめられた情報の一部として利用された。調査では平成2年から3年にかけての狩猟期間が主な調査期間で可猟区域を中心に各地区猟友会より分布情報を収集した。結果は平成3年12月にまとめられた（平成2年度狩猟管理調査狩猟鳥獣生息分布調査報告書、大日本猟友会・日本野生生物研究センター，1991）。この調査では、各地方ごとに調査対象種が設定された。地方と種の組合せは下の通りである。

第二は、各都道府県の鳥獣保護員に依頼し、分布調査調査員としたことである。主な対象地域は鳥獣保護区、休猟区などで、ここでは対象とした種は図1-3-2に示した29種である。このうち、カニクイアライグマについては情報が得られなかった。

地 方	対 象 種
北海道	ノウサギ、エゾリス、シマリス、ヒグマ、タヌキ、キツネ、クロテン、イタチ、ミンク、ハクビシン、エゾシカ、エゾライチョウ
東北・関東	ニホンザル、ノウサギ、タイワンリス、ニホンリス、ムササビ、ヌートリア、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、チョウセンイタチ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、ニホンイノシシ、ニホンジカ、カモシカ、ヤマドリ、キジ
中部	ニホンザル、ノウサギ、タイワンリス、ニホンリス、シマリス、ムササビ、ヌートリア、ツキノワグマ、アライグマ、カニクイアライグマ、タヌキ、キツネ、テン、チョウセンイタチ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、ニホンイノシシ、ニホンジカ、カモシカ、ヤマドリ、キジ
近畿・四国	ニホンザル、ノウサギ、タイワンリス、ニホンリス、ムササビ、ヌートリア、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、チョウセンイタチ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、ニホンイノシシ、ニホンジカ、カモシカ、ヤマドリ、キジ
中国	ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、ヌートリア、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、チョウセンイタチ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、ニホンイノシシ、ニホンジカ、ヤマドリ、キジ
九州	ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、ヌートリア、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、チョウセンイタチ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ、ニホンジカ、ツシマジカ、カモシカ、ヤマドリ、キジ

#### 4. 哺乳類の調査実施状況

##### (1) 調査対象種

日本産の既知の哺乳類135種の全種につき、種レベルで調査対象とした。

##### (2) 調査員

分科会検討員より推薦された専門研究者及び鳥獣保護員の中から1,370名が参加・協力した。

調査員の居住地(都道府県)別人数は、表1-3のとおりである。

表1-3 調査員居住地(都道府県)別人数

( )内は左記数値に含まれる鳥獣保護員の人数を示す。

北海道	123(108)	東京	23(12)	滋賀	6(6)	香川	28(28)
青森	18(15)	神奈川	10(6)	京都	8(8)	愛媛	18(18)
岩手	29(22)	新潟	37(37)	大阪	12(11)	高知	37(37)
宮城	54(52)	富山	34(33)	兵庫	2(0)	福岡	28(25)
秋田	12(12)	石川	24(22)	奈良	45(44)	佐賀	11(11)
山形	11(10)	福井	9(9)	和歌山	31(31)	長崎	29(27)
福島	41(40)	山梨	36(36)	鳥取	3(3)	熊本	28(26)
茨城	56(56)	長野	40(38)	島根	38(38)	大分	28(28)
栃木	11(11)	岐阜	43(42)	岡山	31(31)	宮崎	43(43)
群馬	48(48)	静岡	51(48)	広島	28(26)	鹿児島	42(41)
埼玉	38(35)	愛知	22(13)	山口	39(38)	沖縄	12(10)
千葉	33(32)	三重	11(11)	徳島	9(8)	計	1,370(1,286)

また、上記のほか、(社)大日本獺友会の各都道府県の会員が参加・協力したが、獺友会員には各支部の代表を通じて調査を依頼したため、参加者人数の詳細は把握していない。

##### (3) 調査状況

###### ①全国の調査状況

哺乳類に係る調査状況は表1-4のとおりである。

また、当該分類群のいずれかの種について報告のあった2次メッシュを全て表示したものを図1-7に示す。

表1-4 哺乳類調査状況総括表

調査対象種	135
報告のあった種数	126
調査員数	1,370
延べ報告件数*1	229,710
延べ報告メッシュ数(3次メッシュ)*2	225,542
“(2次メッシュ)*3	28,366
哺乳類報告メッシュ数(3次メッシュ)*4	113,148
“(2次メッシュ)*5	4,154

- \* 1 「ある調査員」から「ある調査対象種」について「あるメッシュ」において「ある調査年月日」に記録された報告を1件としてカウントされた数の総合計
- \* 2 \* 1のうち、同一種、同一メッシュ（3次メッシュ）における情報を統合して得られた延べ数
- \* 3 \* 1のうち、同一種、同一メッシュ（2次メッシュ）における情報を統合して得られた延べ数（種別分布図に記されたプロット数の総合計）
- \* 4 当該分類群のいずれかの種について報告のあった3次メッシュ数（全国：380,172メッシュ）
- \* 5 “ 2次メッシュ数（全国：4,730メッシュ）

## ②分布図データの年代別状況

全分布図に表示されたデータの調査年代別の内訳は、表1-5のとおりである。但し、分布図では、全報告データのうち、同一種、同一2次メッシュの報告については、最新のデータをもって代表させているため、表1-4の「延べ報告2次メッシュ数」はこの表の合計より少なくなっている。

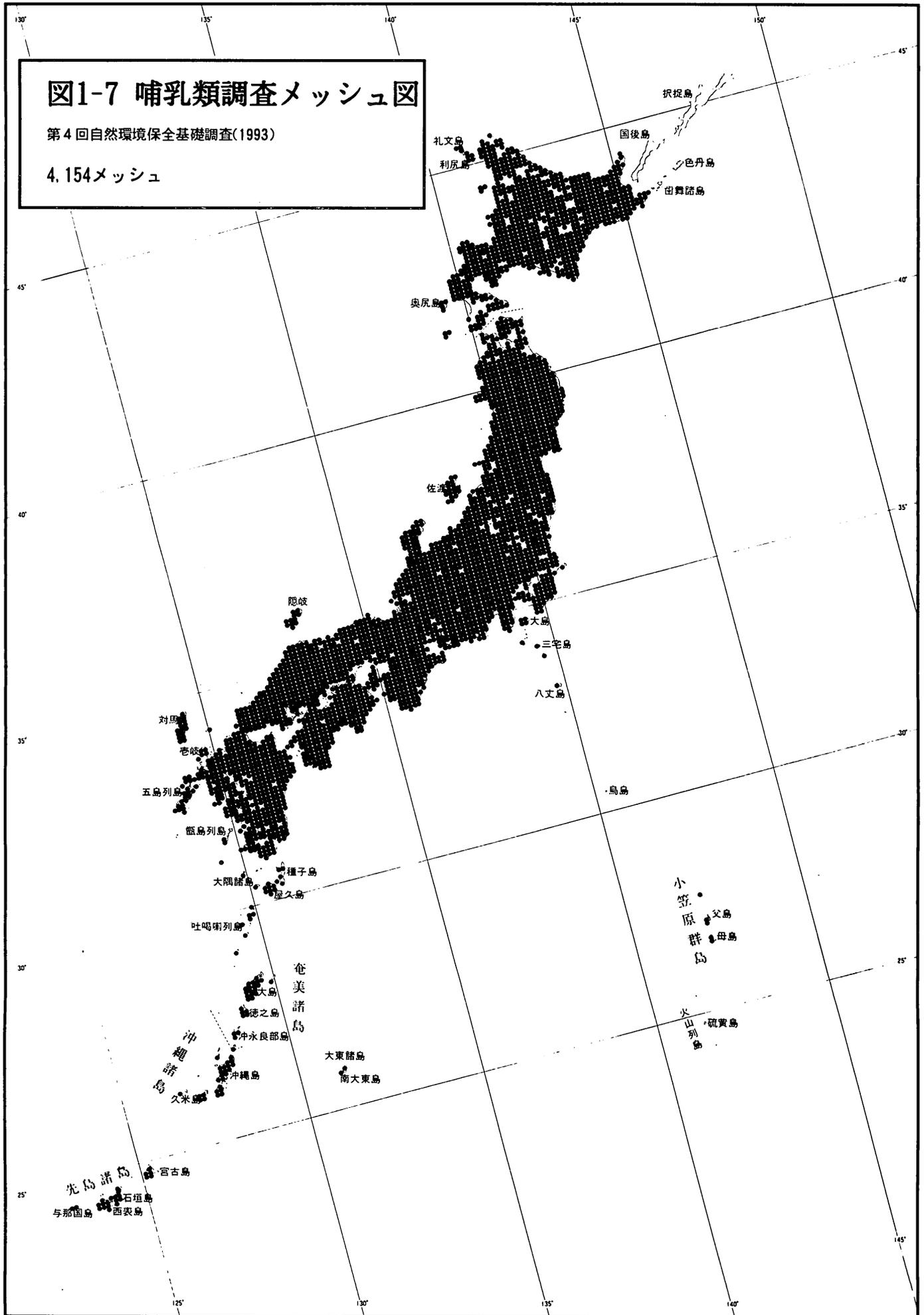
表1-5 分布図データの年代別状況

哺乳類データ収集時期	メッシュ数	構成比（％）
昭和19年以前	374	1.05
昭和20年代	85	0.24
昭和30年代	391	1.10
昭和40-44年	189	0.53
昭和45-49年	230	0.65
昭和50-54年	715	2.01
昭和55-59年	2,124	5.96
昭和60-64年	1,528	4.29
平成2年以降	29,170	81.87
調査年代無記入	822	2.31
合計	35,628	100.00

# 図1-7 哺乳類調査メッシュ図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

4,154メッシュ





## 第 2 部 調 査 結 果



## I . 分 布 図

調査対象種のうち、原則として、1件でも報告があった種（亜種）について分布図（126枚）を作成した。分布図の配列は、分類順（巻末資料「調査対象種一覧」に示された調査対象種・亜種の順）である。報告がえられず、分布図を作成しなかったのは以下の9種である。なお、オキナワオオコウモリについての情報は絶滅以前のものである。

0080 マスクラット  
0082 ミヤケアカネズミ  
0085 セスジネズミ  
0139 カニクイアライグマ  
0109 ラッコ  
0115 アシカ  
0118 セイウチ  
0122 クラカケアザラシ  
0123 アゴヒゲアザラシ

分布図の表示単位は2次メッシュ（1/25,000地形図1枚の区画に相当する。およそ10km×10km）とした。報告の年代が1985年以前又は不明である場合は○印を、1985年より新しい場合は●印を表示した。●あるいは●印は、当該種（亜種）が生息すると報告のあった2次メッシュの中心の位置を示すものであり、必ずしも分布地の中心を示すものではないことに留意されたい。

各種（亜種）の分布図には種（亜種）ごとに、えられた情報量の評価と外来種などその種に関する特記事項を付した。えられた情報量の評価は「分布パターンを表している」、「やや情報不足」、「情報不足」の3段階とした。基準は下の通りである。

### 「分布パターンを表している」

従来から知られている当該種の分布パターンをほぼ表す情報が収集されたもの。なお、広域分布種については、必ずしも稠密な報告が寄せられたか否かを判定基準とはせず、全体の輪郭が把握されたものは、この類型に含める。

### 「やや情報不足」

従来から知られている当該種の分布パターンをかなり表してはいるが、一部の地域からの情報が欠けているなど、完全に表したとはいえず、今後なお情報空白地域の解消に努める必要がある。

### 「情報不足」

広域分布種であるにも拘らず、限られた地域からの情報しか得られなかったもの。あるいは、模式産地等重要な分布地またはその周辺地域からの情報がないなど、当該種の分布を語る上で極めて不十分な情報しか得られなかったもの。



# 哺乳類分布図

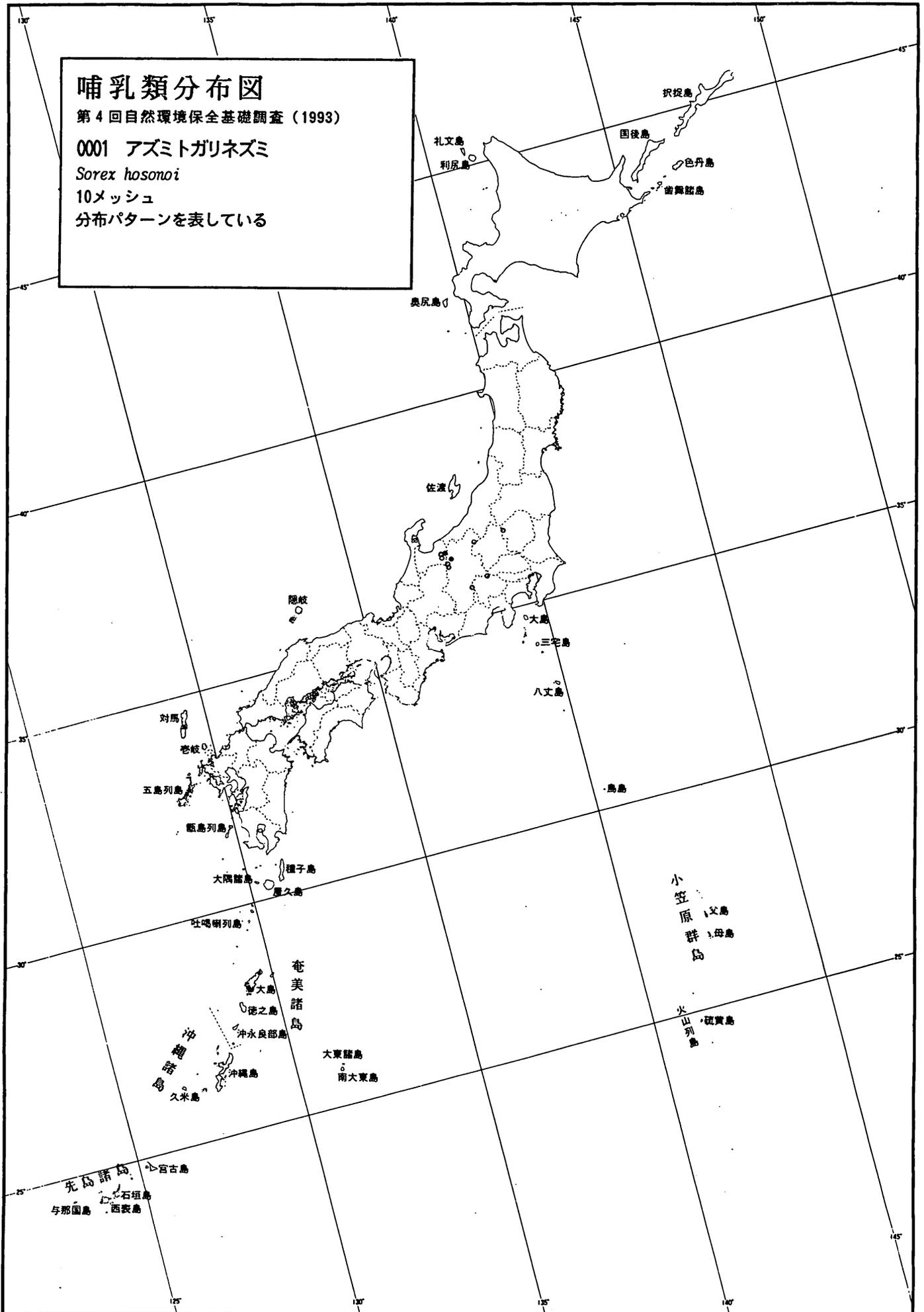
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0001 アズミトガリネズミ

*Sorex hosonoi*

10メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

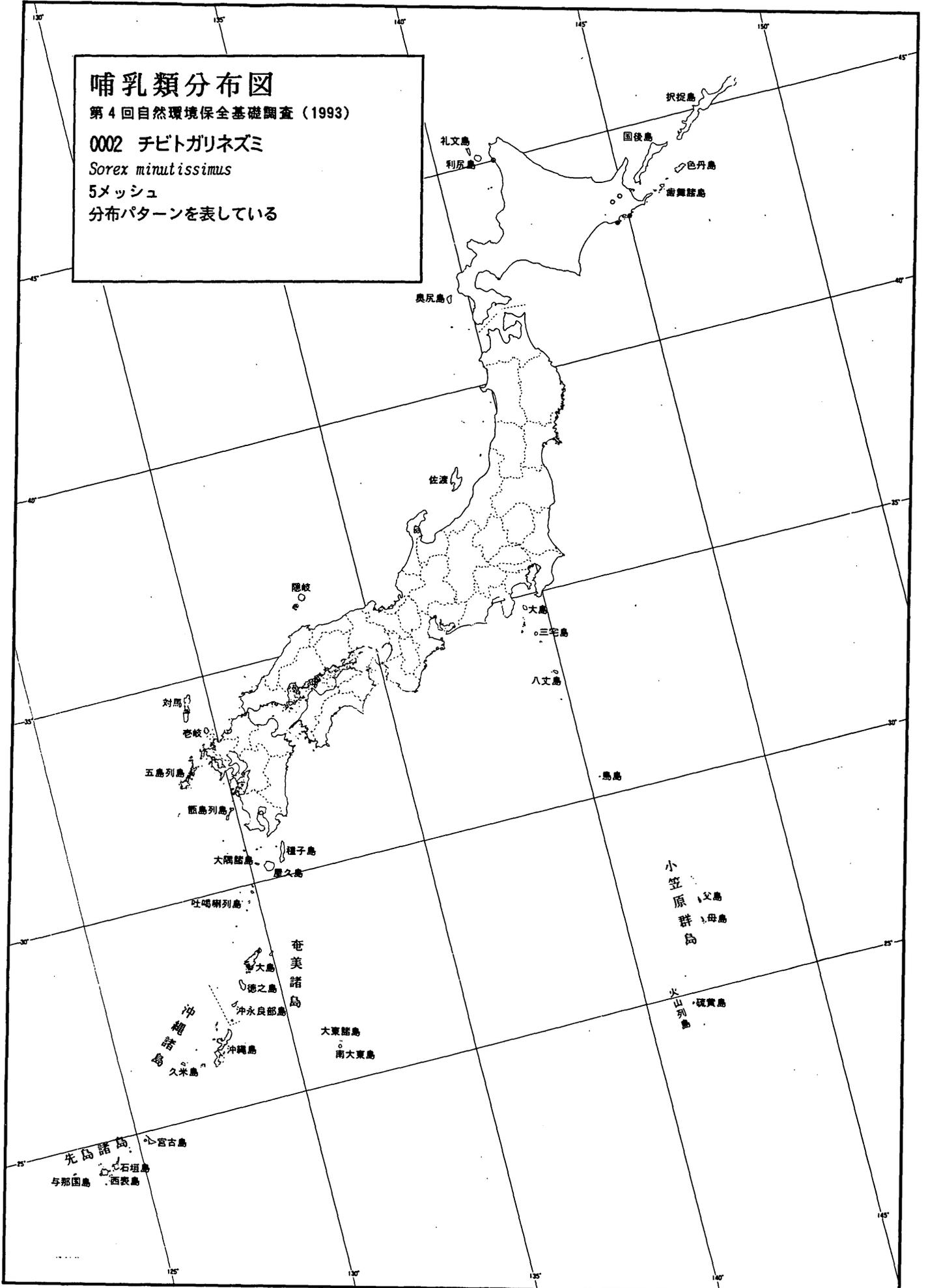
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0002 チビトガリネズミ

*Sorex minutissimus*

5メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

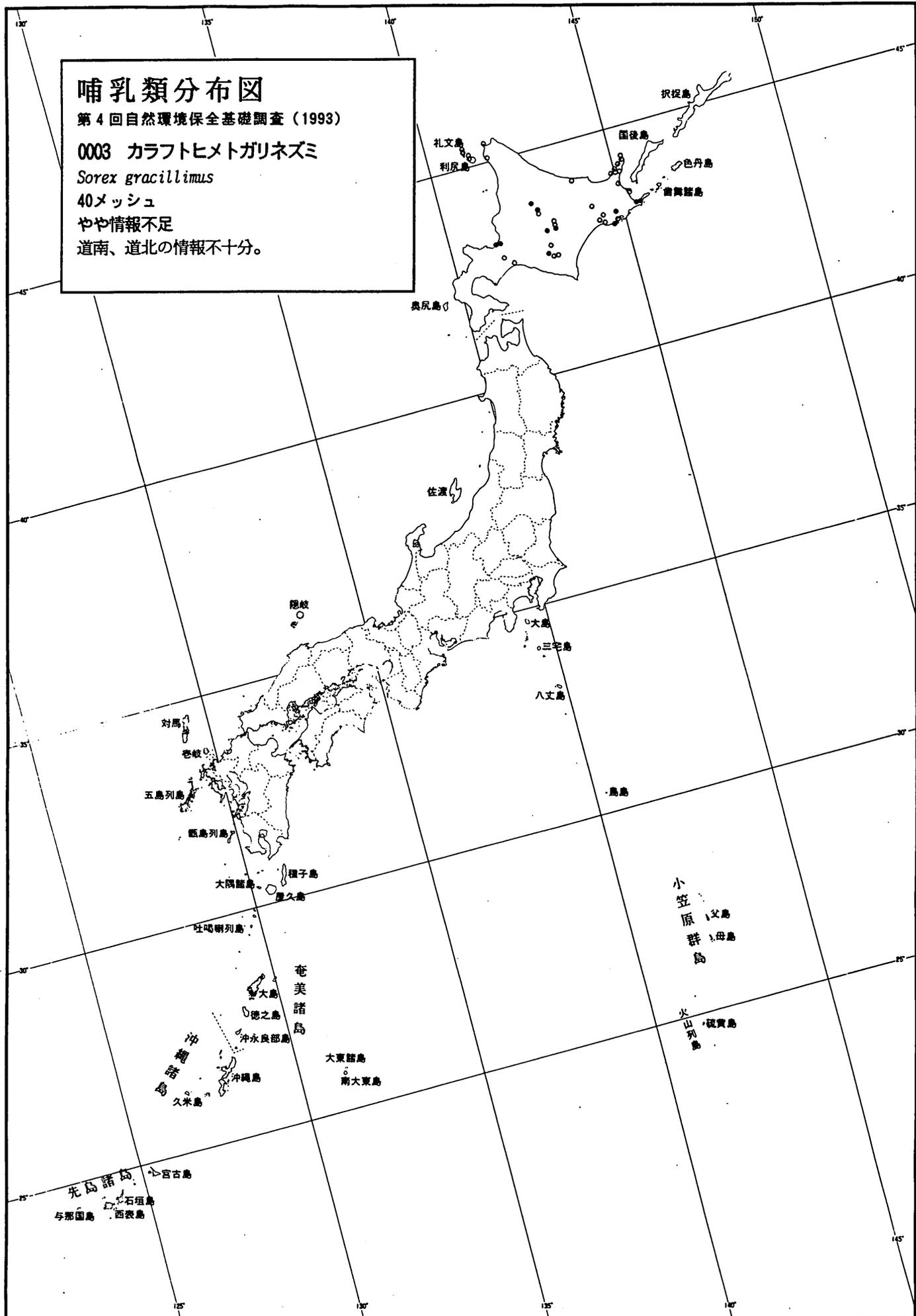
0003 カラフトヒメトガリネズミ

*Sorex gracillimus*

40メッシュ

やや情報不足

道南、道北の情報不十分。



# 哺乳類分布図

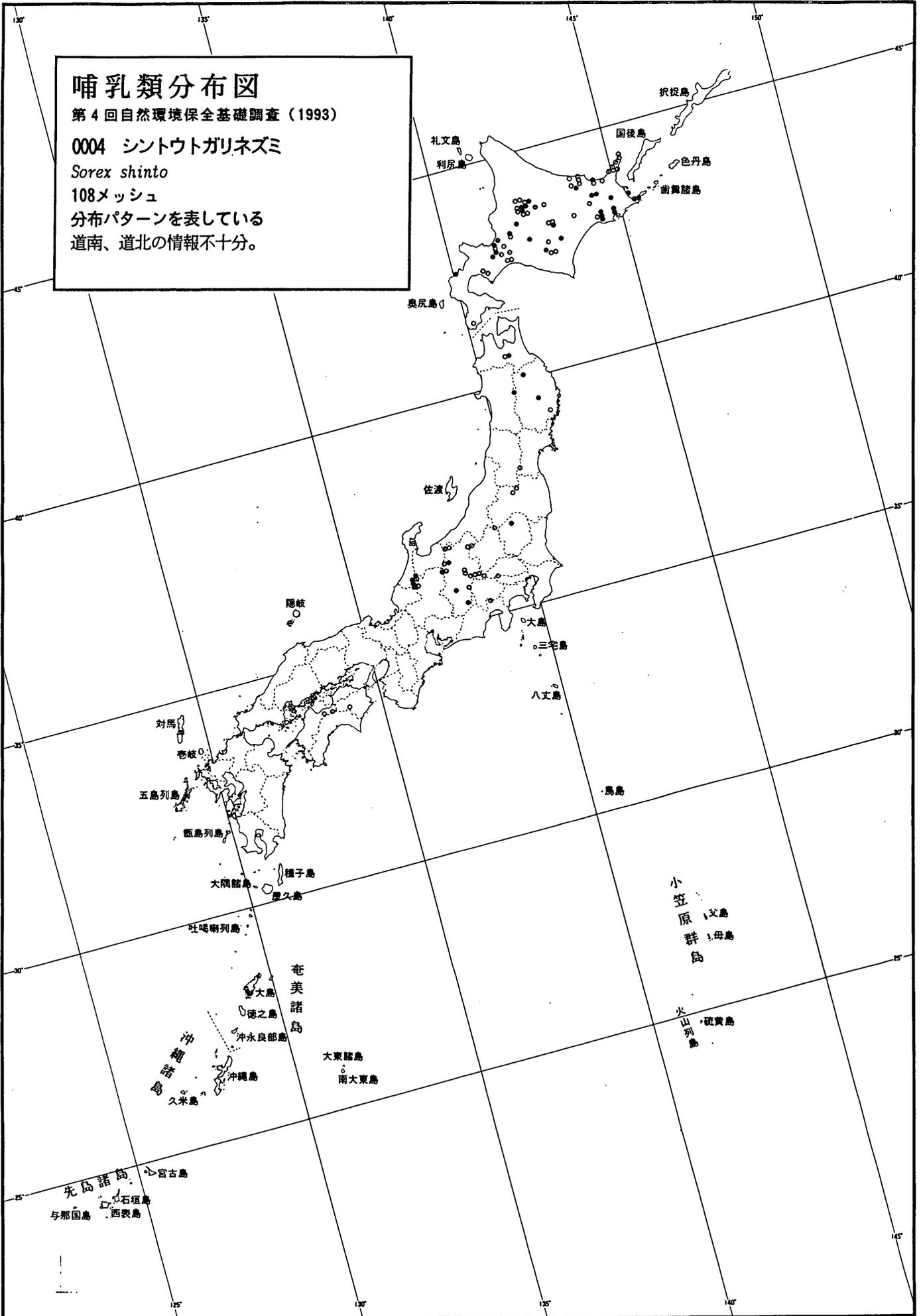
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0004 シントウトガリネズミ

*Sorex shinto*

108メッシュ

分布パターンを表している  
道南、道北の情報不十分。



# 哺乳類分布図

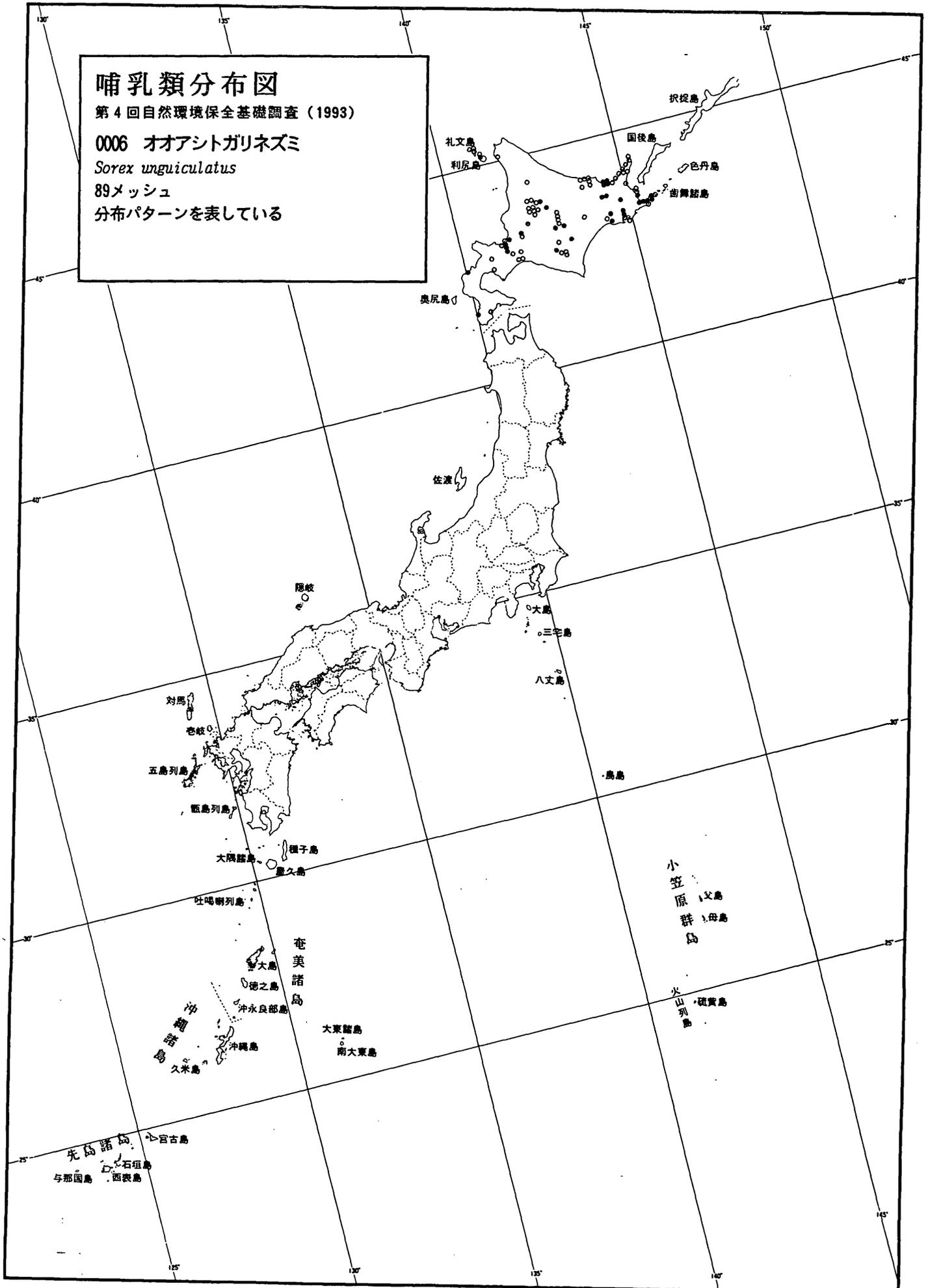
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0006 オオアシトガリネズミ

*Sorex unguiculatus*

89メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

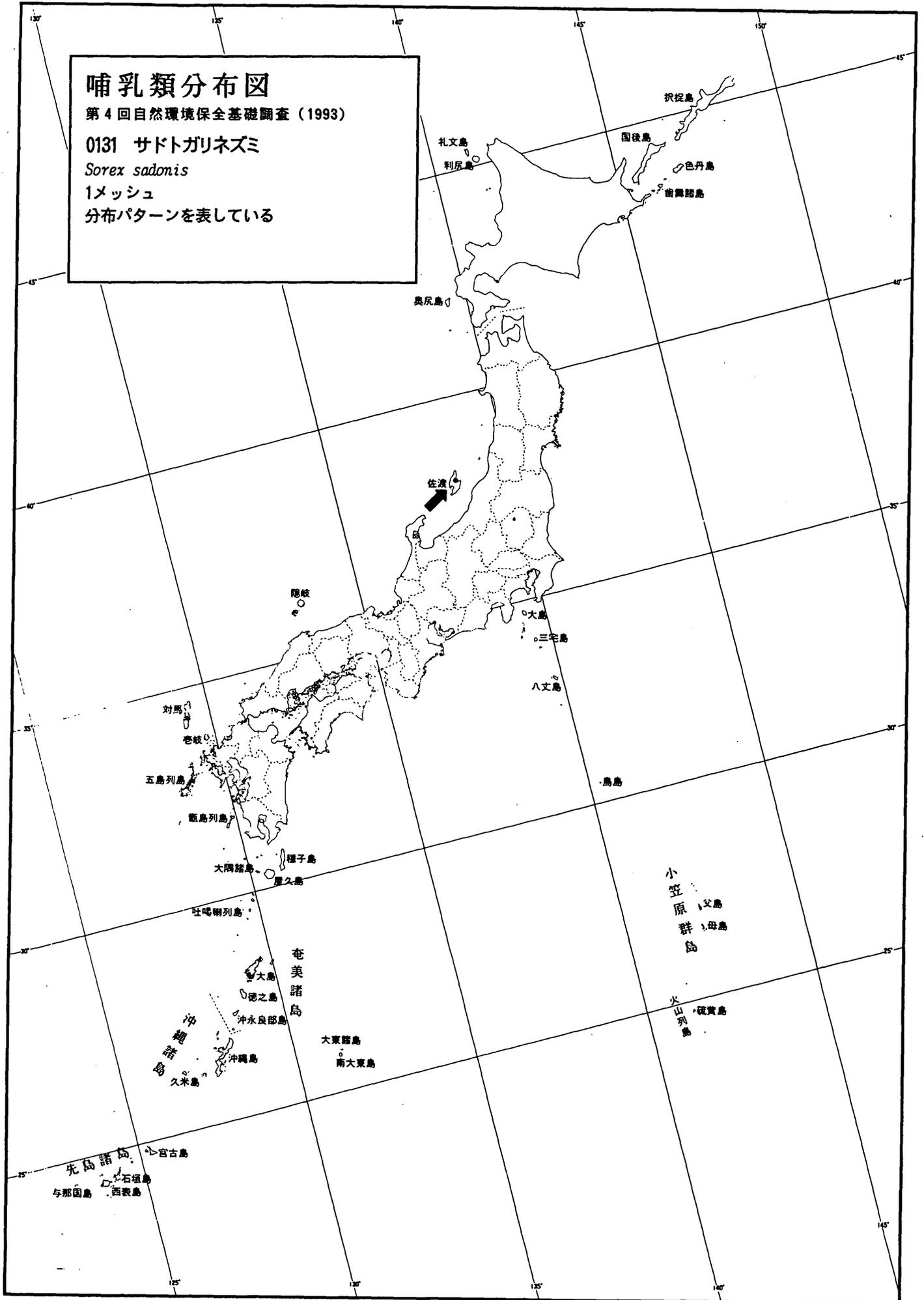
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0131 サドトガリネズミ

*Sorex sardonis*

1メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

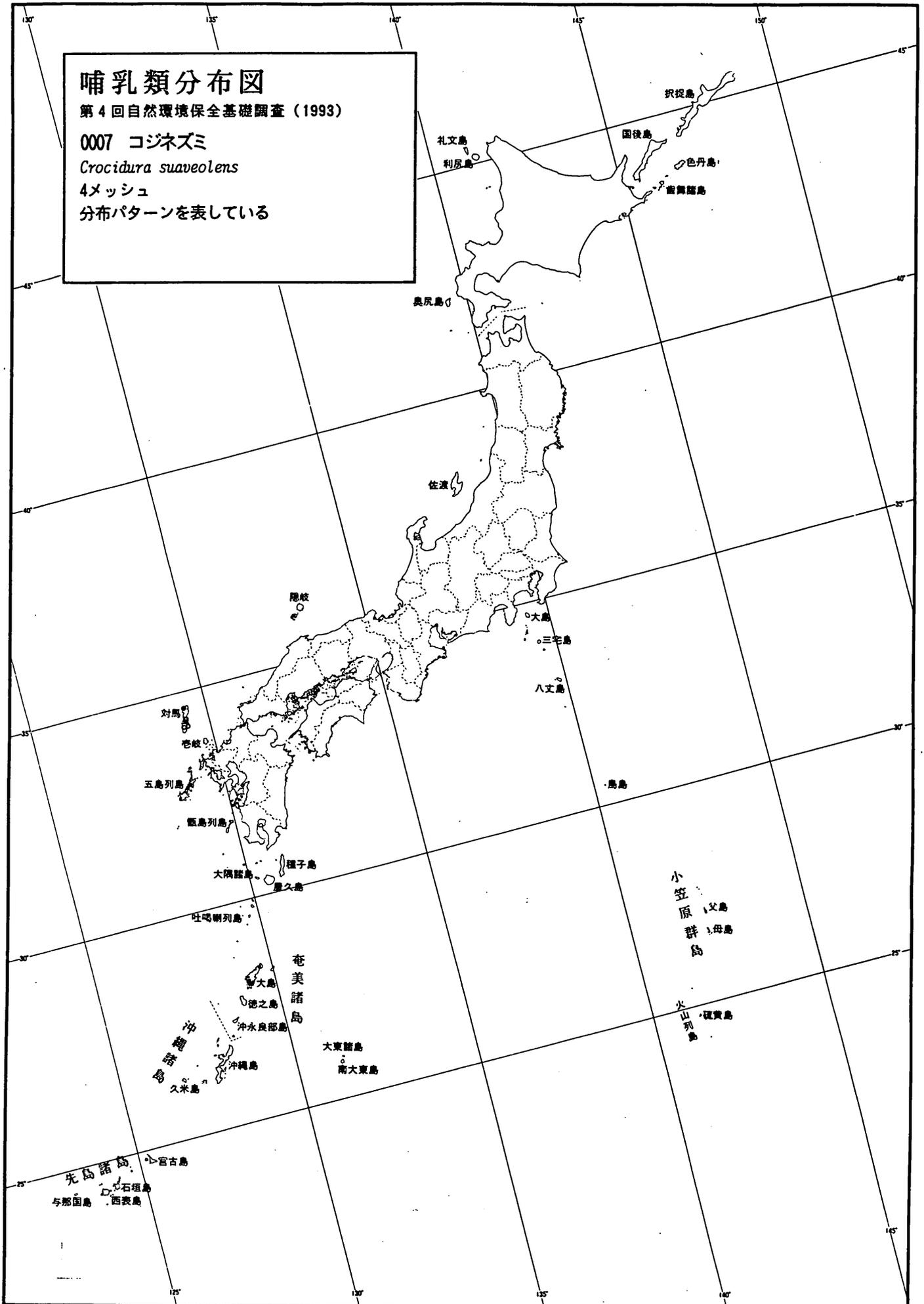
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0007 コジネズミ

*Crocidura suaveolens*

4メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

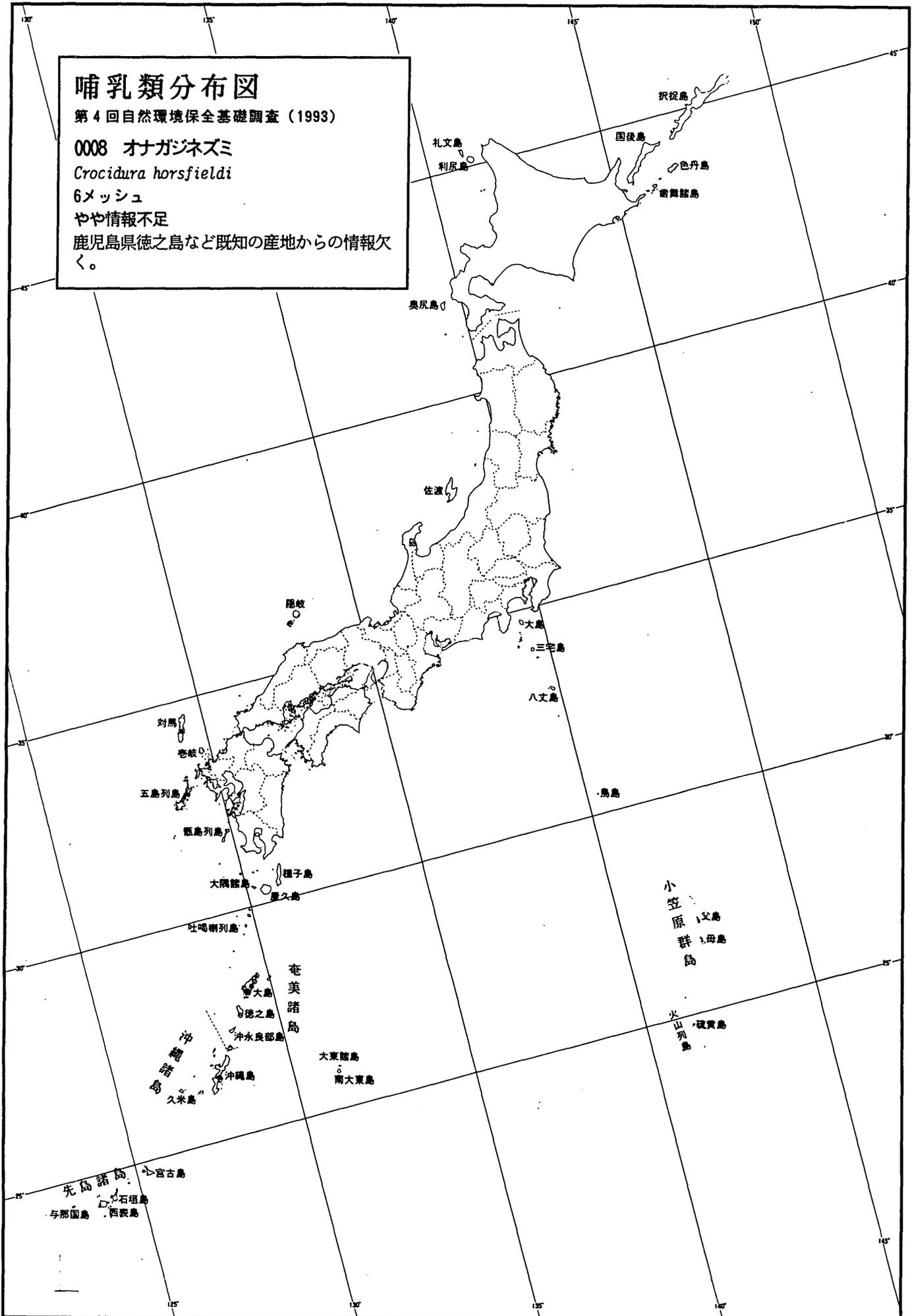
0008 オナガジネズミ

*Crocidura horsfieldi*

6メッシュ

やや情報不足

鹿児島県徳之島など既知の産地からの情報欠く。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

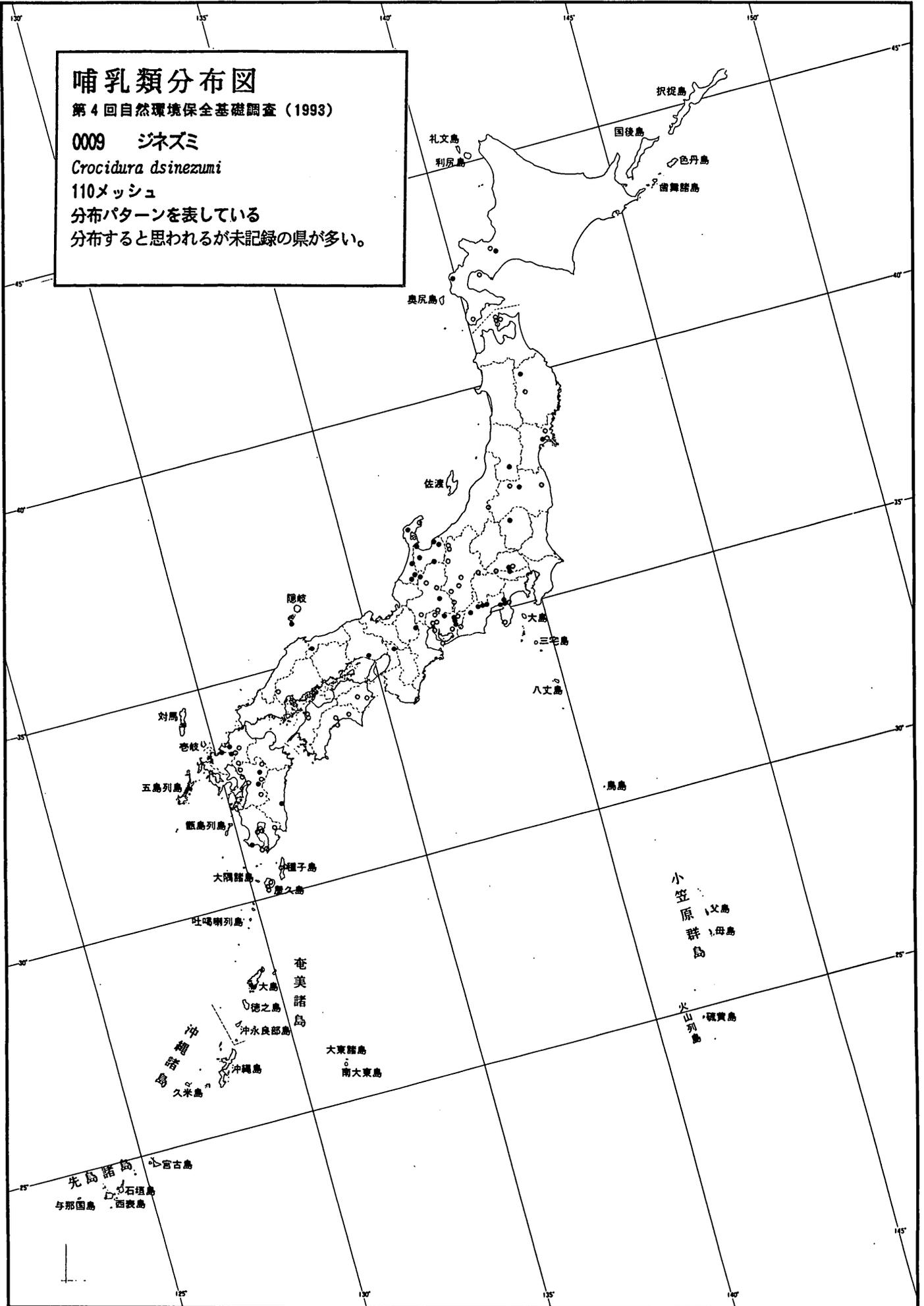
0009 ジネズミ

*Crocidura dsinezumi*

110メッシュ

分布パターンを表している

分布すると思われるが未記録の県が多い。



# 哺乳類分布図

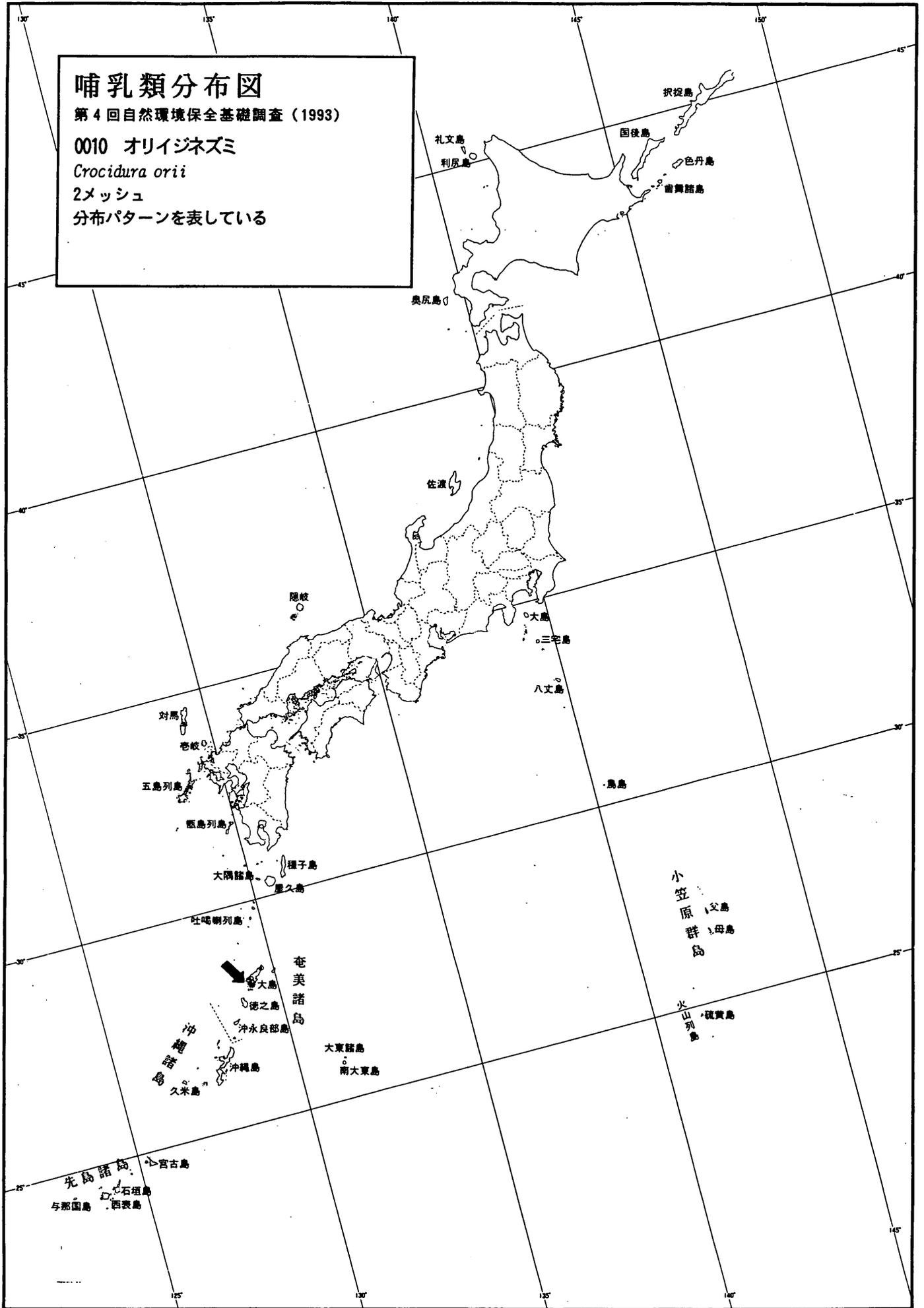
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0010 オリジネズミ

*Crocidura orii*

2メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

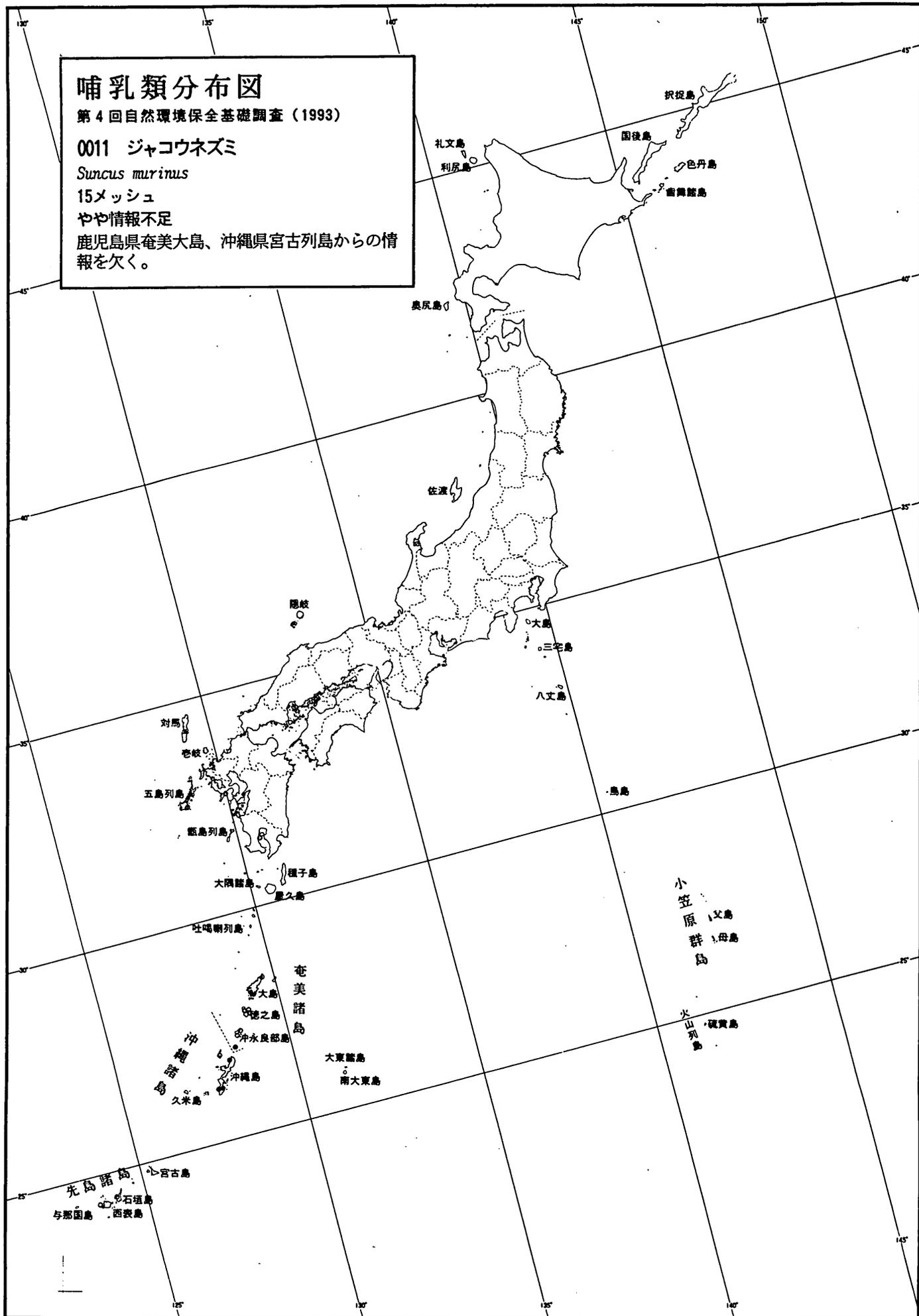
## 0011 ジャコウネズミ

*Suncus murinus*

15メッシュ

やや情報不足

鹿児島県奄美大島、沖縄県宮古列島からの情報を欠く。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

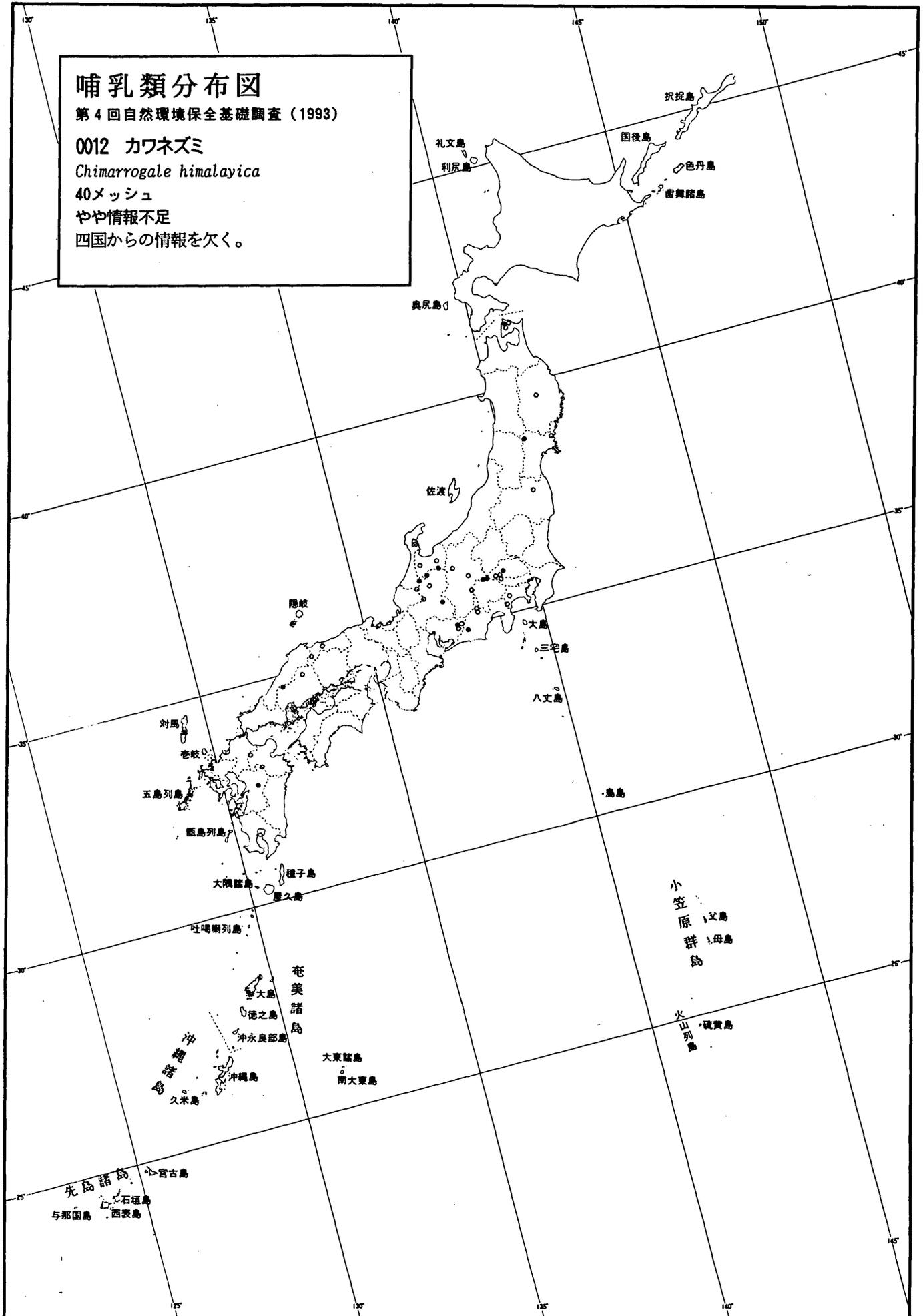
## 0012 カワネズミ

*Chimarrogale himalayica*

40メッシュ

やや情報不足

四国からの情報を欠く。



# 哺乳類分布図

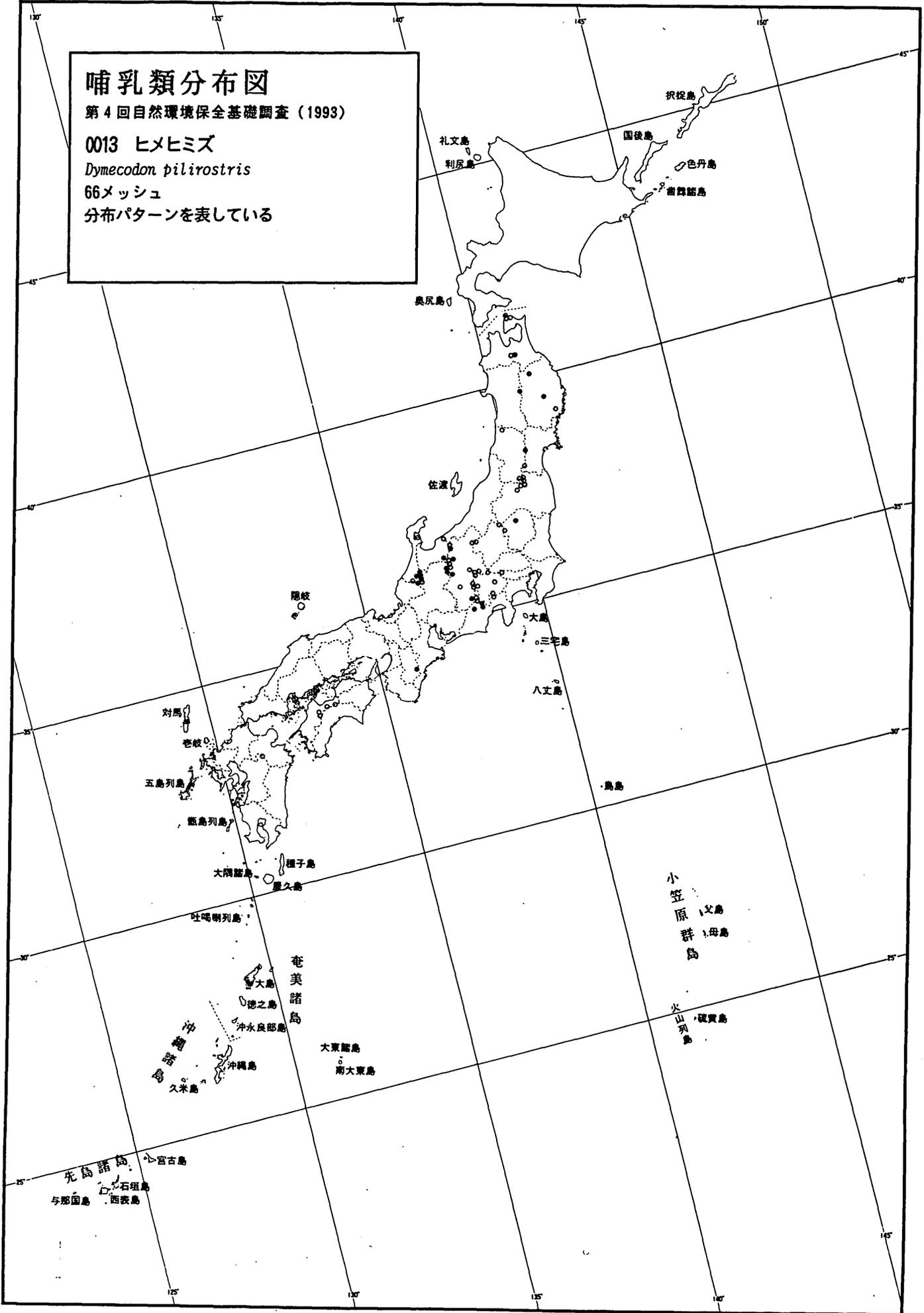
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0013 ヒメヒミズ

*Dymecodon pilirostris*

66メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

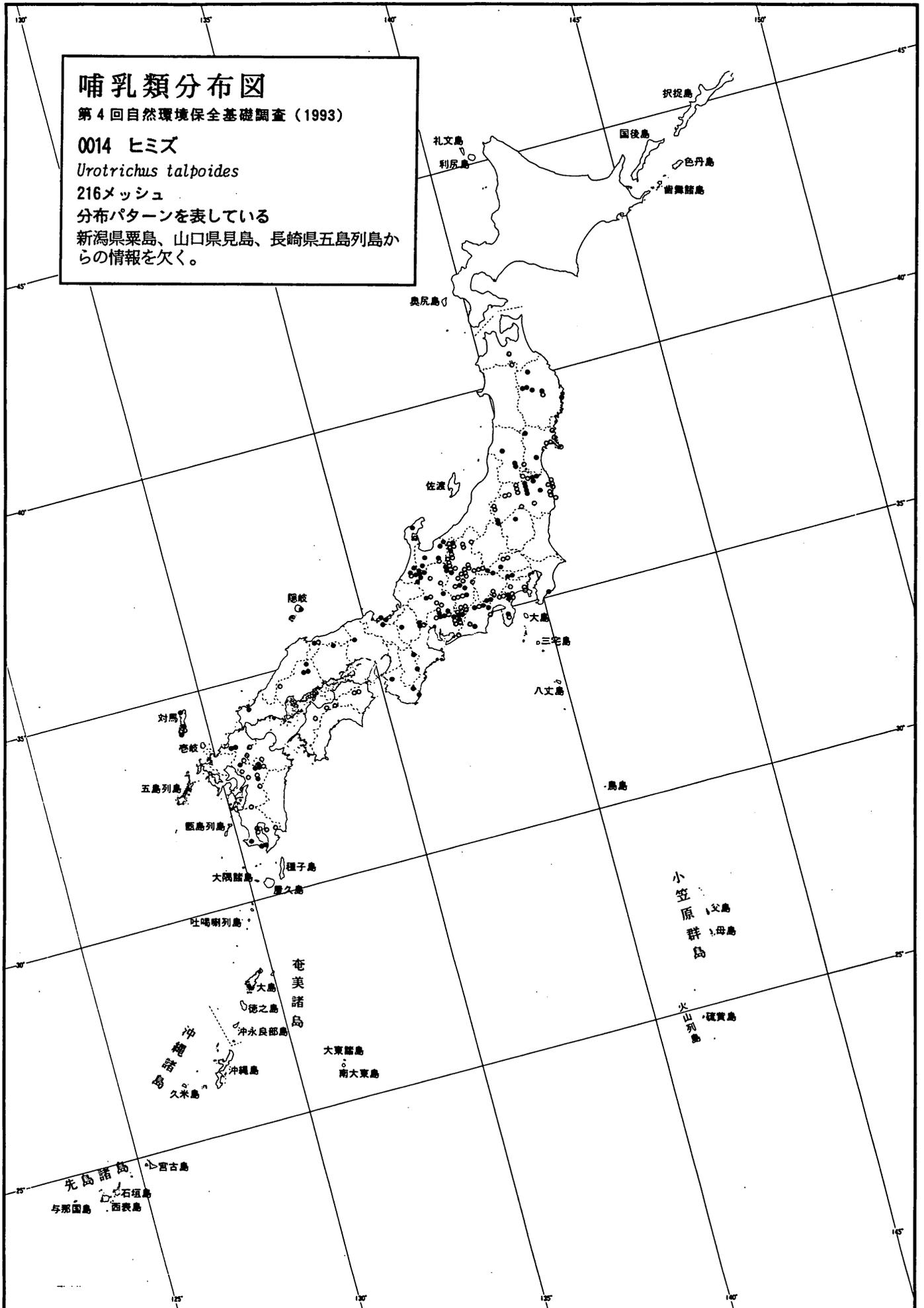
## 0014 ヒミズ

*Urotrichus talpoides*

216メッシュ

分布パターンを表している

新潟県粟島、山口県見島、長崎県五島列島からの情報を欠く。



# 哺乳類分布図

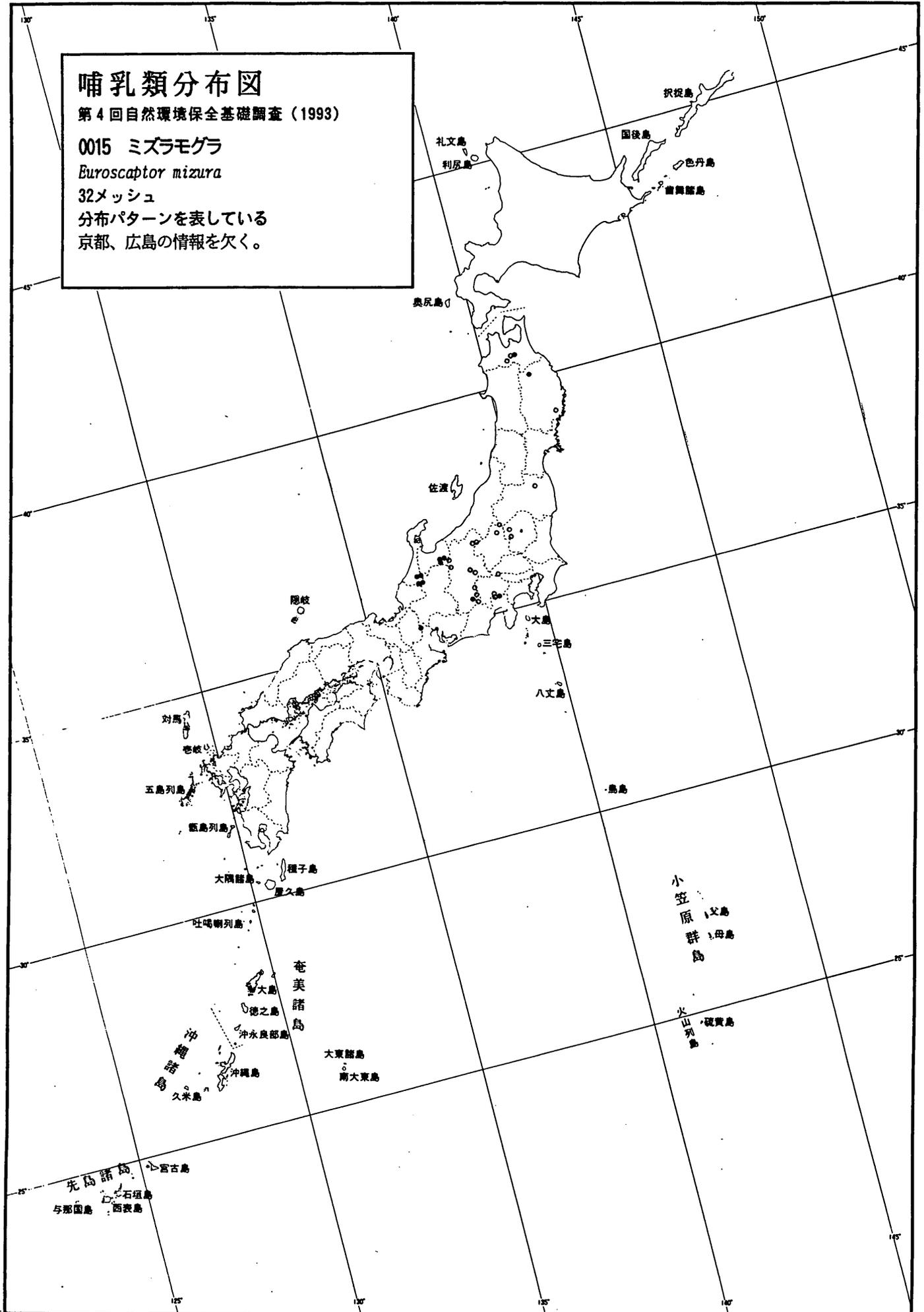
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0015 ミズラモグラ

*Euroscaptor mizura*

32メッシュ

分布パターンを表している  
京都、広島の情報欠く。



# 哺乳類分布図

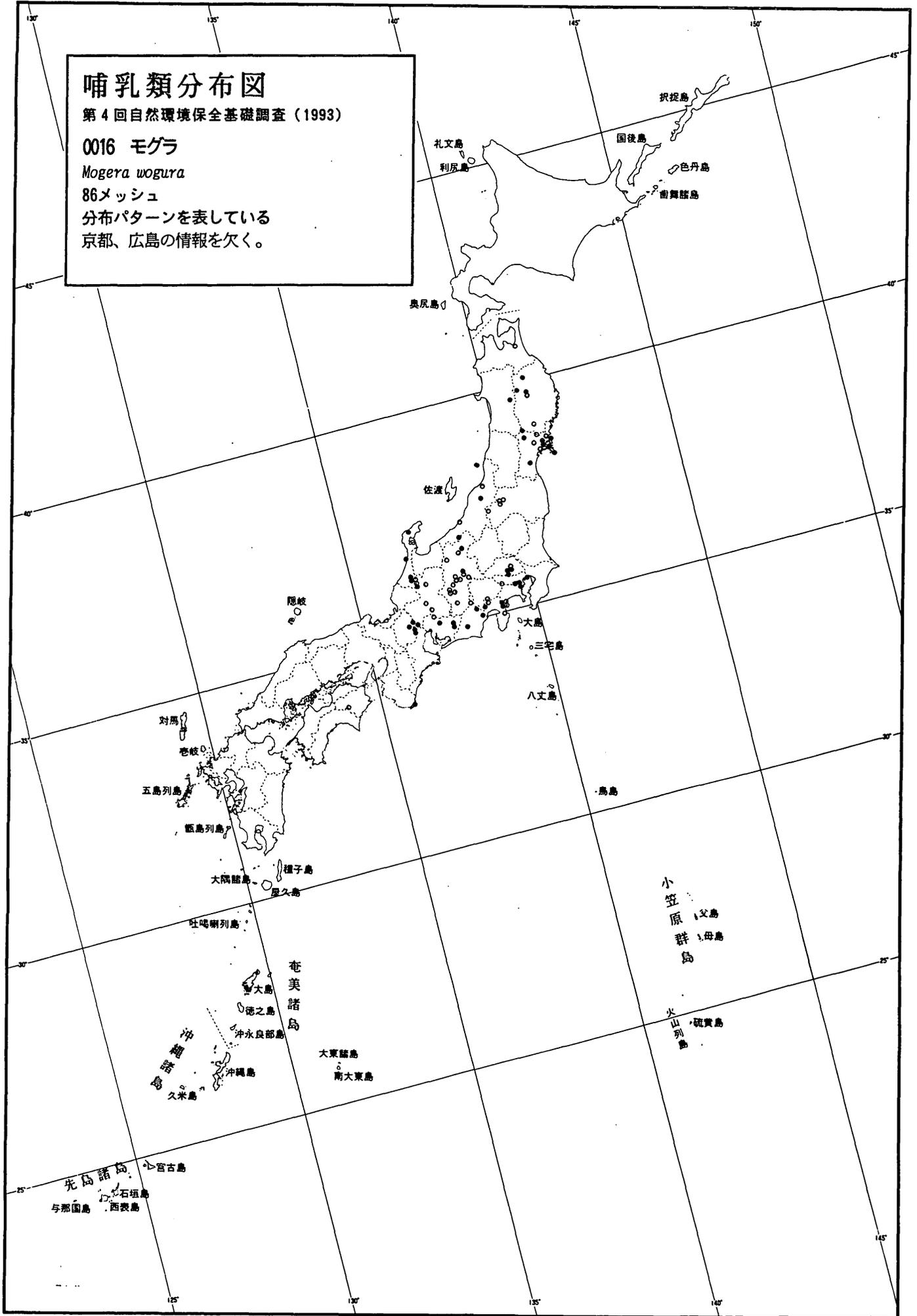
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0016 モグラ

*Mogera wogura*

86メッシュ

分布パターンを表している  
京都、広島の情報欠く。



# 哺乳類分布図

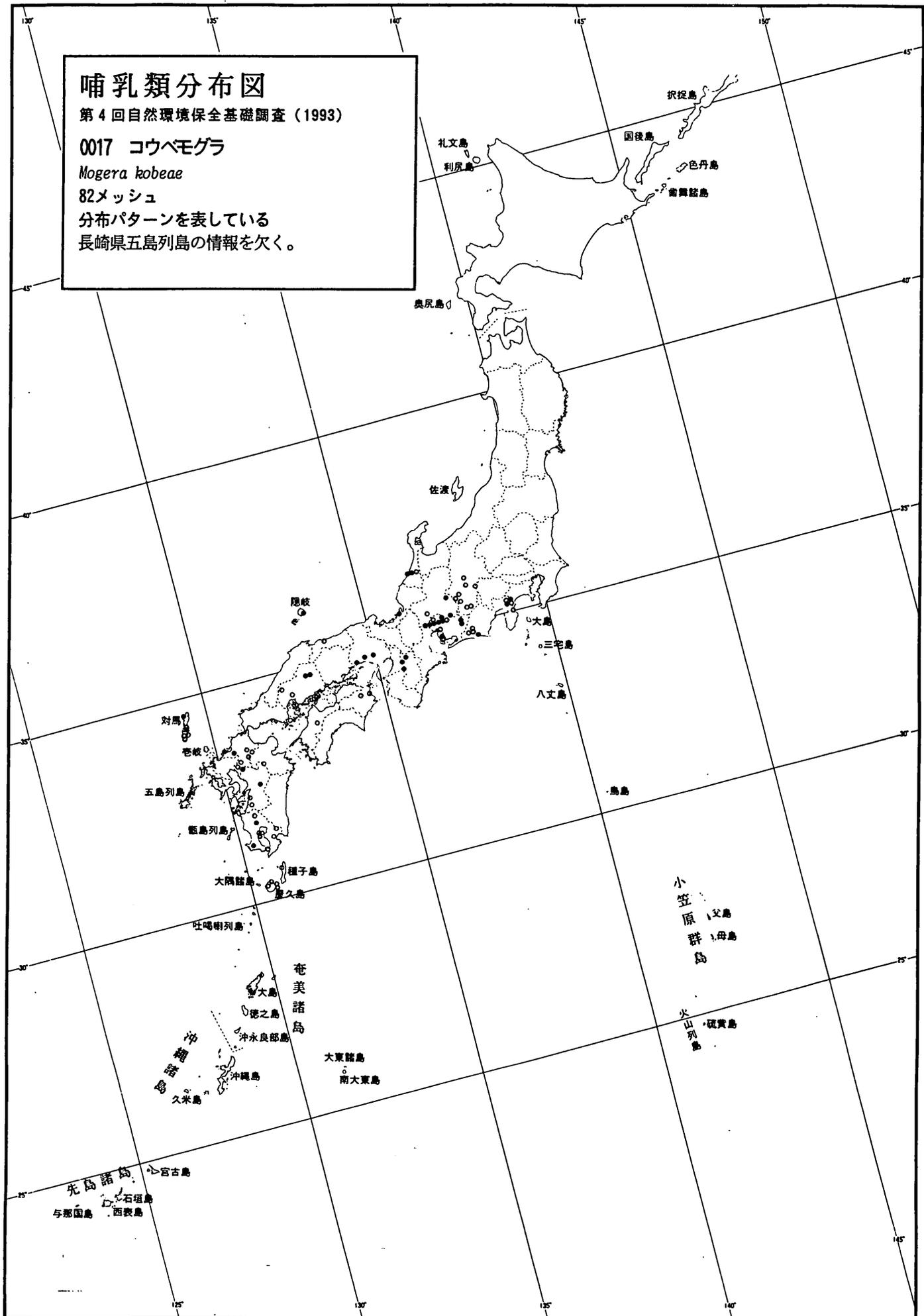
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0017 コウベモグラ

*Mogera kobae*

82メッシュ

分布パターンを表している  
長崎県五島列島の情報を欠く。



# 哺乳類分布図

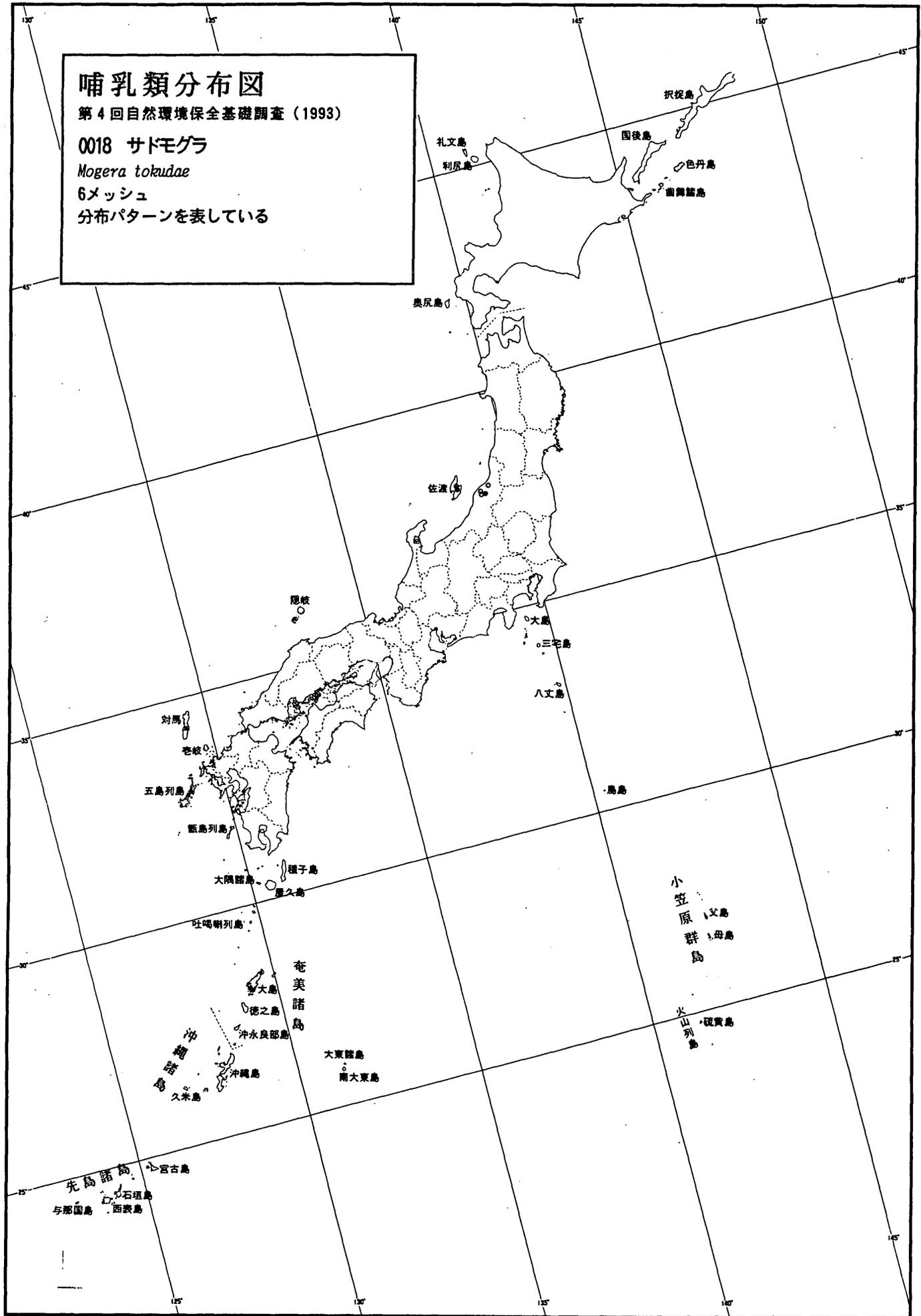
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0018 サドモグラ

*Mogera tokudae*

6メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

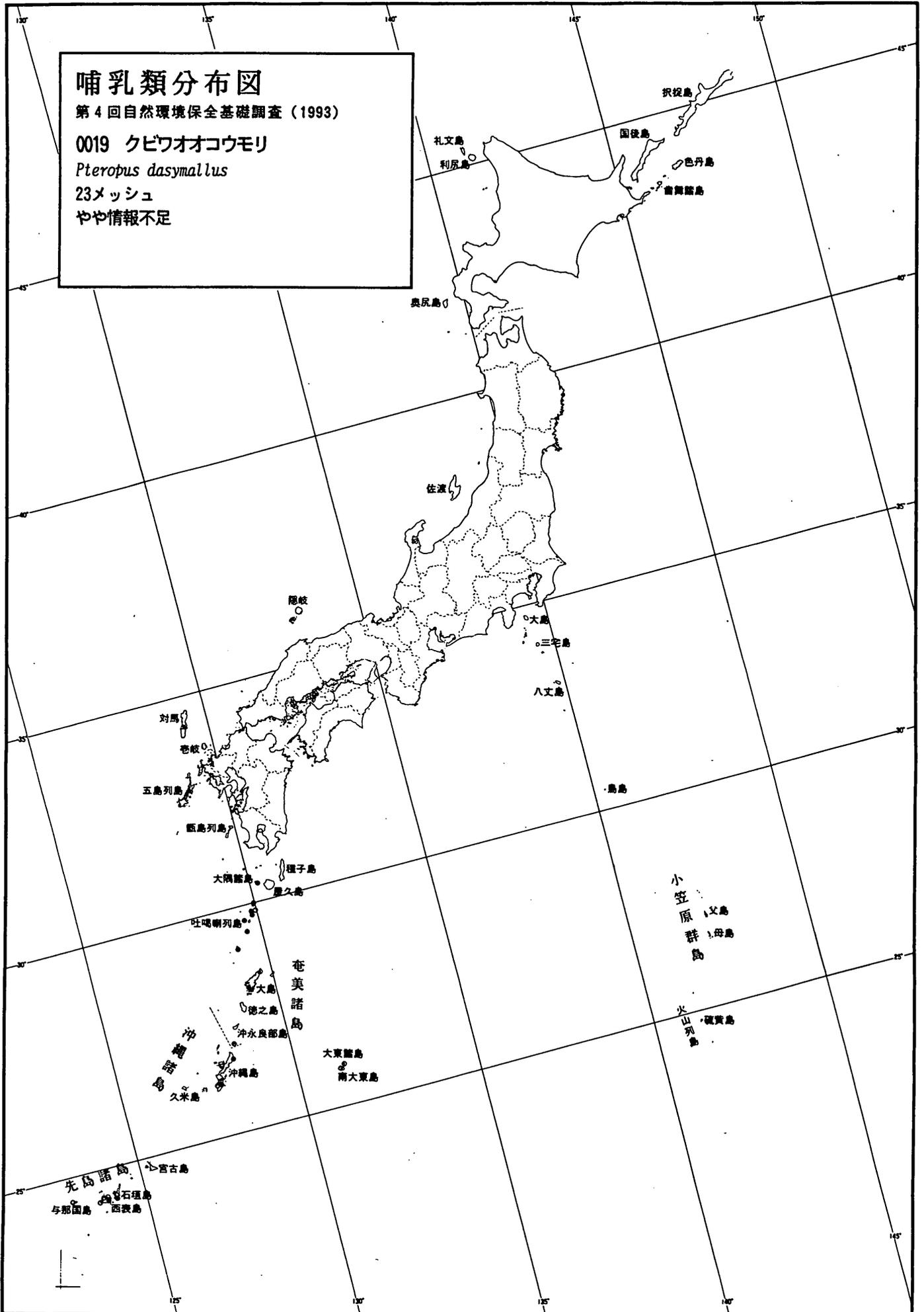
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0019 クビワオオコウモリ

*Pteropus dasymallus*

23メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

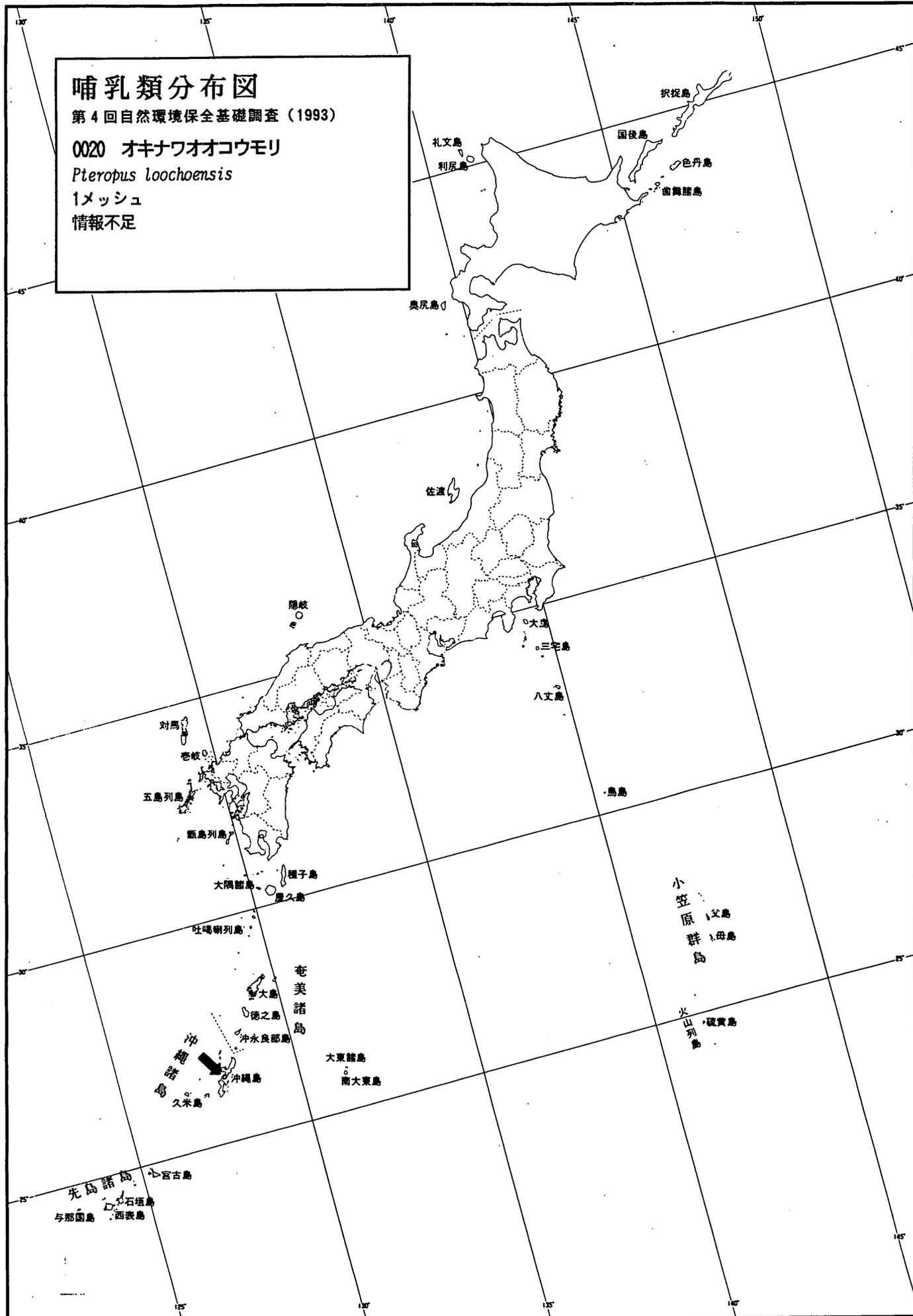
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0020 オキナワオオコウモリ

*Pteropus loochoensis*

1メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

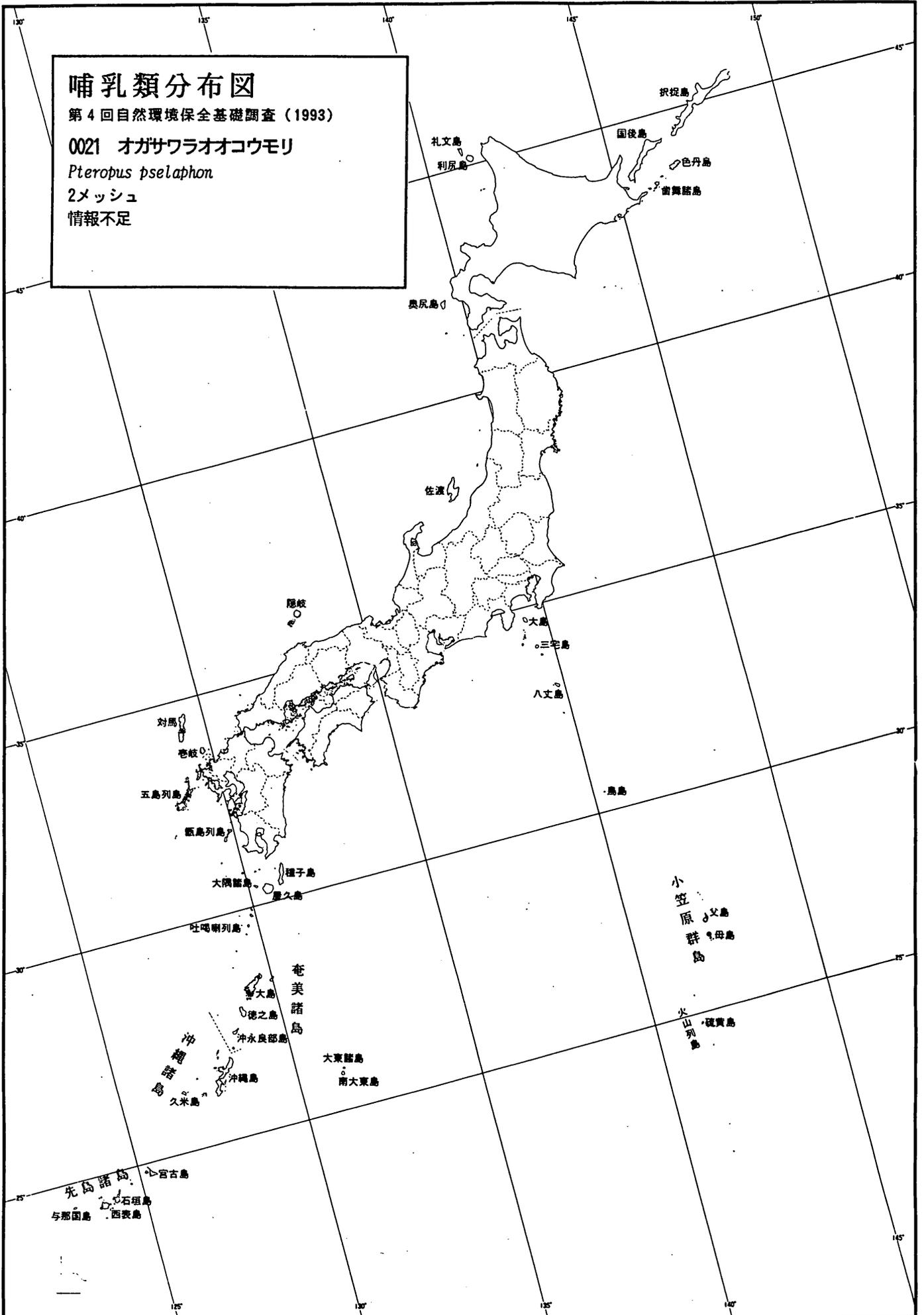
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0021 オガサワラオオコウモリ

*Pteropus pselaphon*

2メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

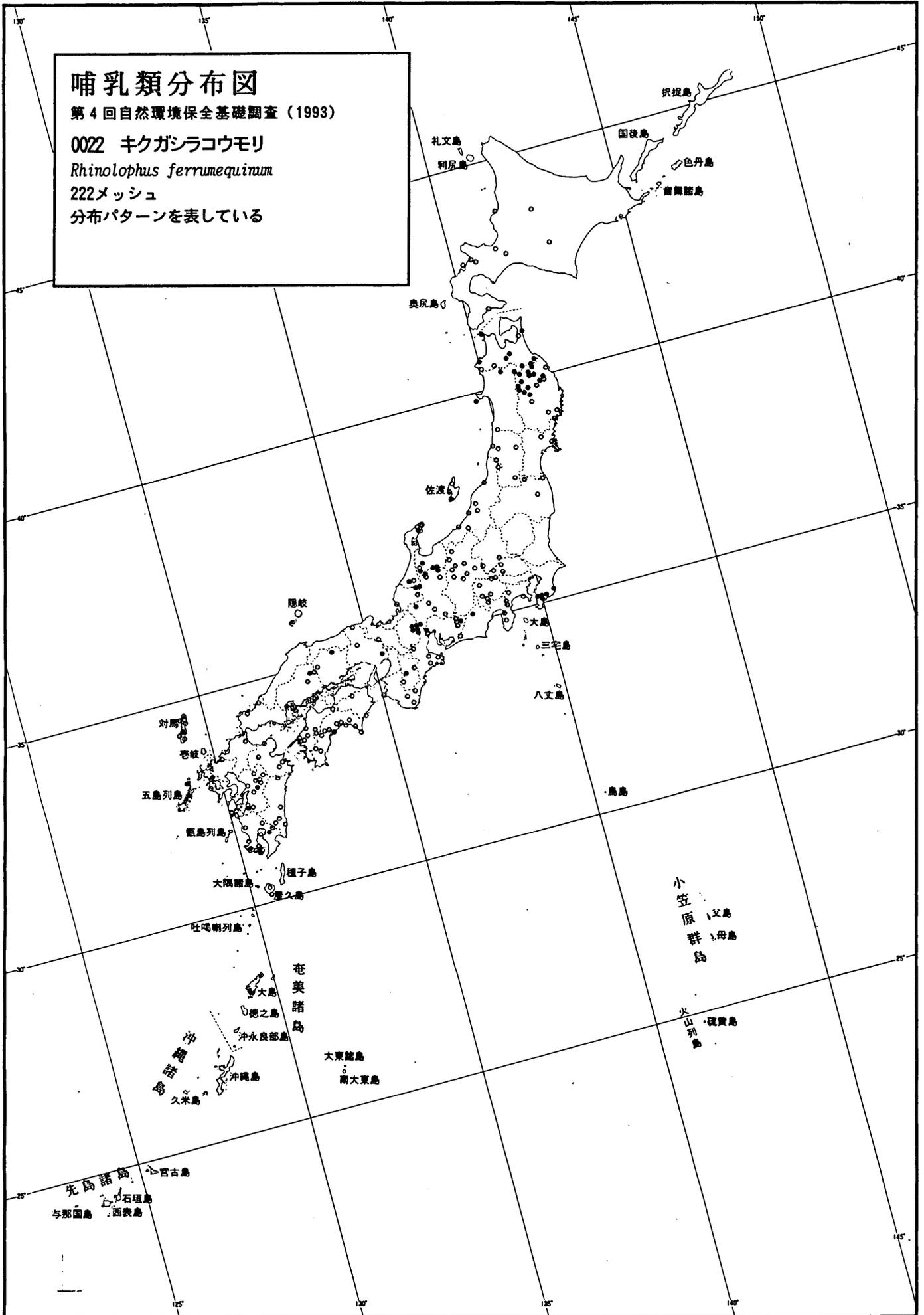
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0022 キクガシラコウモリ

*Rhinolophus ferrumequinum*

222メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

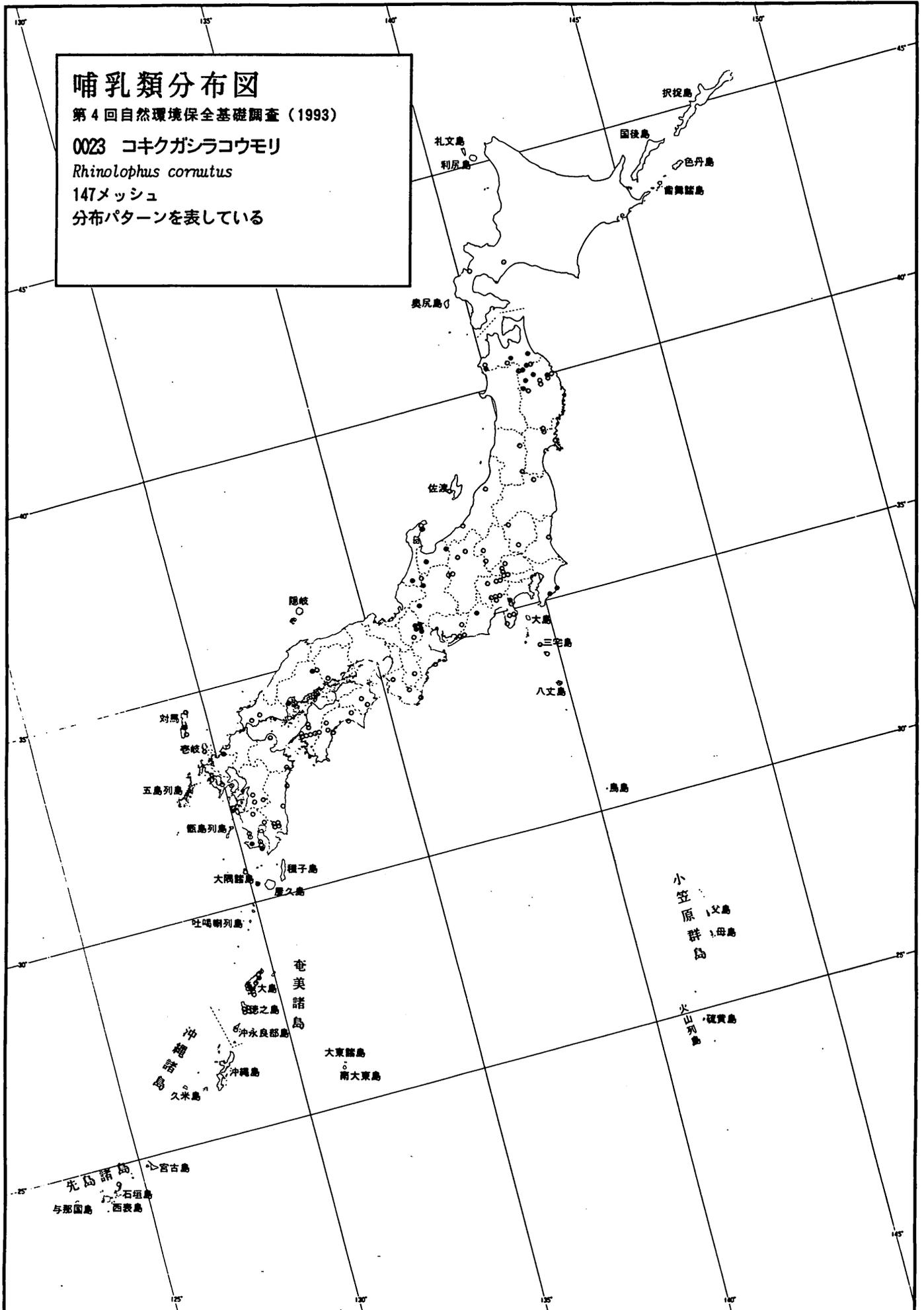
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0023 コキクガシラコウモリ

*Rhinolophus cornutus*

147メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

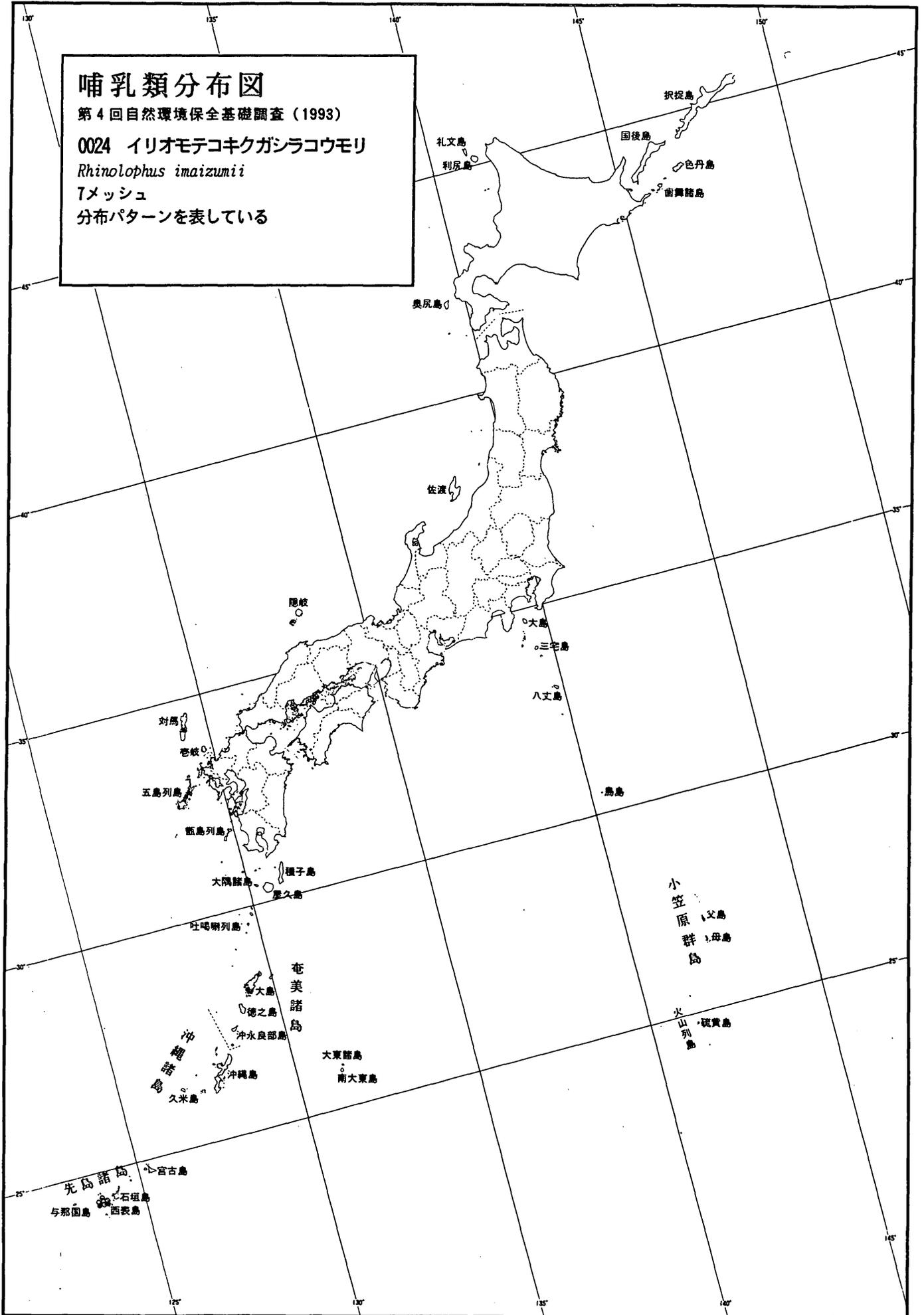
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0024 イリオモテコキクガシラコウモリ

*Rhinolophus imaizumii*

7メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

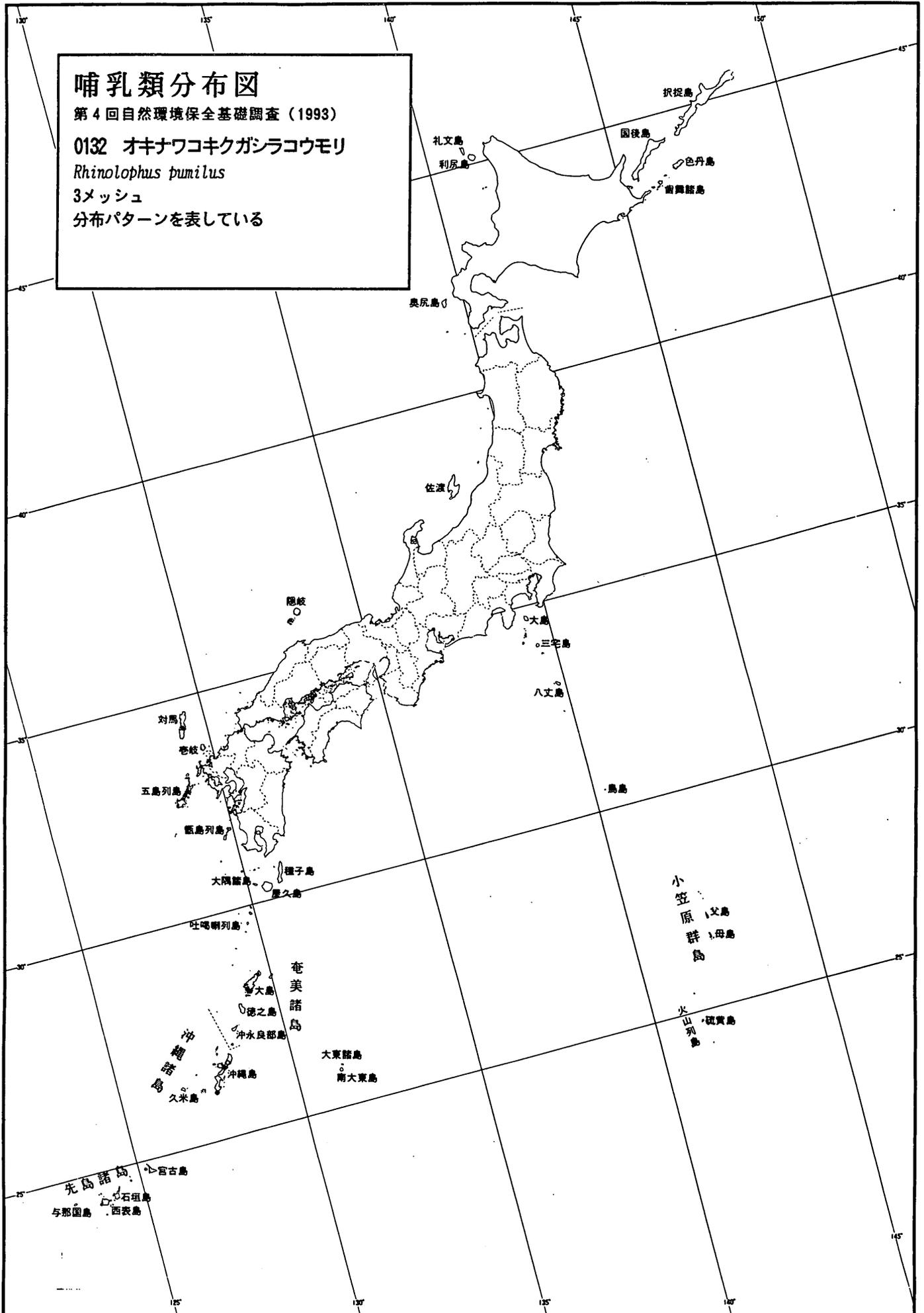
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0132 オキナワコキクガシラコウモリ

*Rhinolophus pumilus*

3メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

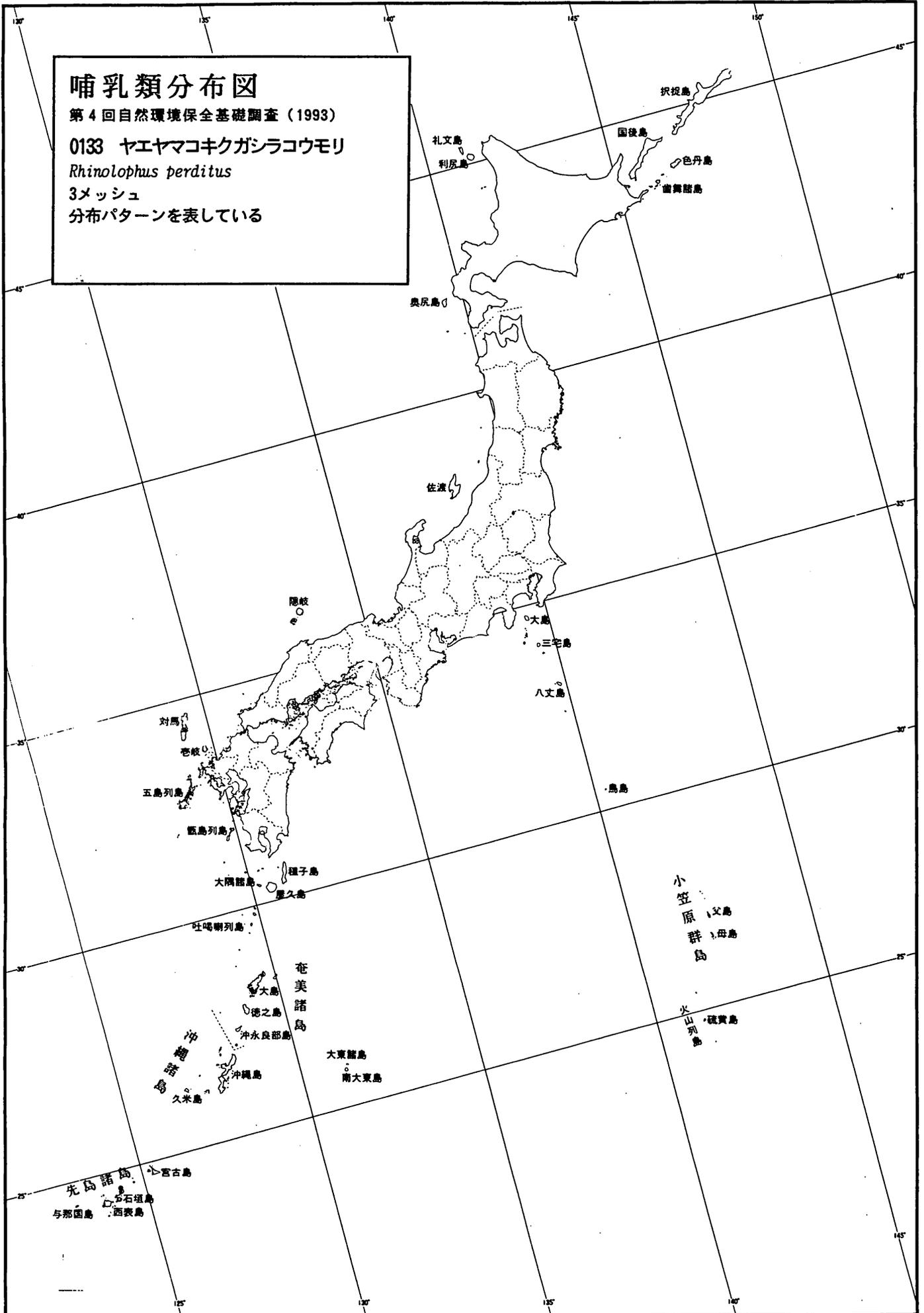
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0133 ヤエヤマコキクガシラコウモリ

*Rhinolophus perditus*

3メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

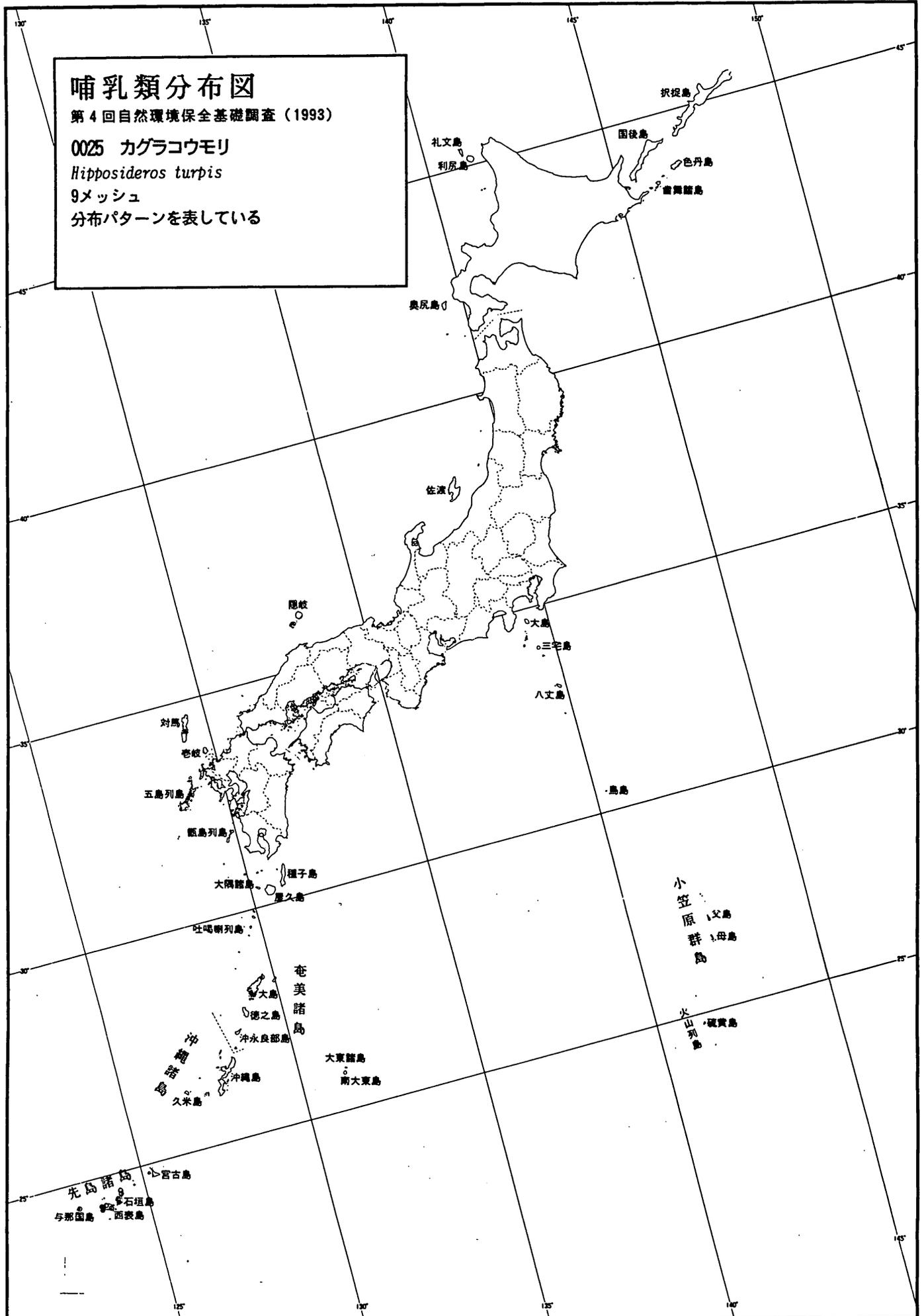
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0025 カグラコウモリ

*Hipposideros turpis*

9メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

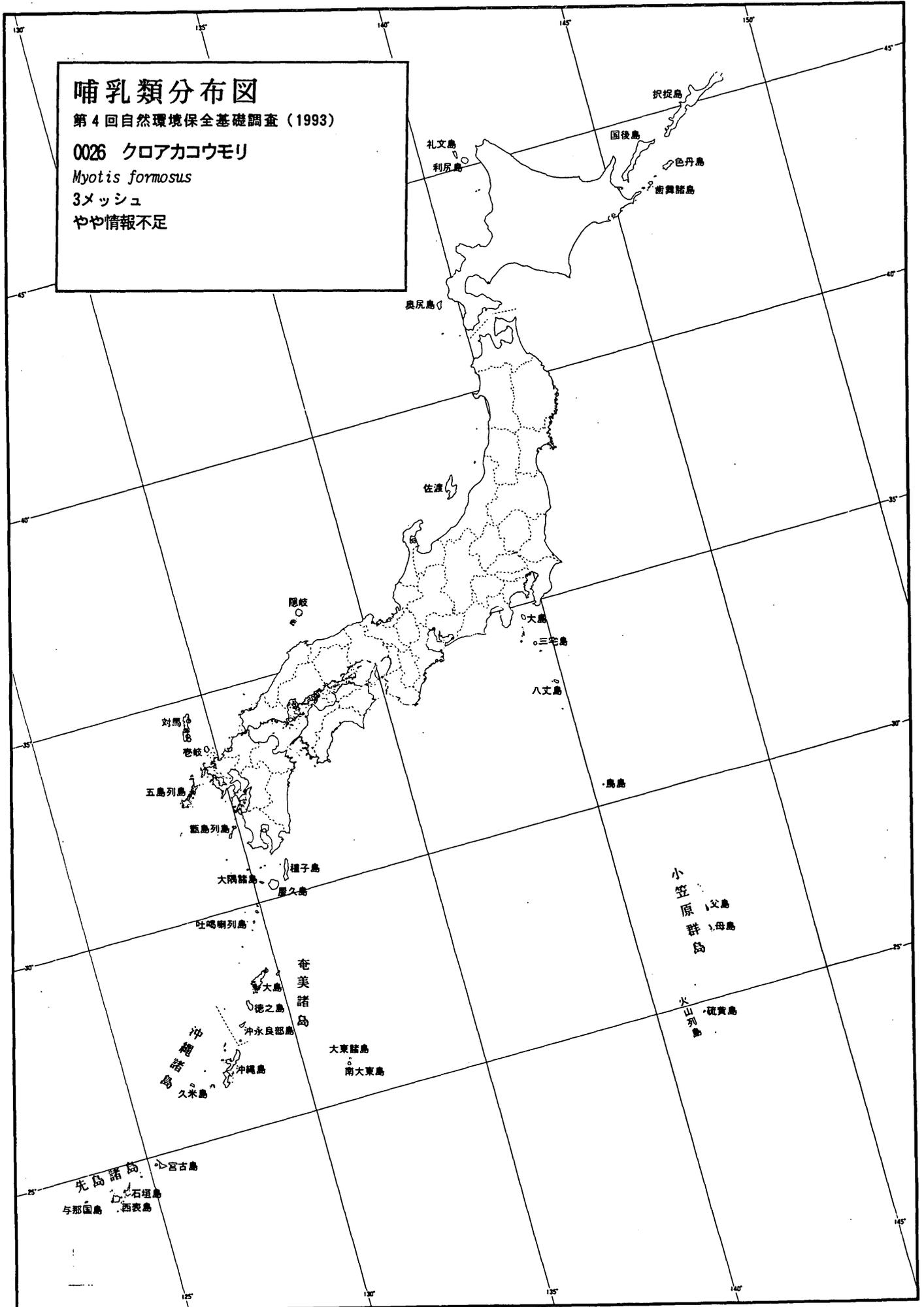
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0026 クロアカコウモリ

*Myotis formosus*

3メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

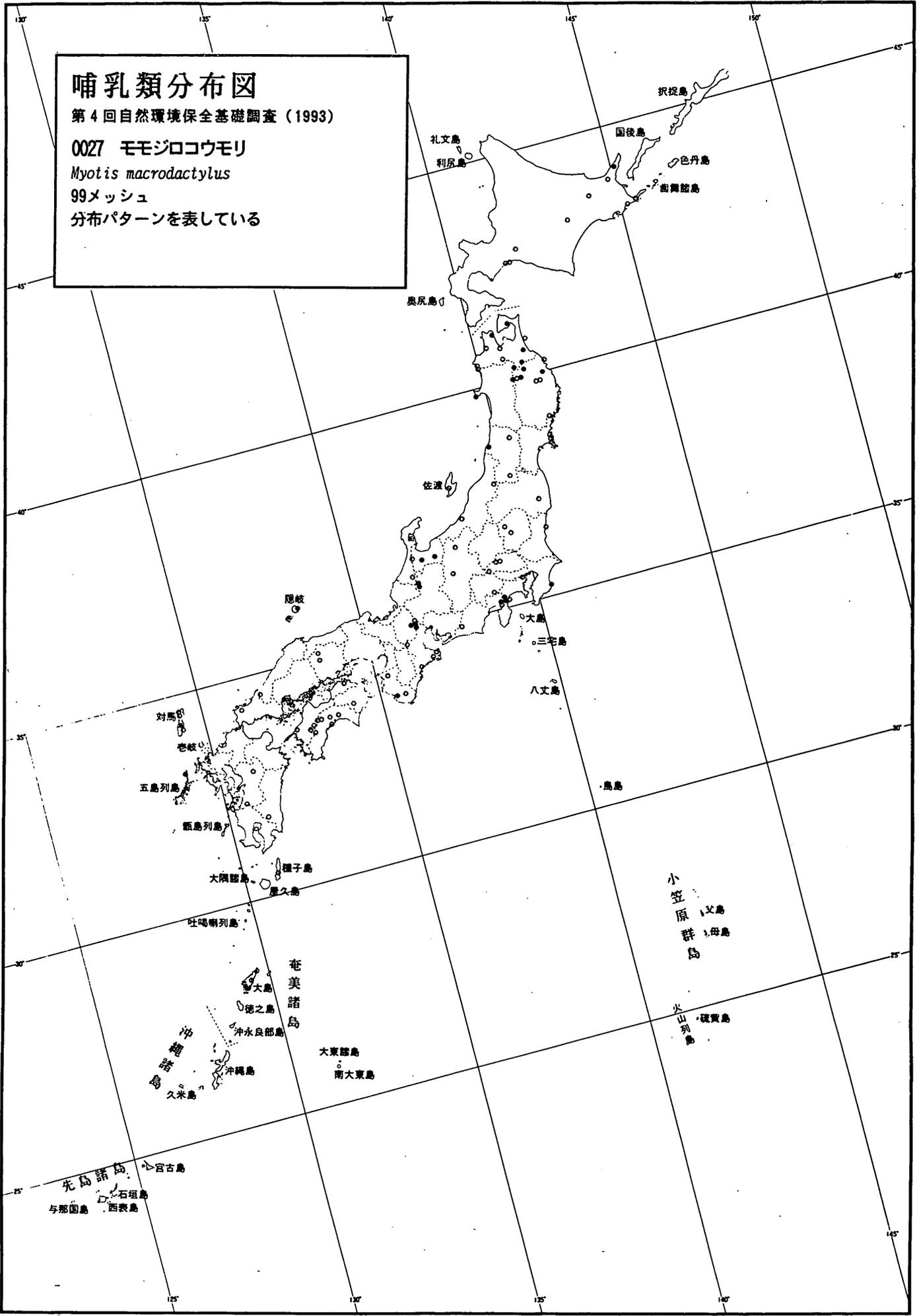
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0027 モモジロコウモリ

*Myotis macrodactylus*

99メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

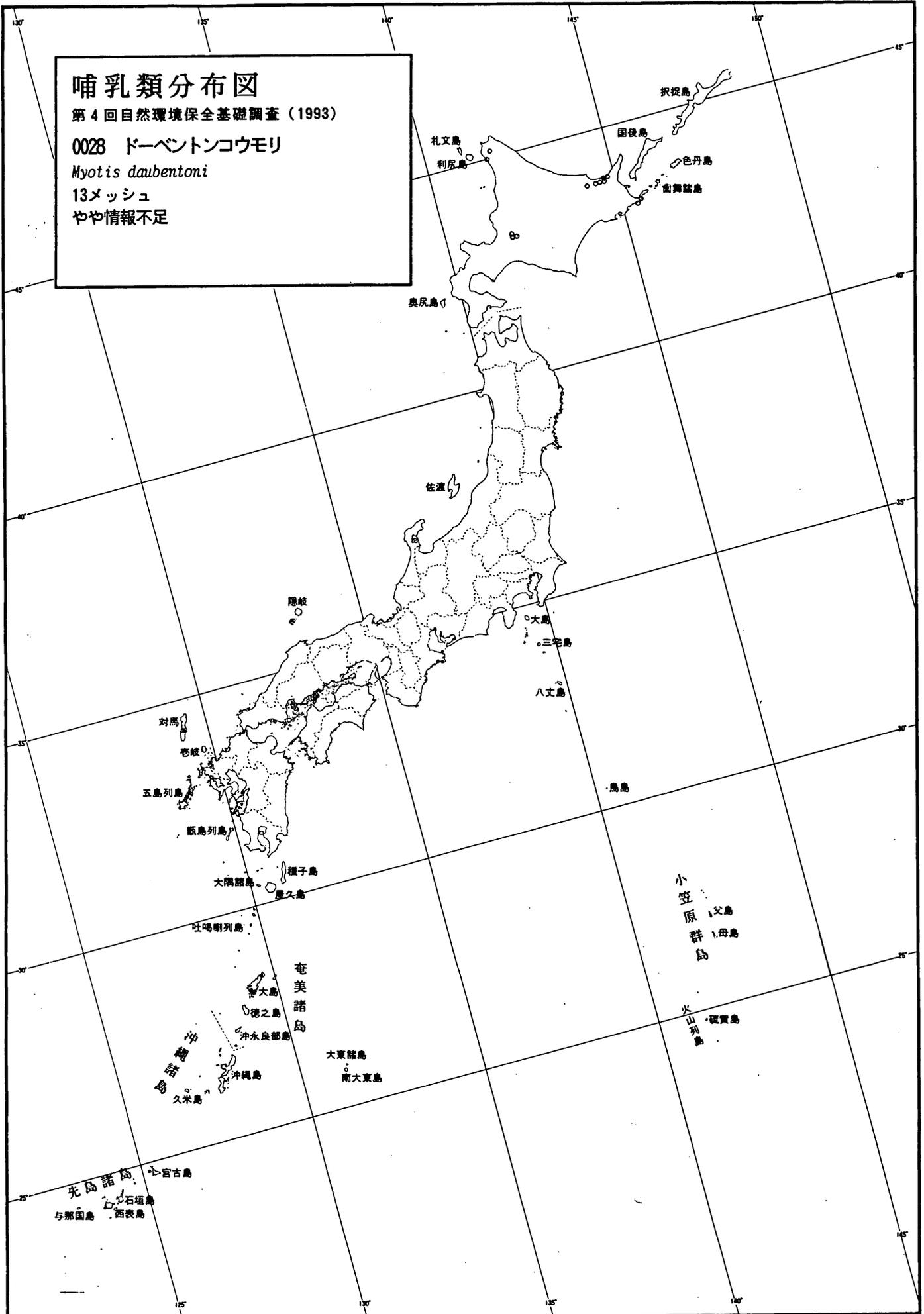
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0028 ドーベントンコウモリ

*Myotis daubentoni*

13メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

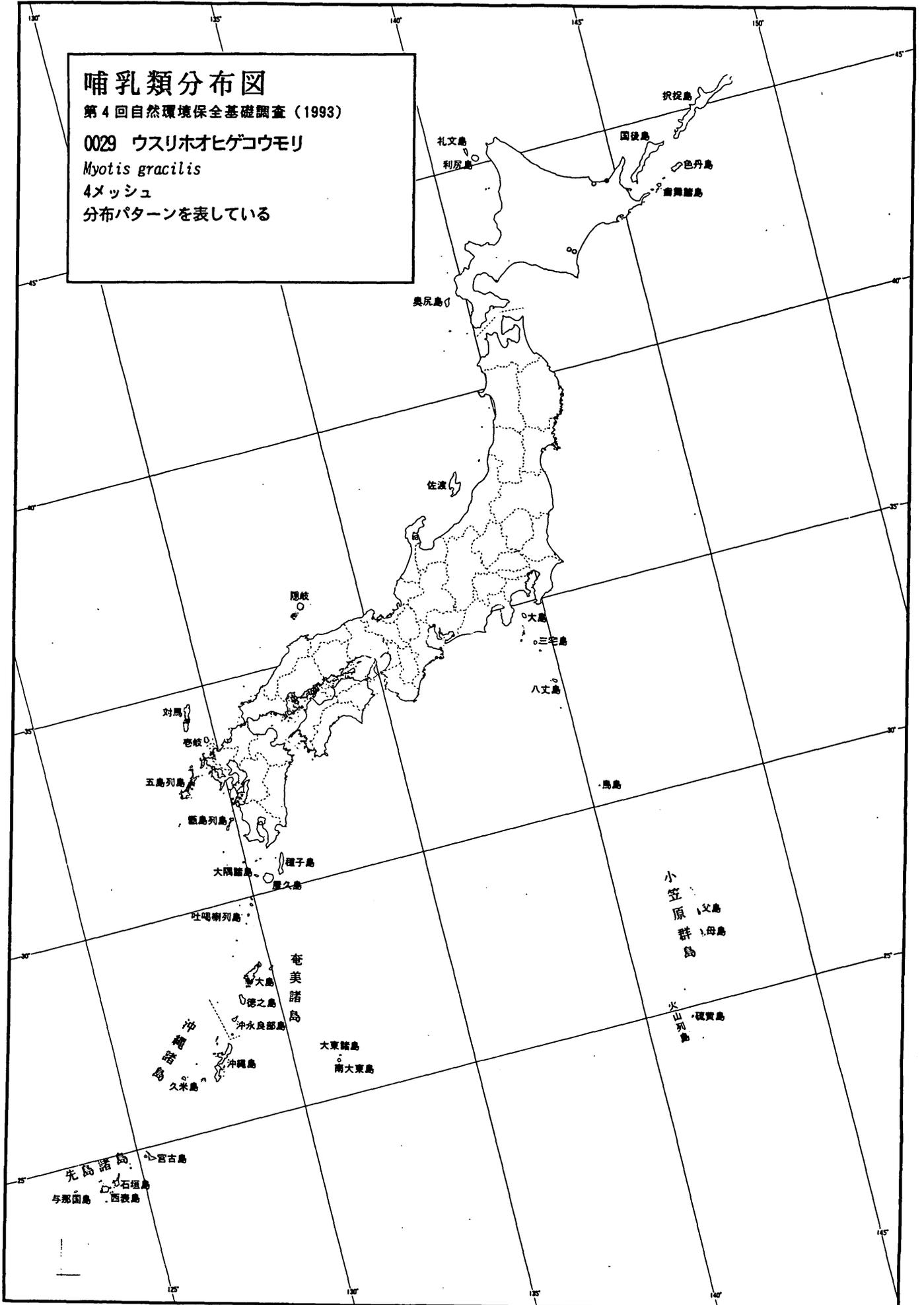
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0029 ウスリホオヒゲコウモリ

*Myotis gracilis*

4メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

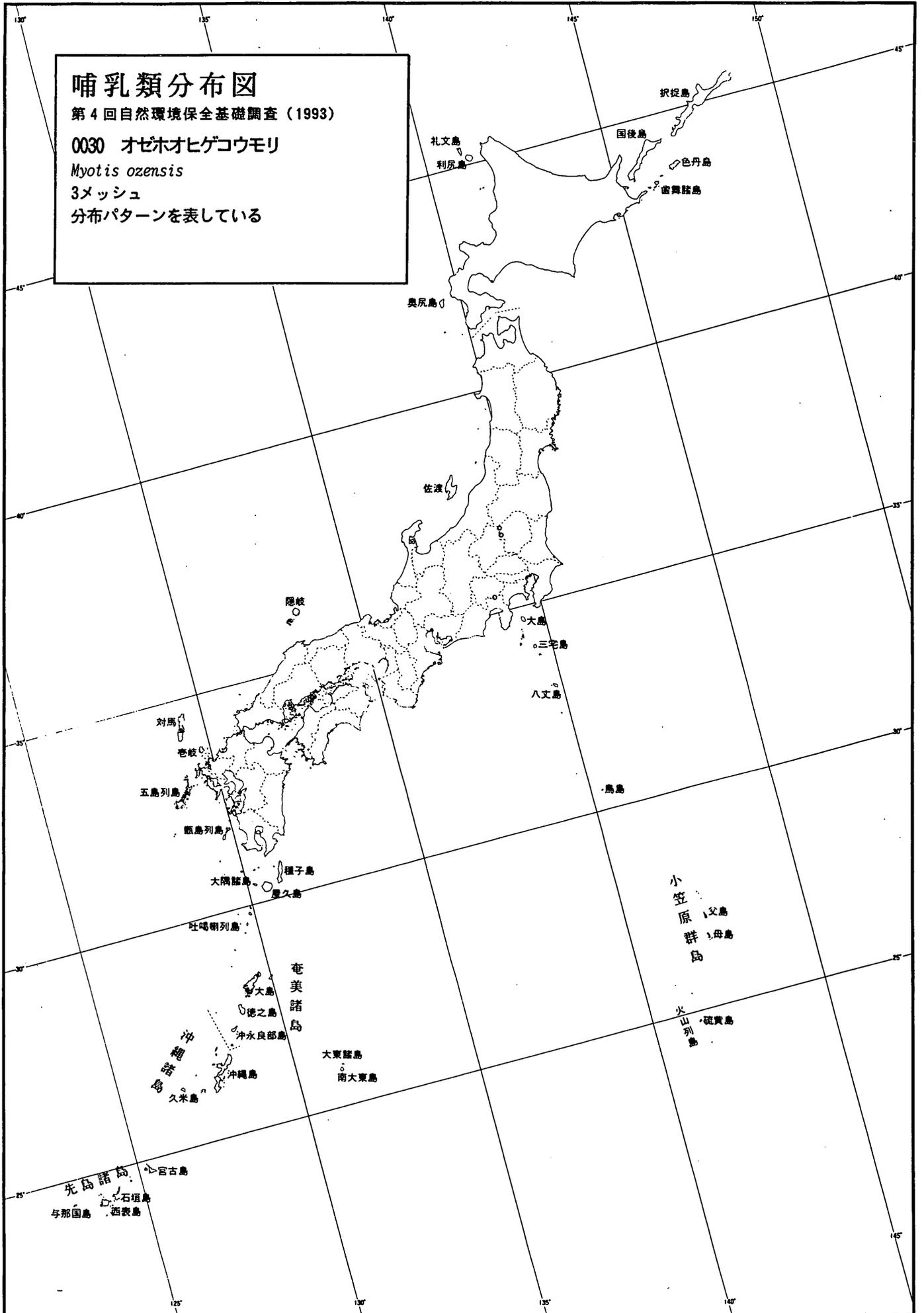
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0030 オゼホオヒゲコウモリ

*Myotis ozensis*

3メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

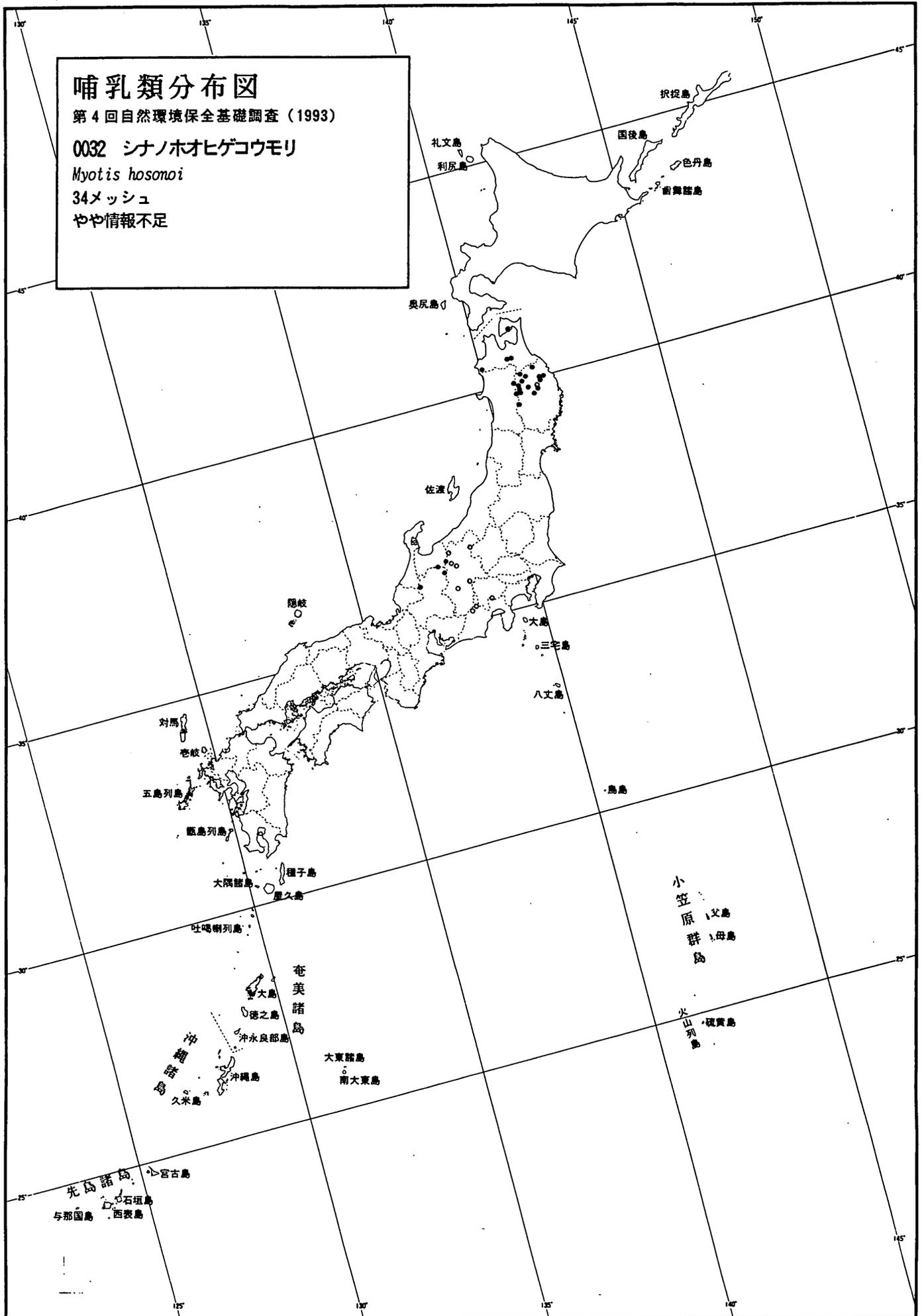
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0032 シナノホオヒゲコウモリ

*Myotis hosonoi*

34メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

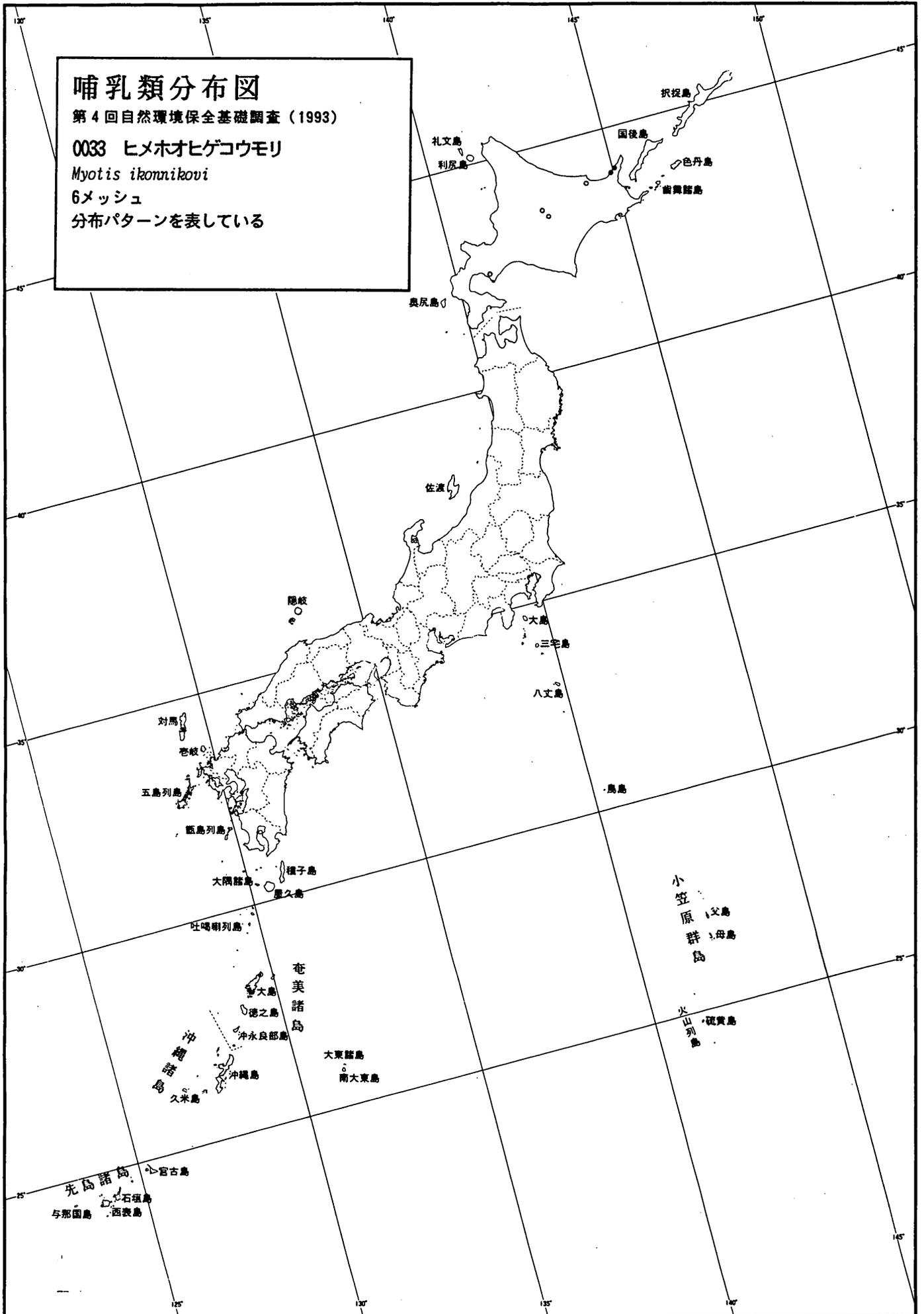
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0033 ヒメホオヒゲコウモリ

*Myotis ikonnikovi*

6メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

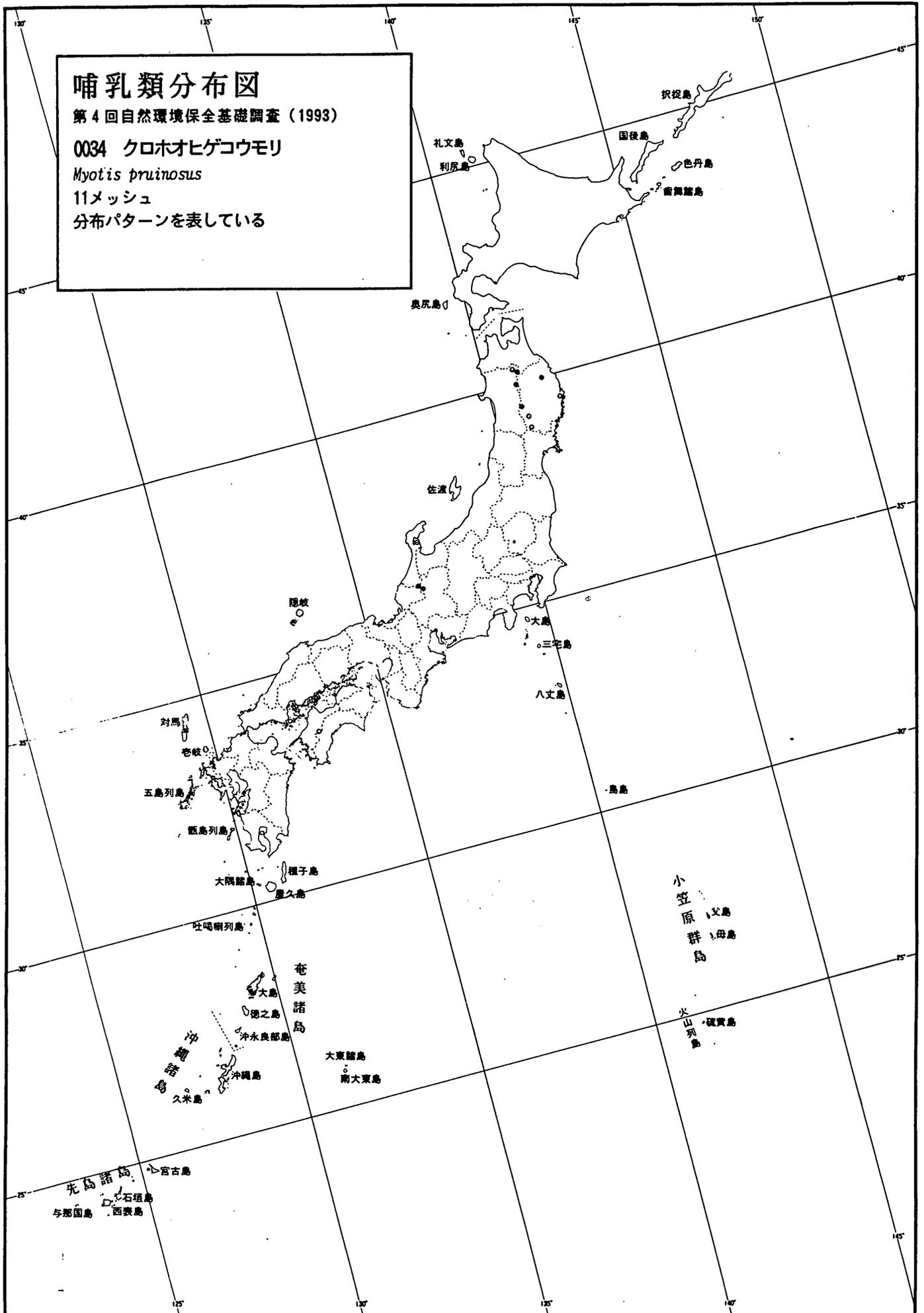
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0034 クロホオヒゲコウモリ

*Myotis pruinus*

11メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

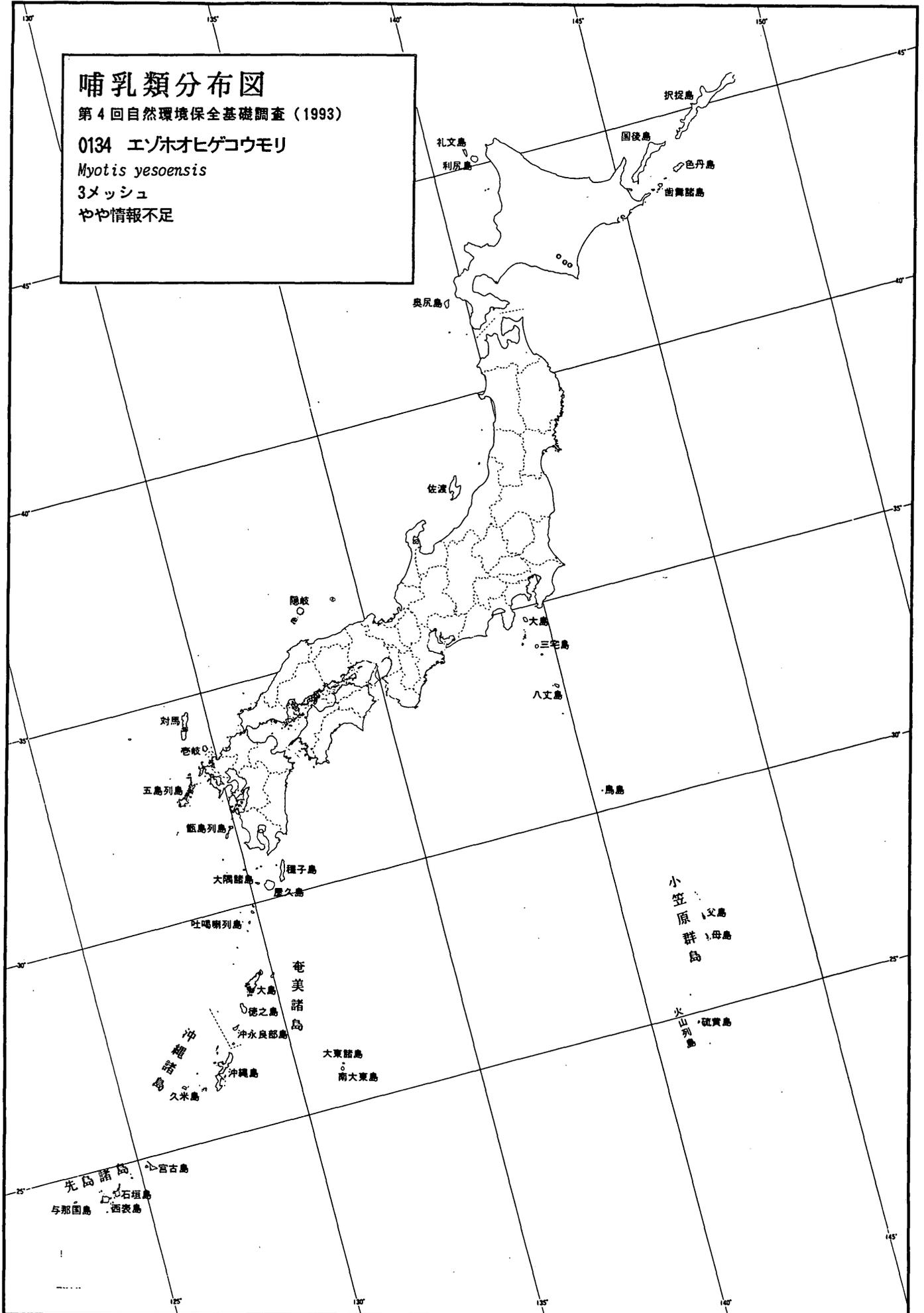
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0134 エゾホオヒゲコウモリ

*Myotis yesoensis*

3メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

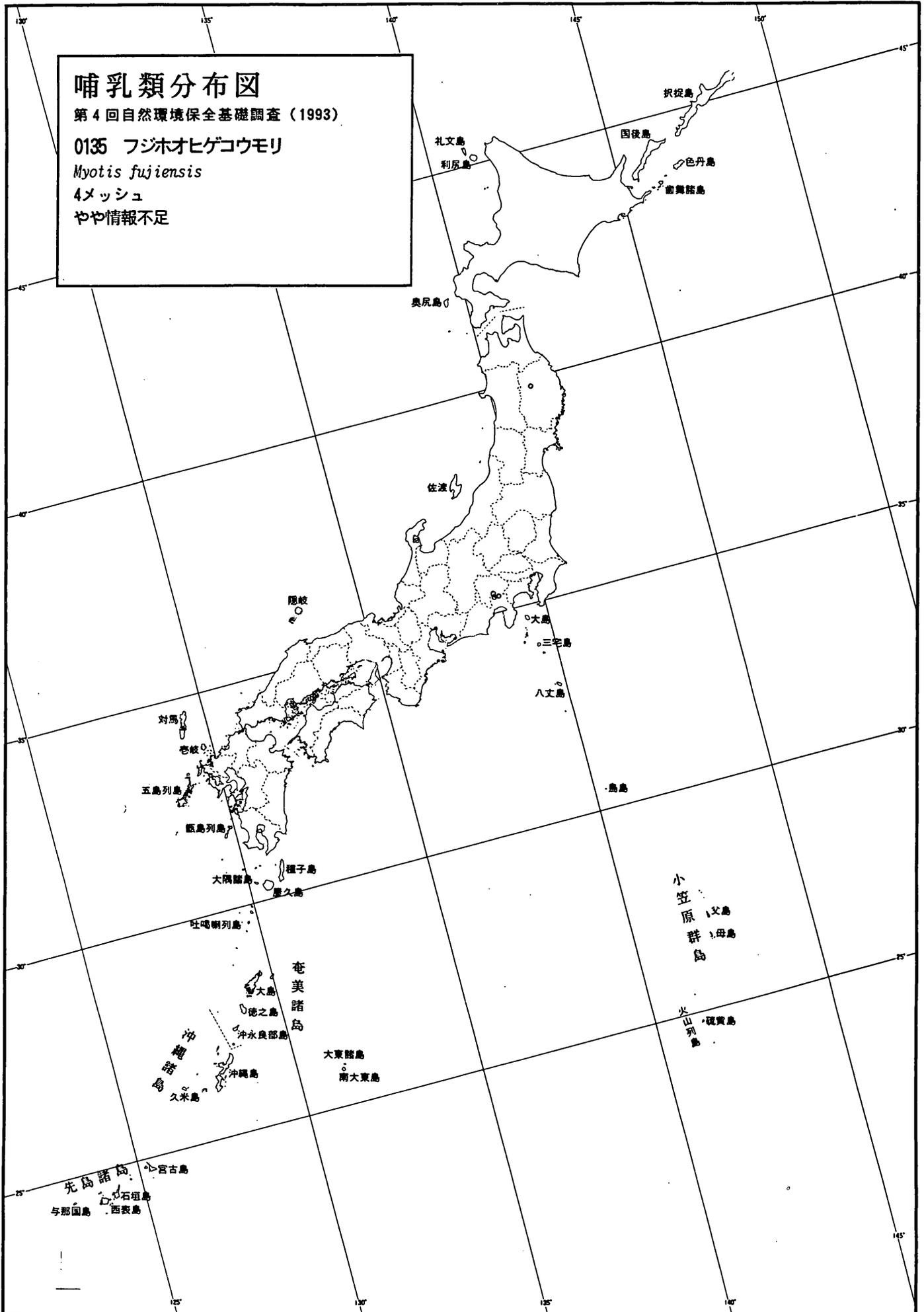
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0135 フジホオヒゲコウモリ

*Myotis fujiensis*

4メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

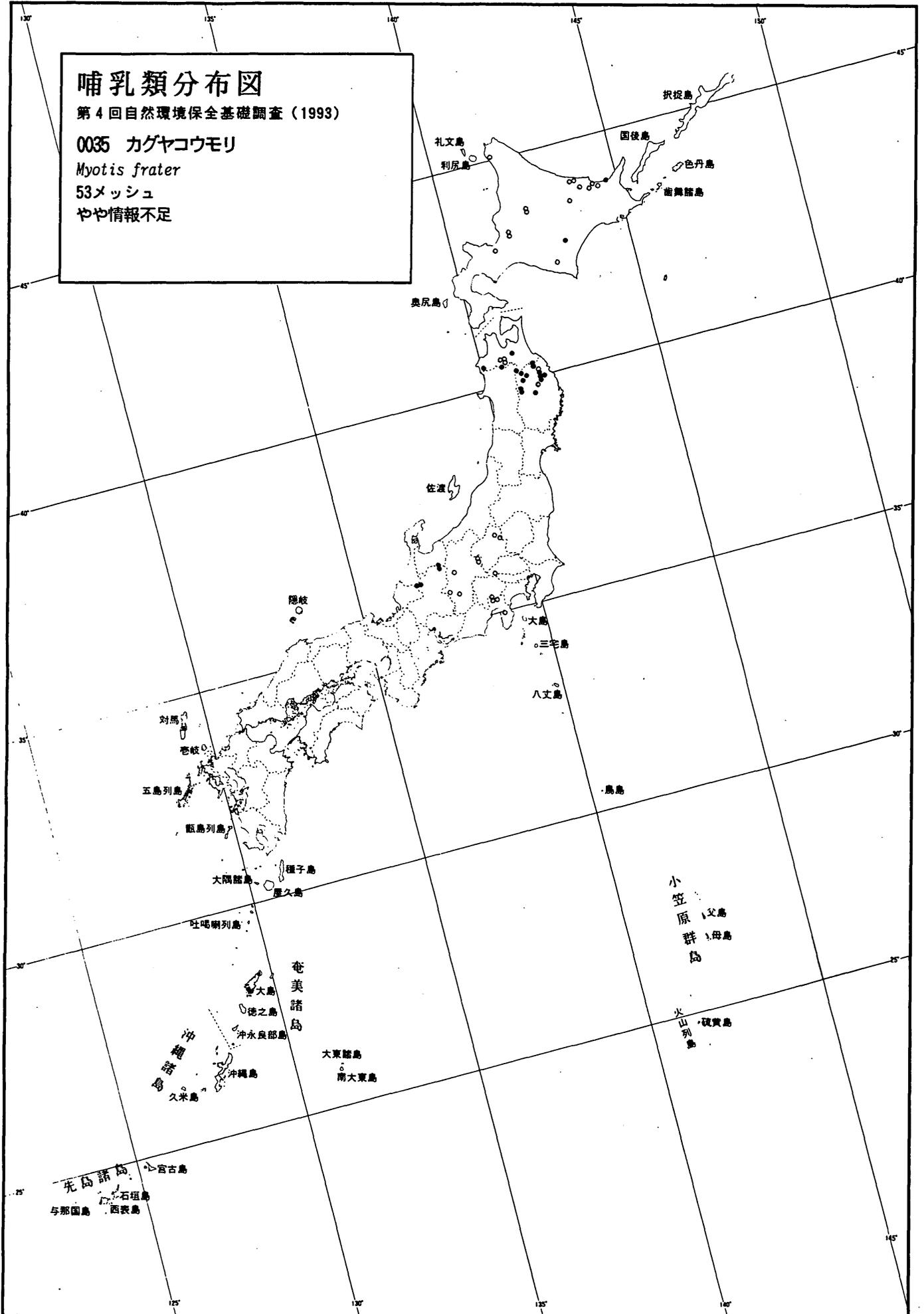
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0035 カゲヤコウモリ

*Myotis frater*

53メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

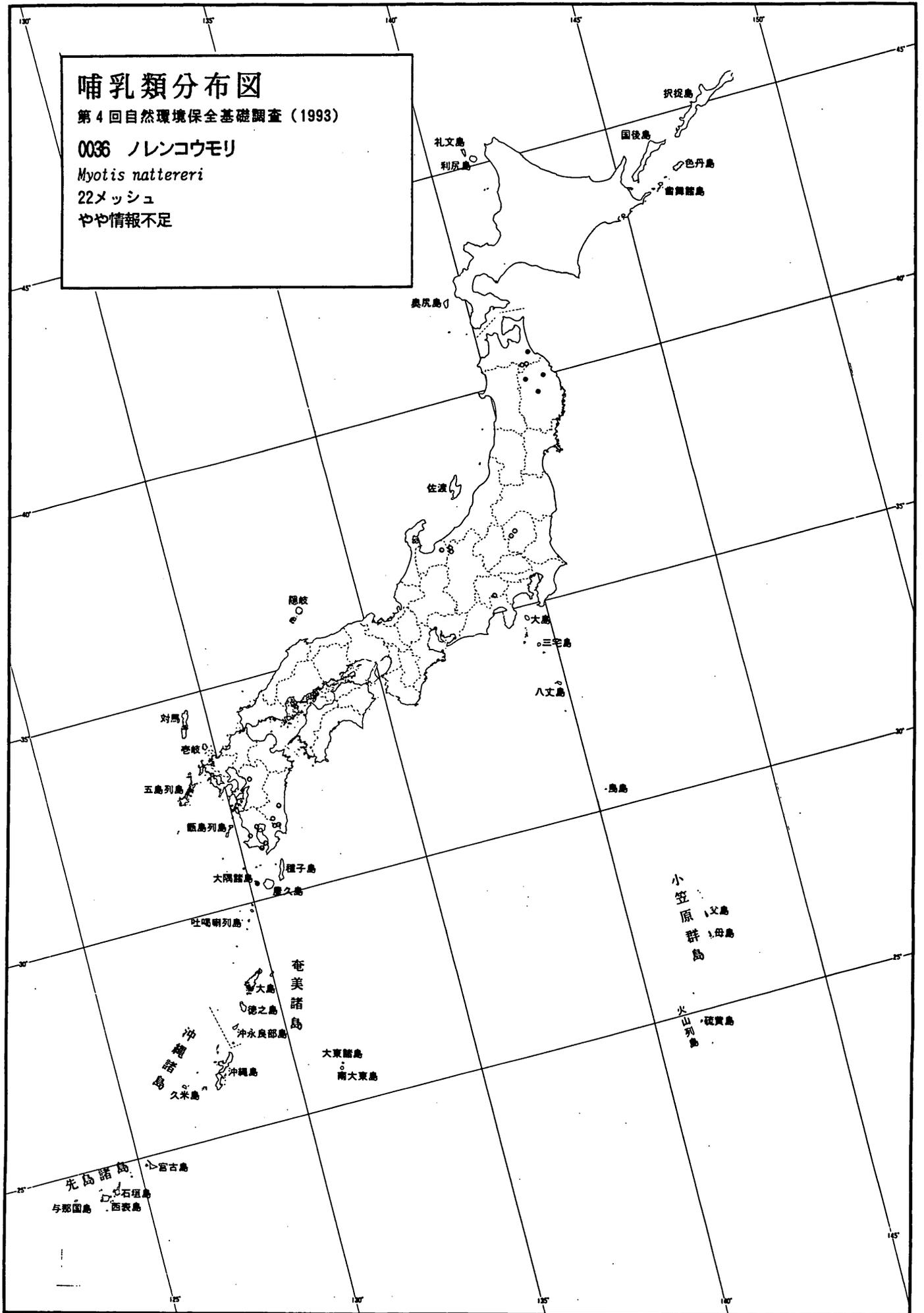
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0036 ノレンコウモリ

*Myotis nattereri*

22メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

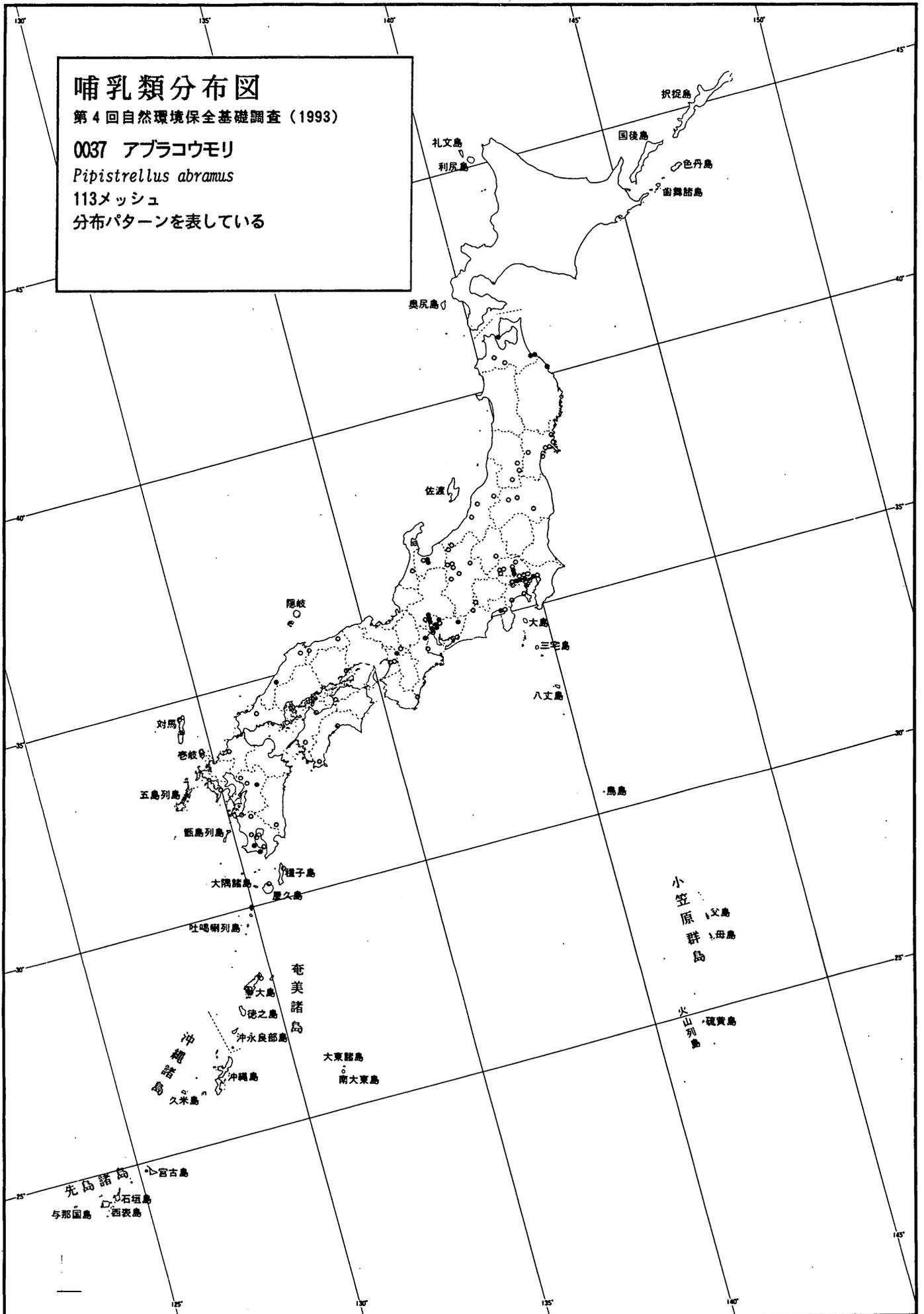
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0037 アブラコウモリ

*Pipistrellus abramus*

113メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

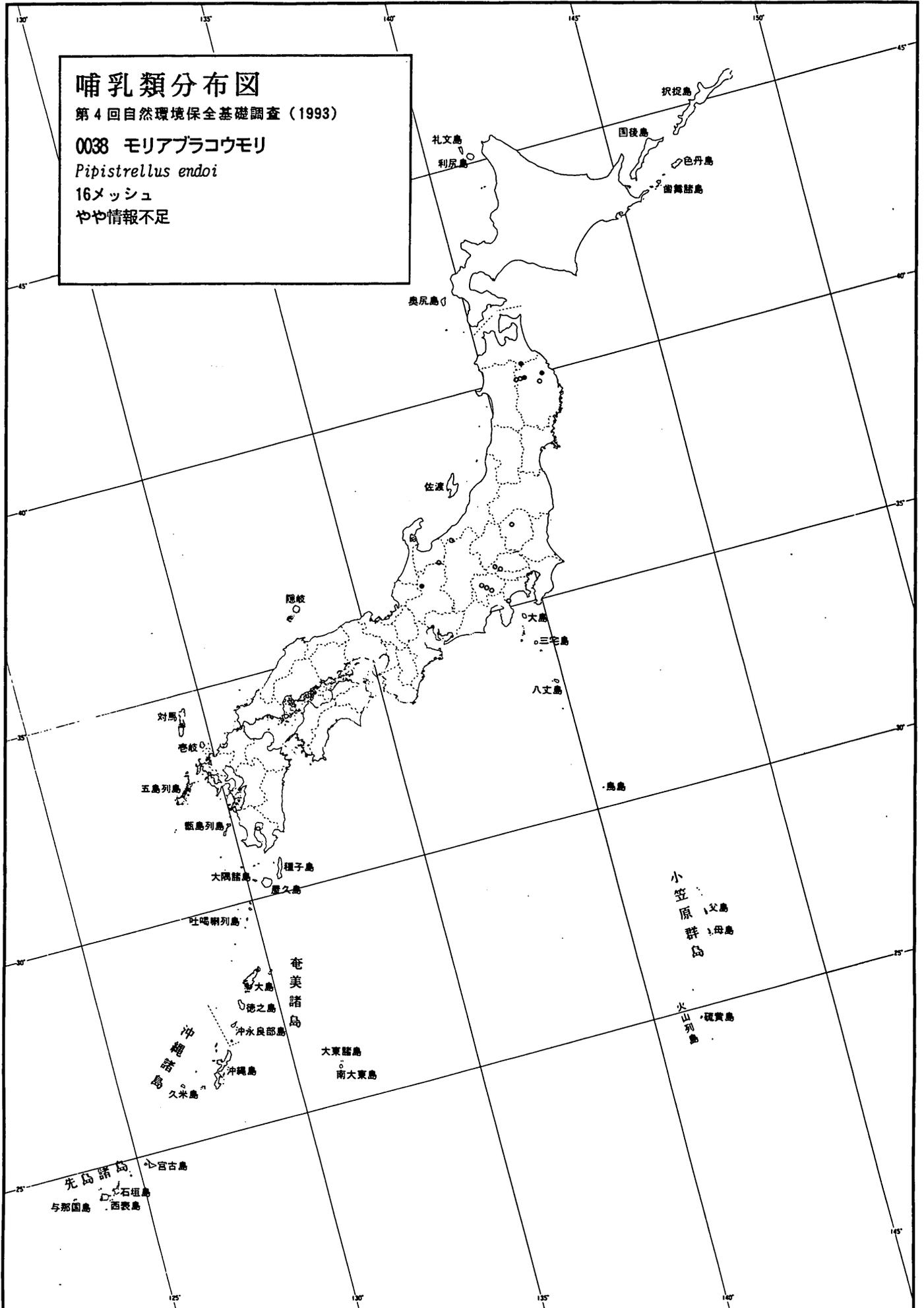
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0038 モリアブラコウモリ

*Pipistrellus endoi*

16メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

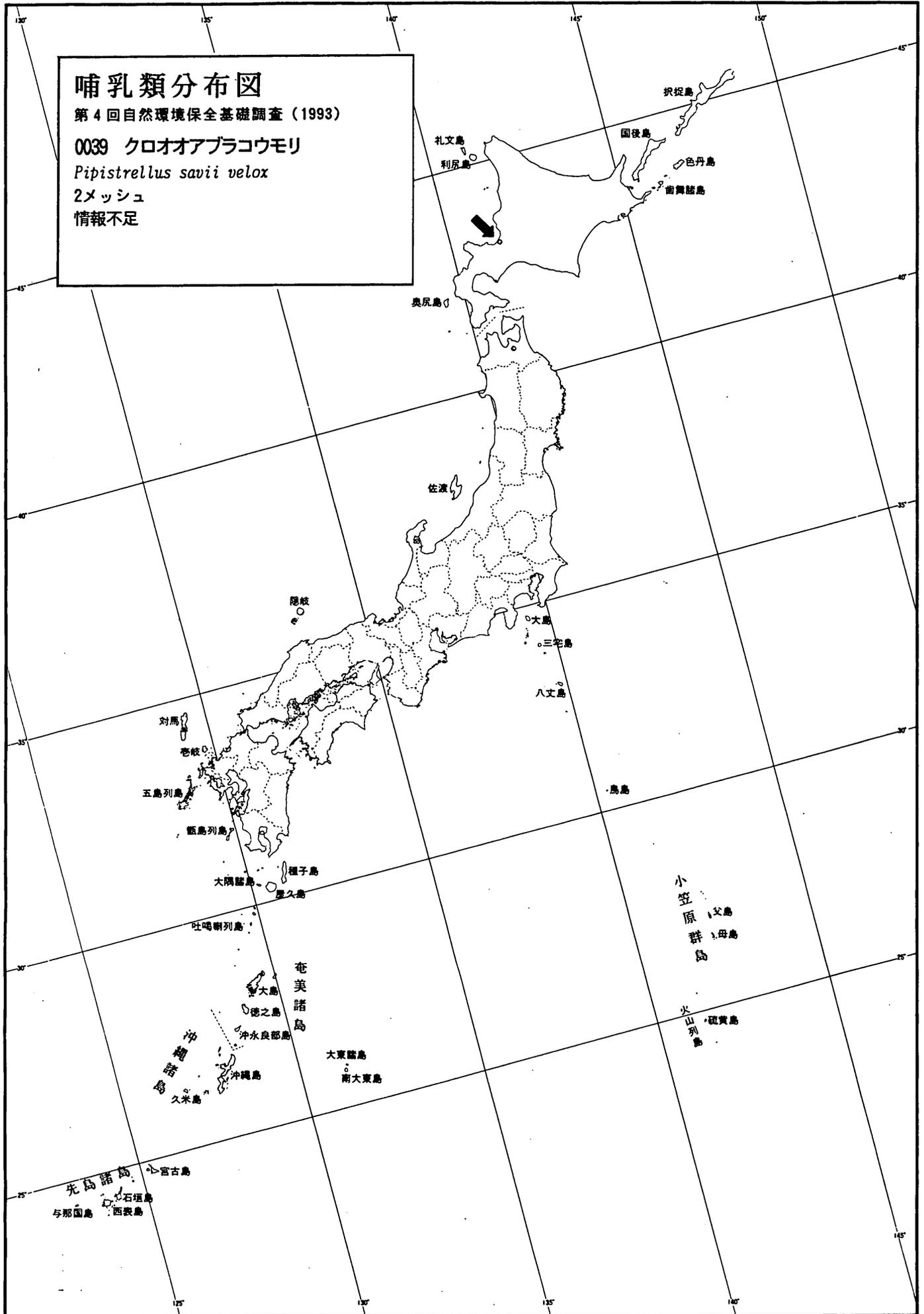
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0039 クロオオアブラコウモリ

*Pipistrellus savii velox*

2メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

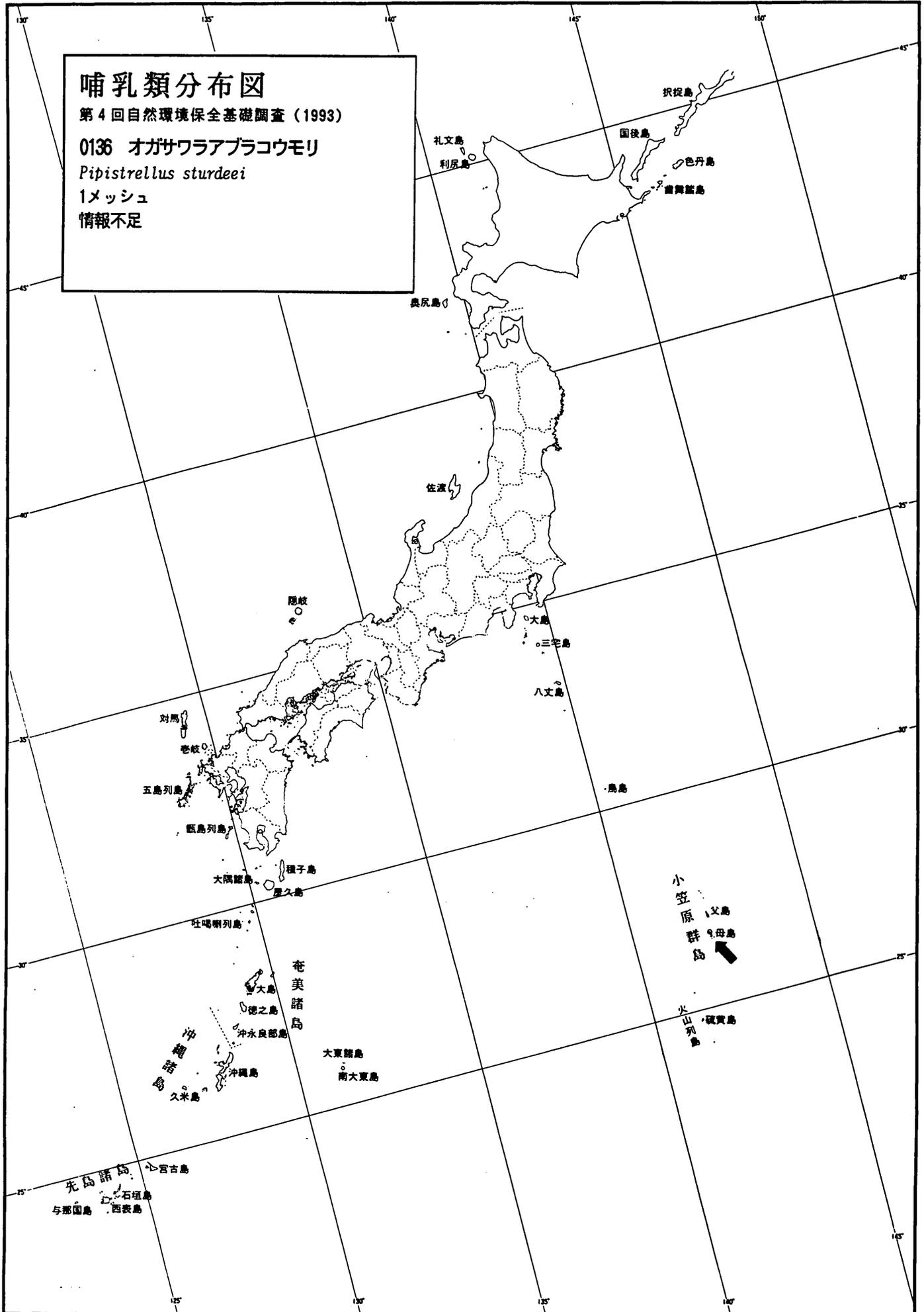
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0136 オガサワラアブラコウモリ

*Pipistrellus sturdee*

1メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

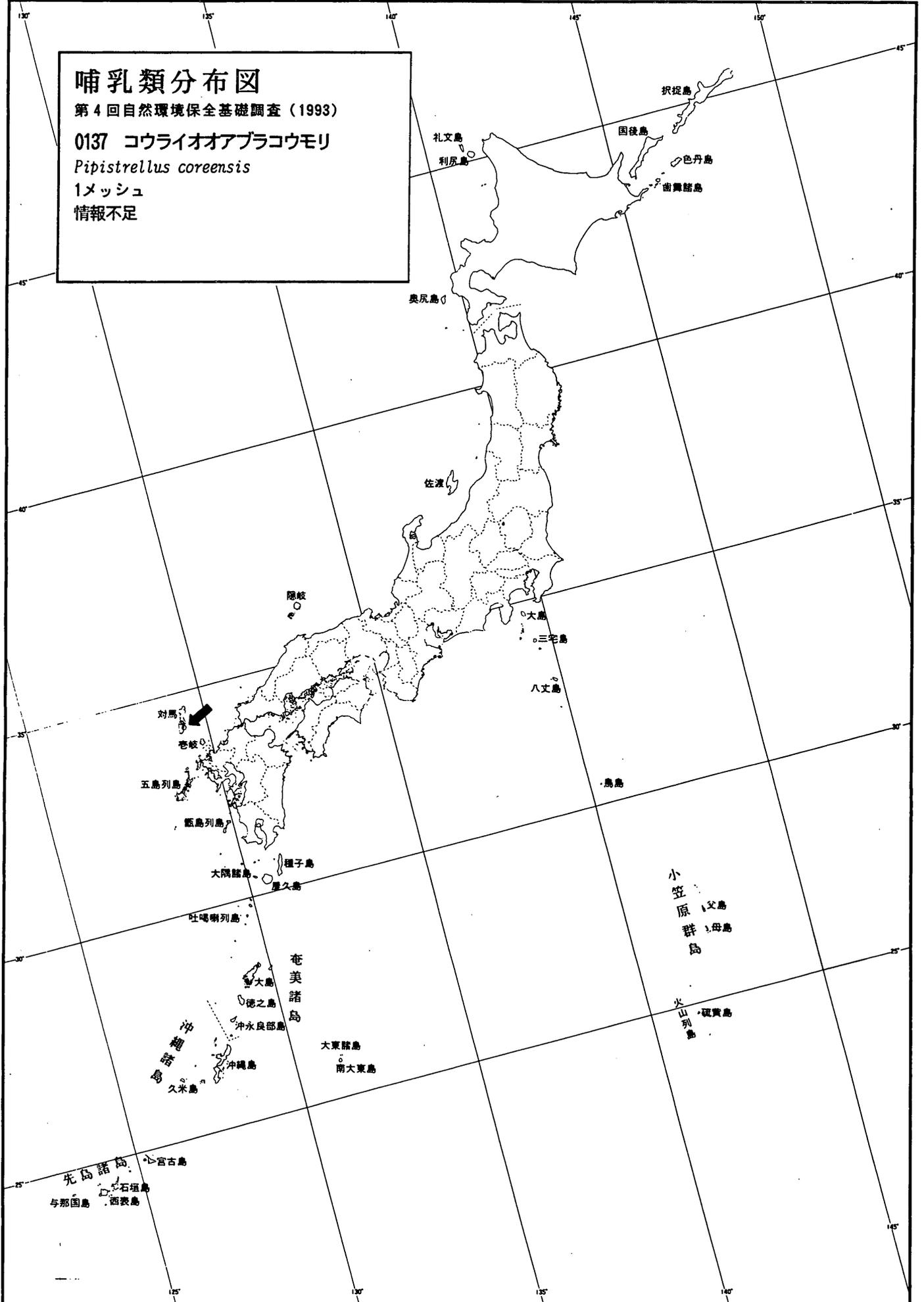
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0137 コウライオオアブラコウモリ

*Pipistrellus coreensis*

1メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

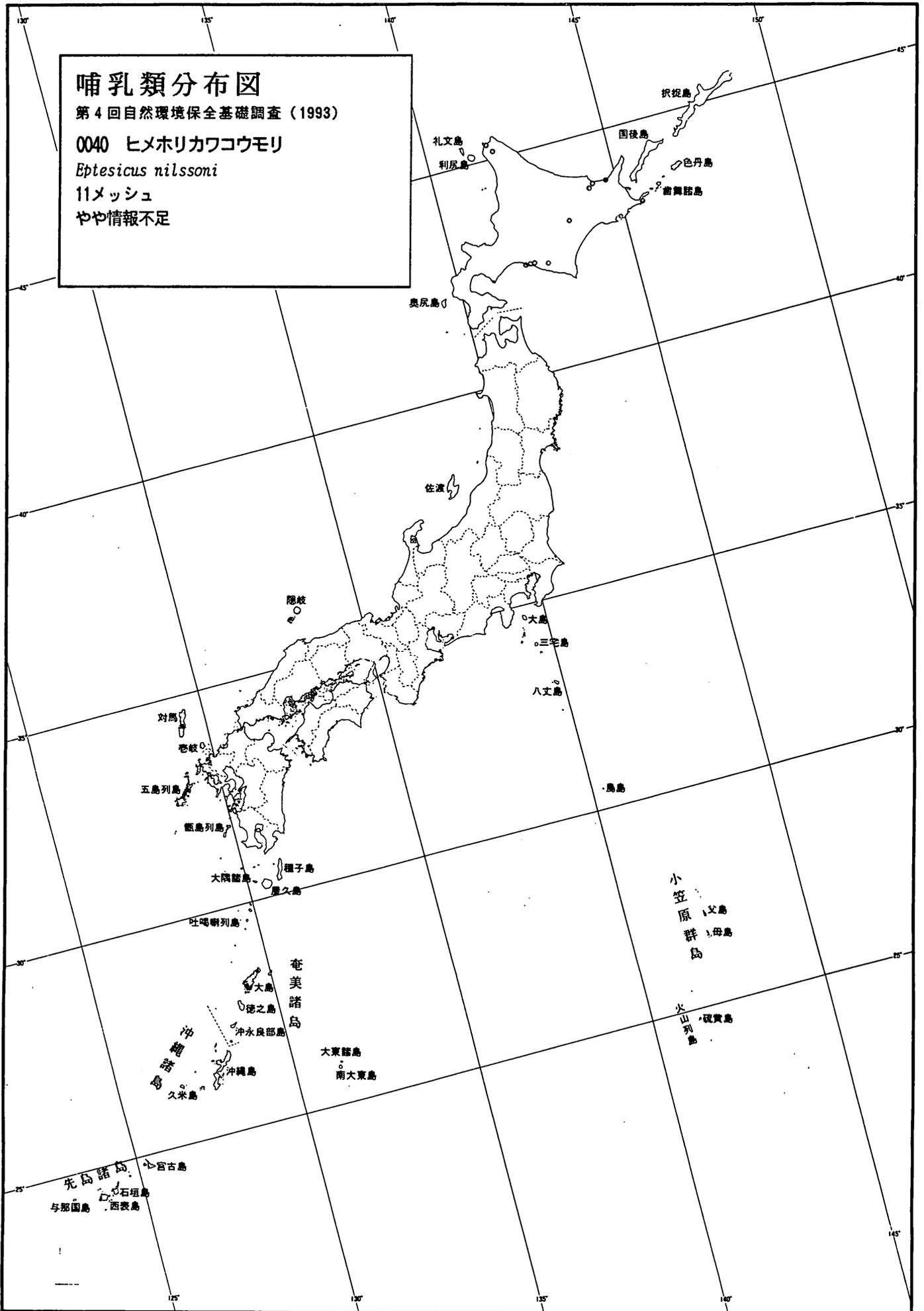
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0040 ヒメホリカワコウモリ

*Eptesicus nilssoni*

11メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

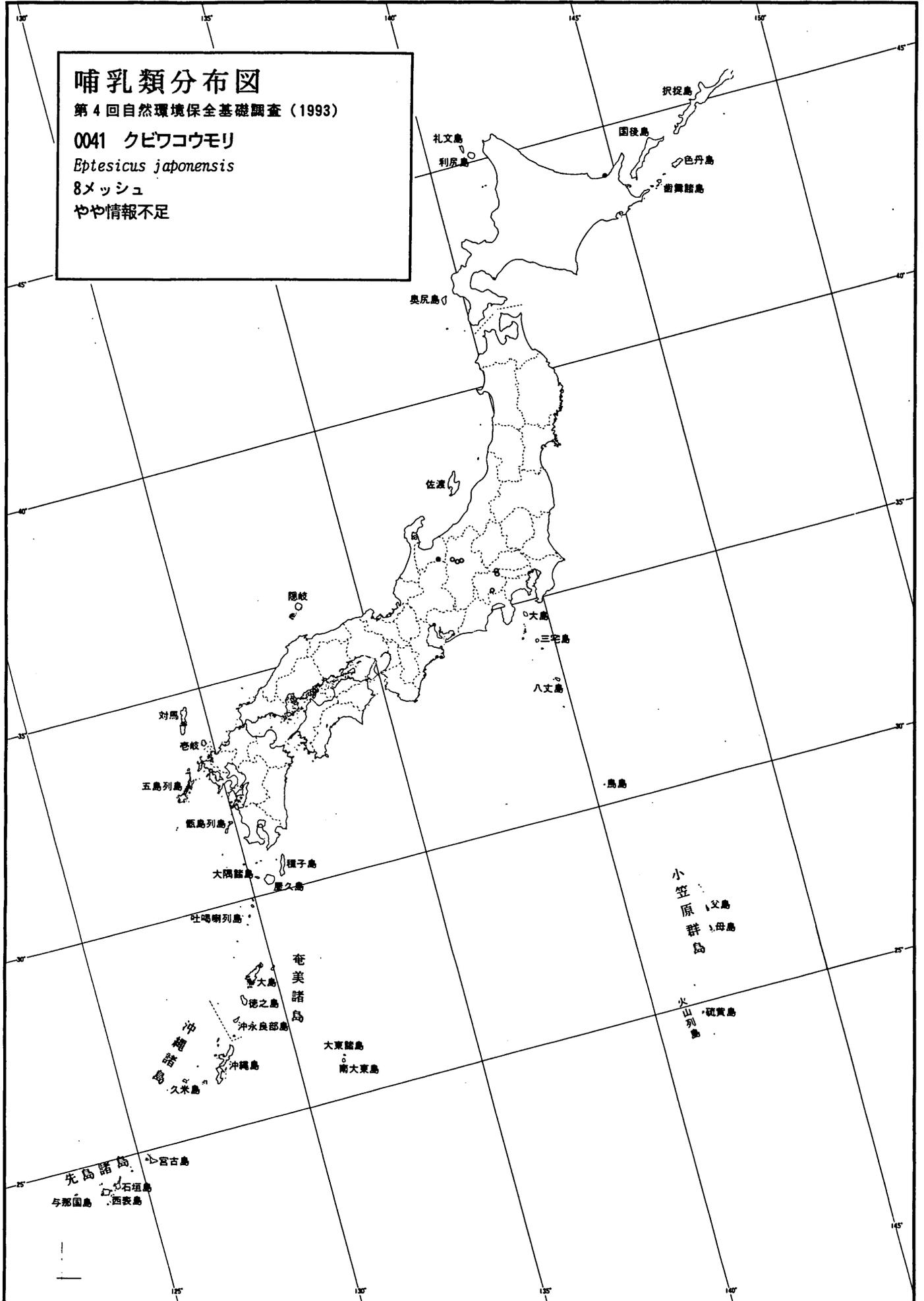
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0041 クビワコウモリ

*Eptesicus japonensis*

8メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

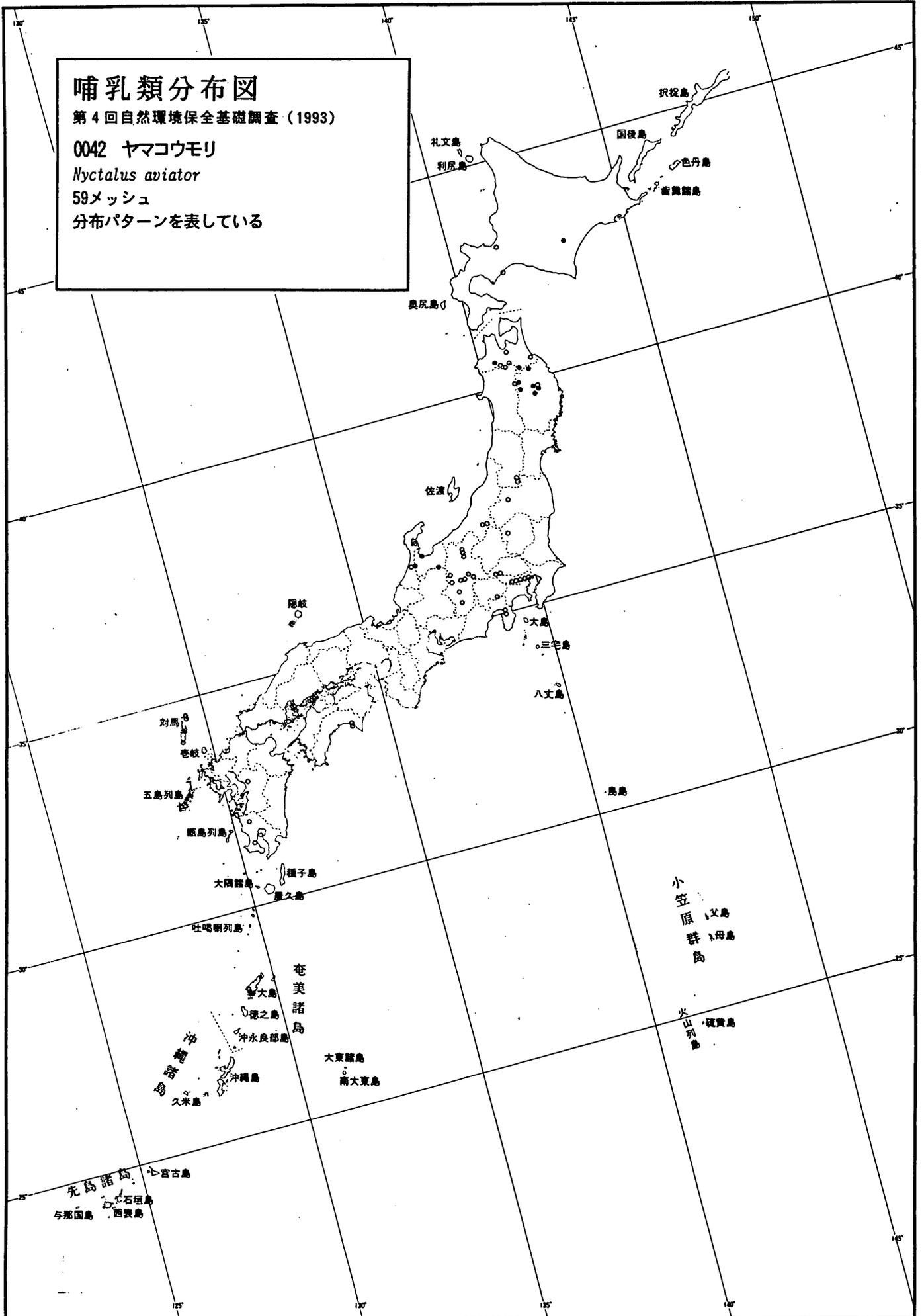
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0042 ヤマコウモリ

*Nyctalus aviator*

59メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

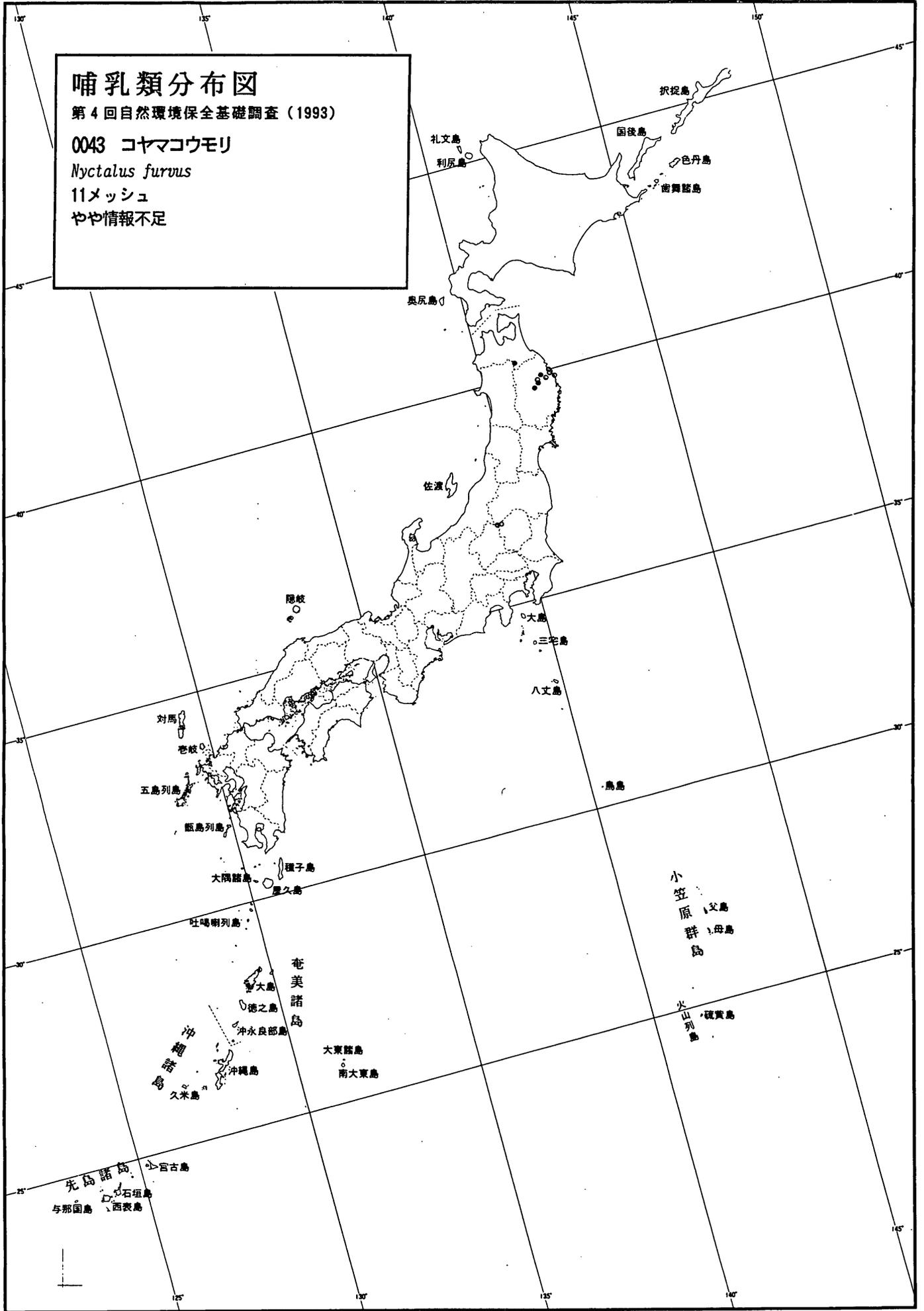
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0043 コヤマコウモリ

*Nyctalus furvus*

11メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

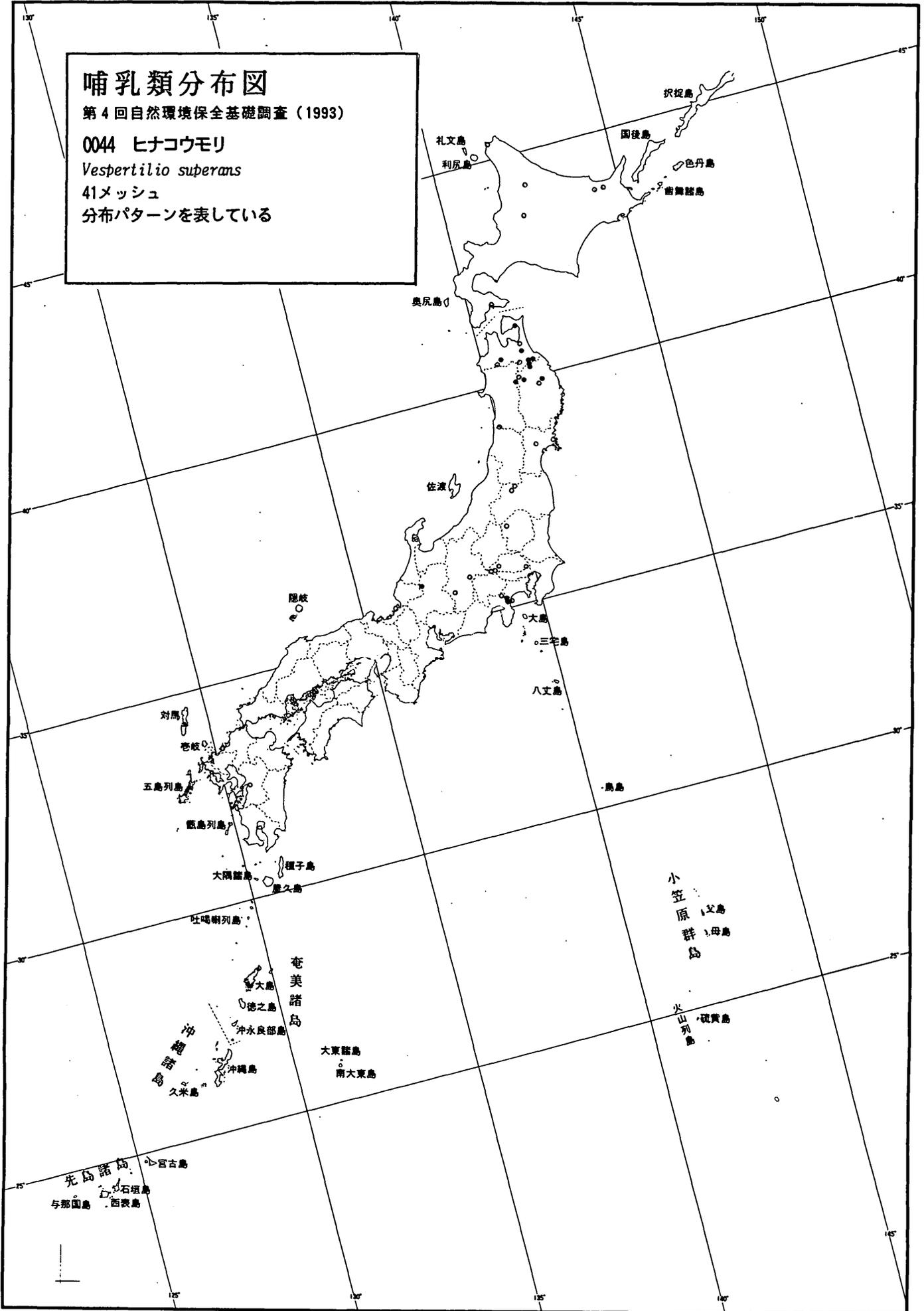
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0044 ヒナコウモリ

*Vespertilio superans*

41メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

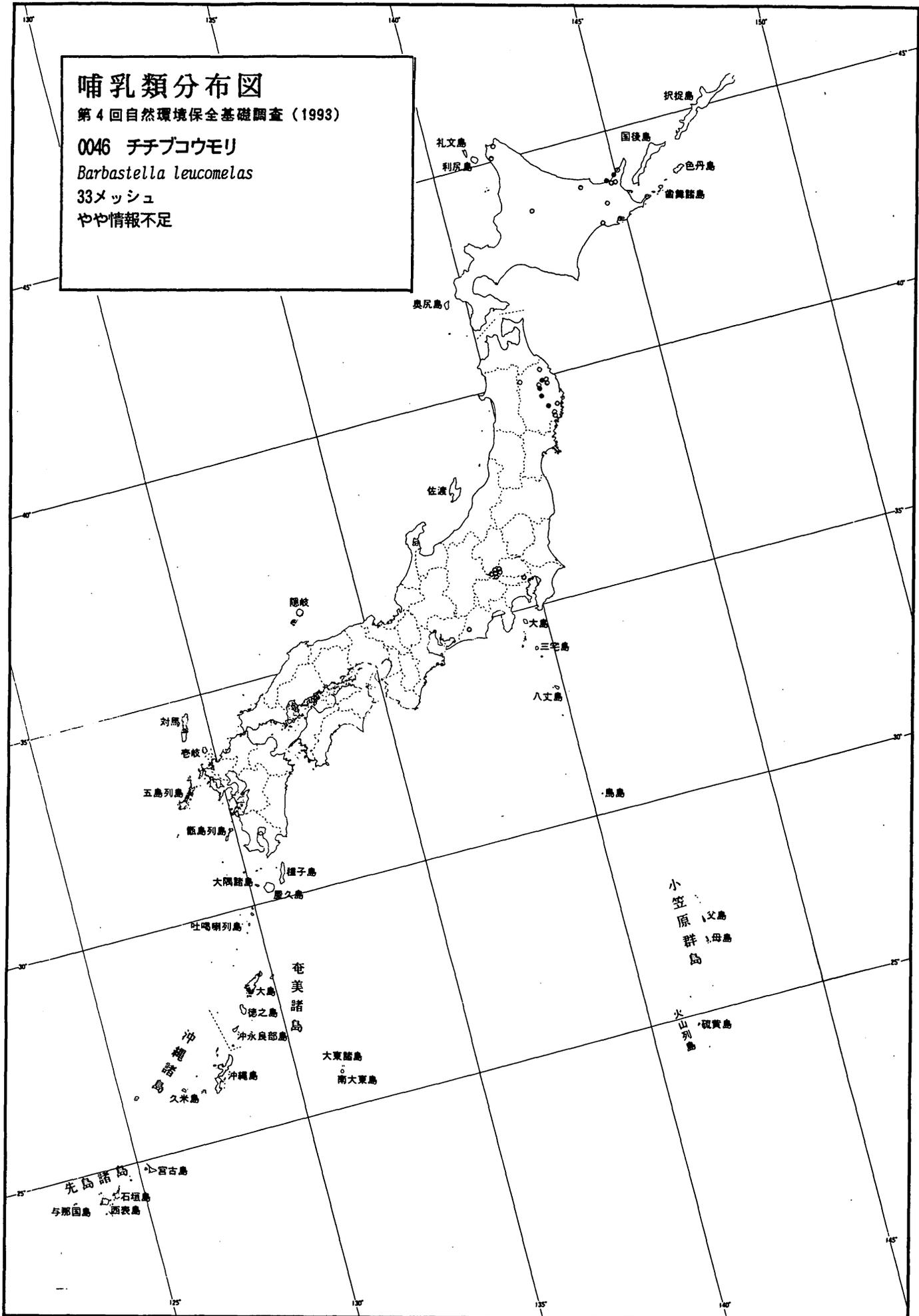
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0046 チチブコウモリ

*Barbastella leucomelas*

33メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

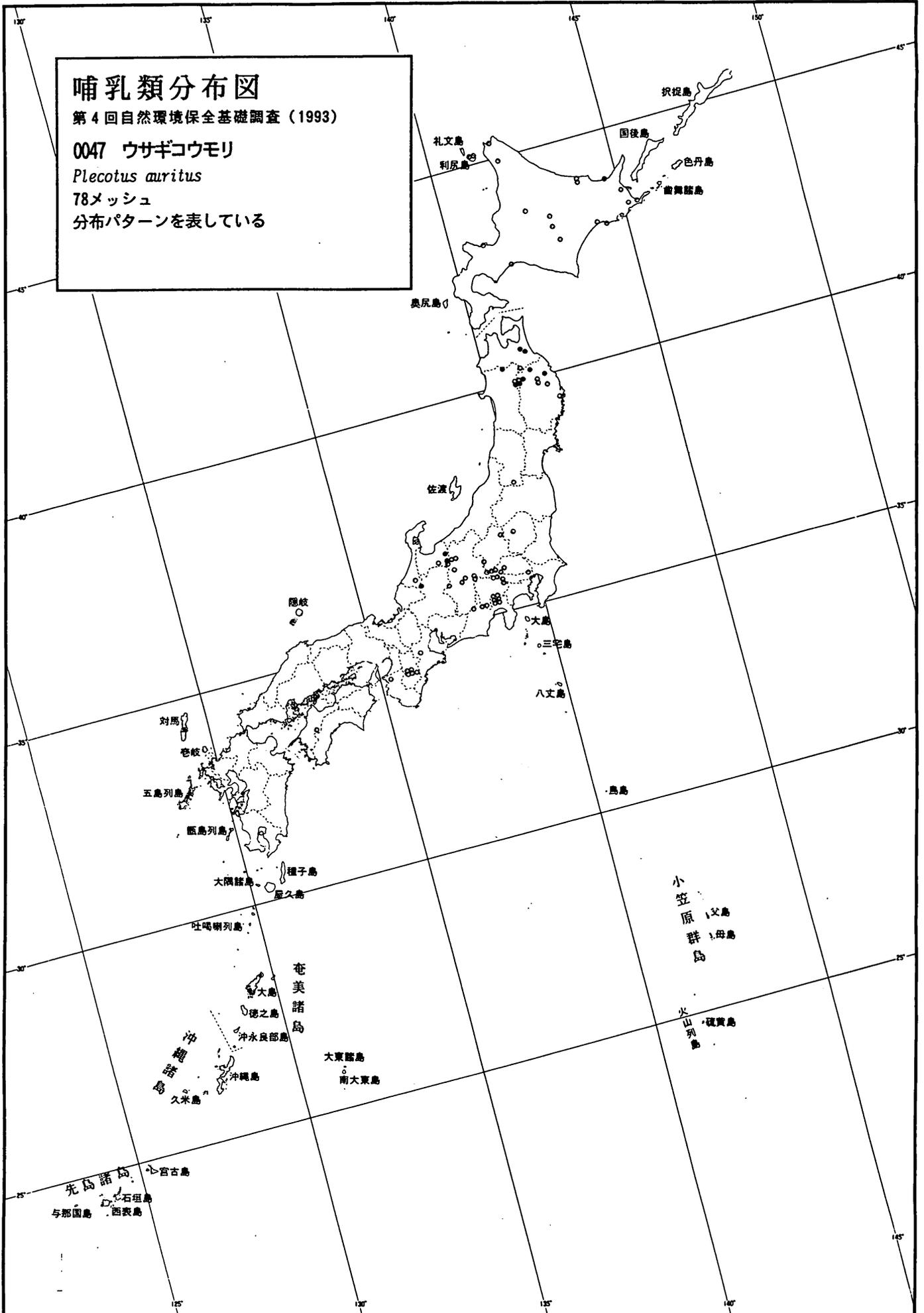
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0047 ウサギコウモリ

*Plecotus auritus*

78メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

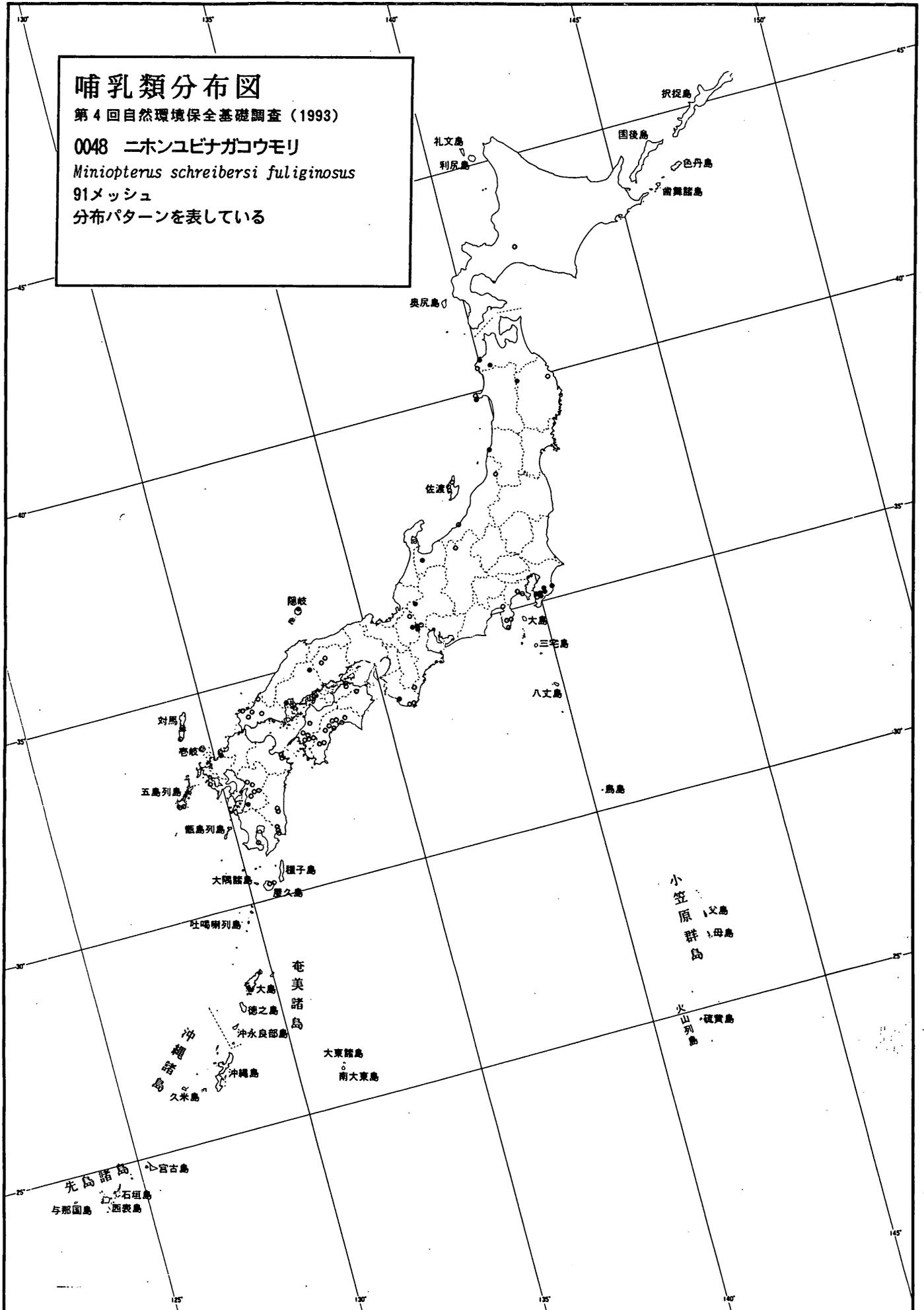
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0048 ニホンユビナガコウモリ

*Miniopterus schreibersi fuliginosus*

91メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

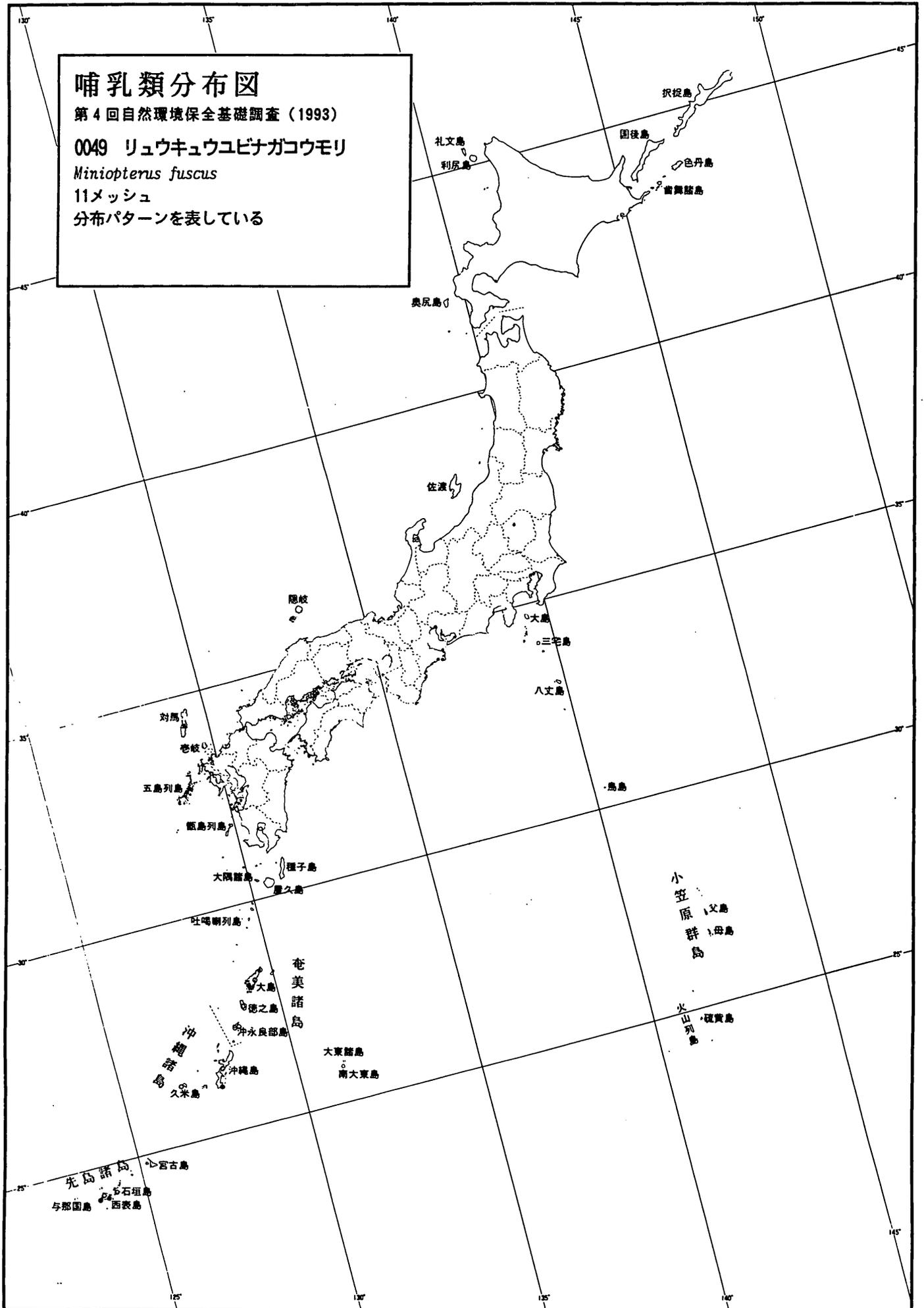
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0049 リュウキュウユビナガコウモリ

*Miniopterus fuscus*

11メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

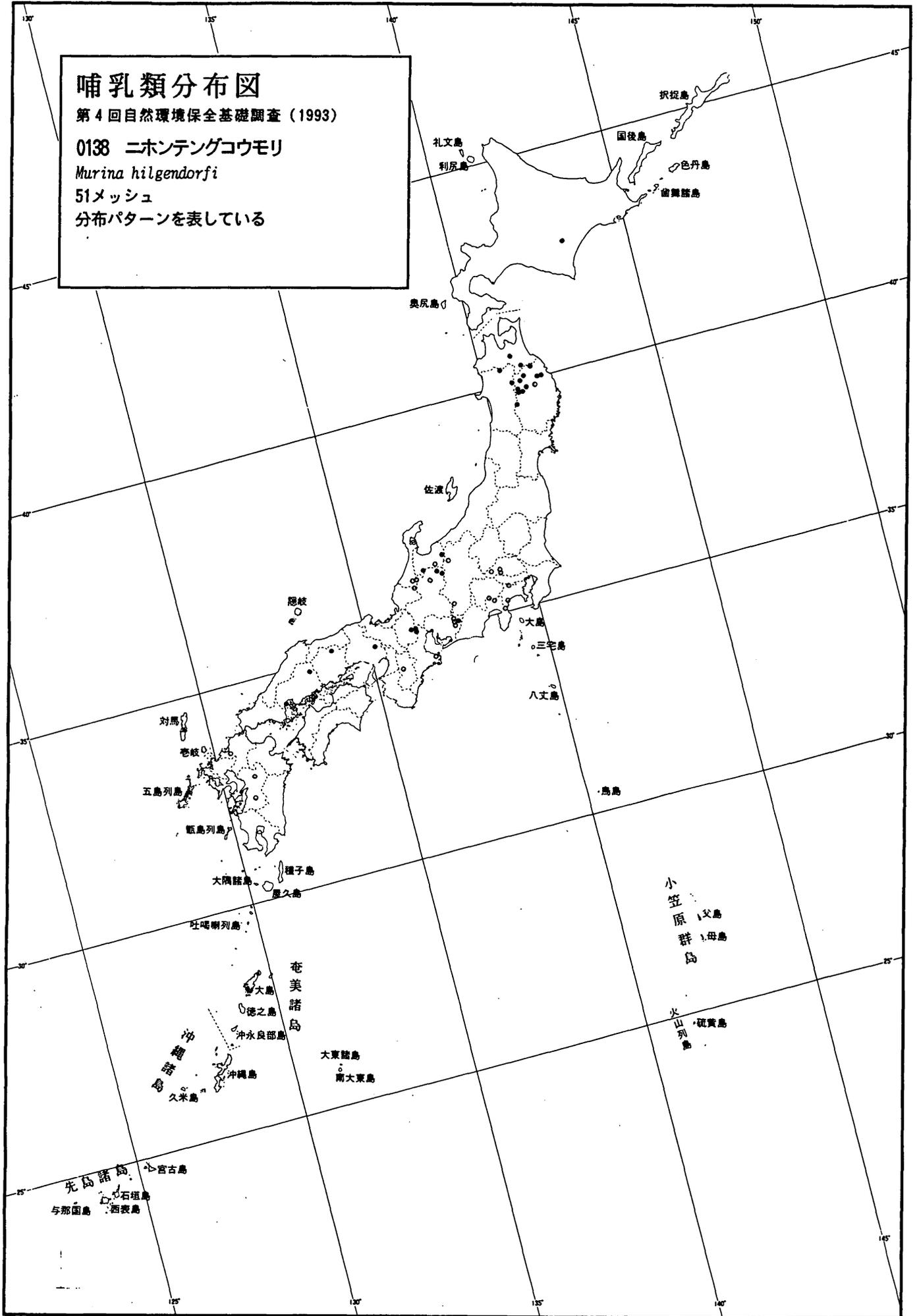
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0138 ニホンテングコウモリ

*Murina hilgendorfi*

51メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

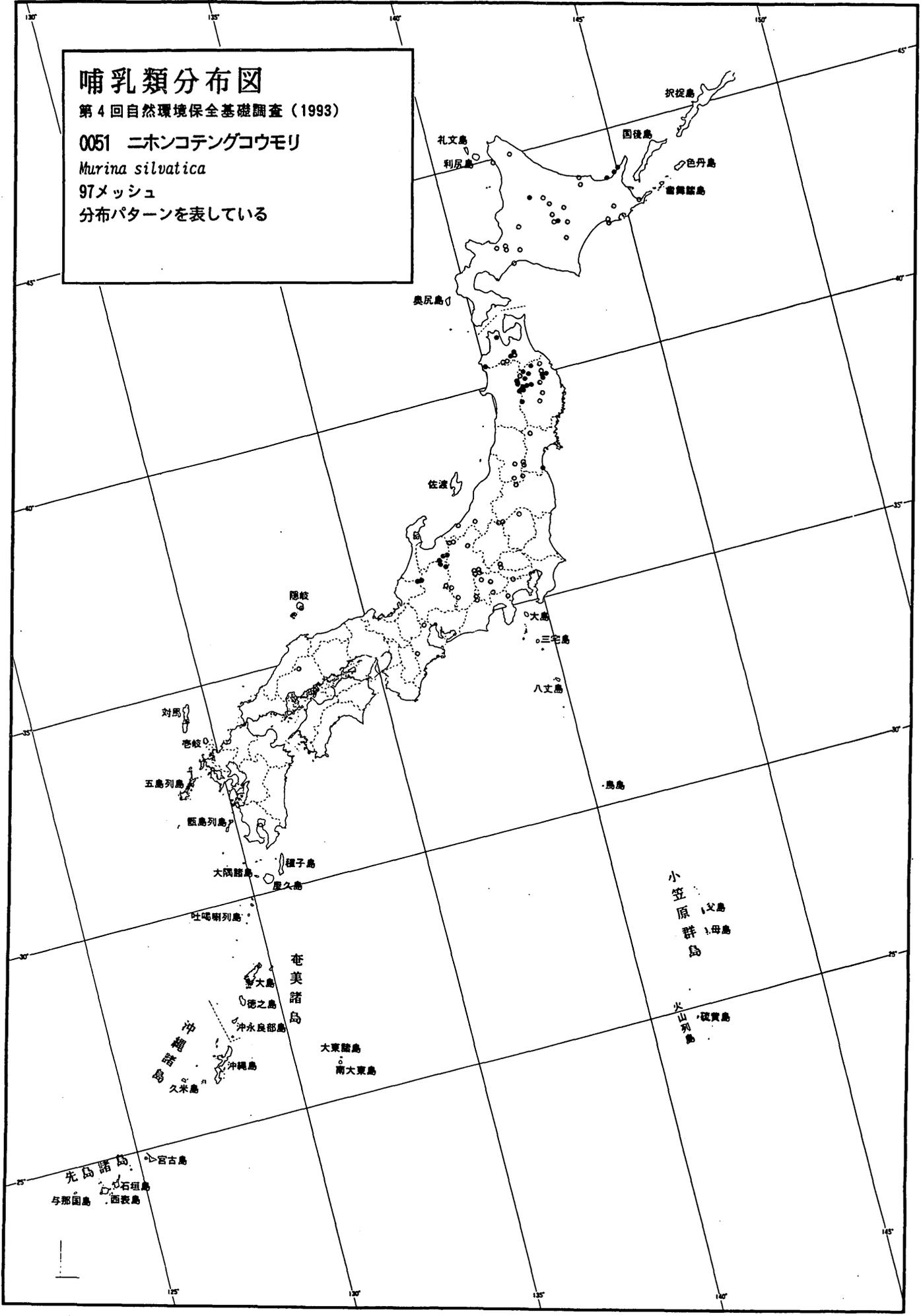
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0051 ニホンコテングコウモリ

*Murina silvatica*

97メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

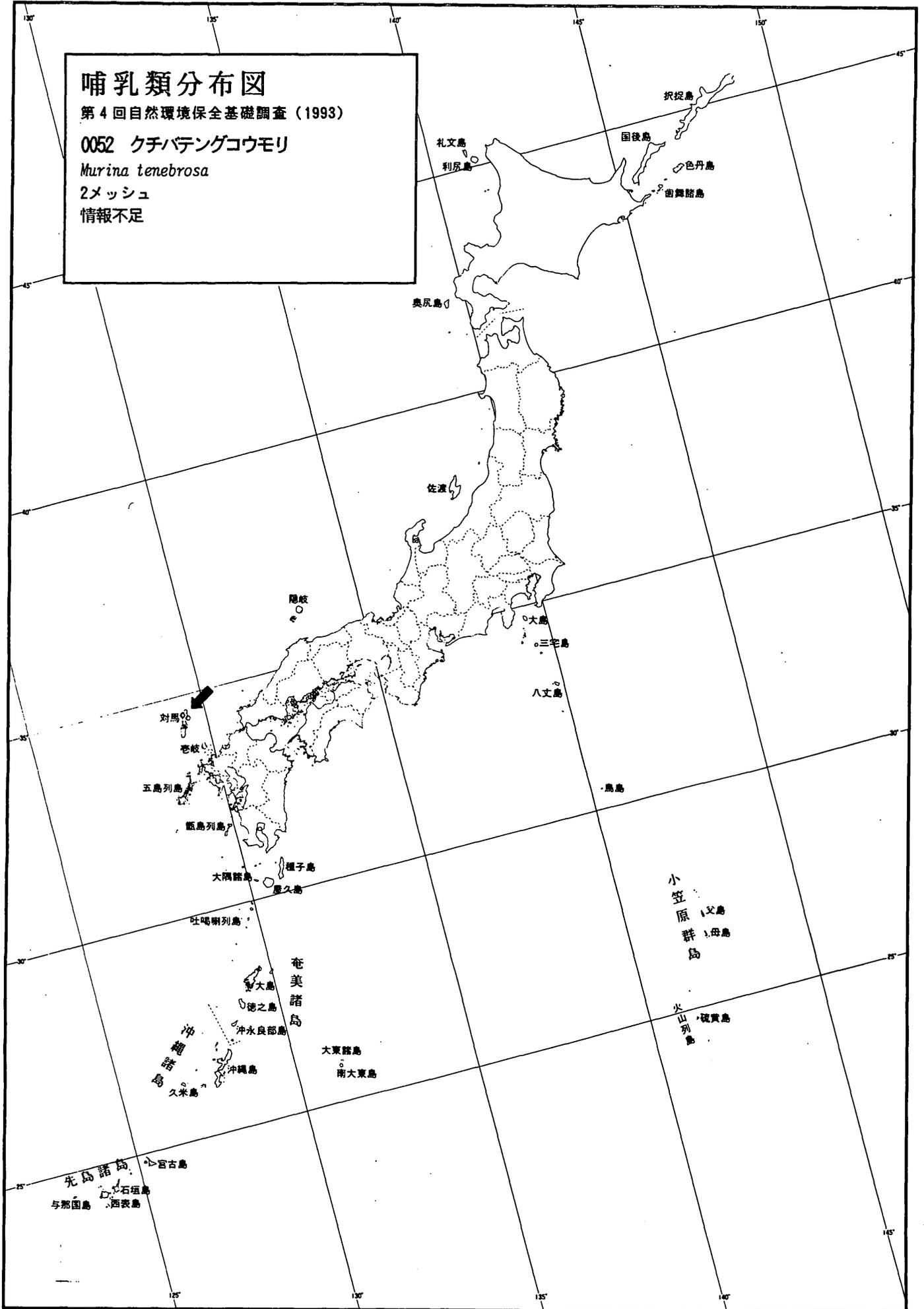
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0052 クチバテングコウモリ

*Murina tenebrosa*

2メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

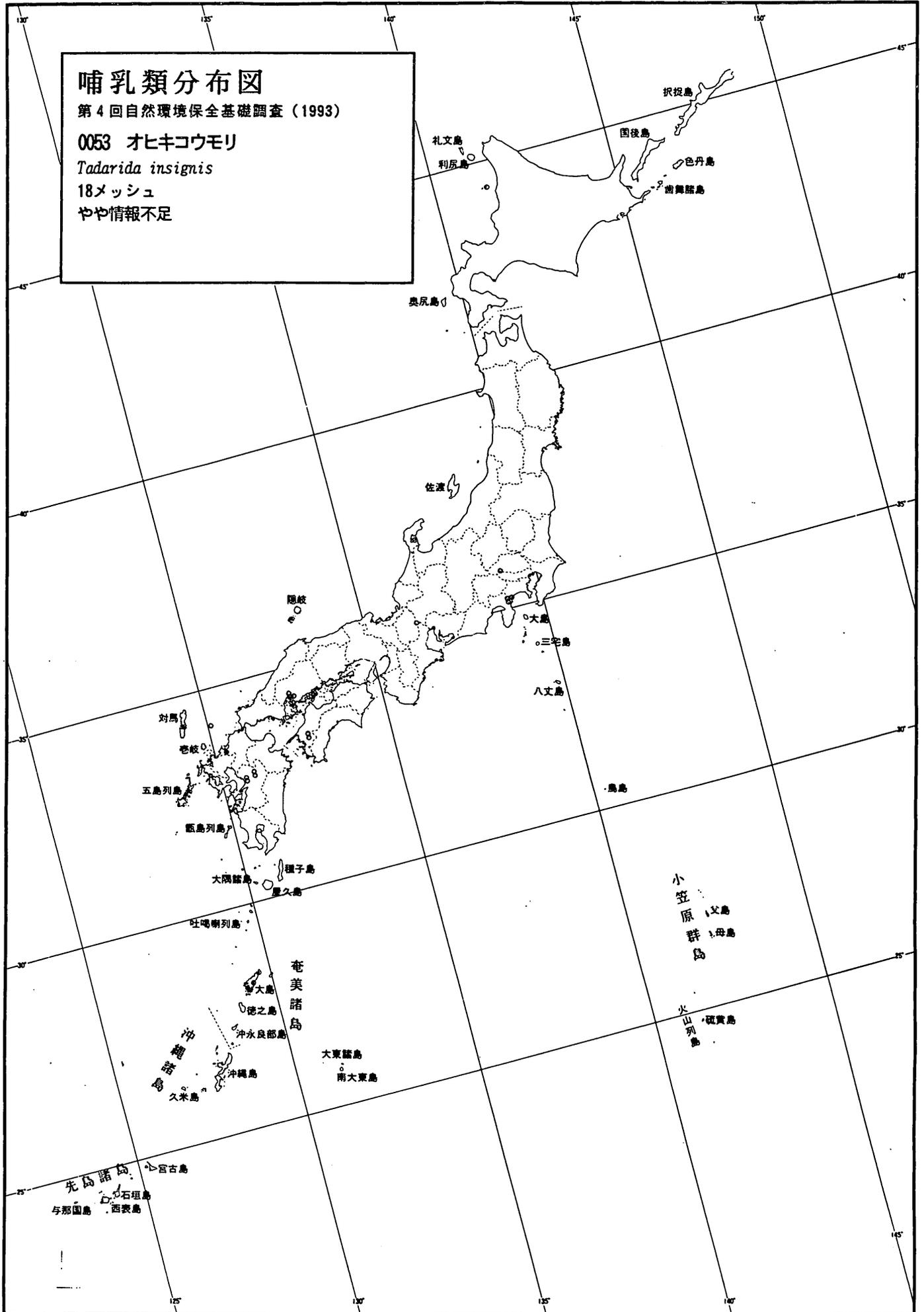
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0053 オヒキコウモリ

*Tadarida insignis*

18メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

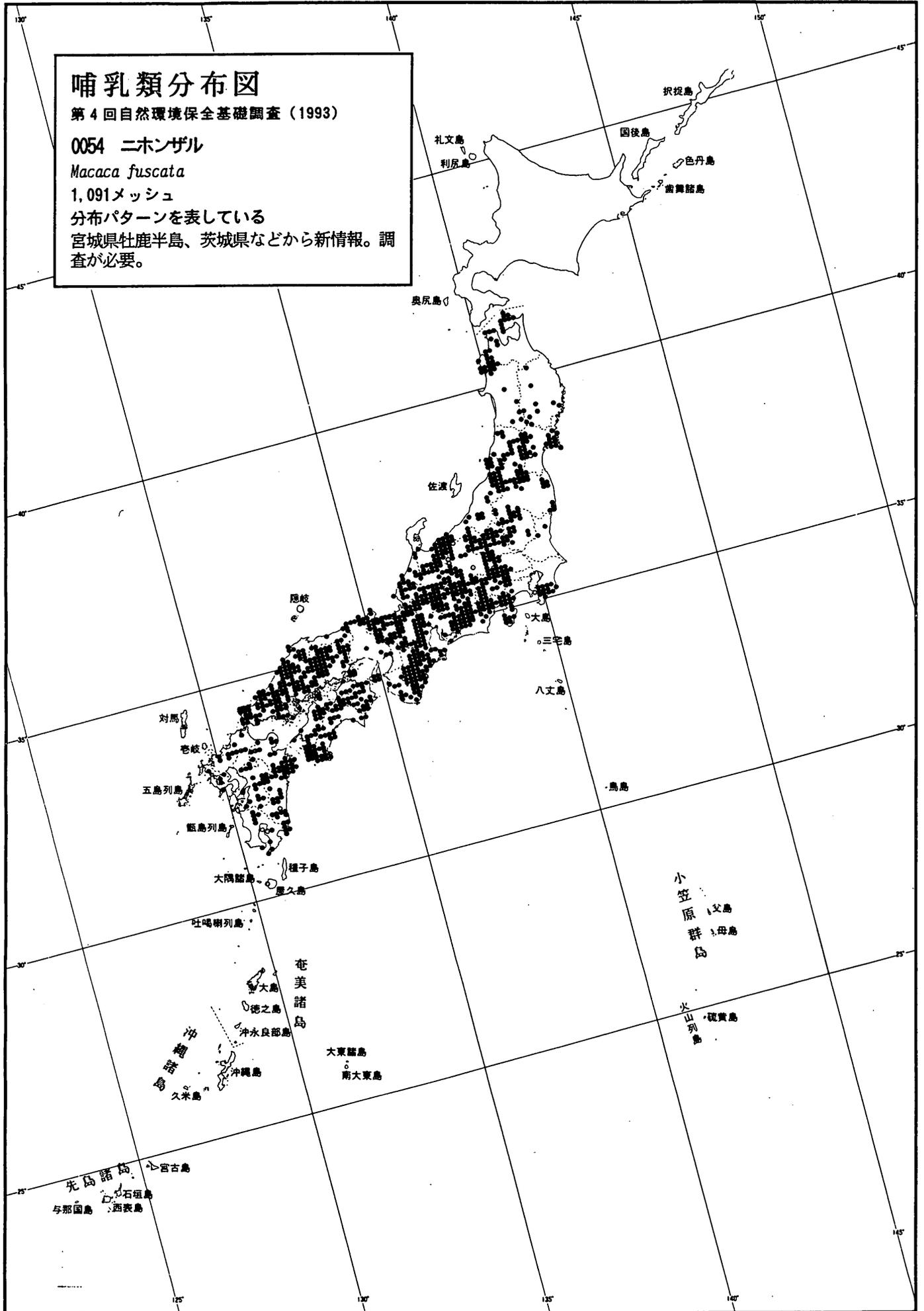
0054 ニホンザル

*Macaca fuscata*

1,091メッシュ

分布パターンを表している

宮城県牡鹿半島、茨城県などから新情報。調査が必要。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

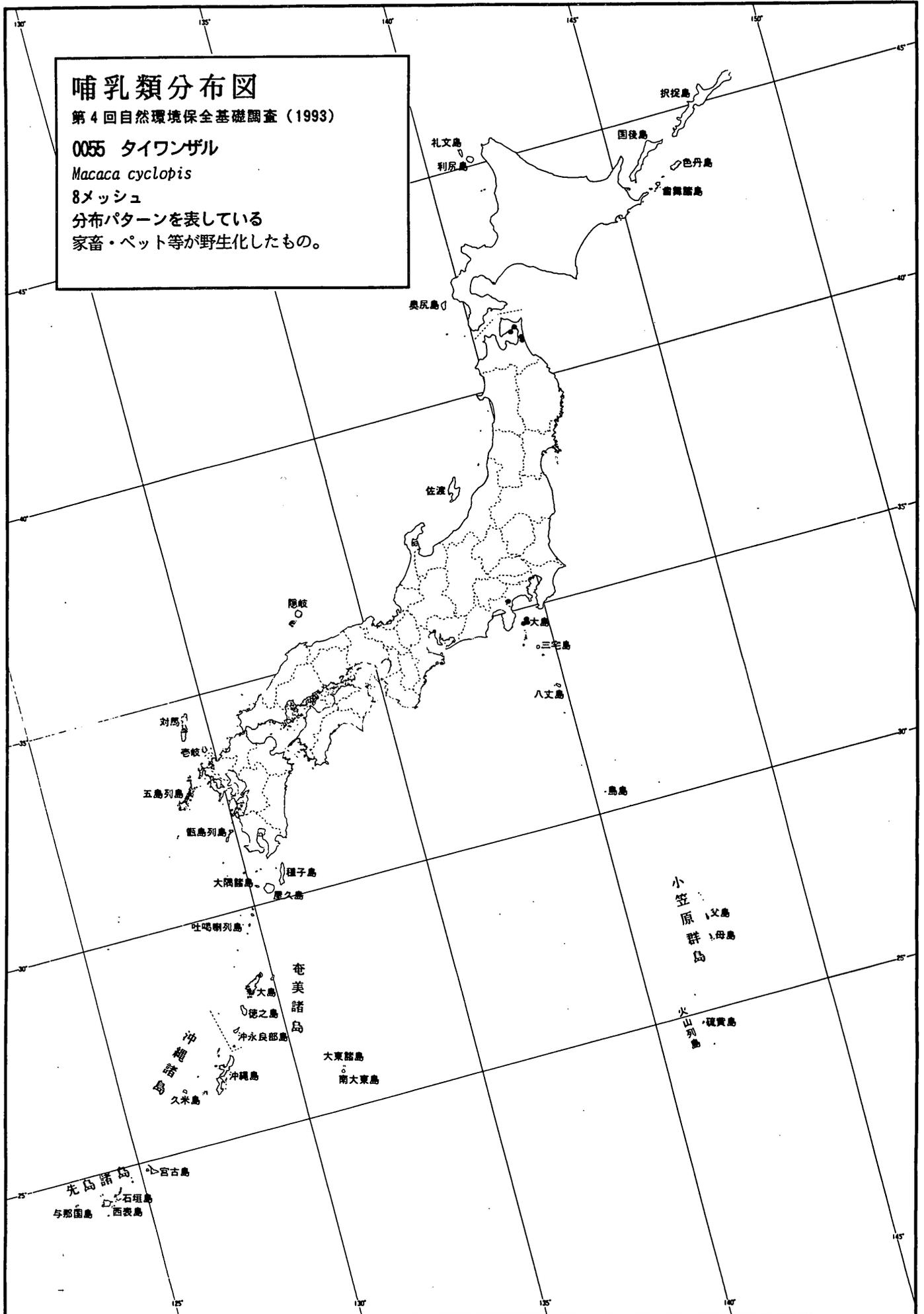
0055 タイワンザル

*Macaca cyclopis*

8メッシュ

分布パターンを表している

家畜・ペット等が野生化したもの。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

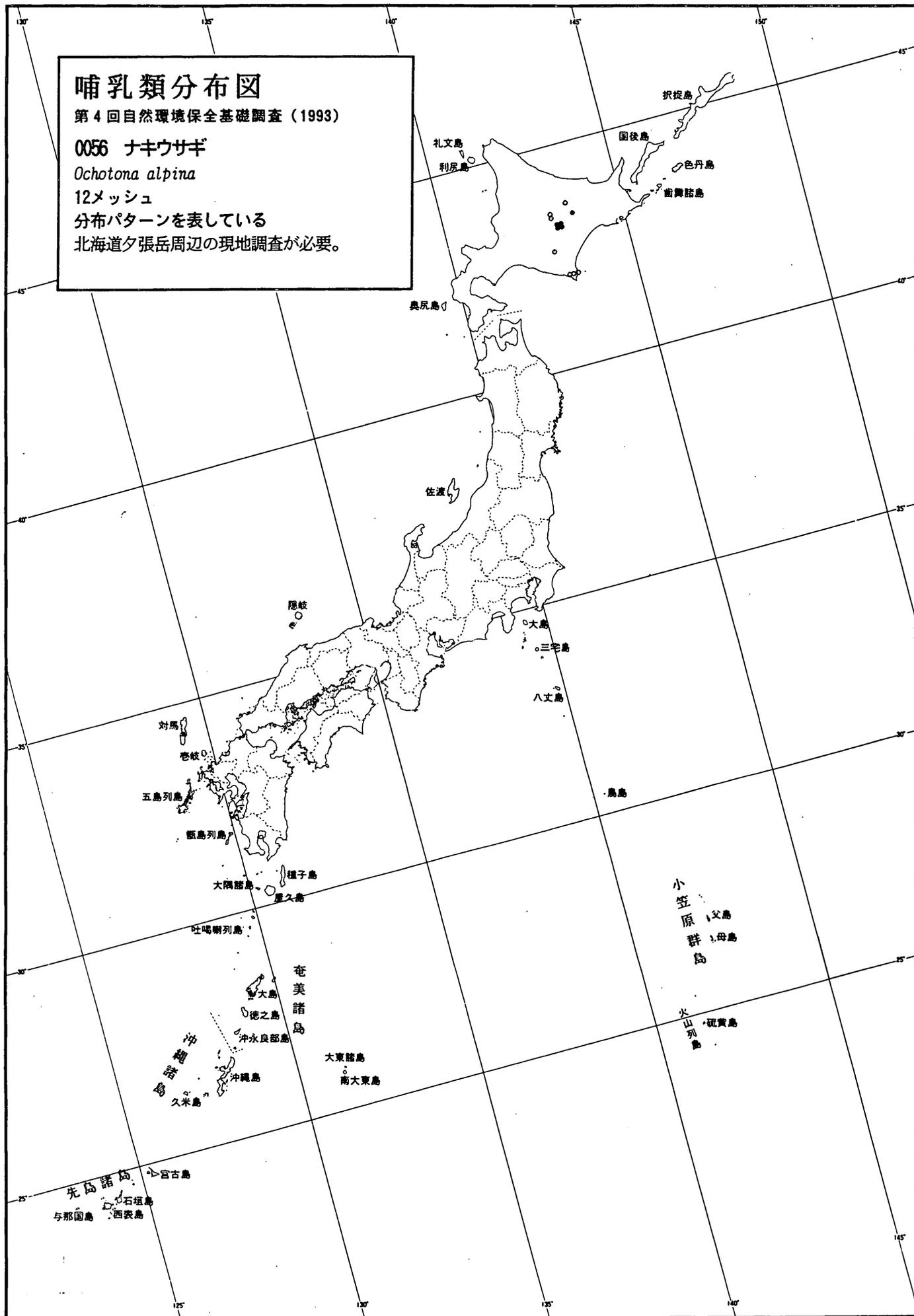
0056 ナキウサギ

*Ochotona alpina*

12メッシュ

分布パターンを表している

北海道夕張岳周辺の現地調査が必要。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

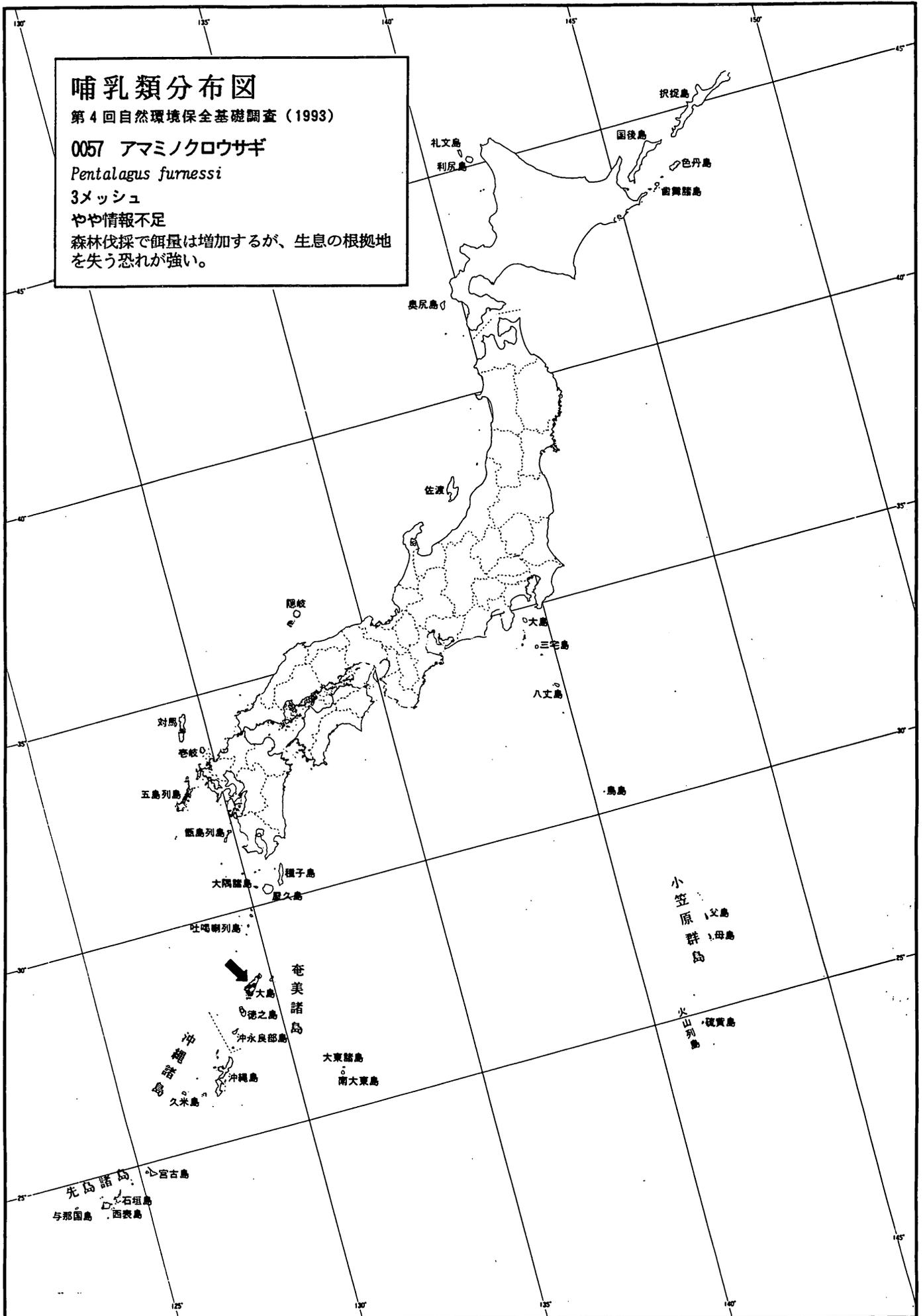
## 0057 アマミノクロウサギ

*Pentalagus furnessi*

3メッシュ

やや情報不足

森林伐採で餌量は増加するが、生息の根拠地を失う恐れが強い。





# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

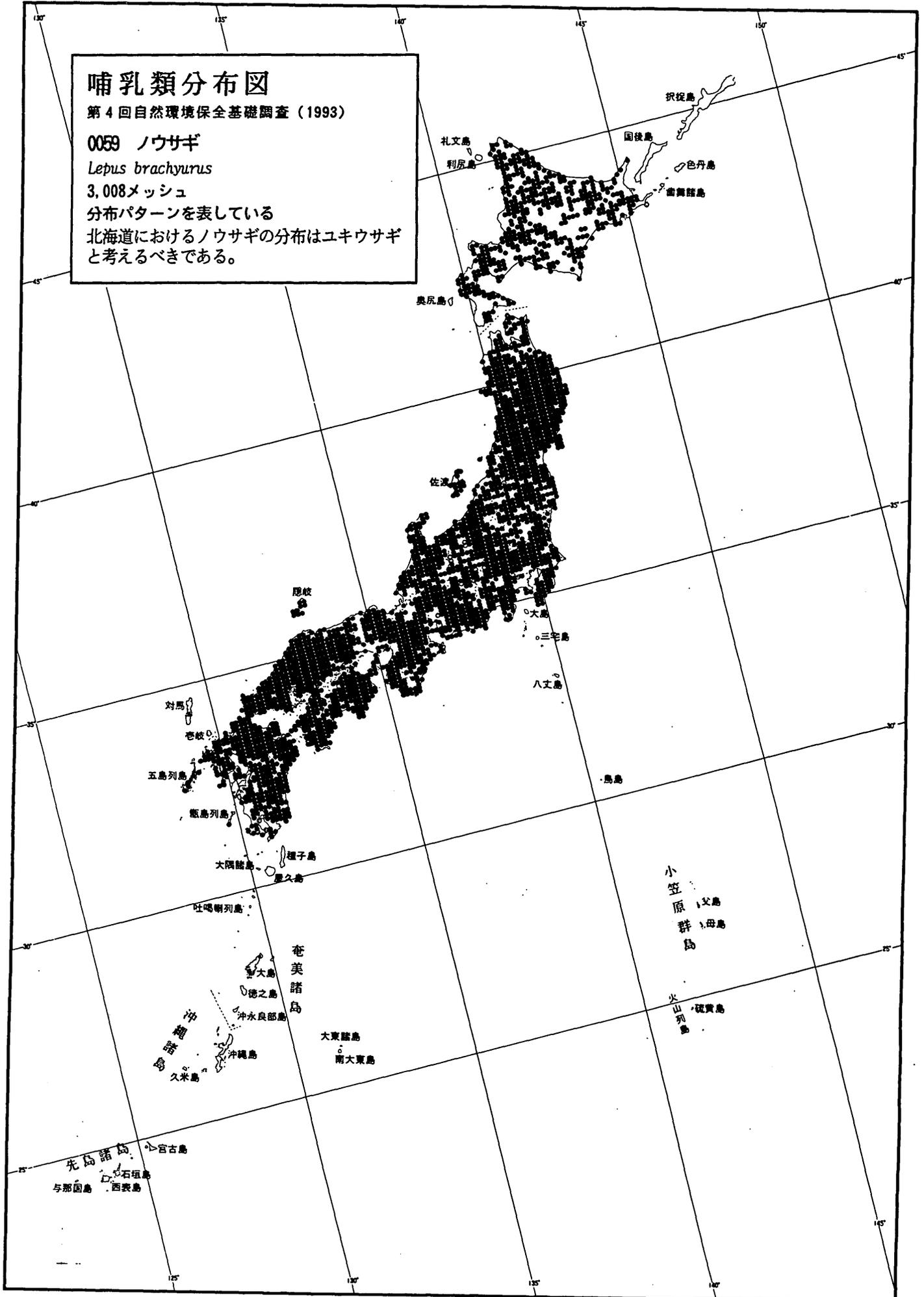
0059 ノウサギ

*Lepus brachyurus*

3,008メッシュ

分布パターンを表している

北海道におけるノウサギの分布はユキウサギと考えるべきである。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

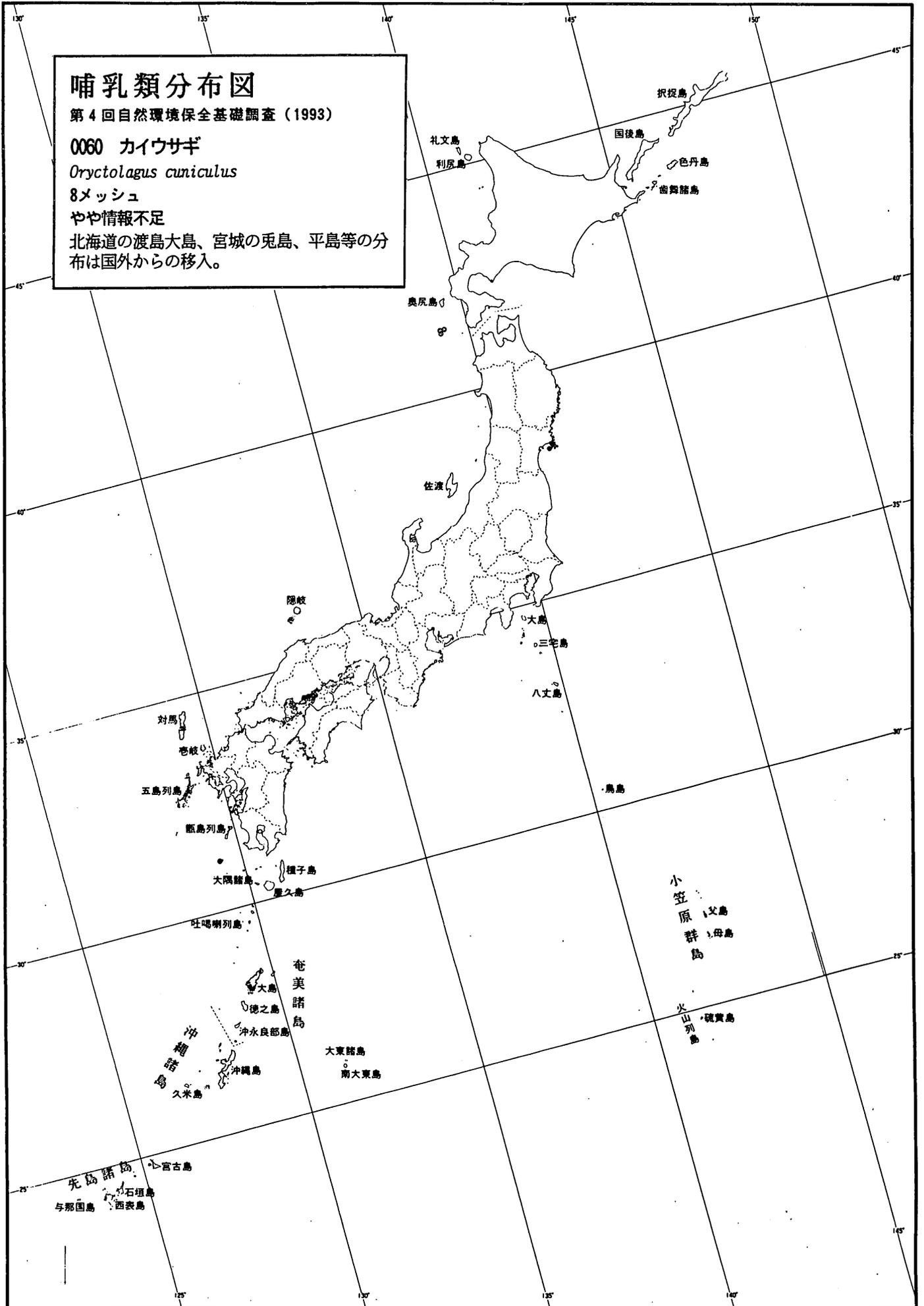
0060 カイウサギ

*Oryctolagus cuniculus*

8メッシュ

やや情報不足

北海道の渡島大島、宮城の兔島、平島等の分布は国外からの移入。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

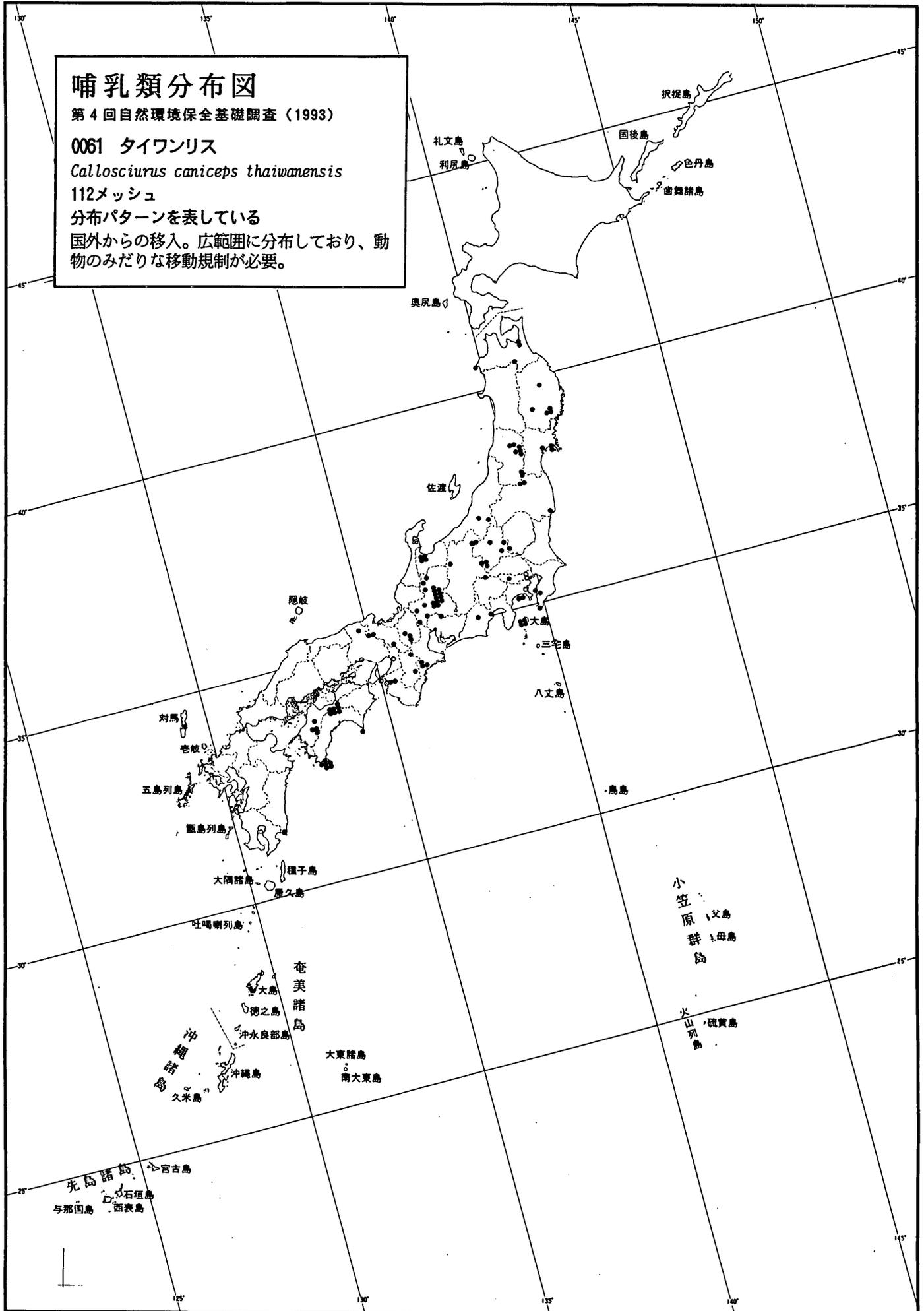
## 0061 タイワンリス

*Callosciurus caniceps taiwanensis*

112メッシュ

分布パターンを表している

国外からの移入。広範囲に分布しており、動物のみだりな移動規制が必要。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

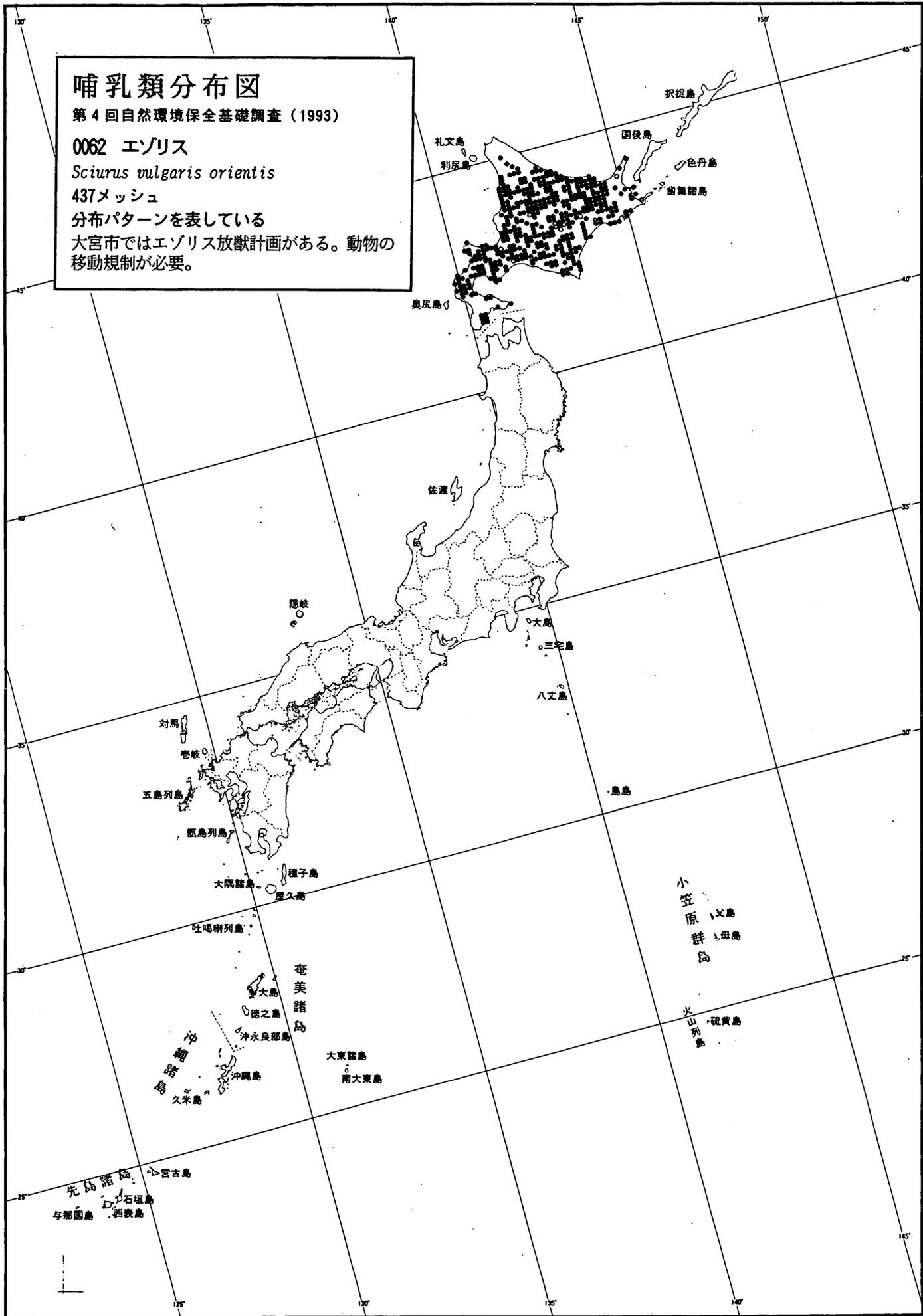
0062 エゾリス

*Sciurus vulgaris orientis*

437メッシュ

分布パターンを表している

大宮市ではエゾリス放獣計画がある。動物の移動規制が必要。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

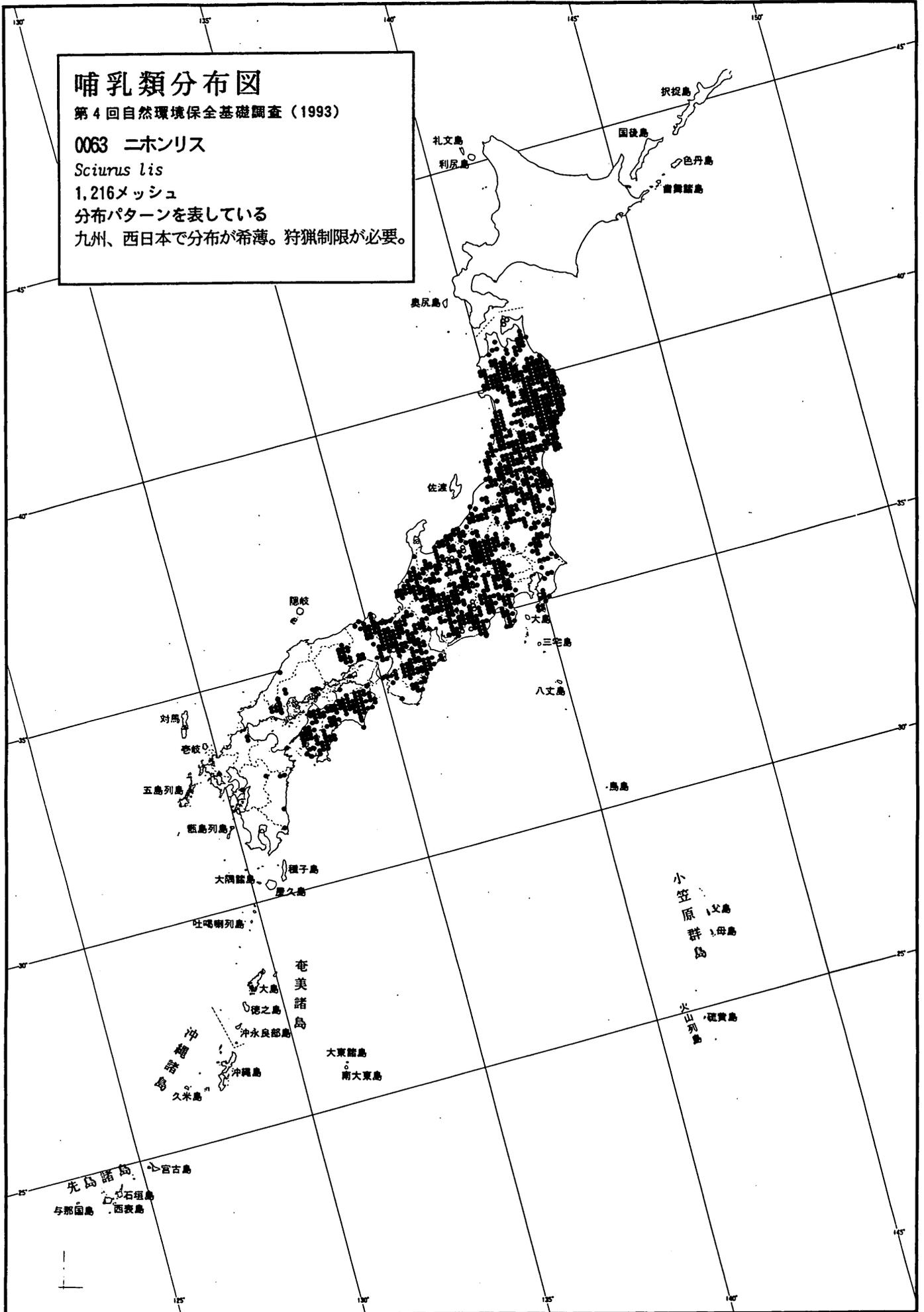
## 0063 ニホンリス

*Sciurus lis*

1,216メッシュ

分布パターンを表している

九州、西日本で分布が希薄。狩猟制限が必要。





# 哺乳類分布図

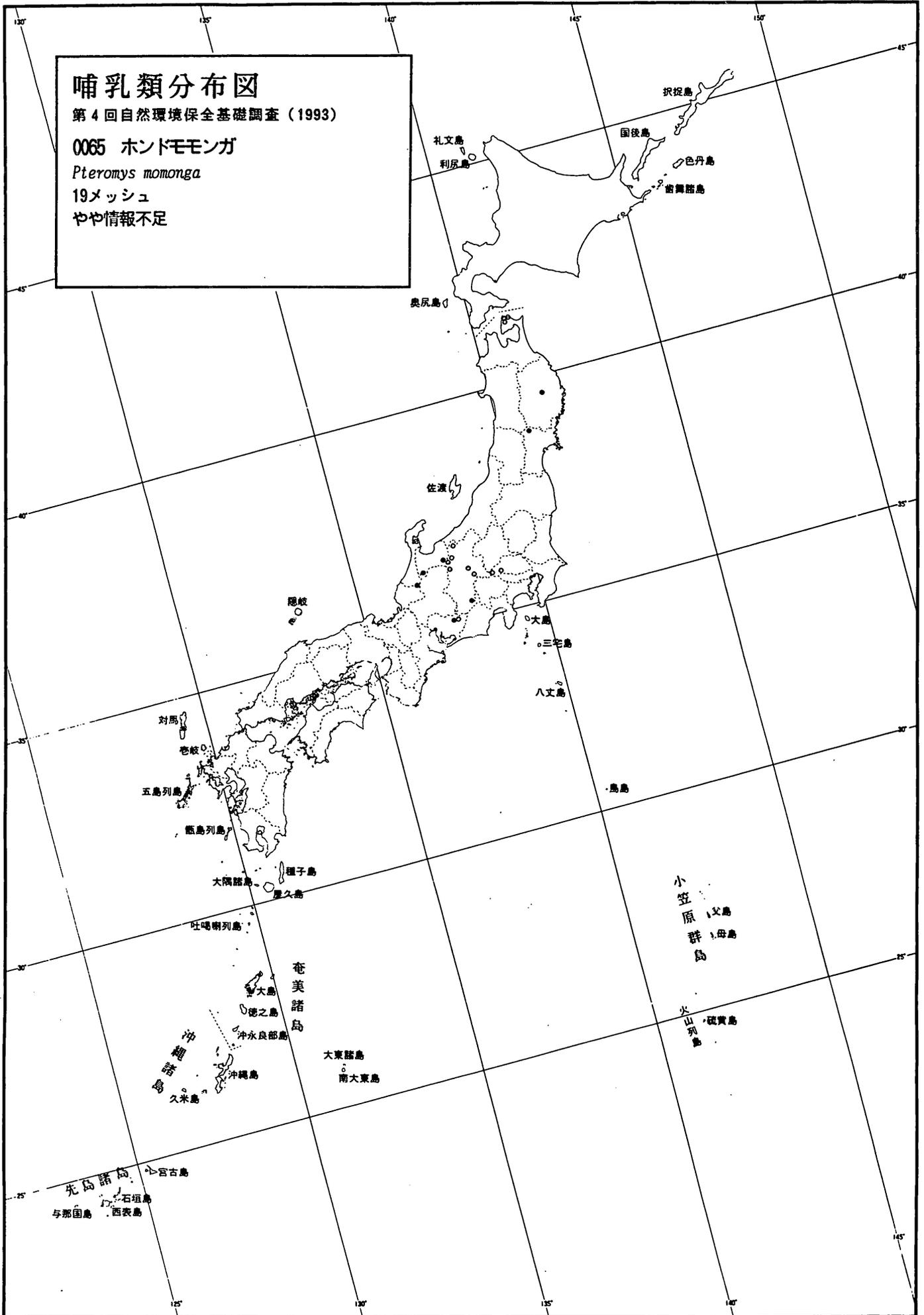
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0065 ホンドモモンガ

*Pteromys momonga*

19メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

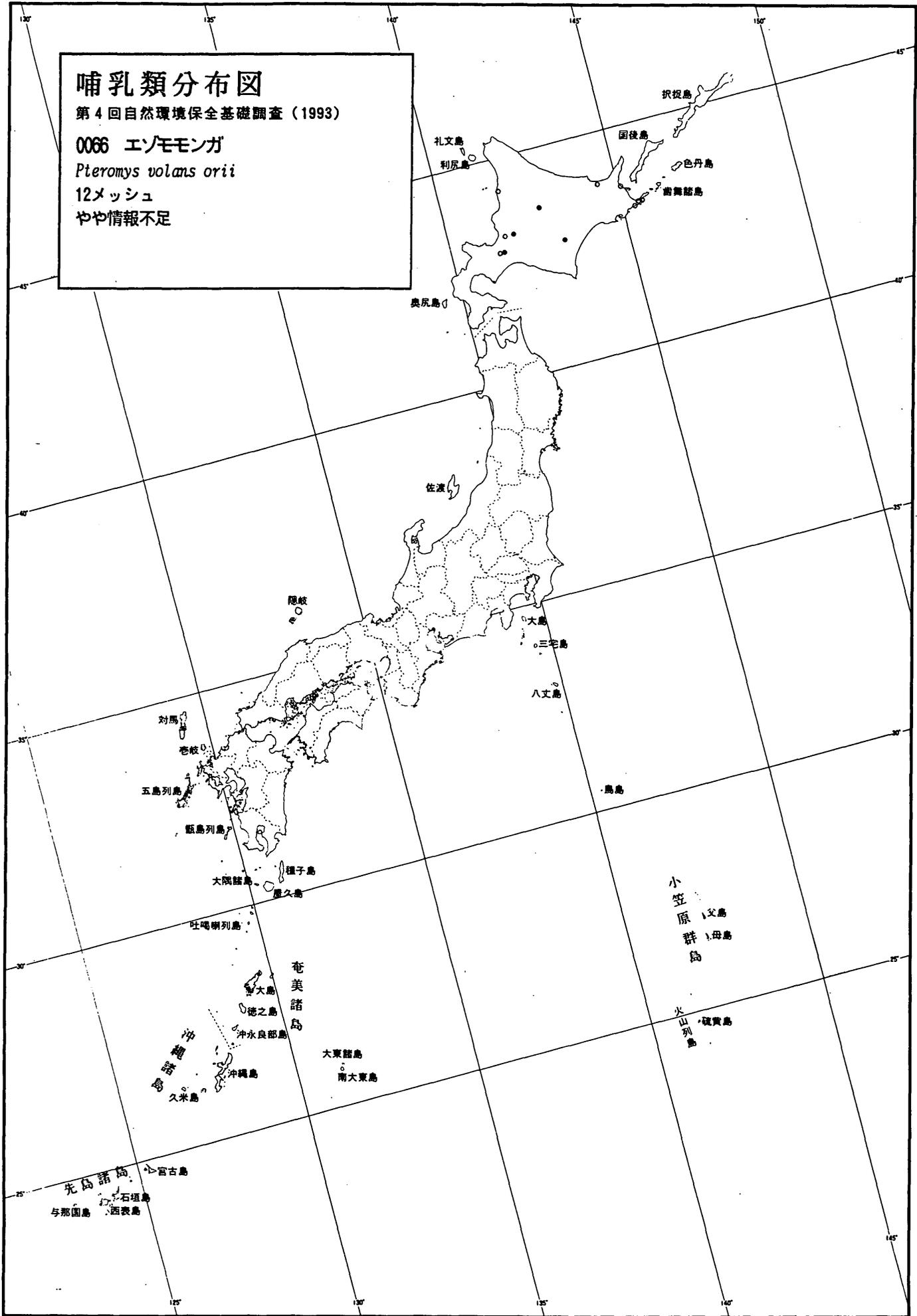
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0066 エノモンガ

*Pteromys volans orii*

12メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

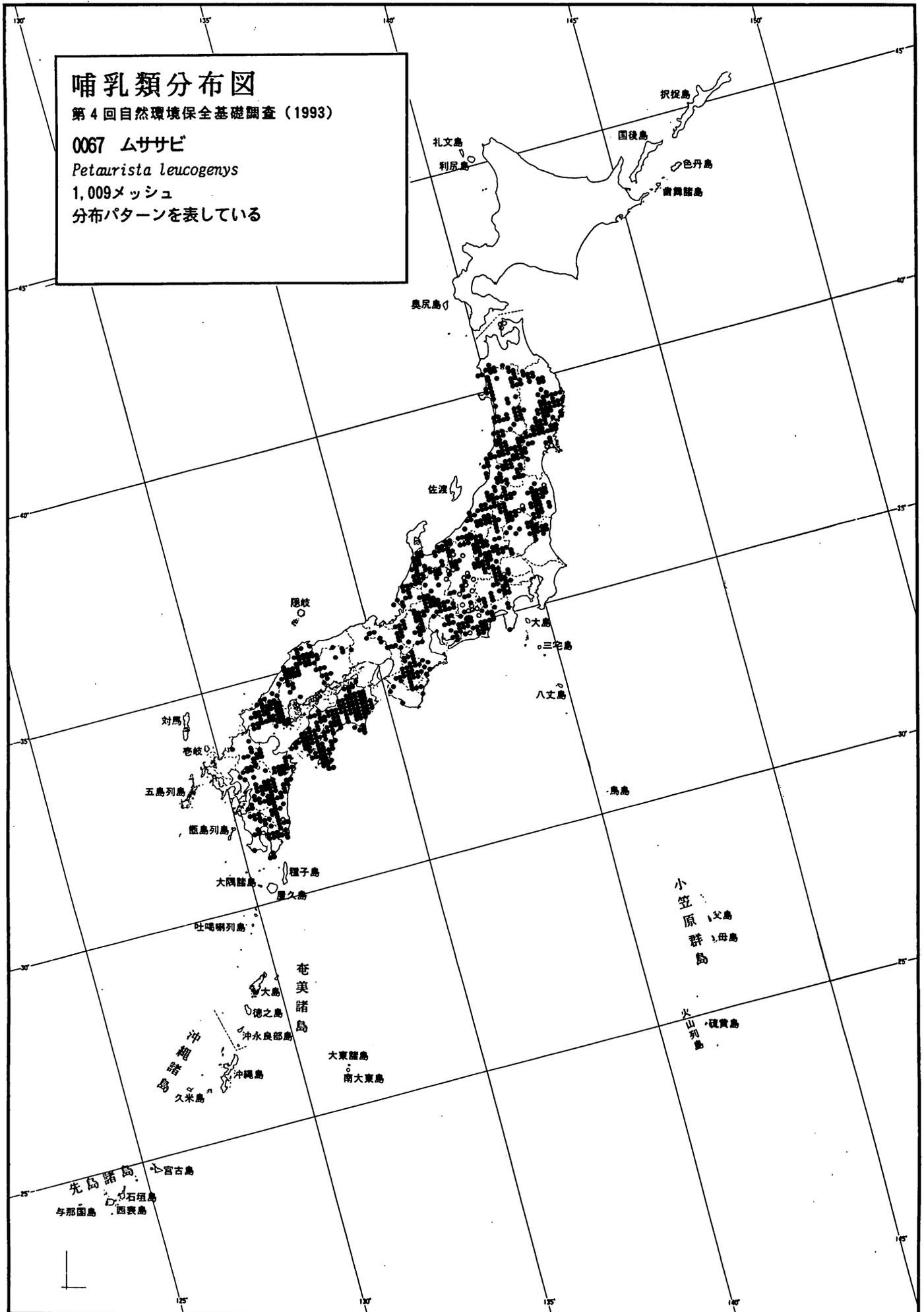
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0067 ムササビ

*Petaurista leucogenys*

1,009メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

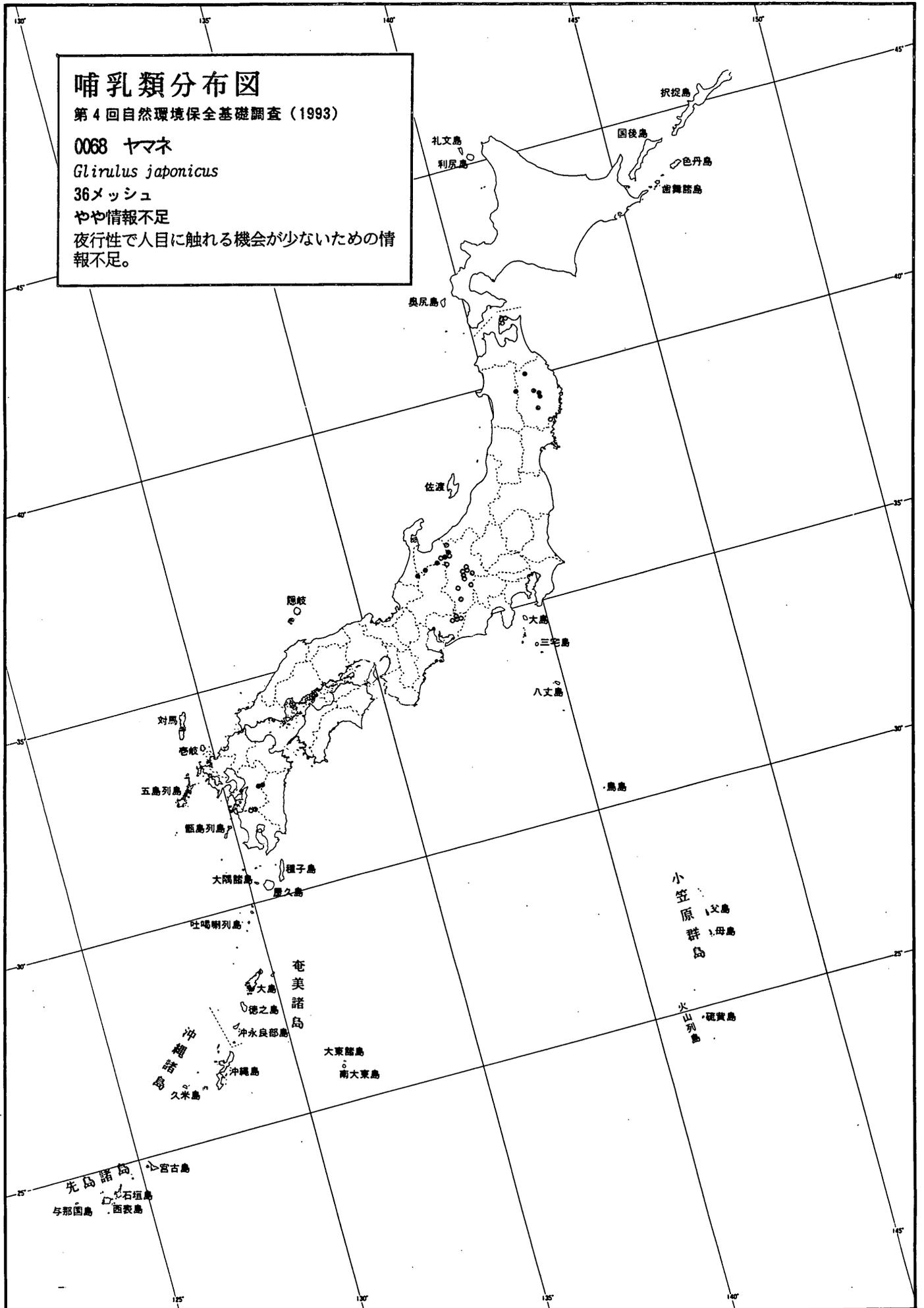
0068 ヤマネ

*Glirulus japonicus*

36メッシュ

やや情報不足

夜行性で人目に触れる機会が少ないための情報不足。







# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

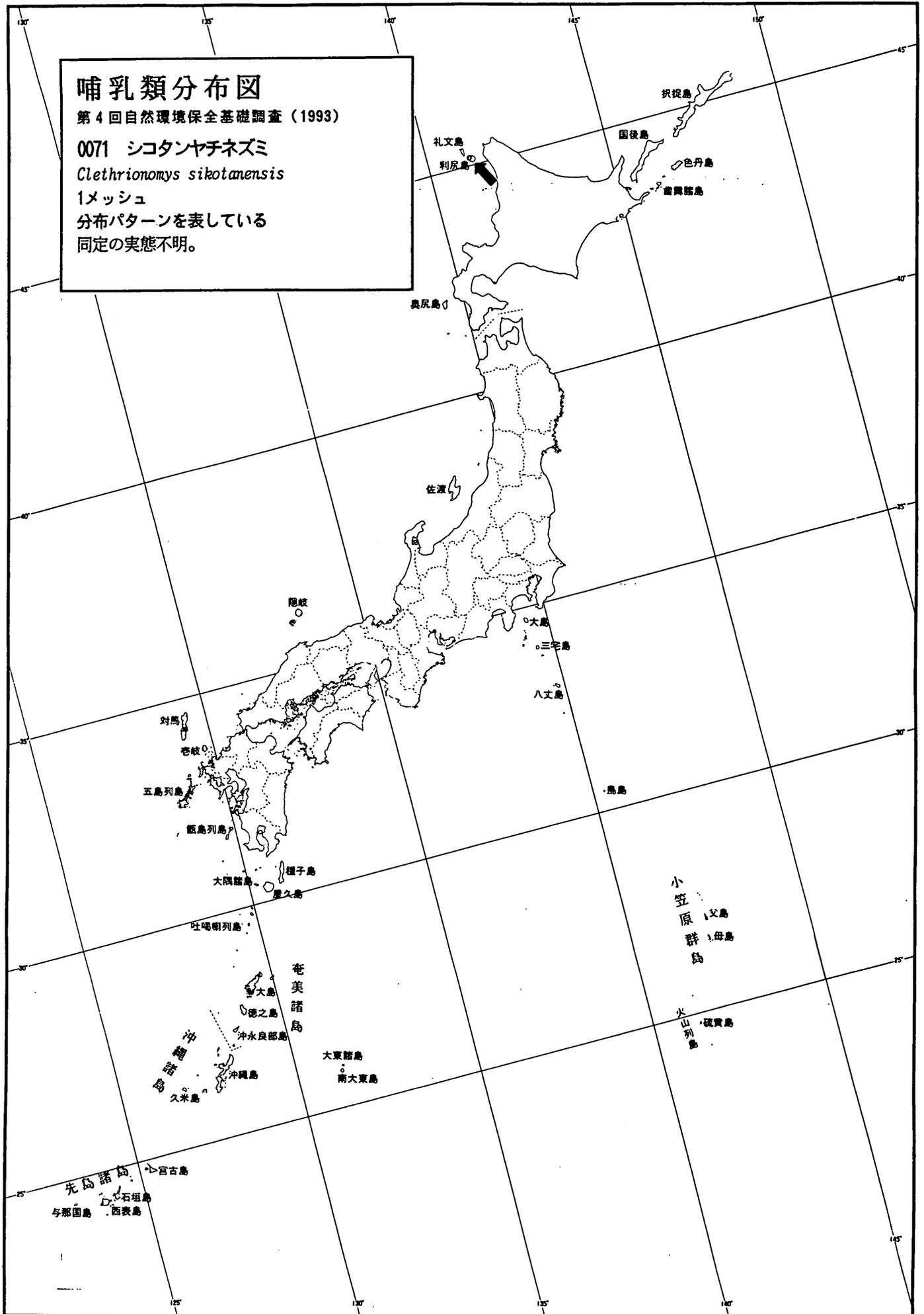
0071 シコタンヤチネズミ

*Clethrionomys sikotanensis*

1メッシュ

分布パターンを表している

同定の実態不明。



# 哺乳類分布図

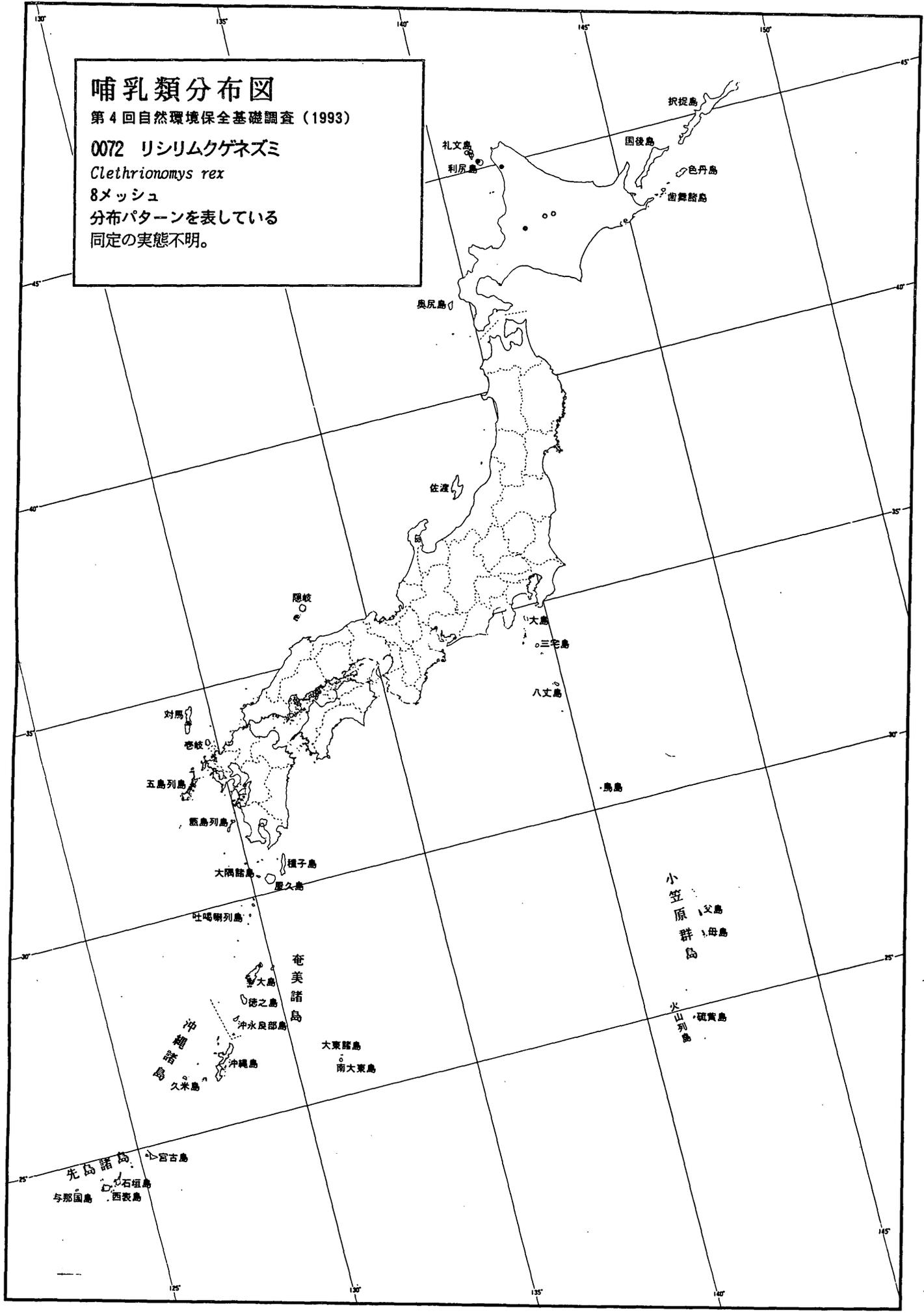
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0072 リシリムケネズミ

*Clethrionomys rex*

8メッシュ

分布パターンを表している  
同定の実態不明。



# 哺乳類分布図

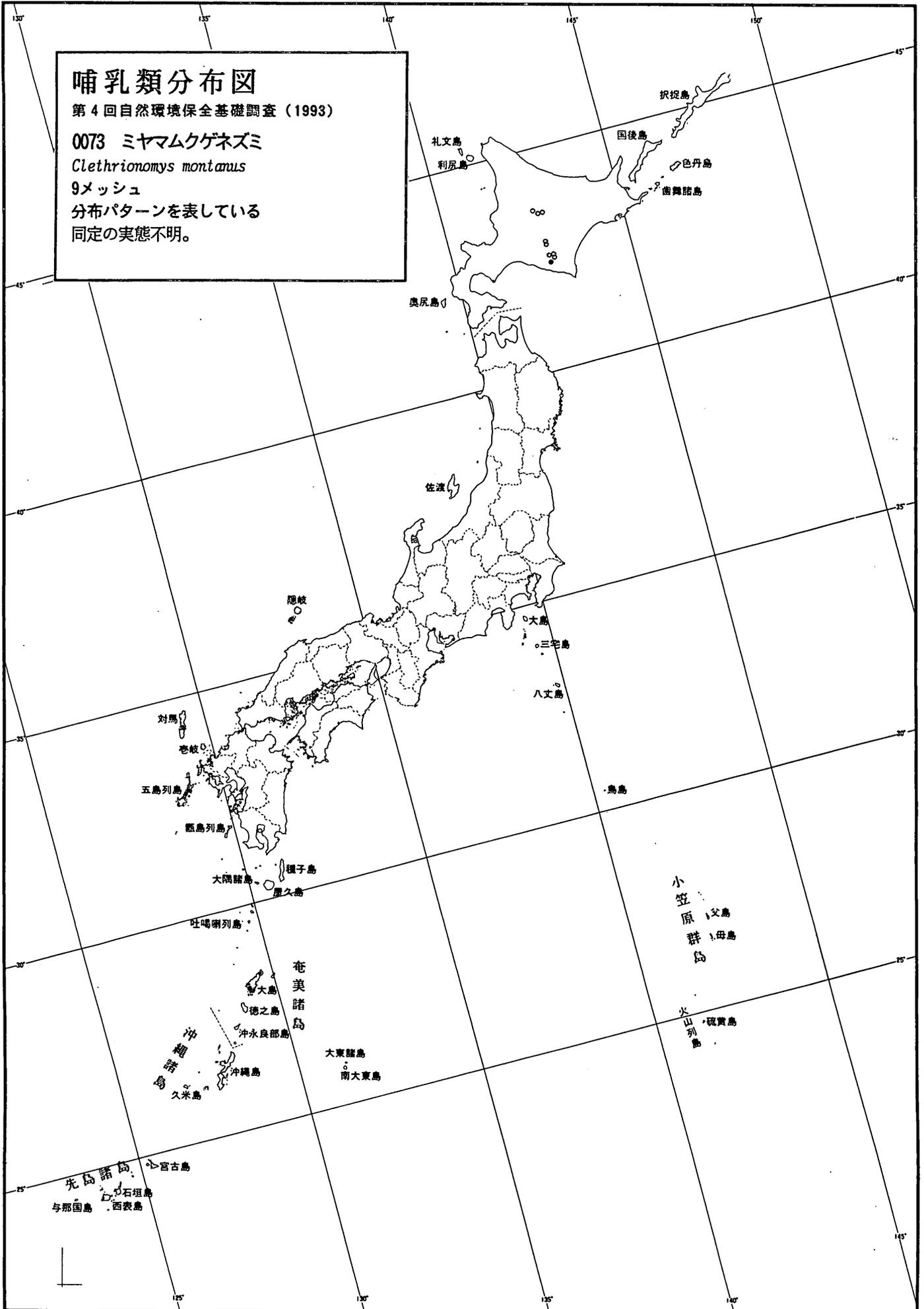
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0073 ミヤマムクゲネズミ

*Clethrionomys montanus*

9メッシュ

分布パターンを表している  
同定の実態不明。



# 哺乳類分布図

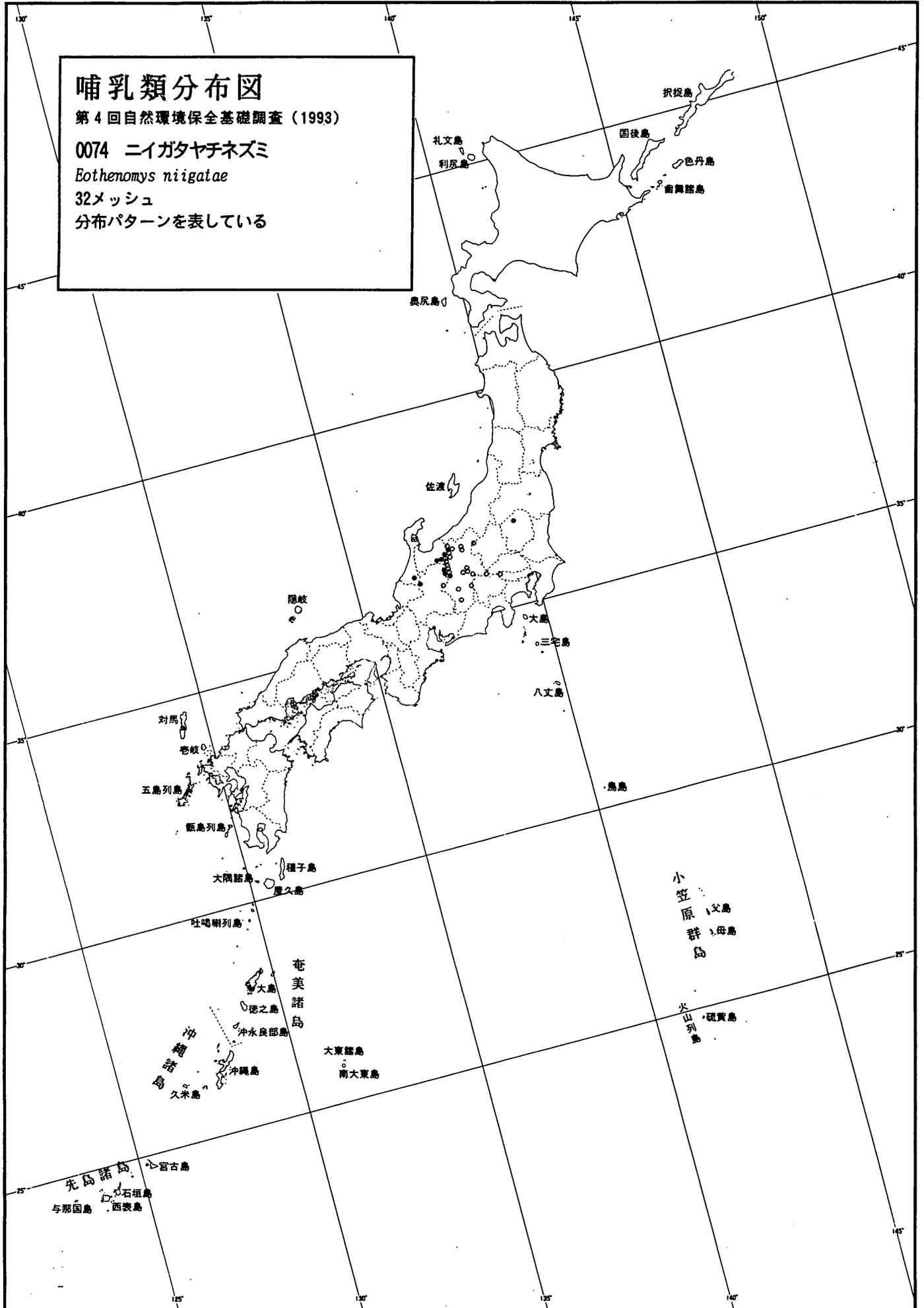
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0074 ニイガタヤチネズミ

*Eothenomys niigatae*

32メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

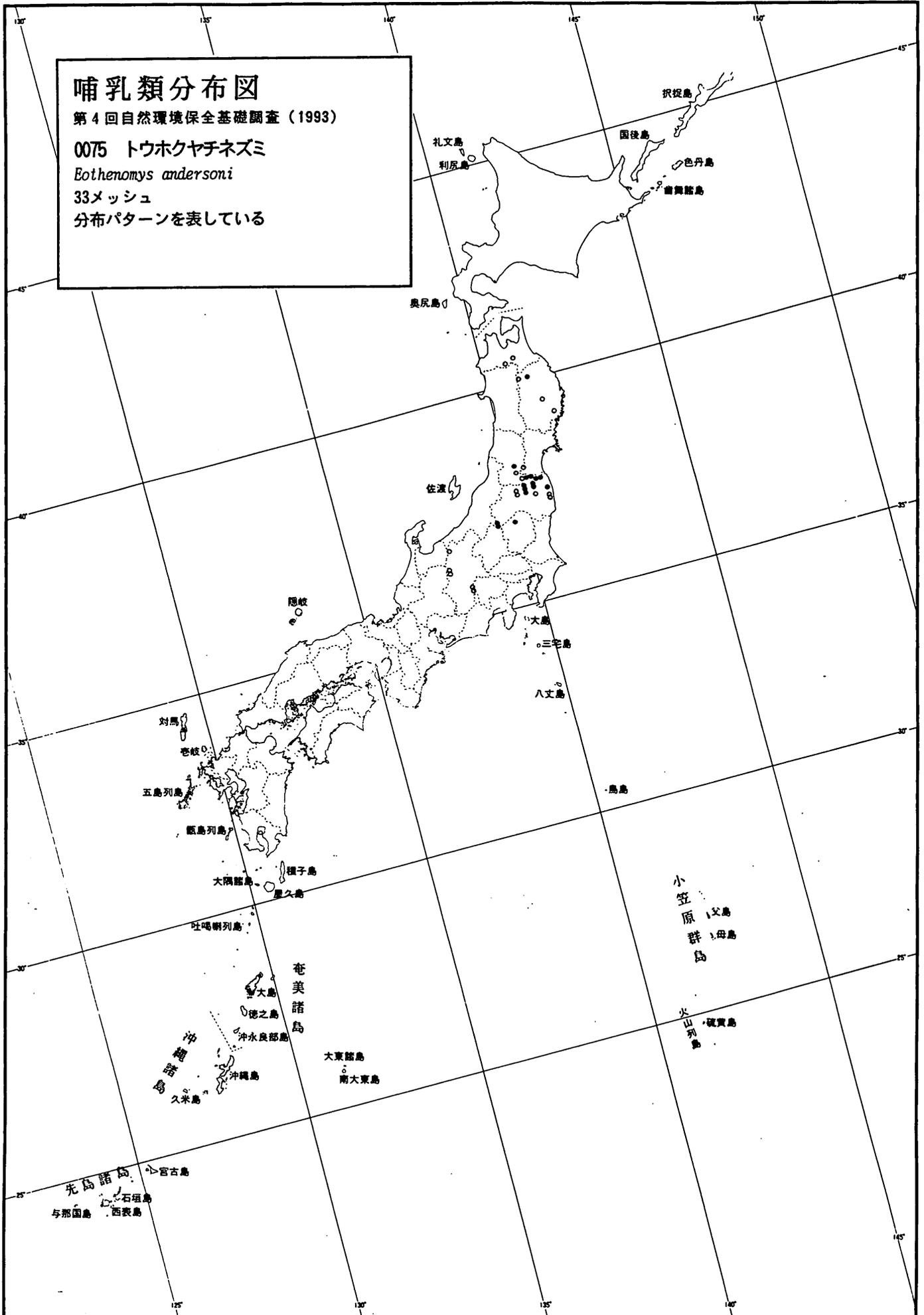
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0075 トウホクヤチネズミ

*Eothenomys andersoni*

33メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

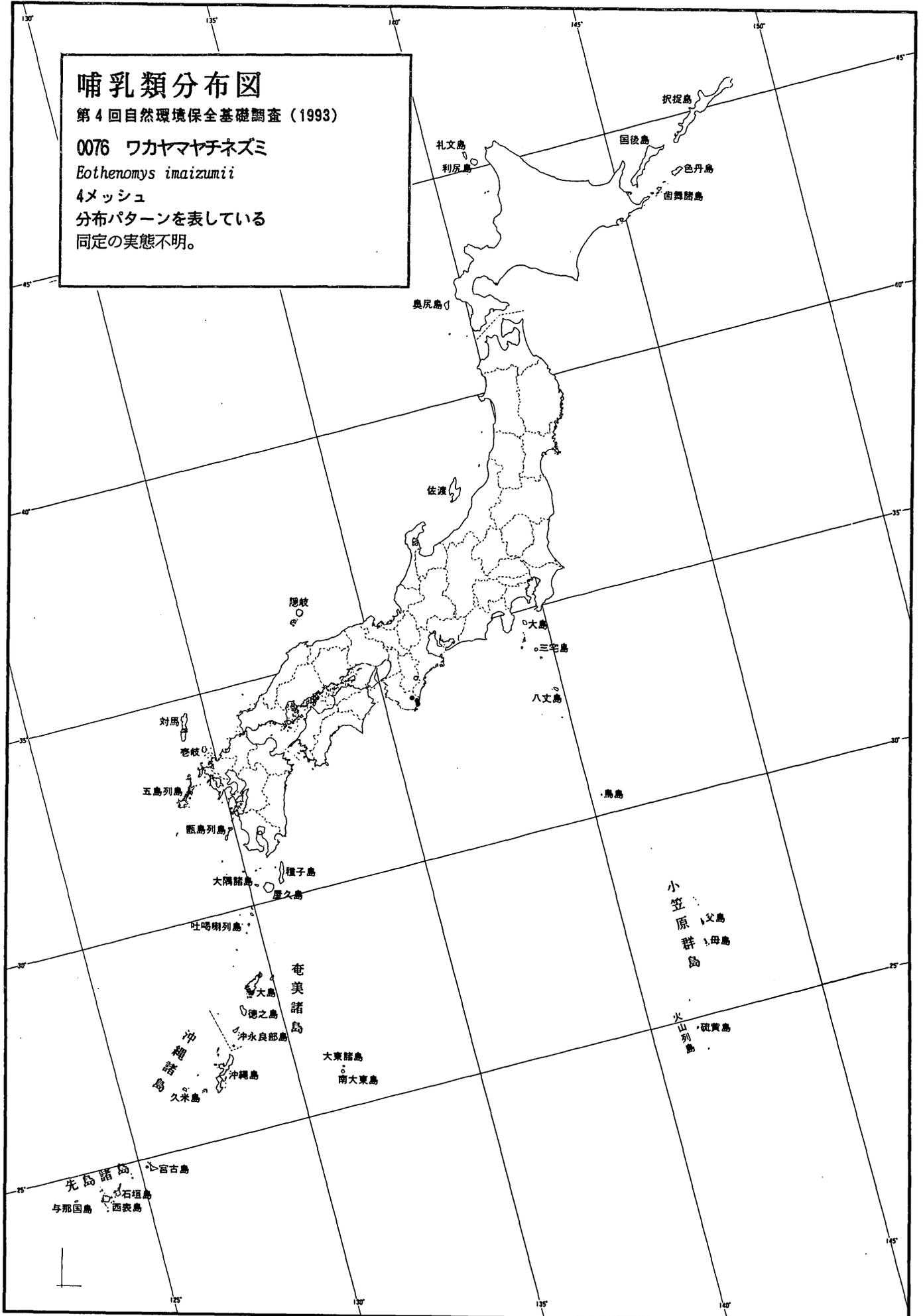
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0076 ワカヤマヤチネズミ

*Eothenomys imaizumii*

4メッシュ

分布パターンを表している  
同定の実態不明。



# 哺乳類分布図

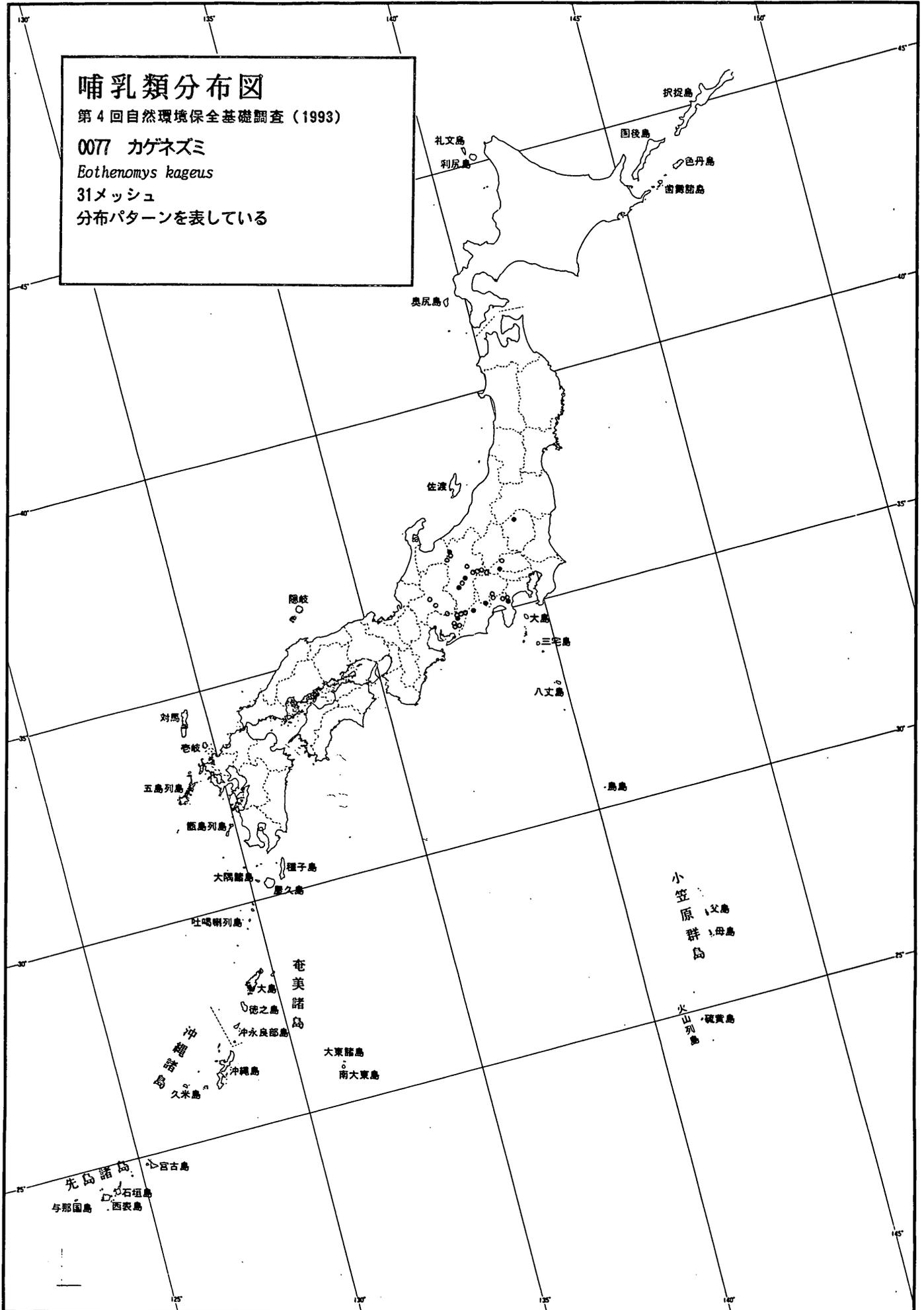
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0077 カゲネズミ

*Eothenomys kageus*

31メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

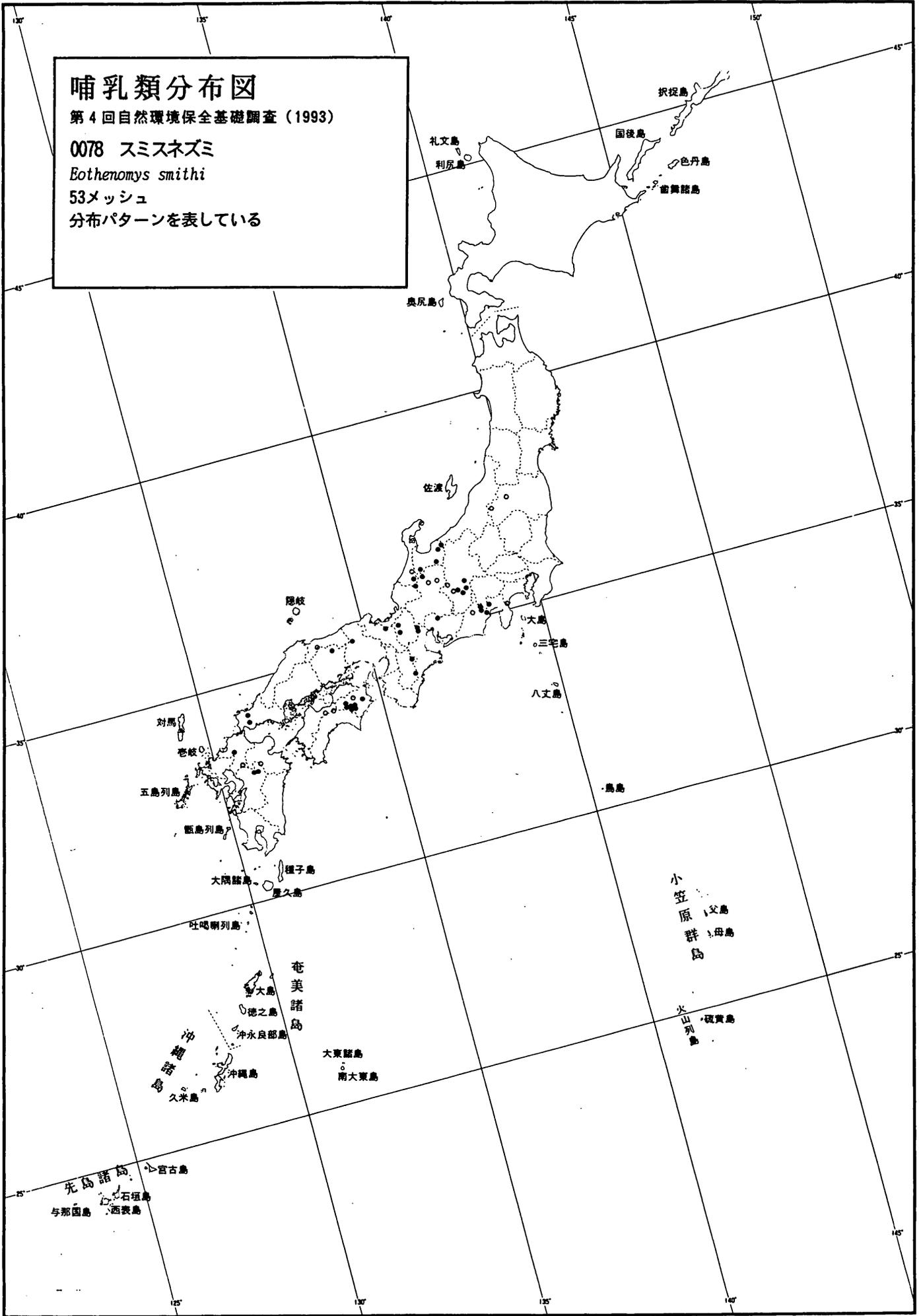
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0078 スミスネズミ

*Bothnomys smithi*

53メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

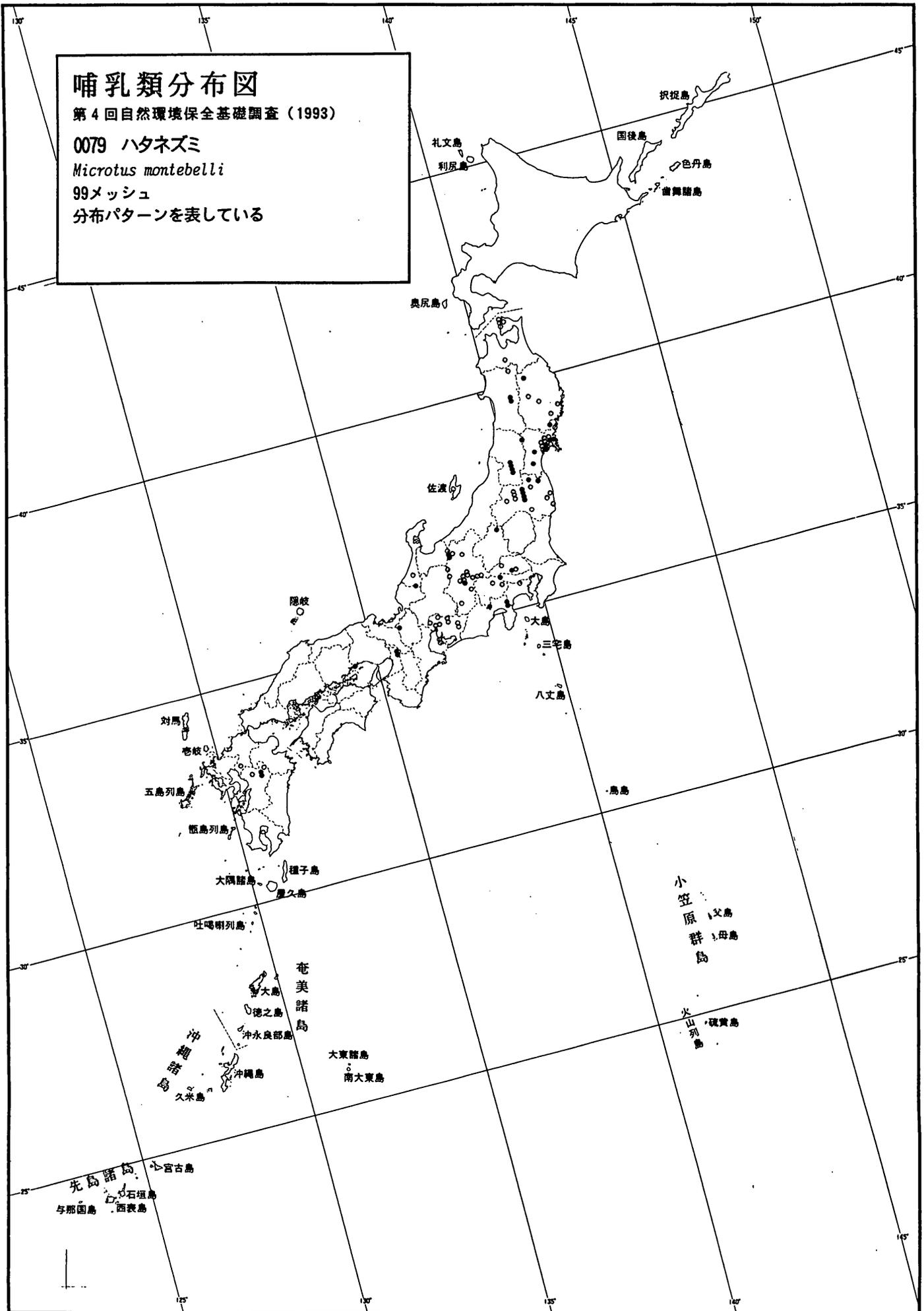
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0079 ハタネズミ

*Microtus montebelli*

99メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

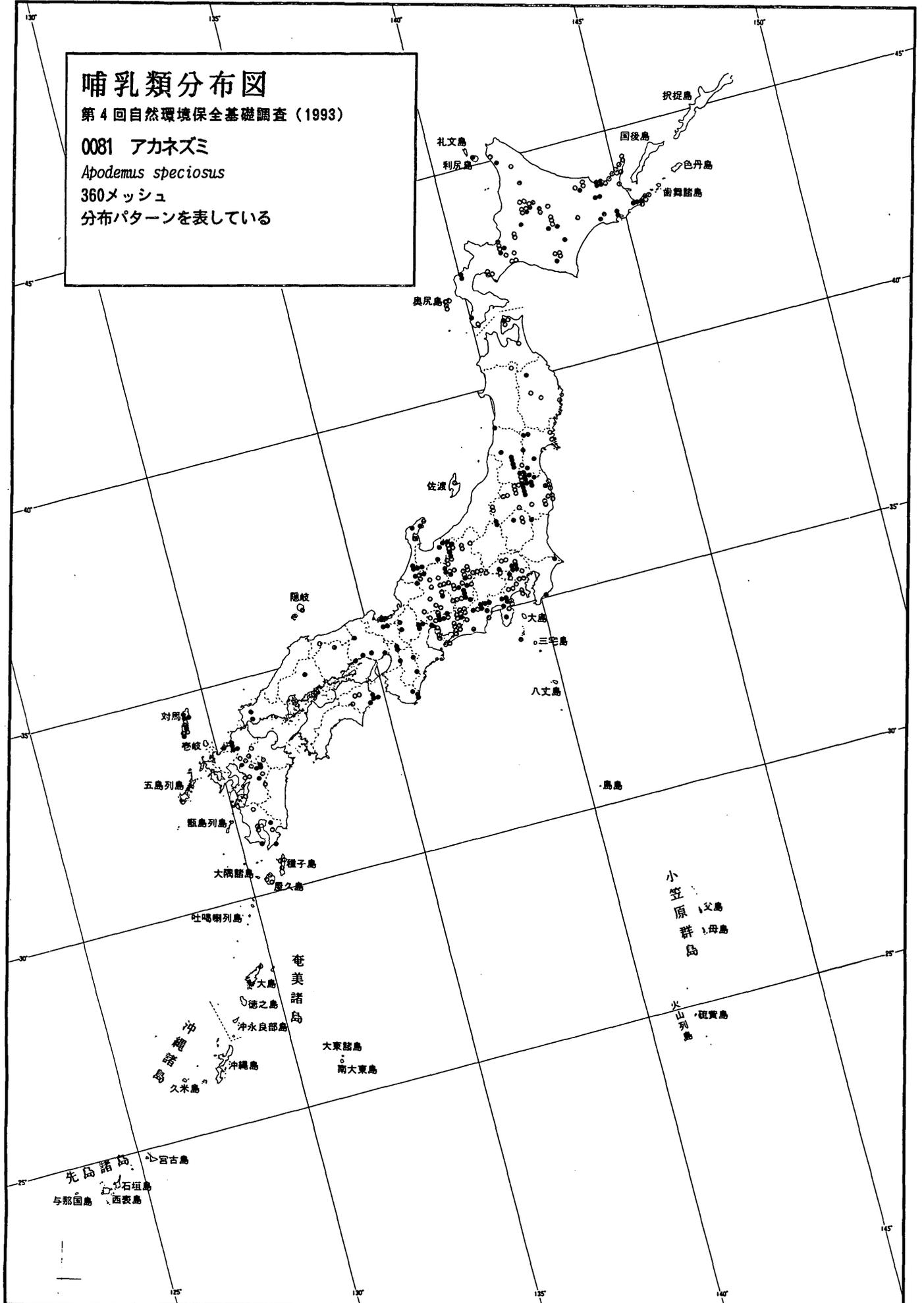
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0081 アカネズミ

*Apodemus speciosus*

360メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

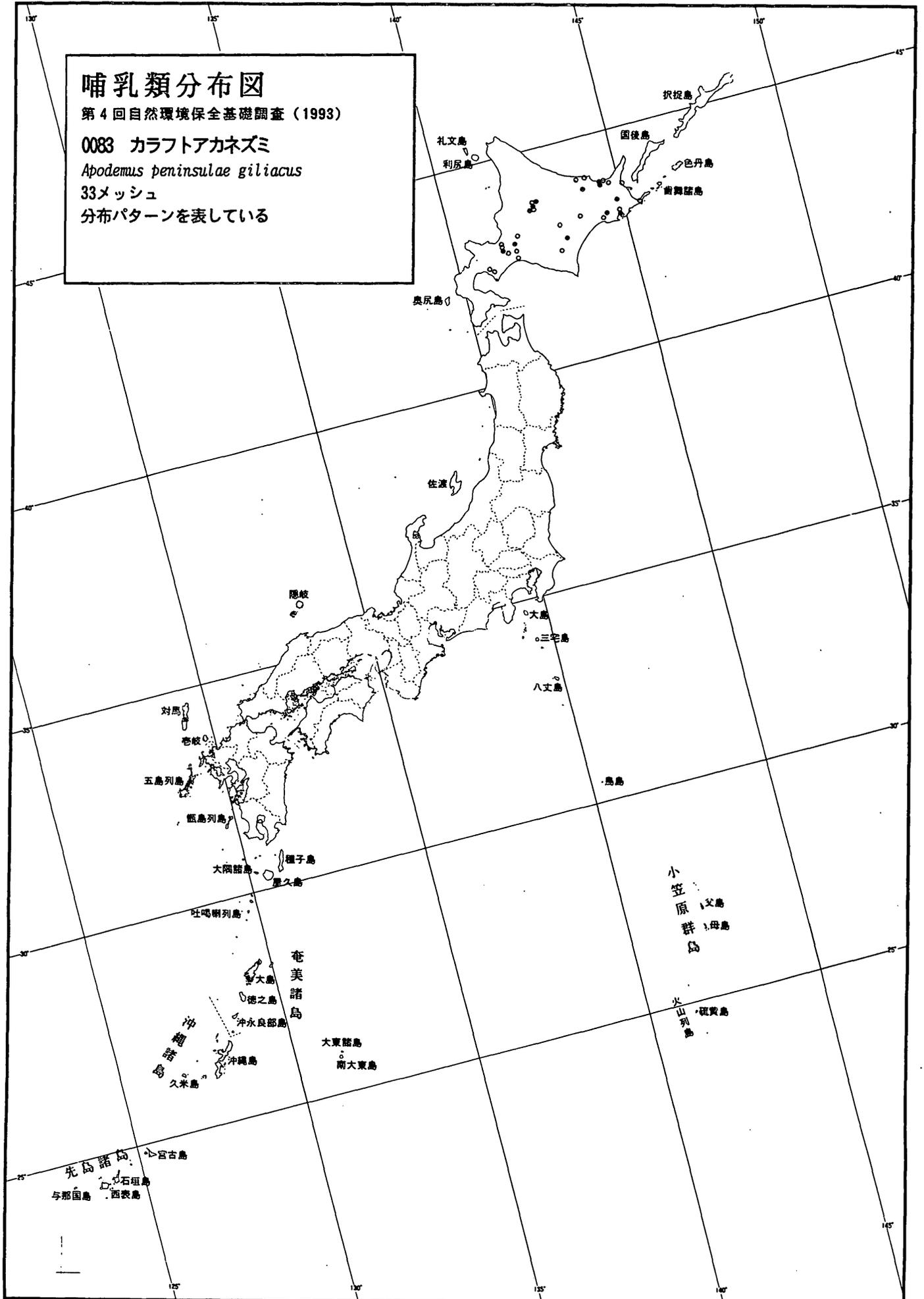
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0083 カラフトアカネズミ

*Apodemus peninsulae giliacus*

33メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

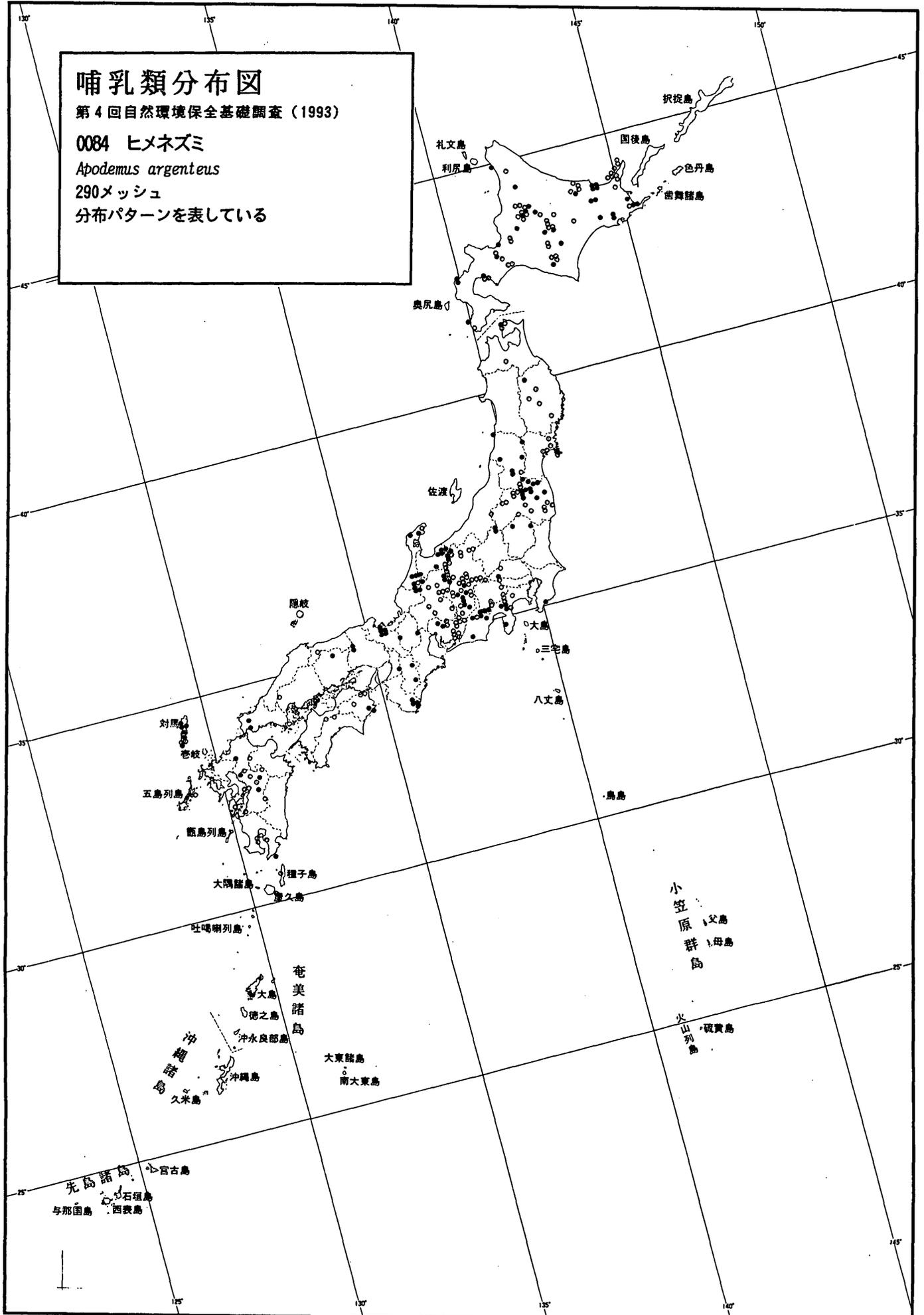
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0084 ヒメネズミ

*Apodemus argenteus*

290メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

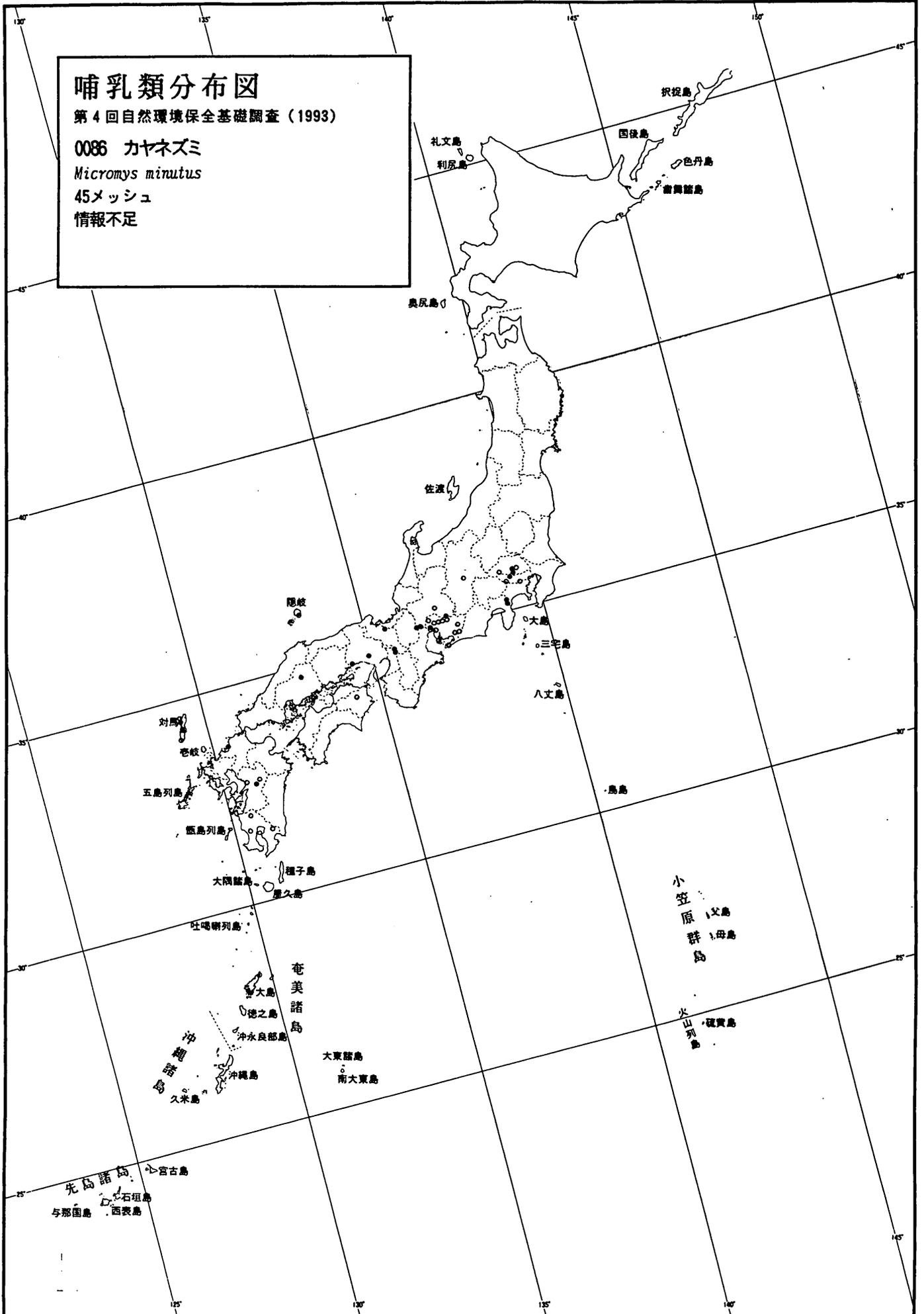
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0086 カヤネズミ

*Micromys minutus*

45メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

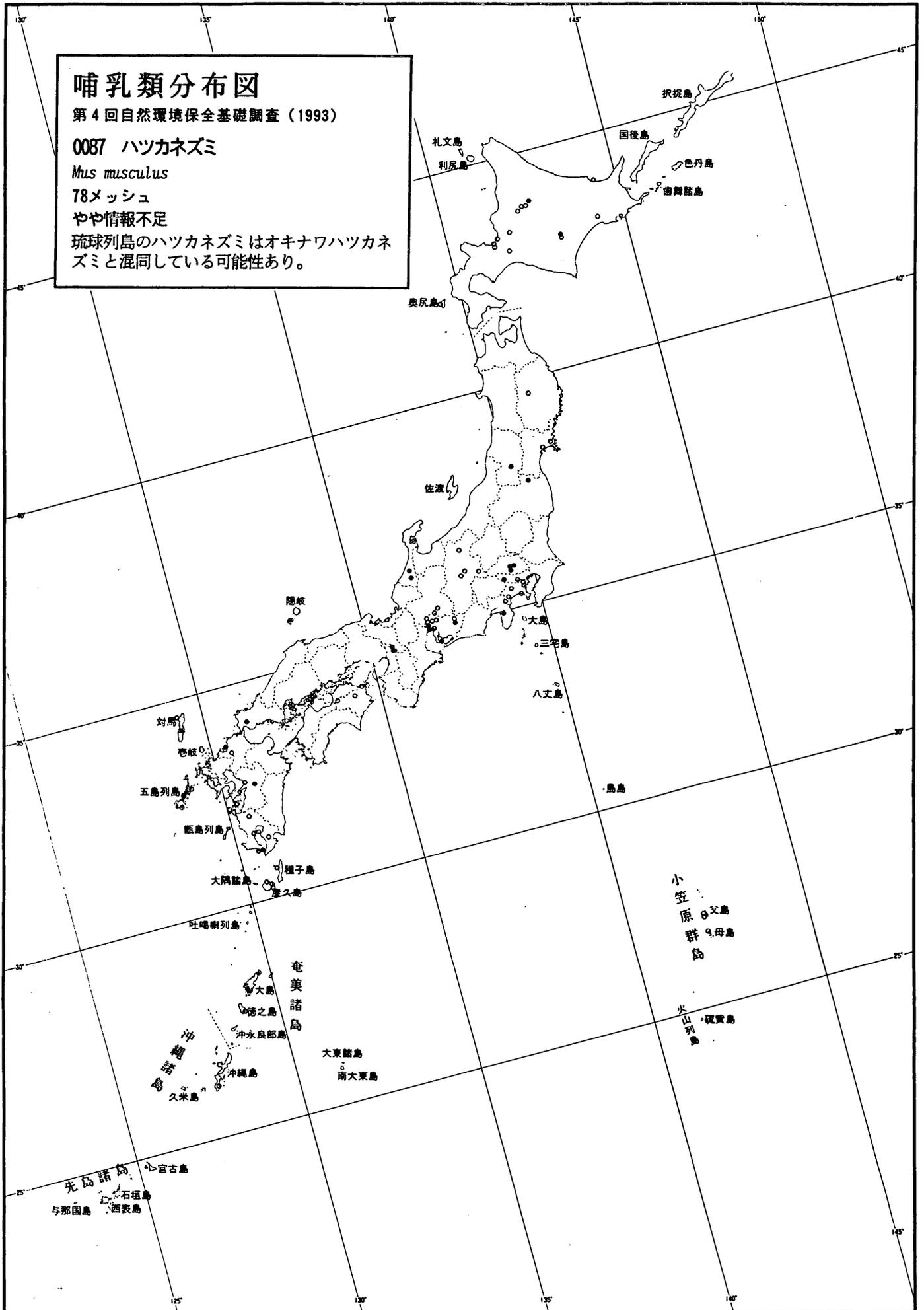
## 0087 ハツカネズミ

*Mus musculus*

78メッシュ

やや情報不足

琉球列島のハツカネズミはオキナワハツカネズミと混同している可能性あり。



# 哺乳類分布図

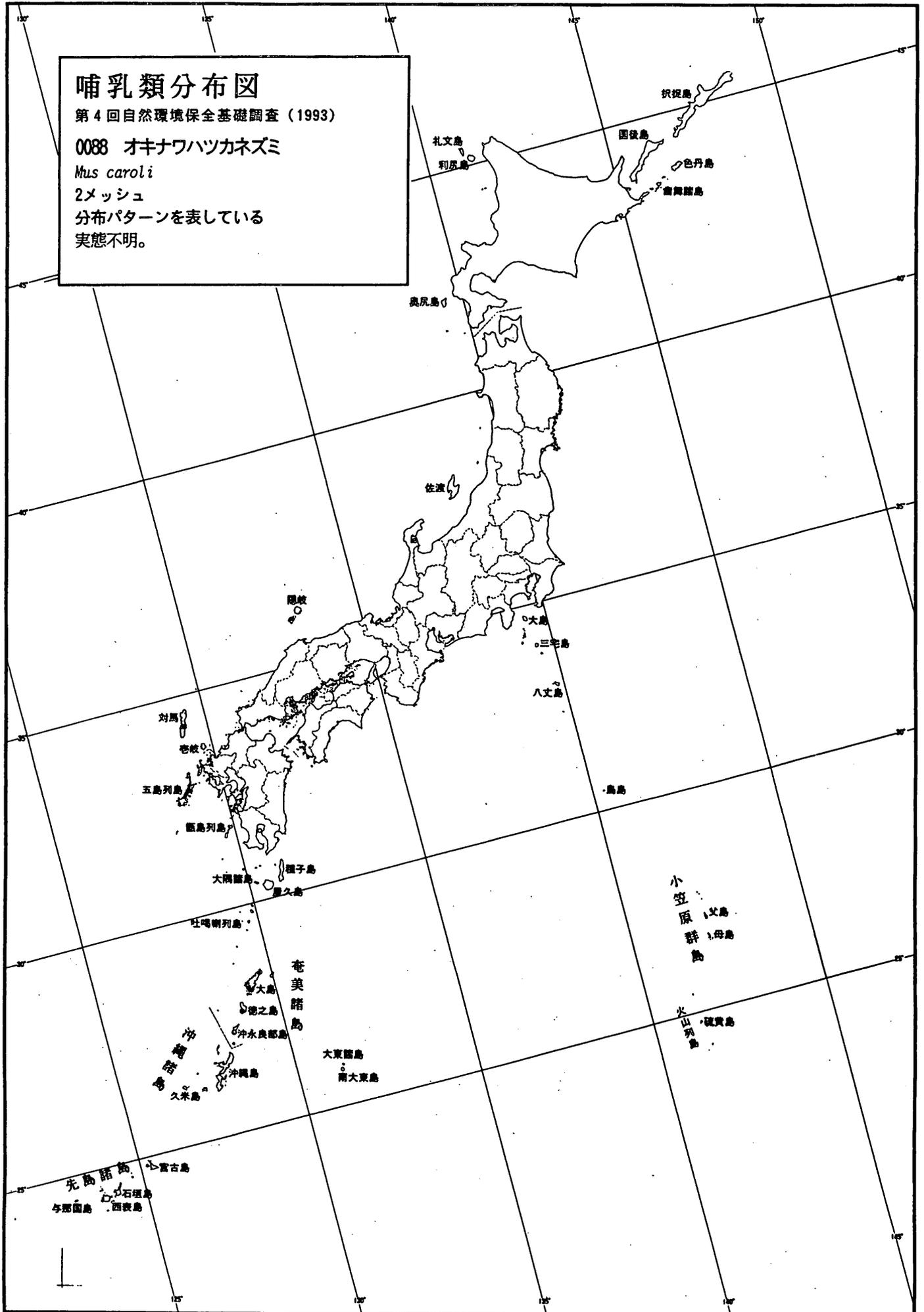
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0088 オキナワハツカネズミ

*Mus caroli*

2メッシュ

分布パターンを表している  
実態不明。



# 哺乳類分布図

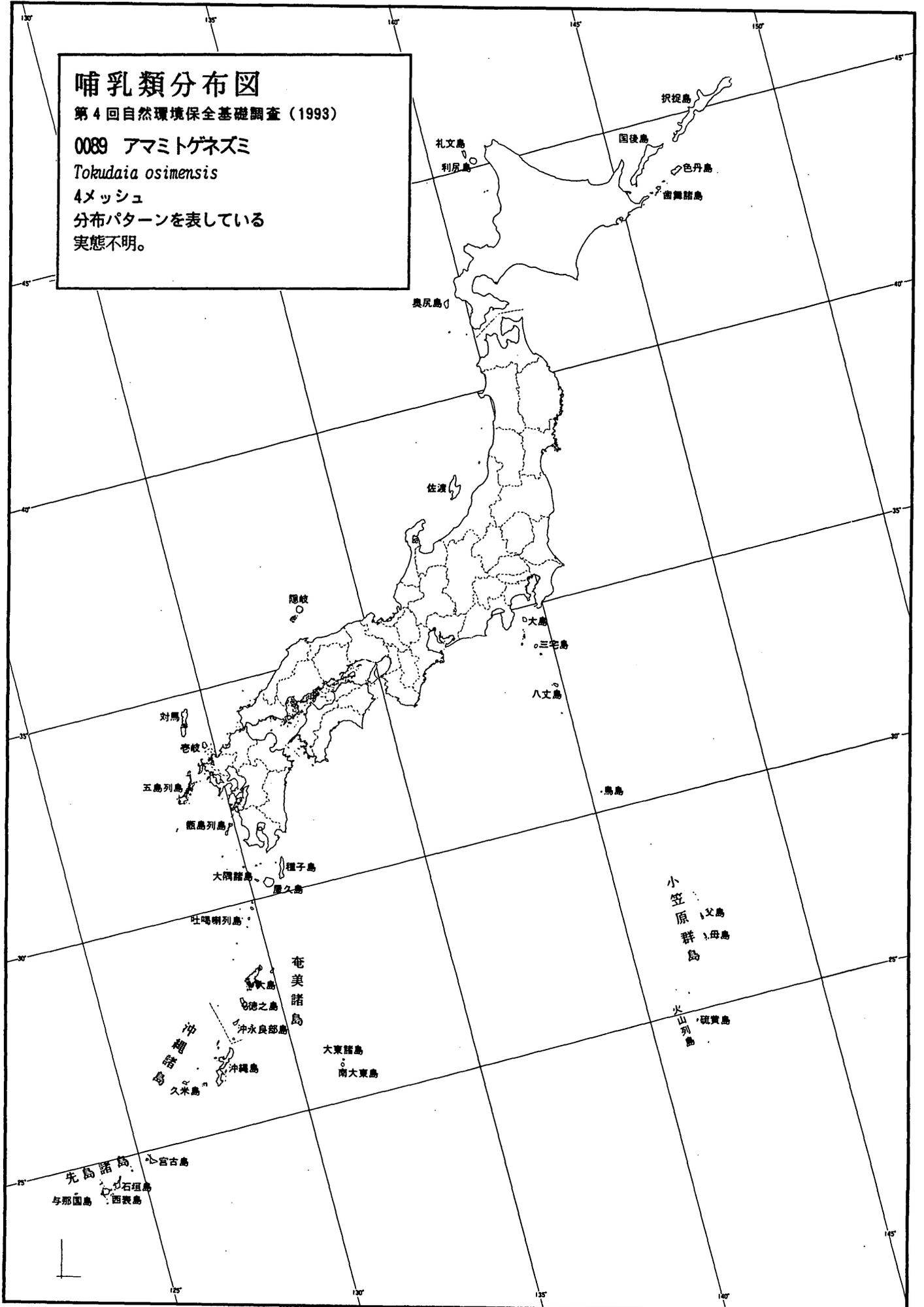
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0089 アマミトゲネズミ

*Tokudaia osimensis*

4メッシュ

分布パターンを表している  
実態不明。



# 哺乳類分布図

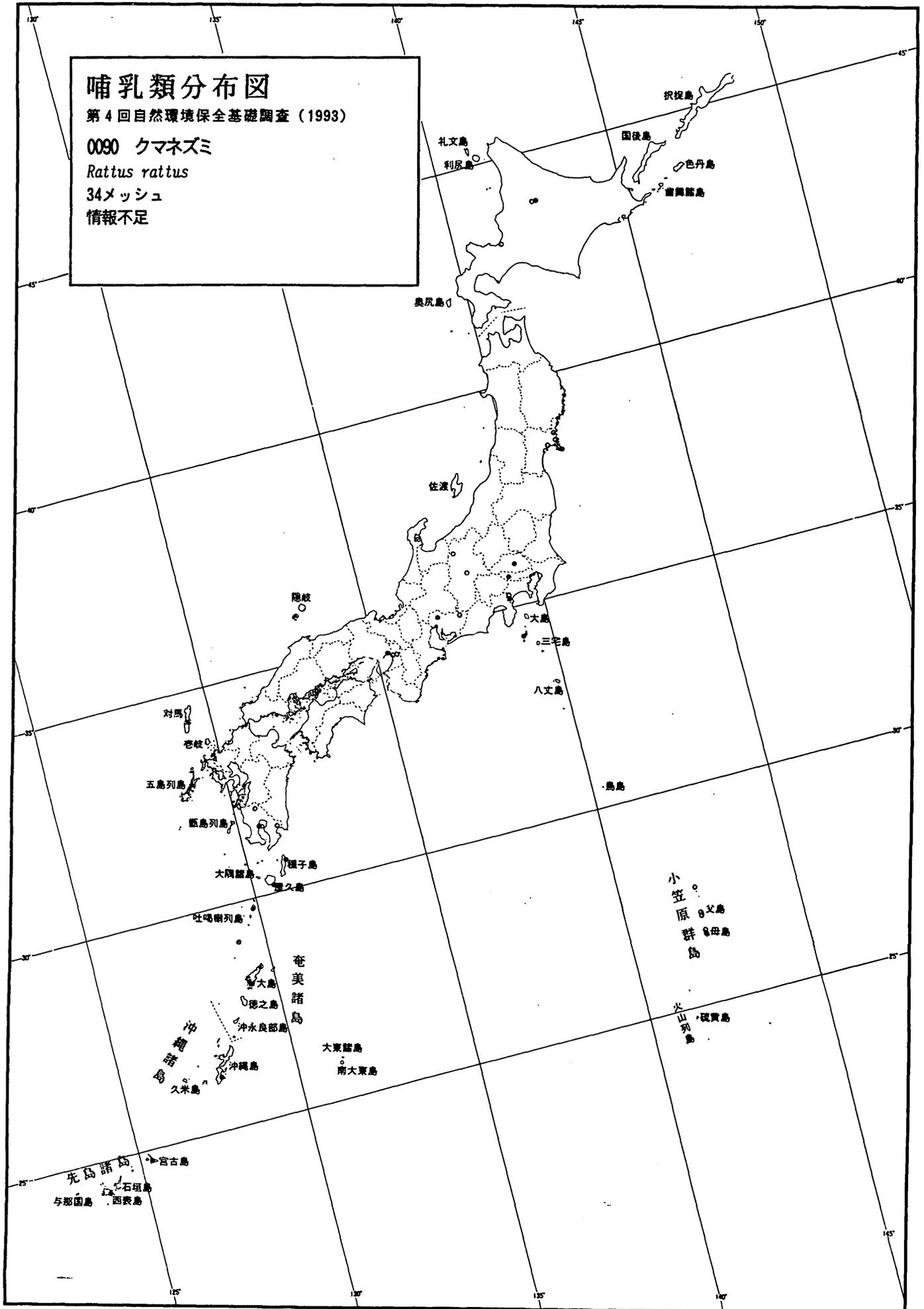
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0090 クマネズミ

*Rattus rattus*

34メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

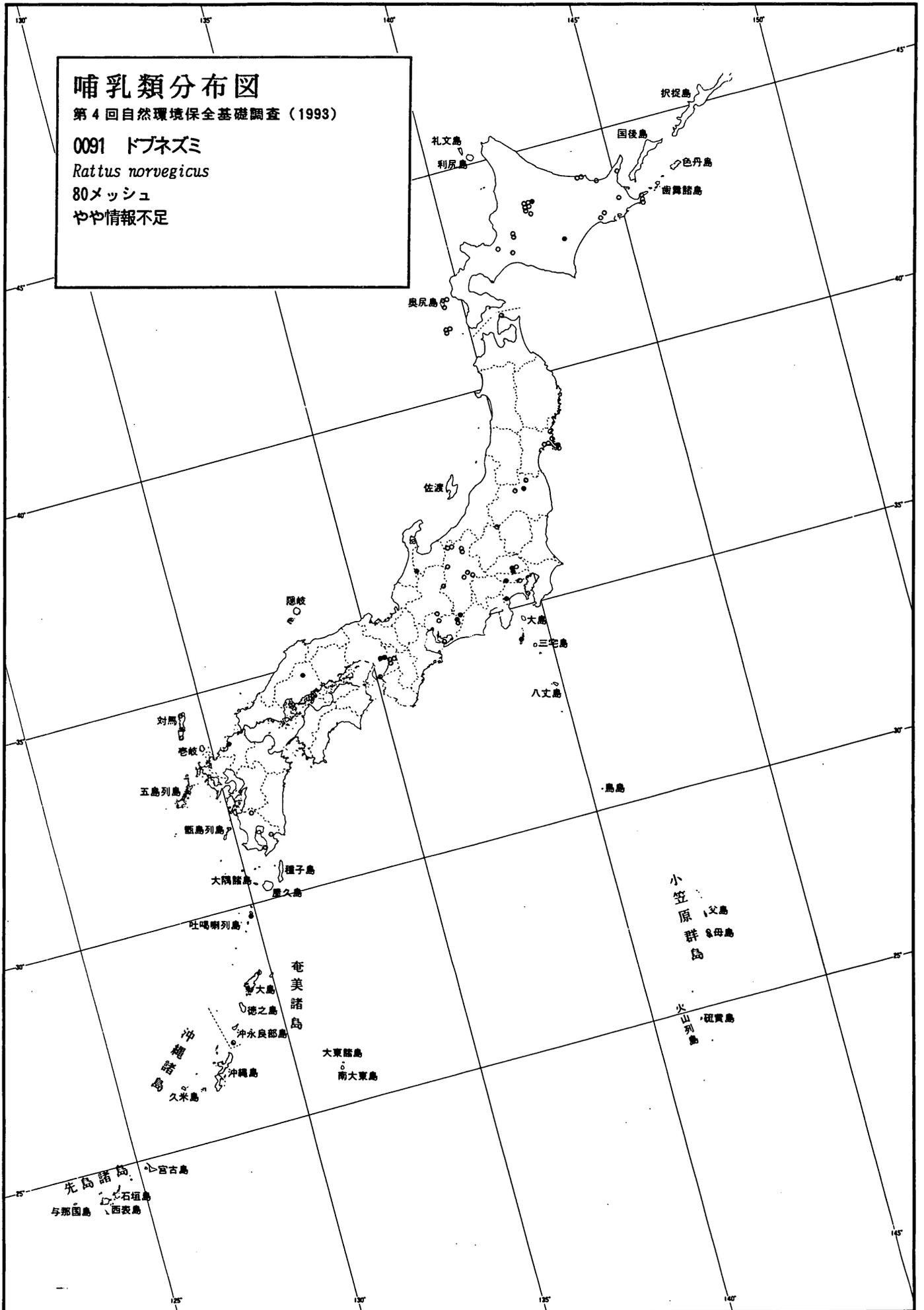
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0091 ドブネズミ

*Rattus norvegicus*

80メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

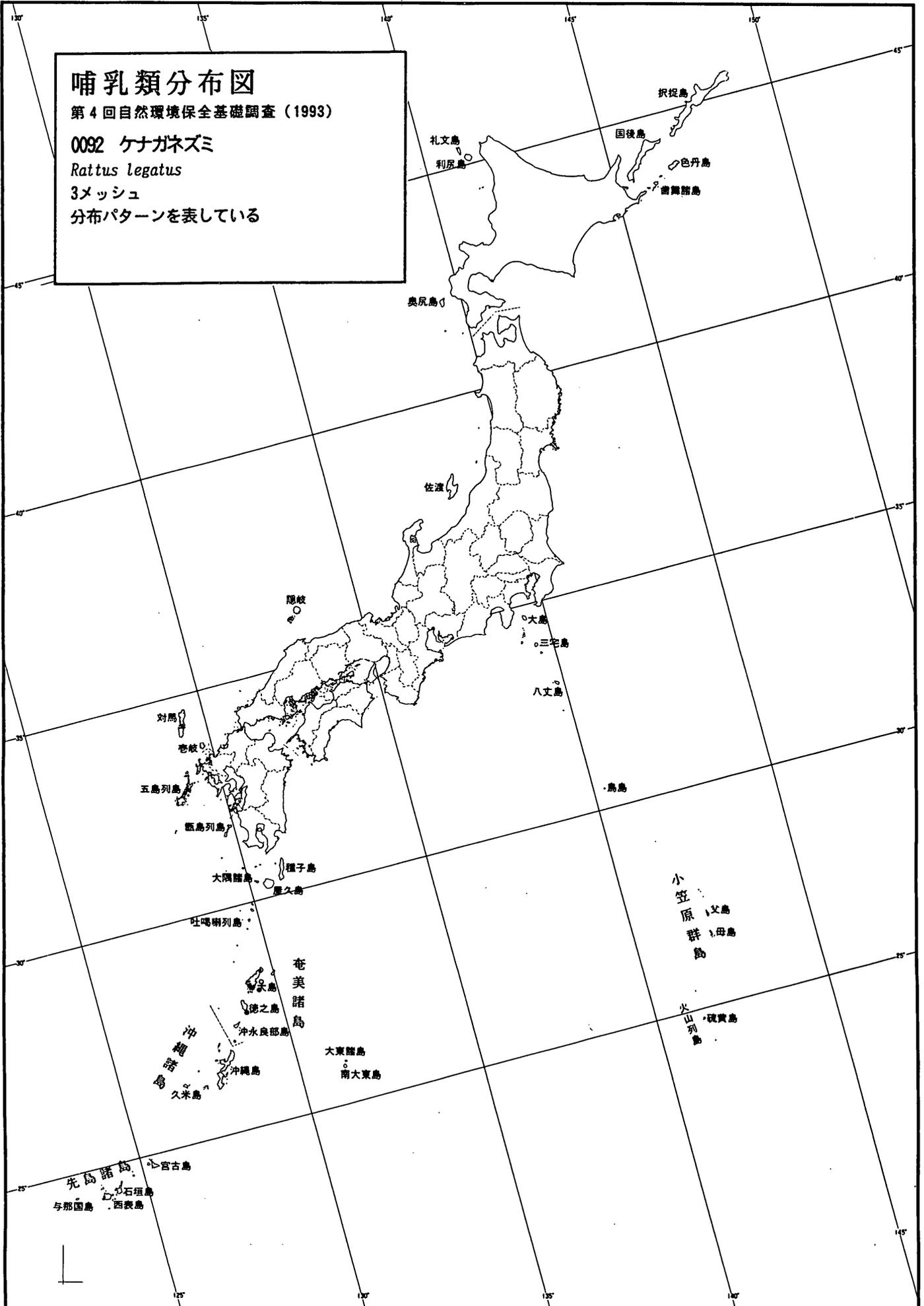
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0092 ケナガネズミ

*Rattus legatus*

3メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

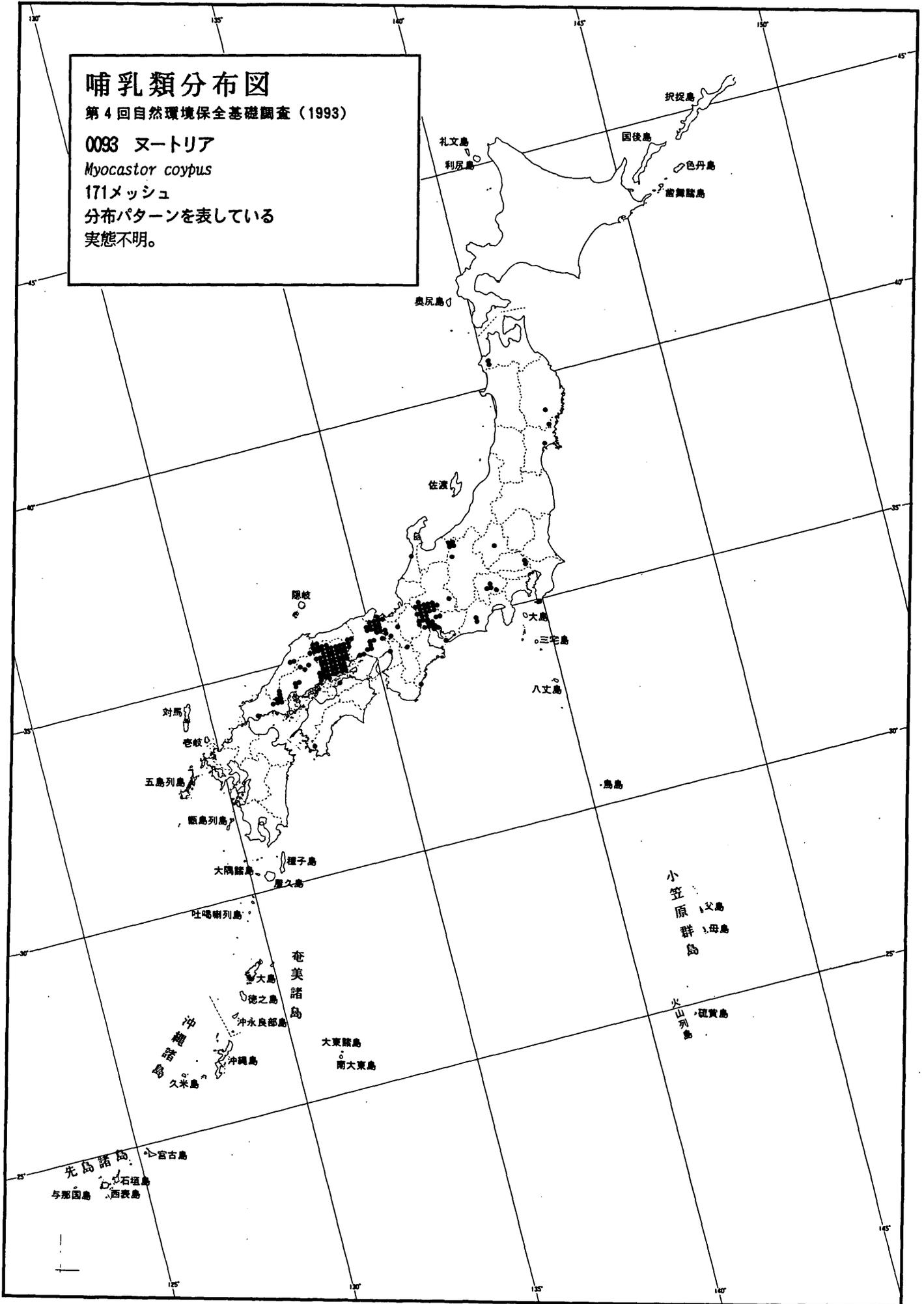
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0093 ヌートリア

*Myocastor coypus*

171メッシュ

分布パターンを表している  
実態不明。





# 哺乳類分布図

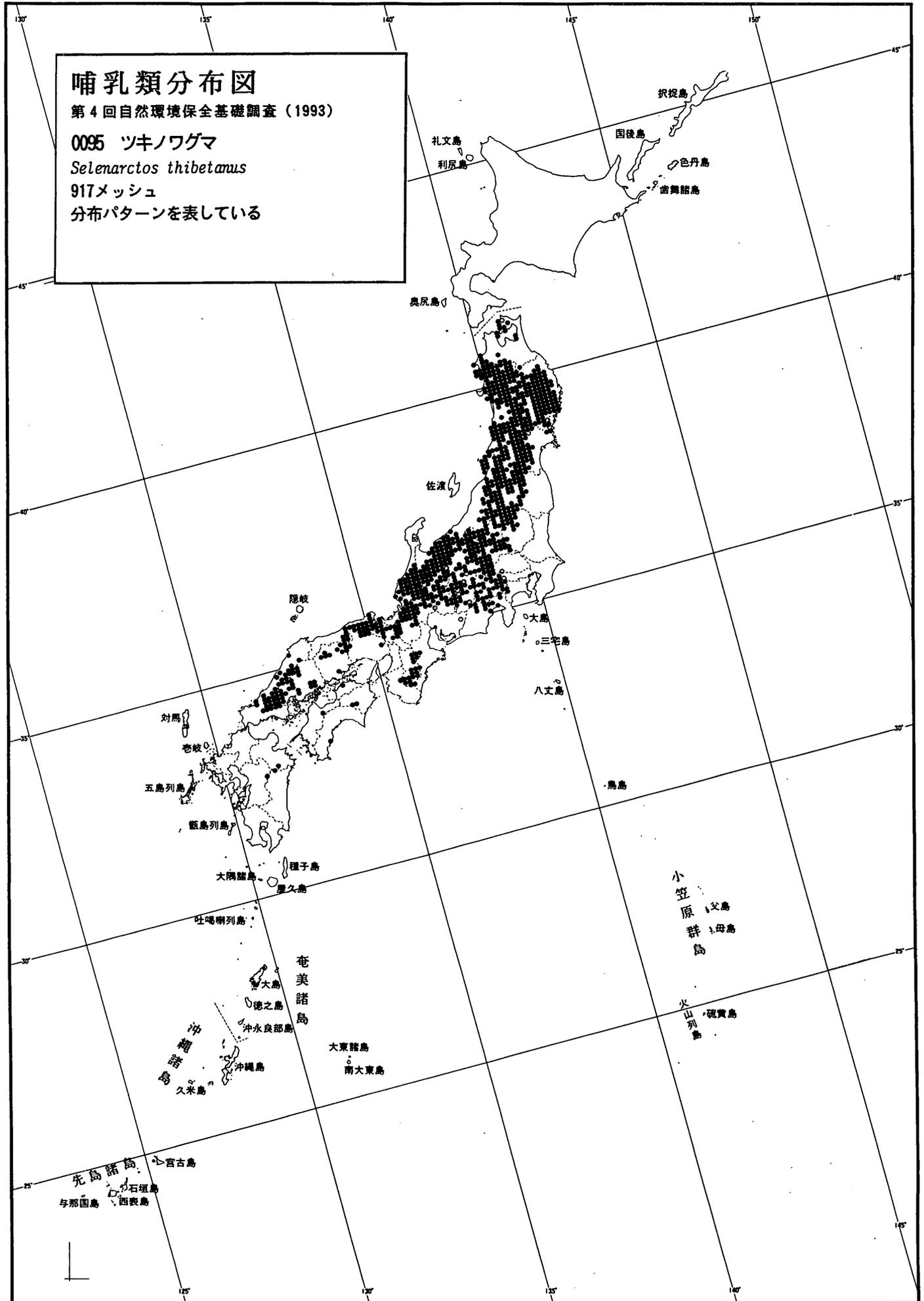
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0095 ツキノワグマ

*Selenarctos thibetanus*

917メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

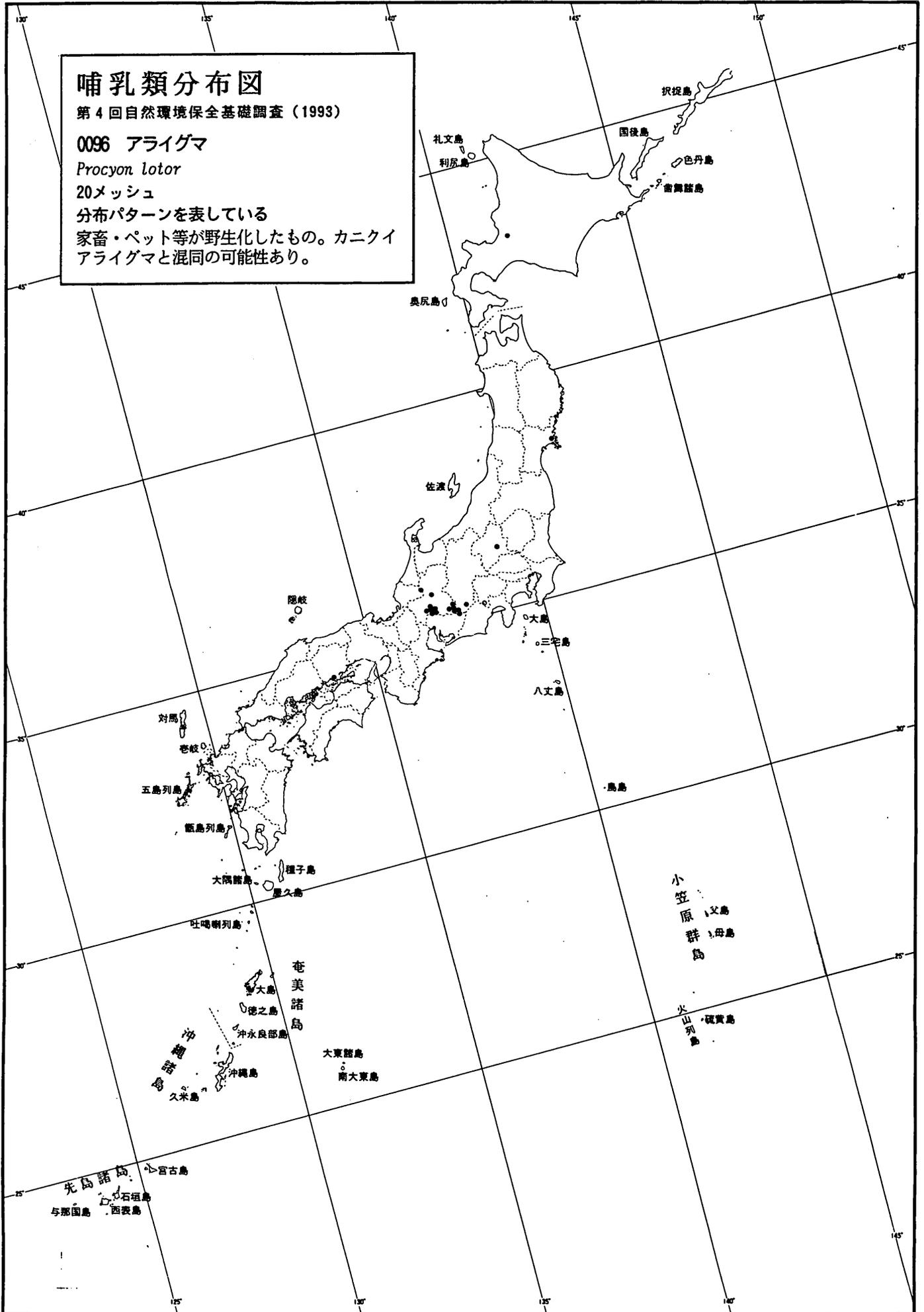
## 0096 アライグマ

*Procyon lotor*

20メッシュ

分布パターンを表している

家畜・ペット等が野生化したもの。カニクイ  
アライグマと混同の可能性あり。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

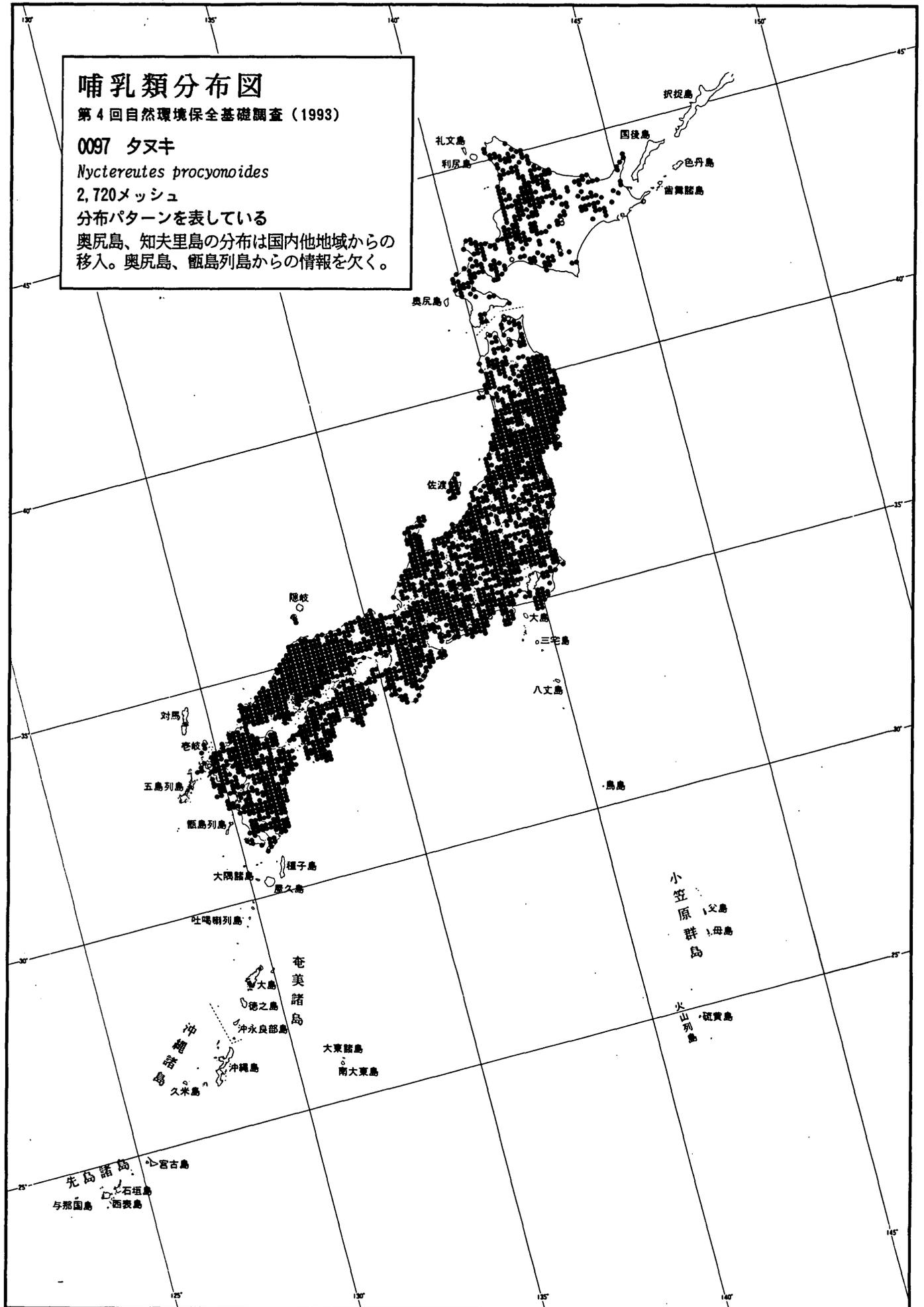
0097 タヌキ

*Nyctereutes procyonoides*

2,720メッシュ

分布パターンを表している

奥尻島、知夫里島の分布は国内他地域からの移入。奥尻島、釧島列島からの情報が欠く。



# 哺乳類分布図

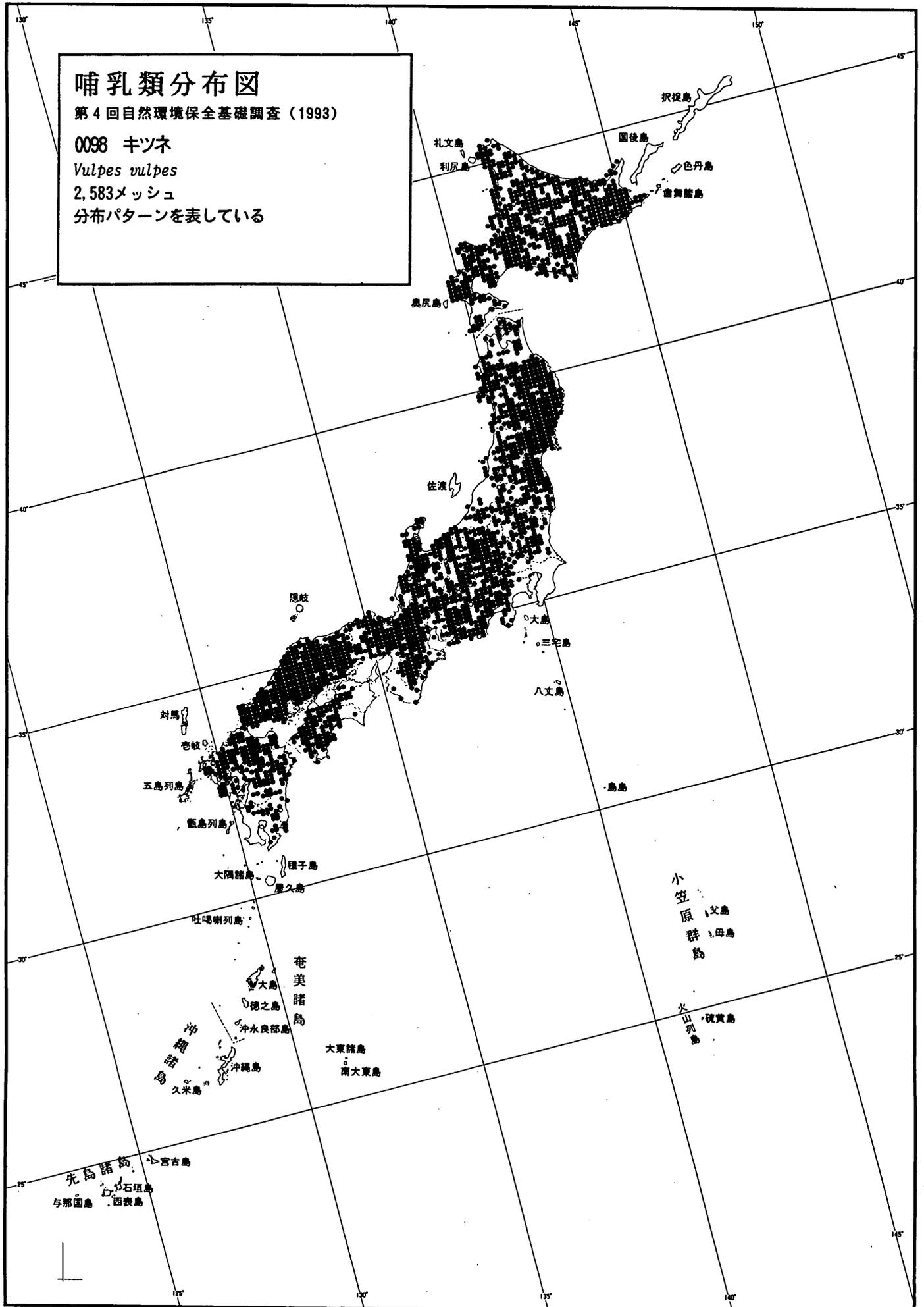
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0098 キツネ

*Vulpes vulpes*

2,583メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

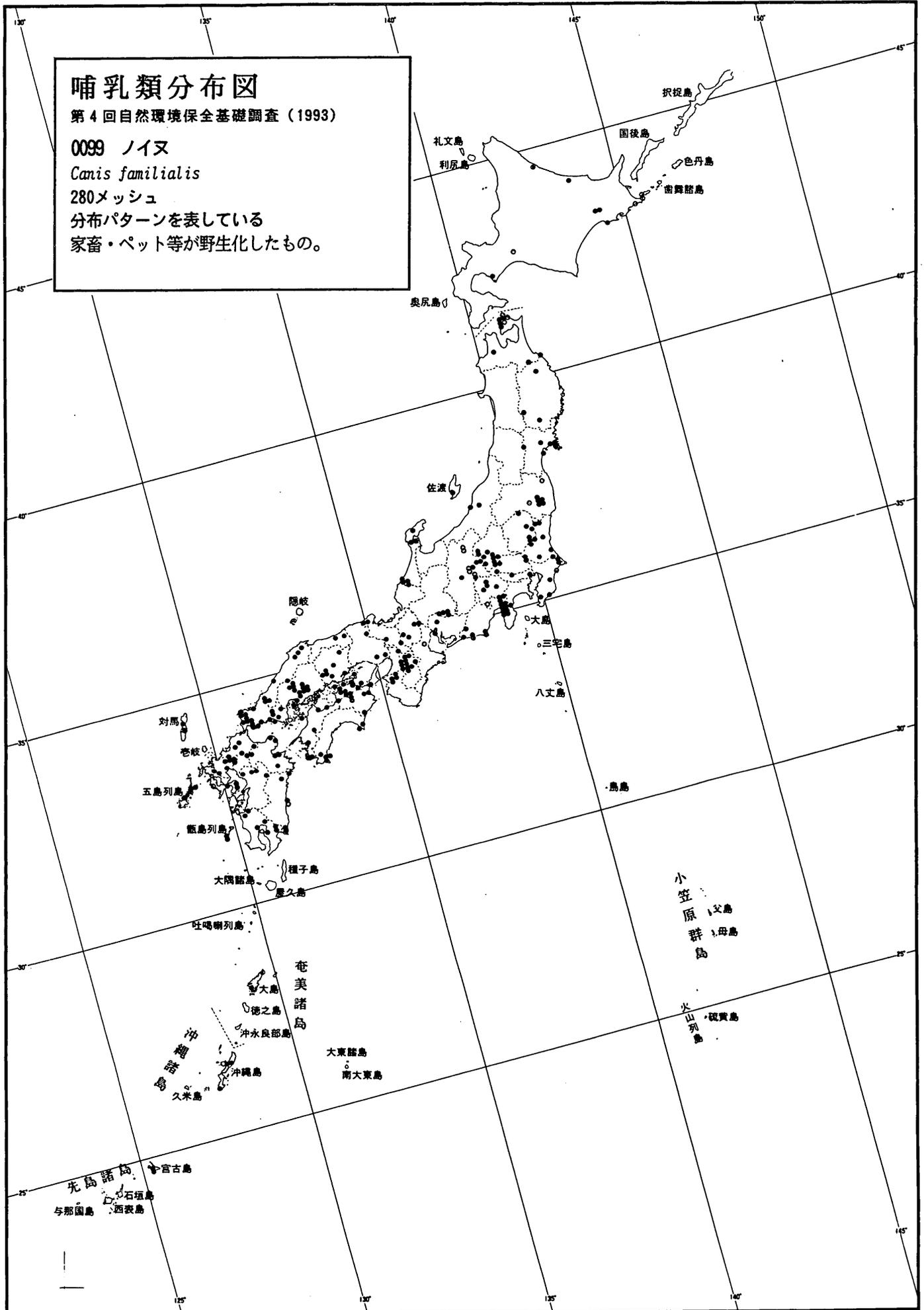
0099 ノイヌ

*Canis familiaris*

280メッシュ

分布パターンを表している

家畜・ペット等が野生化したもの。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

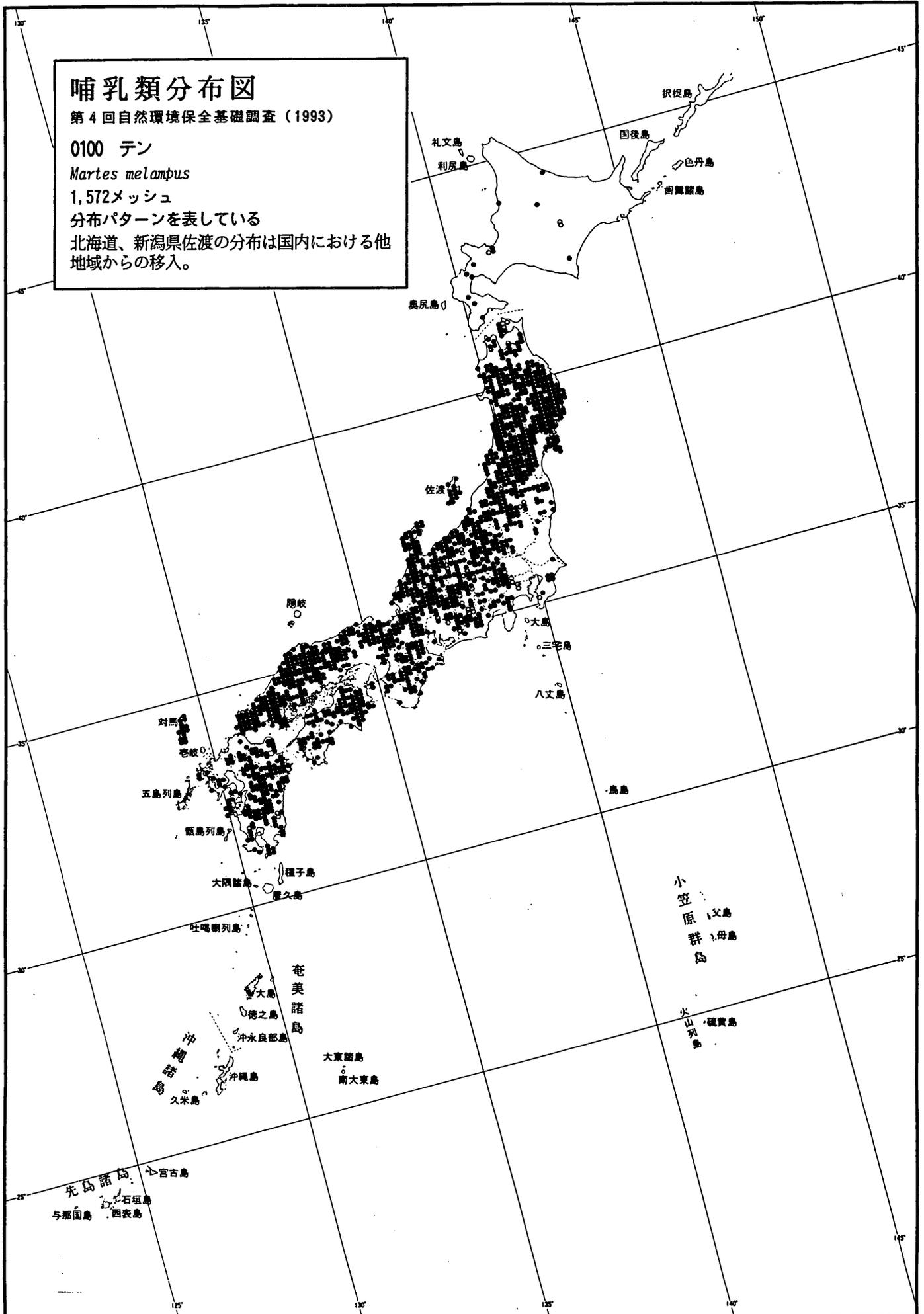
0100 テン

*Martes melampus*

1,572メッシュ

分布パターンを表している

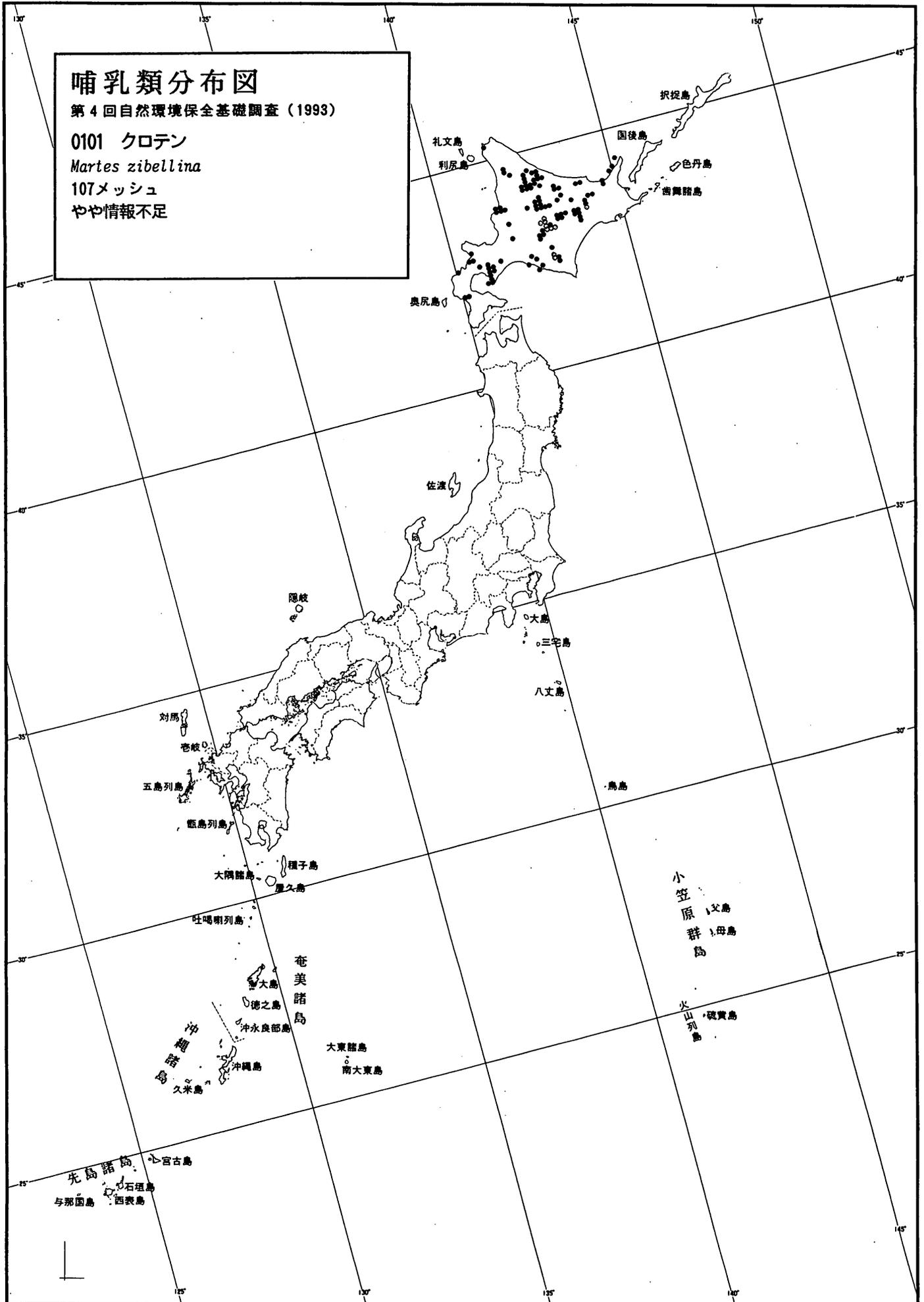
北海道、新潟県佐渡の分布は国内における他地域からの移入。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0101 クロテン  
*Martes zibellina*  
107メッシュ  
やや情報不足



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

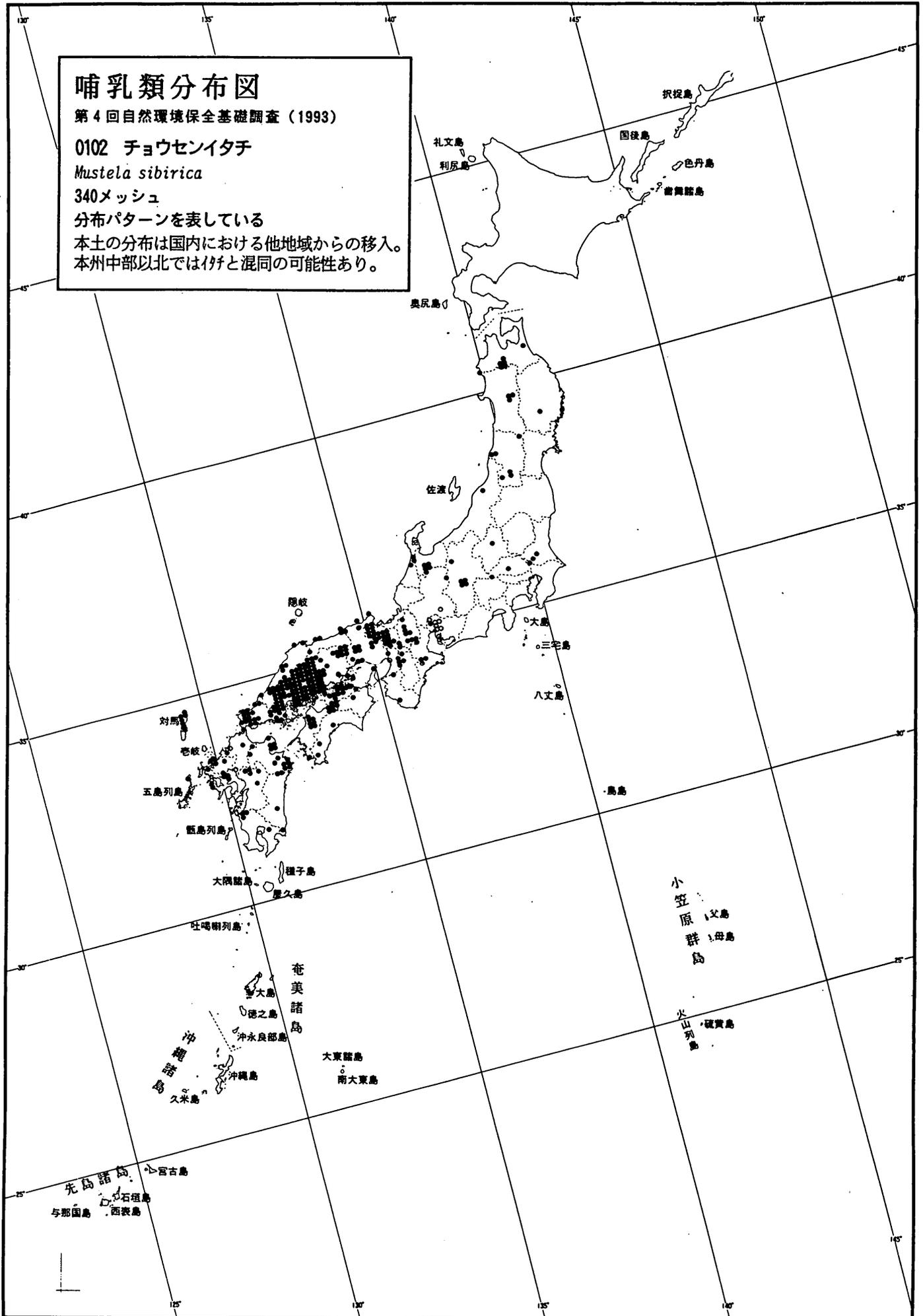
0102 チョウセンイタチ

*Mustela sibirica*

340メッシュ

分布パターンを表している

本土の分布は国内における他地域からの移入。  
本州中部以北ではイタチと混同の可能性あり。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

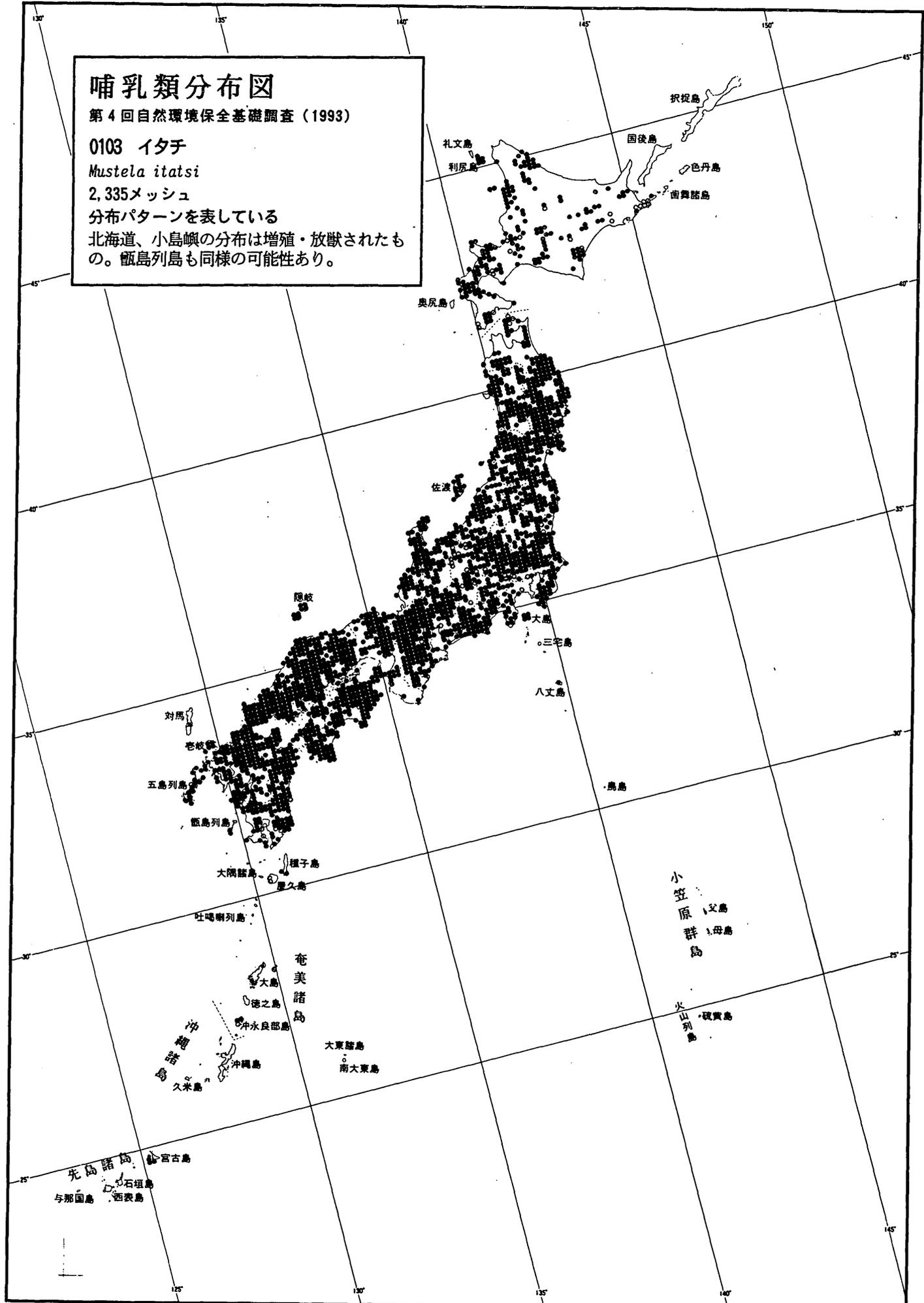
## 0103 イタチ

*Mustela itatsi*

2,335メッシュ

分布パターンを表している

北海道、小島嶼の分布は増殖・放獣されたもの。甌島列島も同様の可能性あり。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

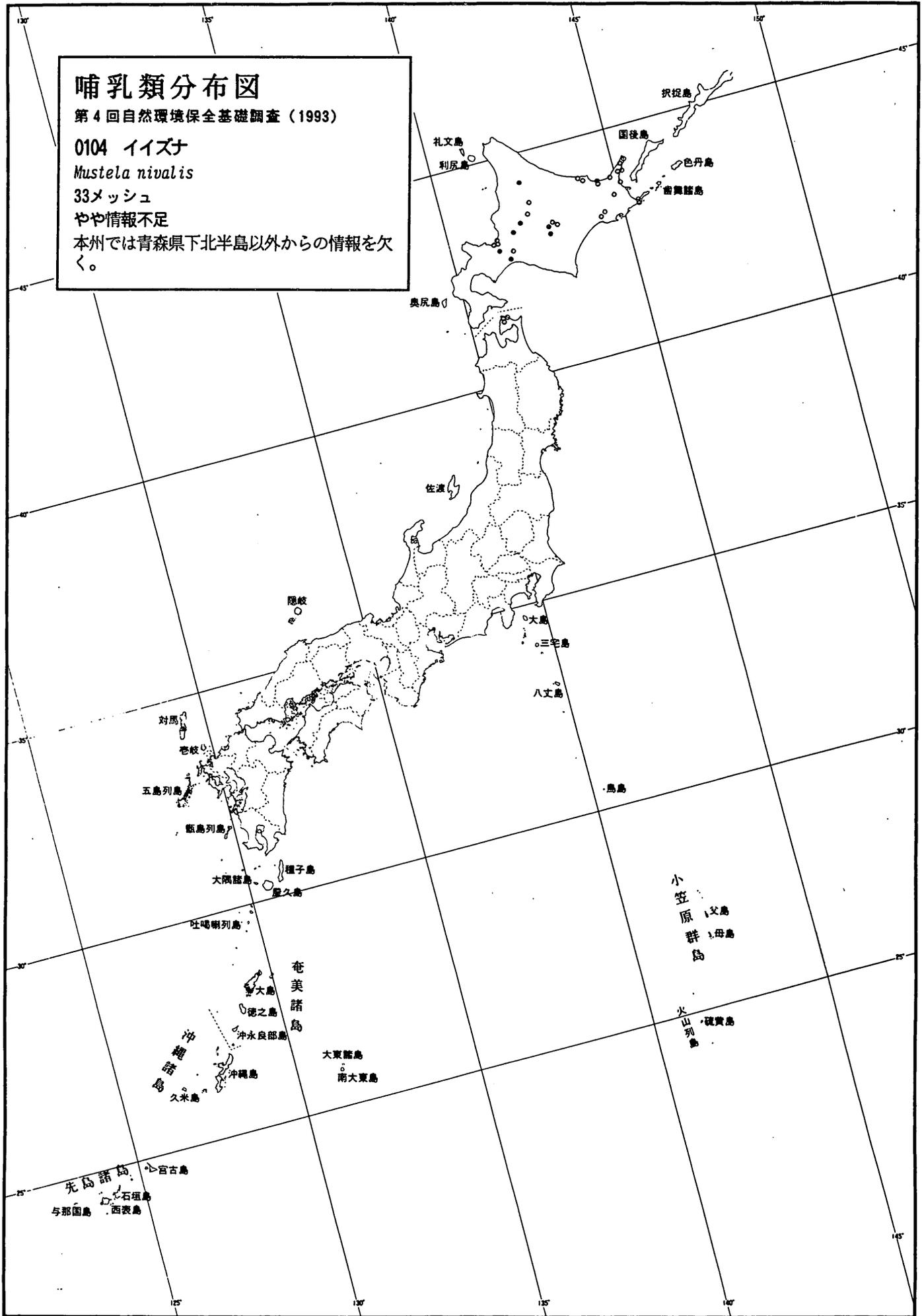
## 0104 イイズナ

*Mustela nivalis*

33メッシュ

やや情報不足

本州では青森県下北半島以外からの情報を欠く。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

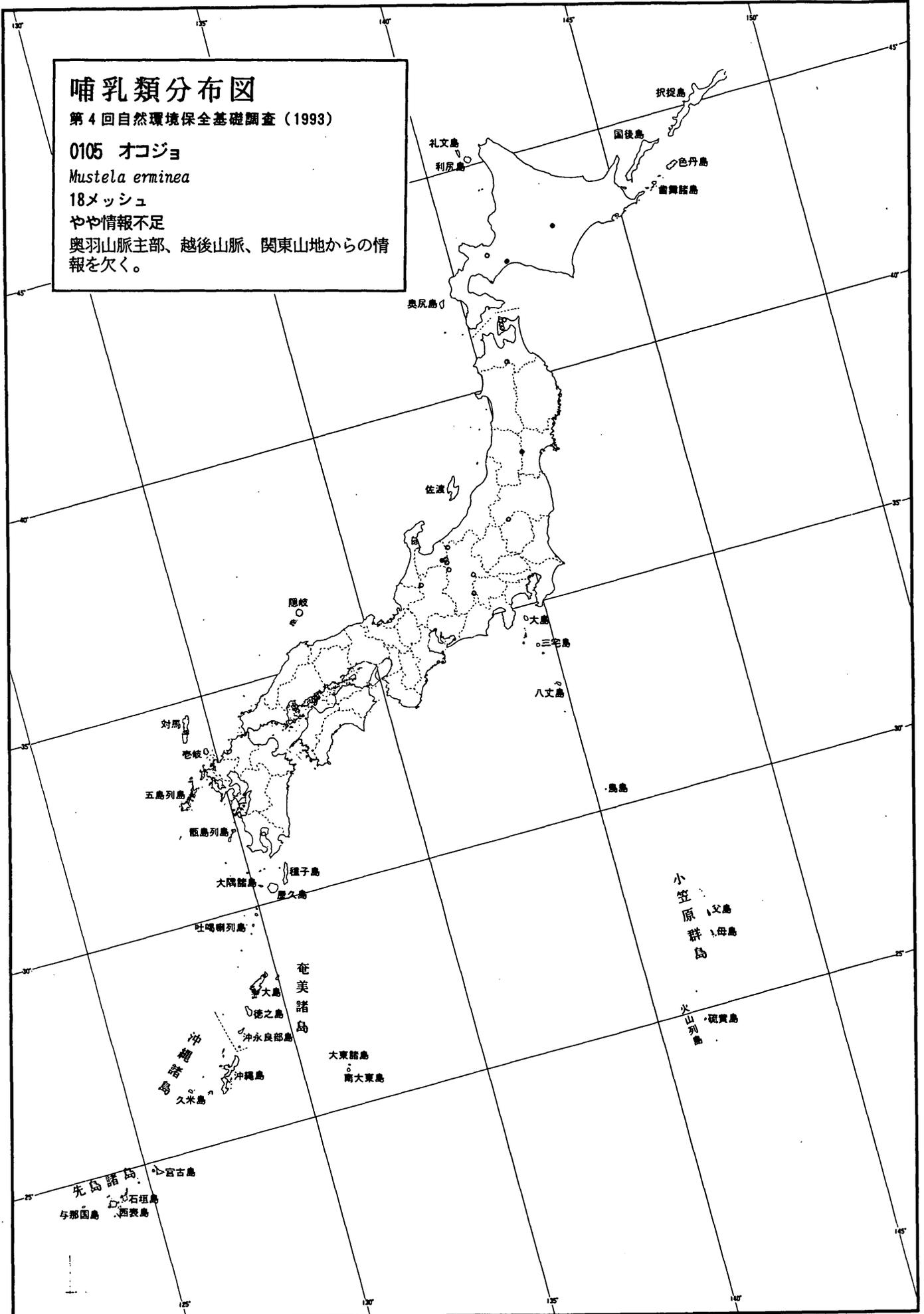
0105 オコジョ

*Mustela erminea*

18メッシュ

やや情報不足

奥羽山脈主部、越後山脈、関東山地からの情報を欠く。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

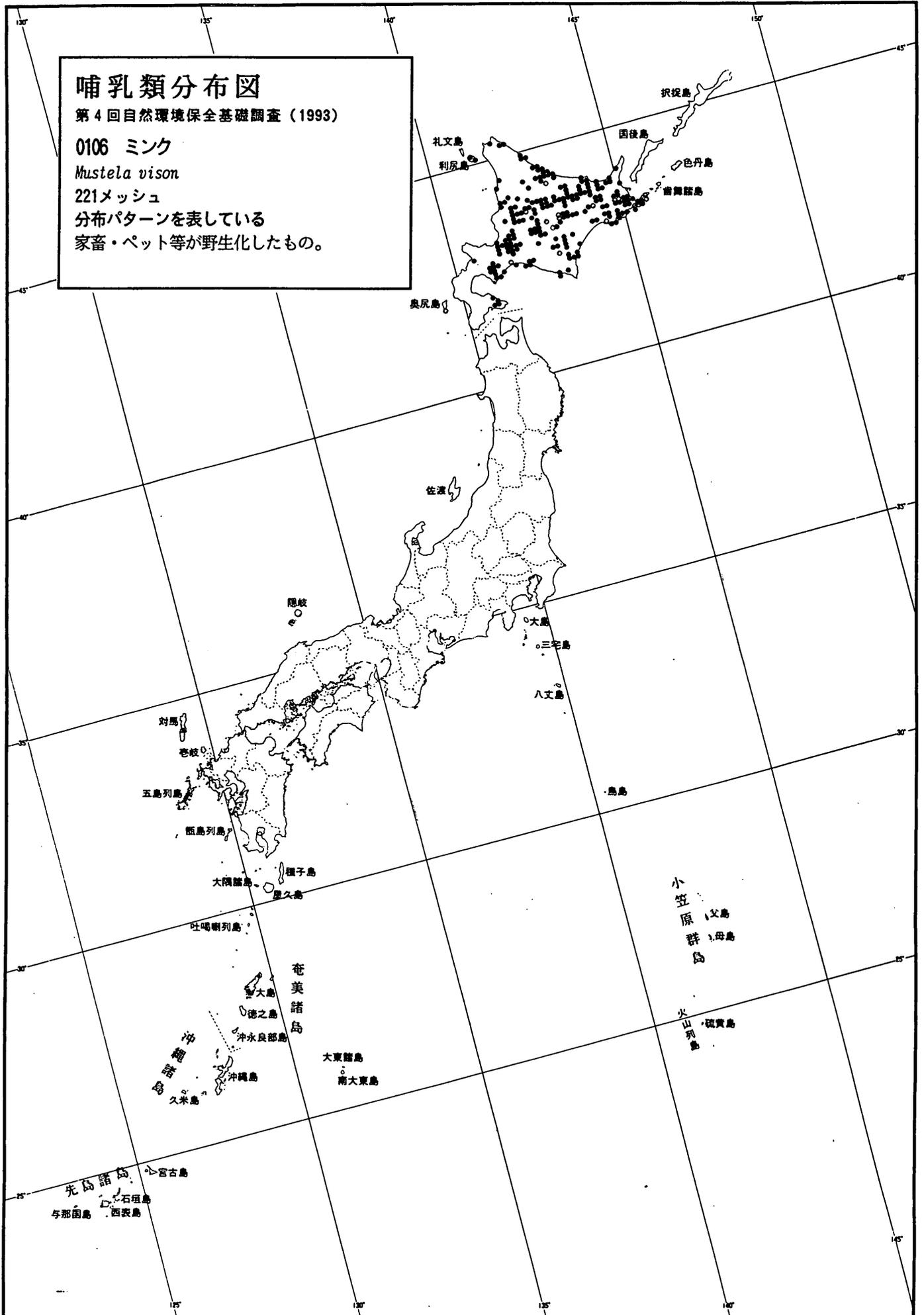
0106 ミンク

*Mustela vison*

221メッシュ

分布パターンを表している

家畜・ペット等が野生化したもの。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

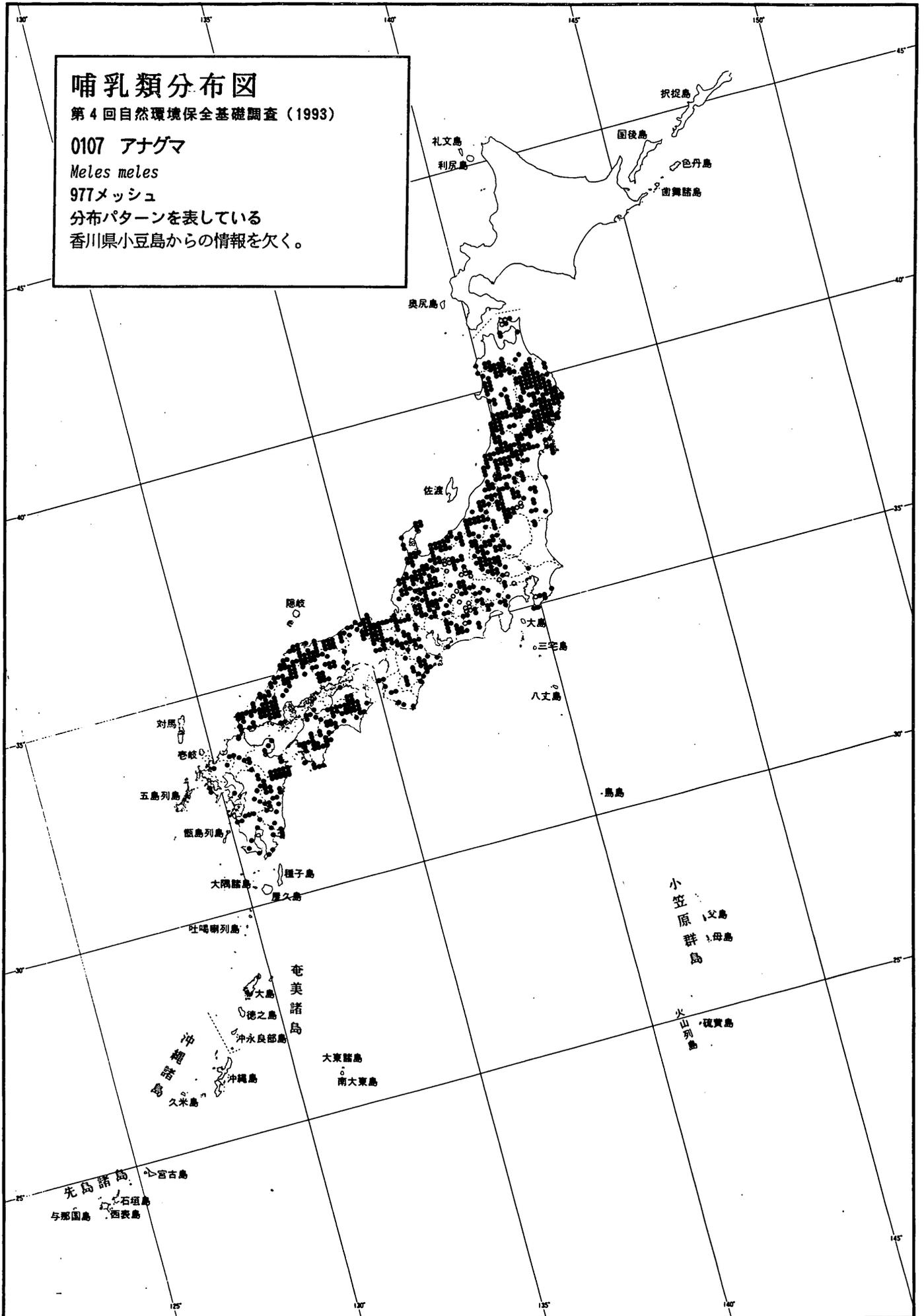
## 0107 アナグマ

*Meles meles*

977メッシュ

分布パターンを表している

香川県小豆島からの情報を欠く。



# 哺乳類分布図

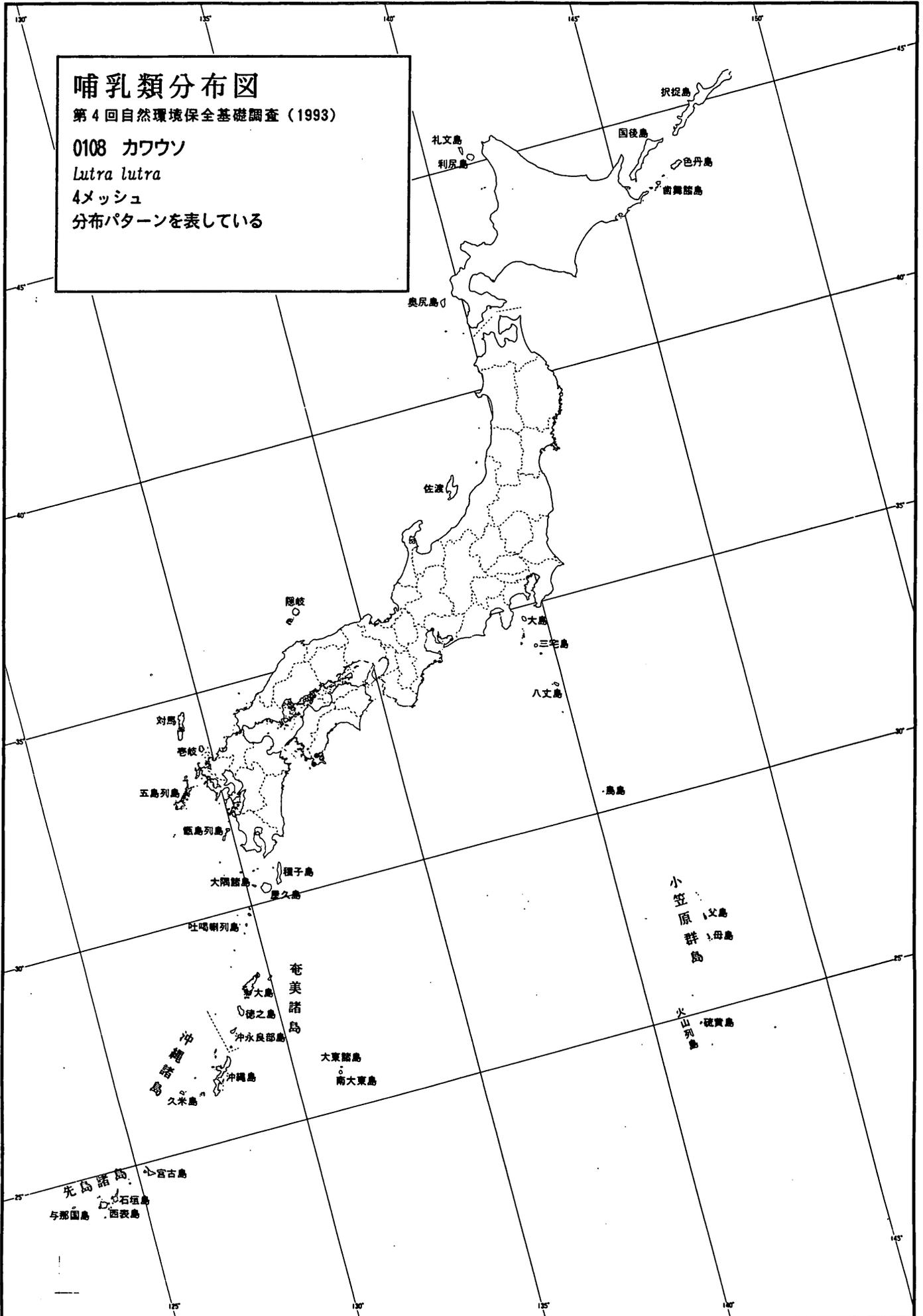
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0108 カワウソ

*Lutra lutra*

4メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

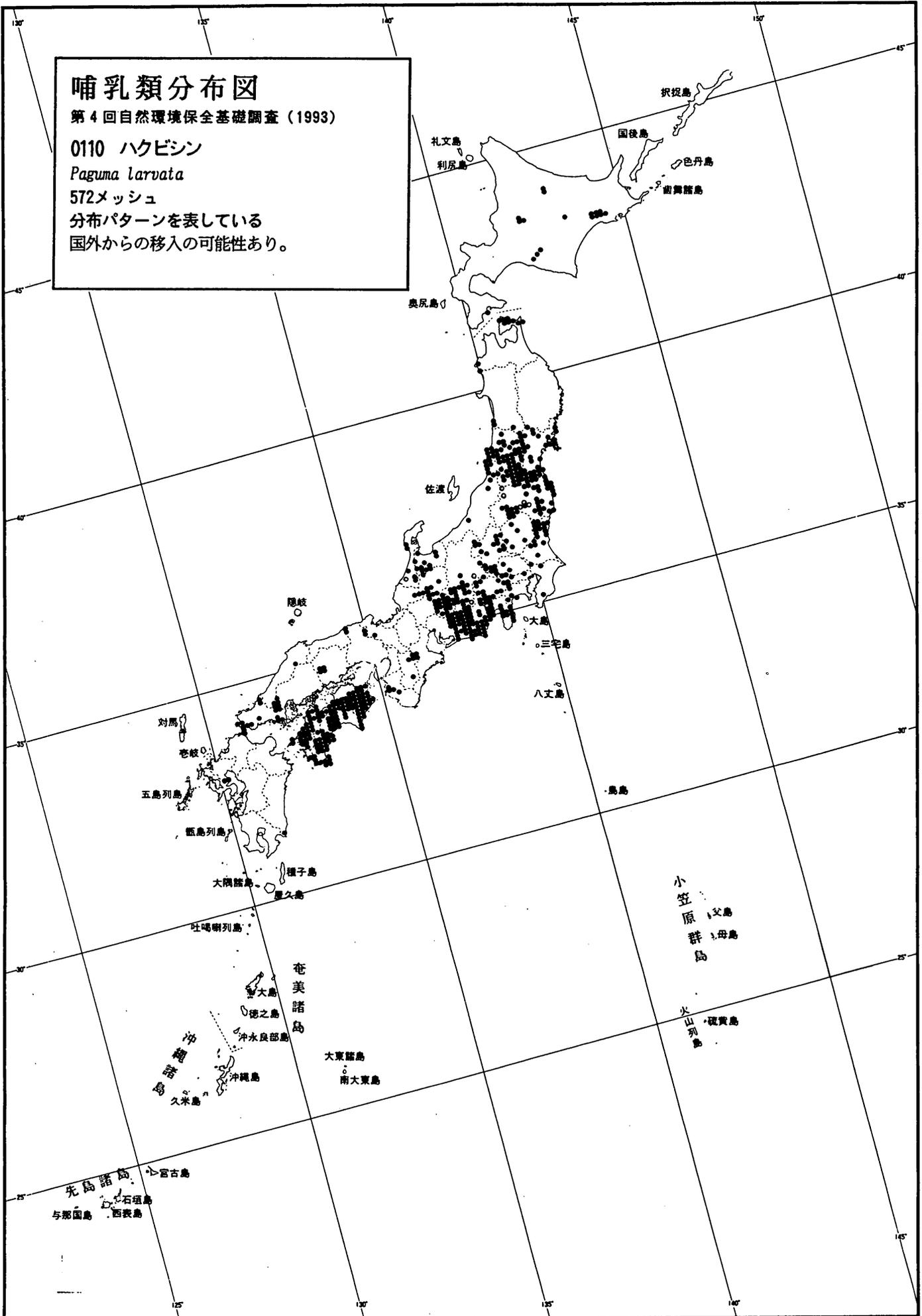
0110 ハクビシン

*Paguma larvata*

572メッシュ

分布パターンを表している

国外からの移入の可能性あり。



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

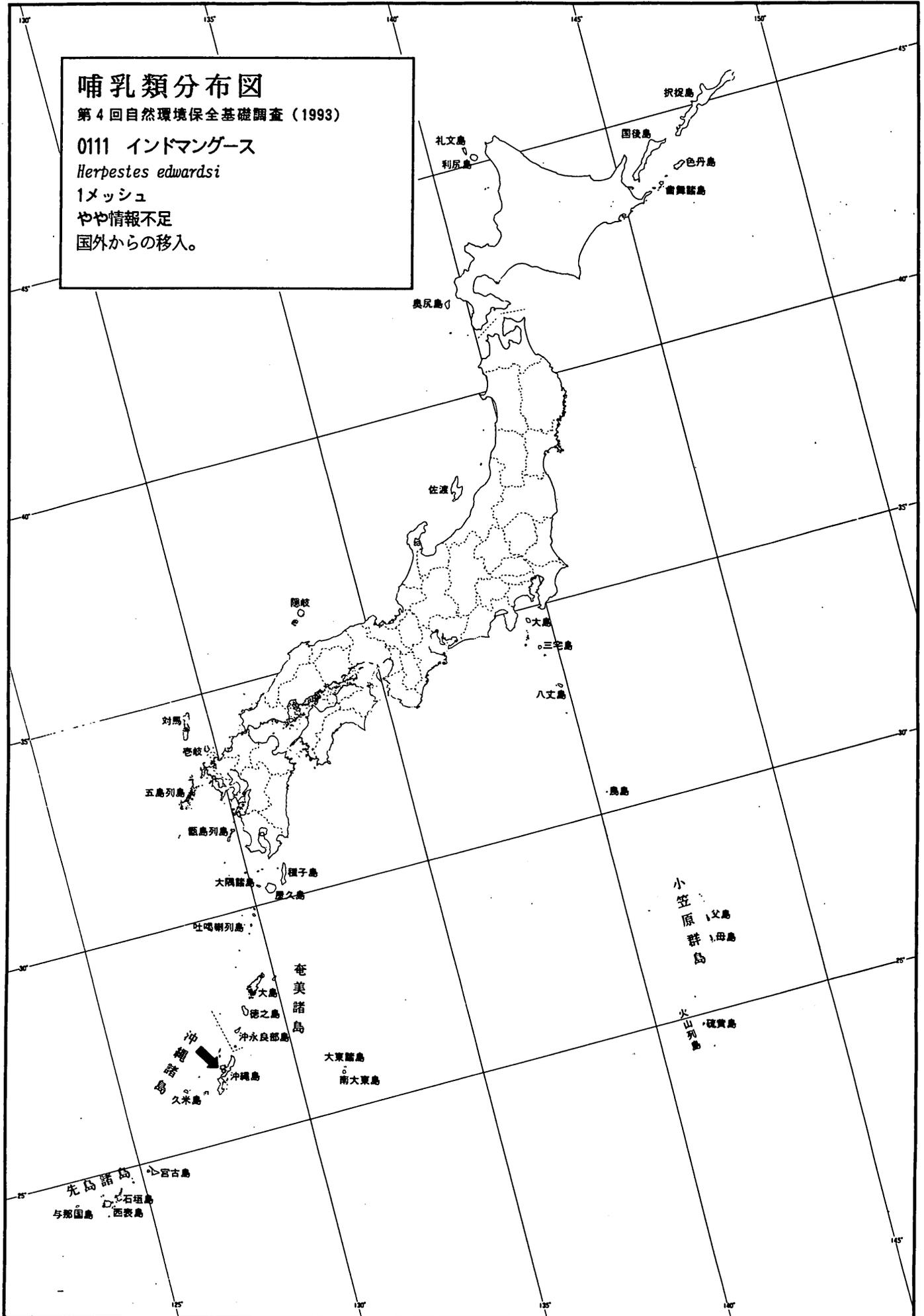
## 0111 インドマングース

*Herpestes edwardsi*

1メッシュ

やや情報不足

国外からの移入。



# 哺乳類分布図

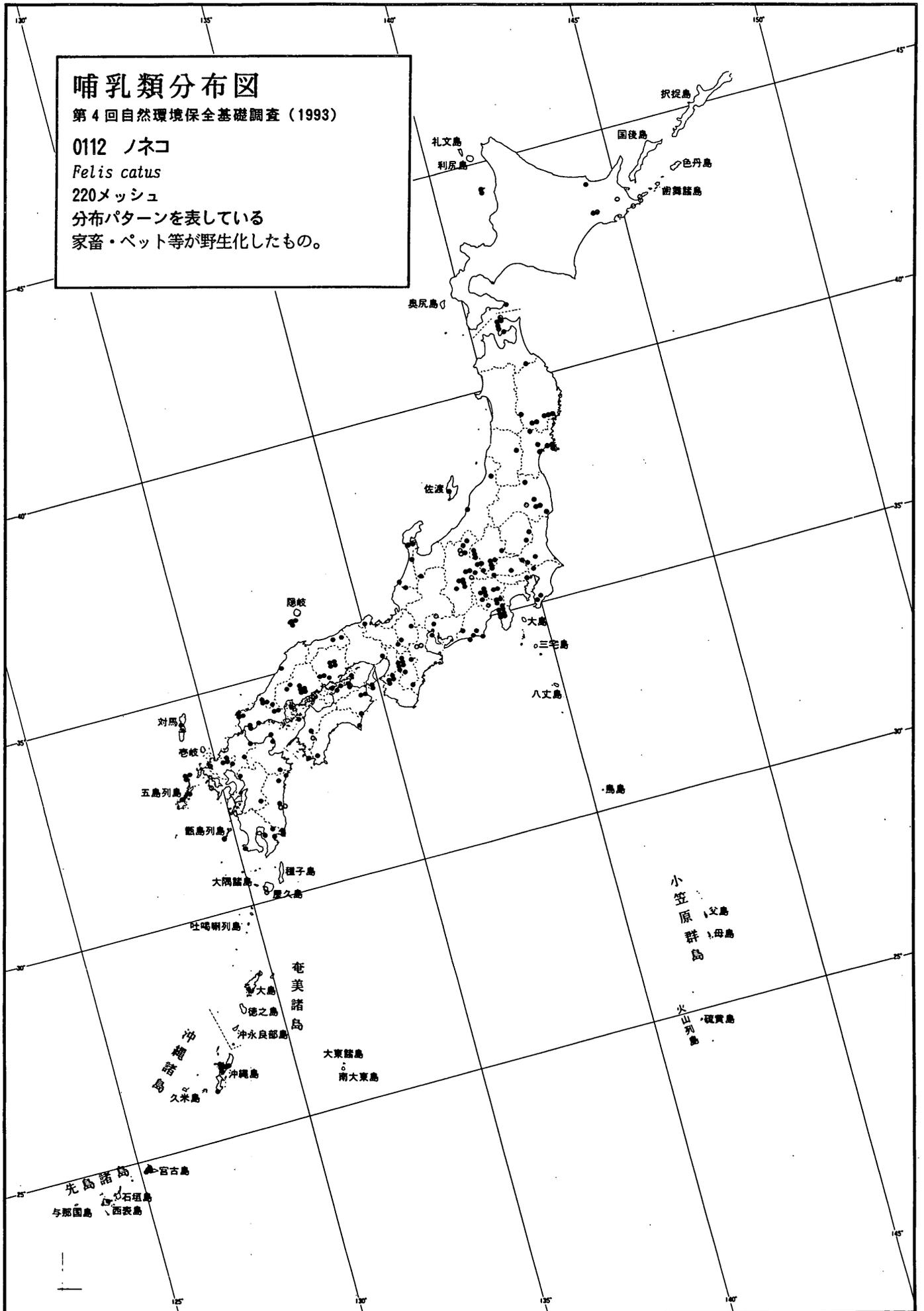
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0112 ノネコ

*Felis catus*

220メッシュ

分布パターンを表している  
家畜・ペット等が野生化したもの。



# 哺乳類分布図

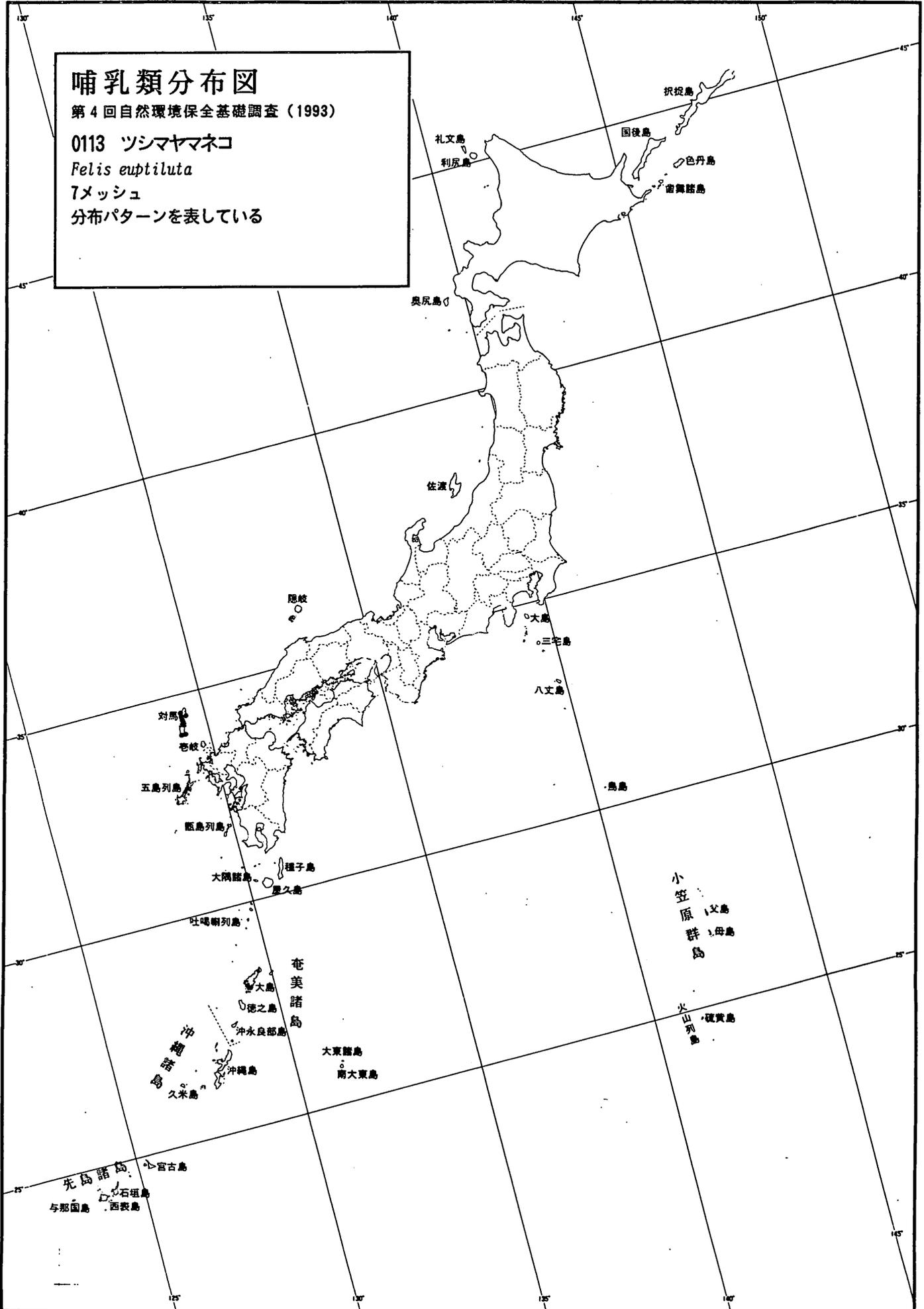
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0113 ツシマヤマネコ

*Felis euphilata*

7メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

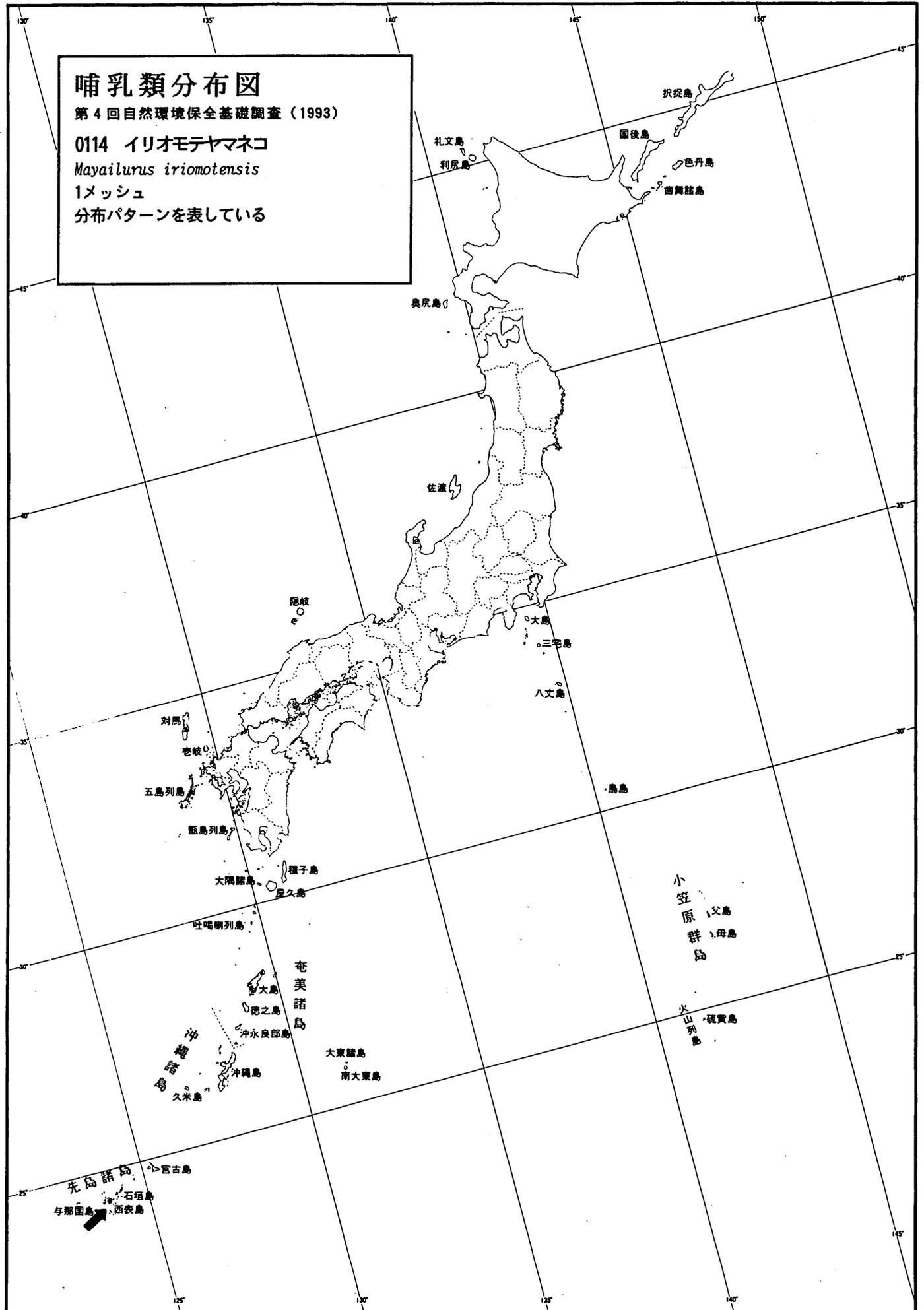
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0114 イリオモテヤマネコ

*Mayailurus iriomotensis*

1メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

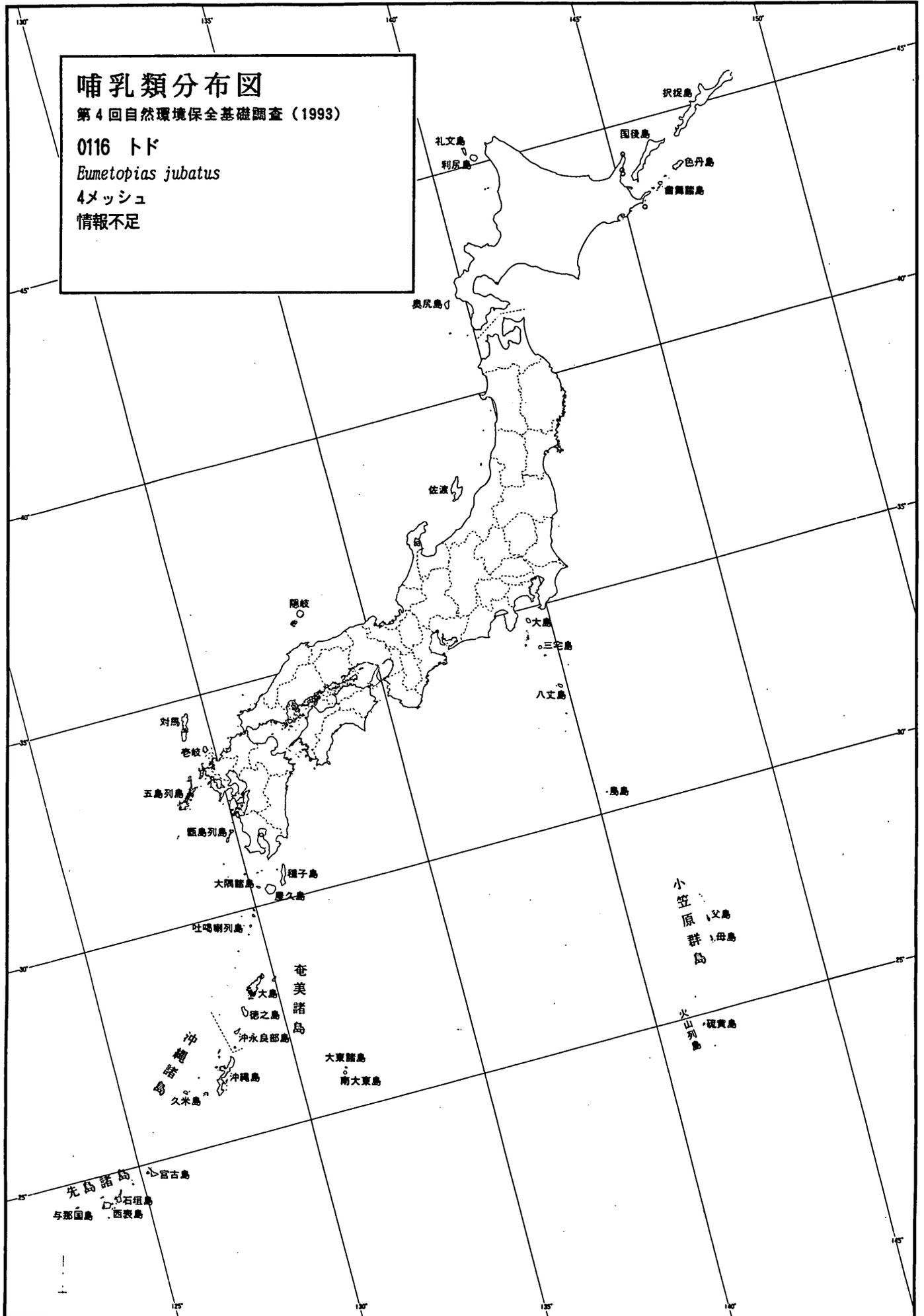
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0116 トド

*Eumetopias jubatus*

4メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

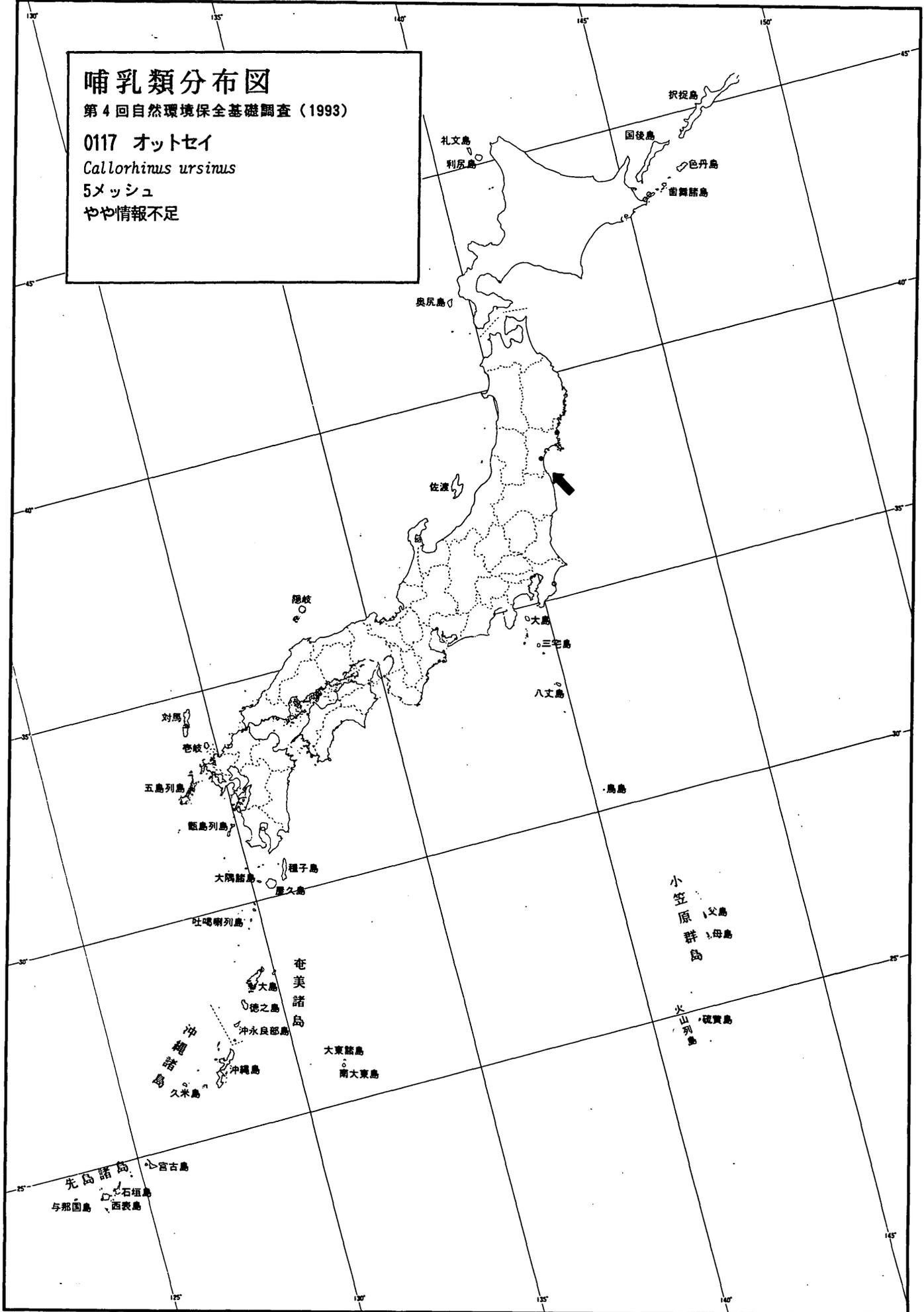
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0117 オットセイ

*Callorhinus ursinus*

5メッシュ

やや情報不足



# 哺乳類分布図

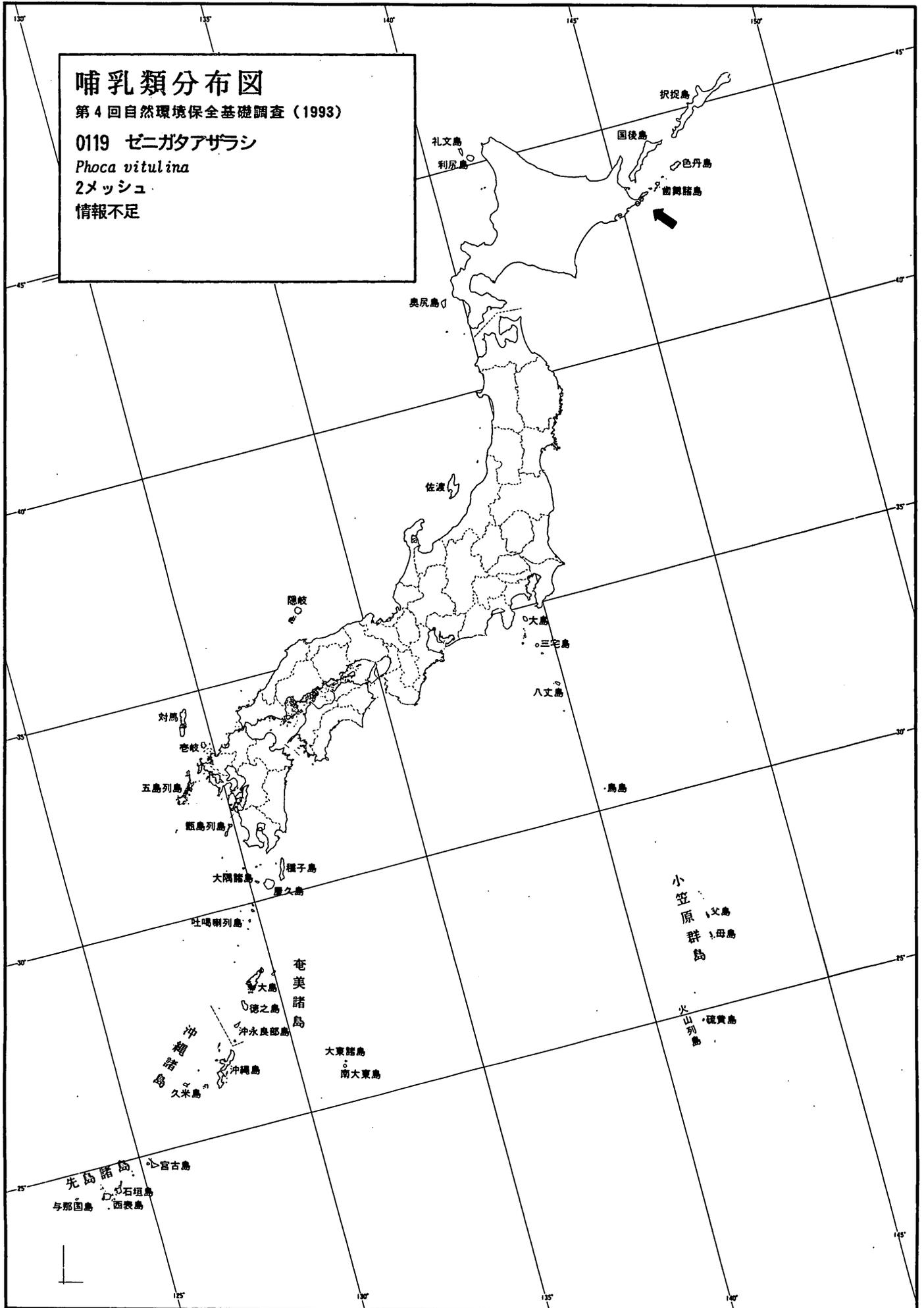
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0119 ゼニガタアザラシ

*Phoca vitulina*

2メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

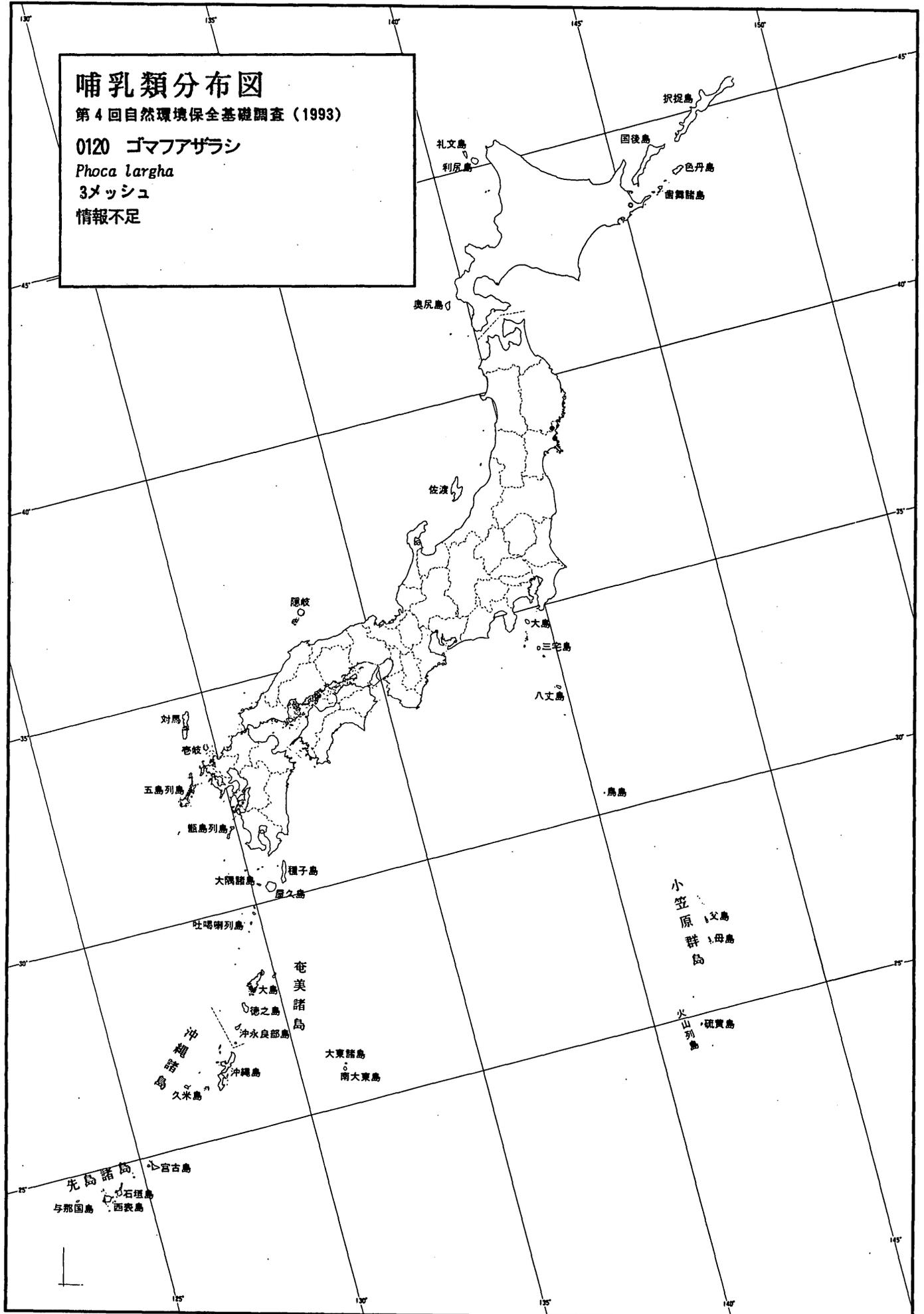
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0120 ゴマフアザラシ

*Phoca largha*

3メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

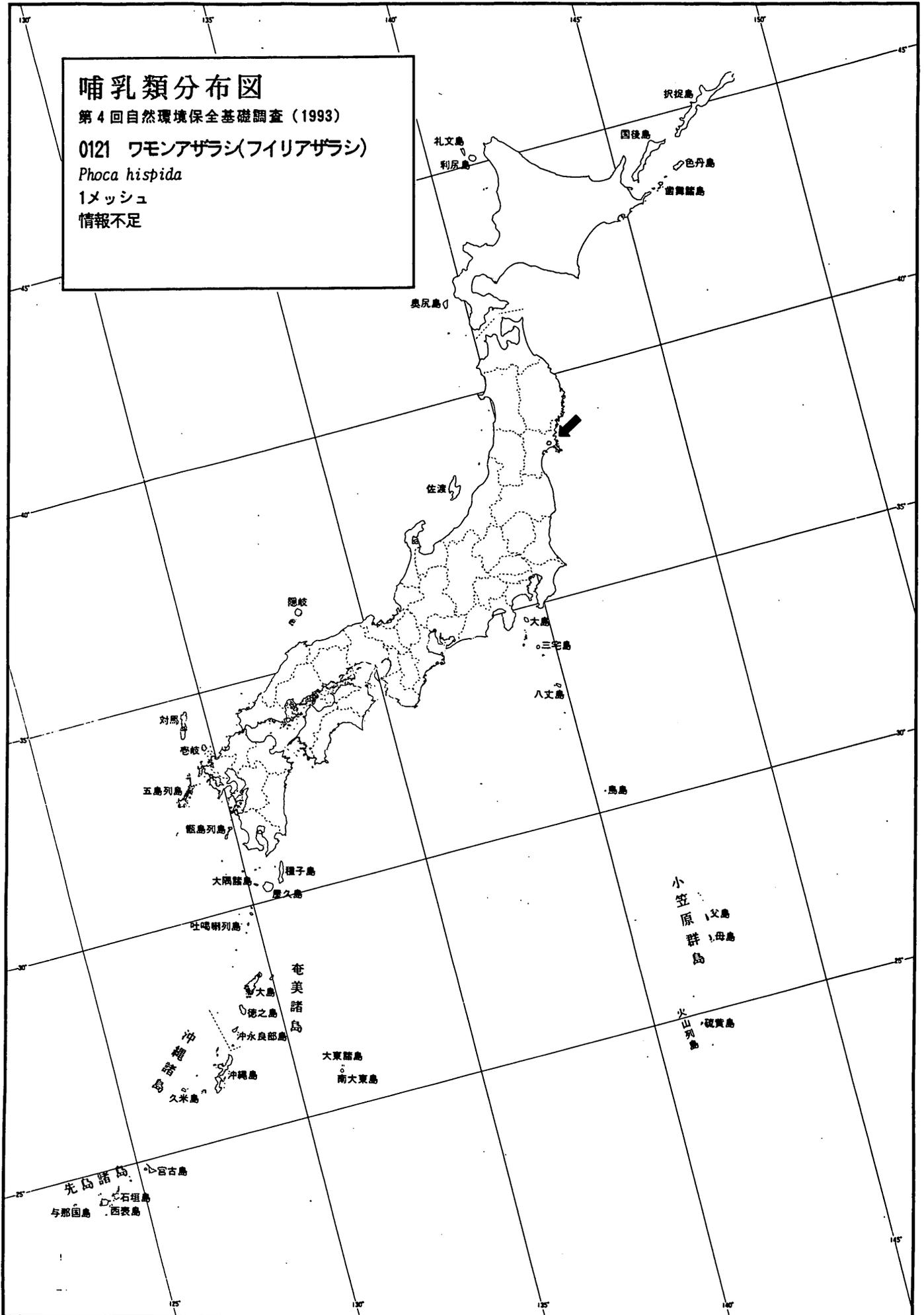
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0121 ワモンアザラシ(フィリアザラシ)

*Phoca hispida*

1メッシュ

情報不足



# 哺乳類分布図

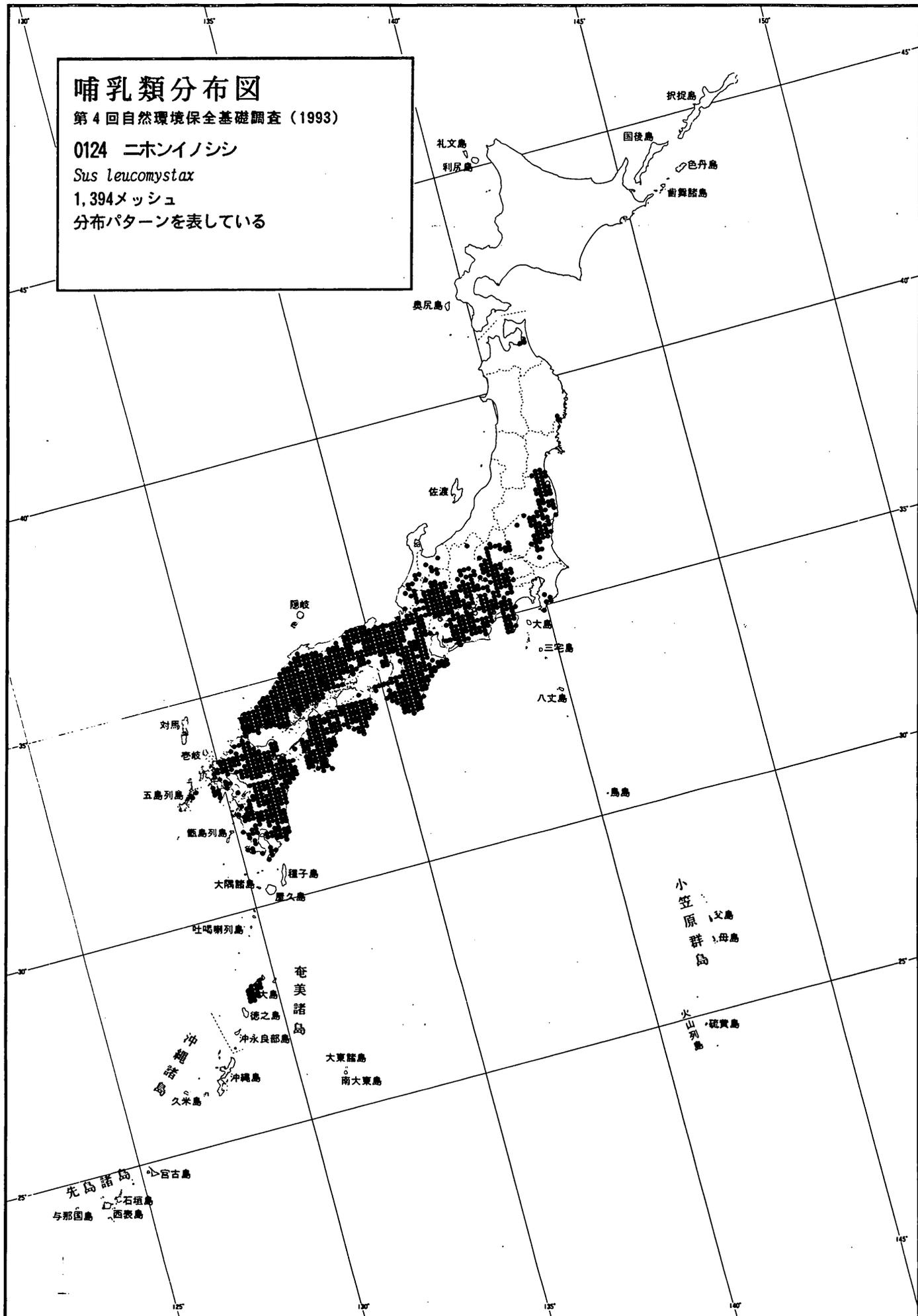
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

## 0124 ニホンイノシシ

*Sus leucomystax*

1,394メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

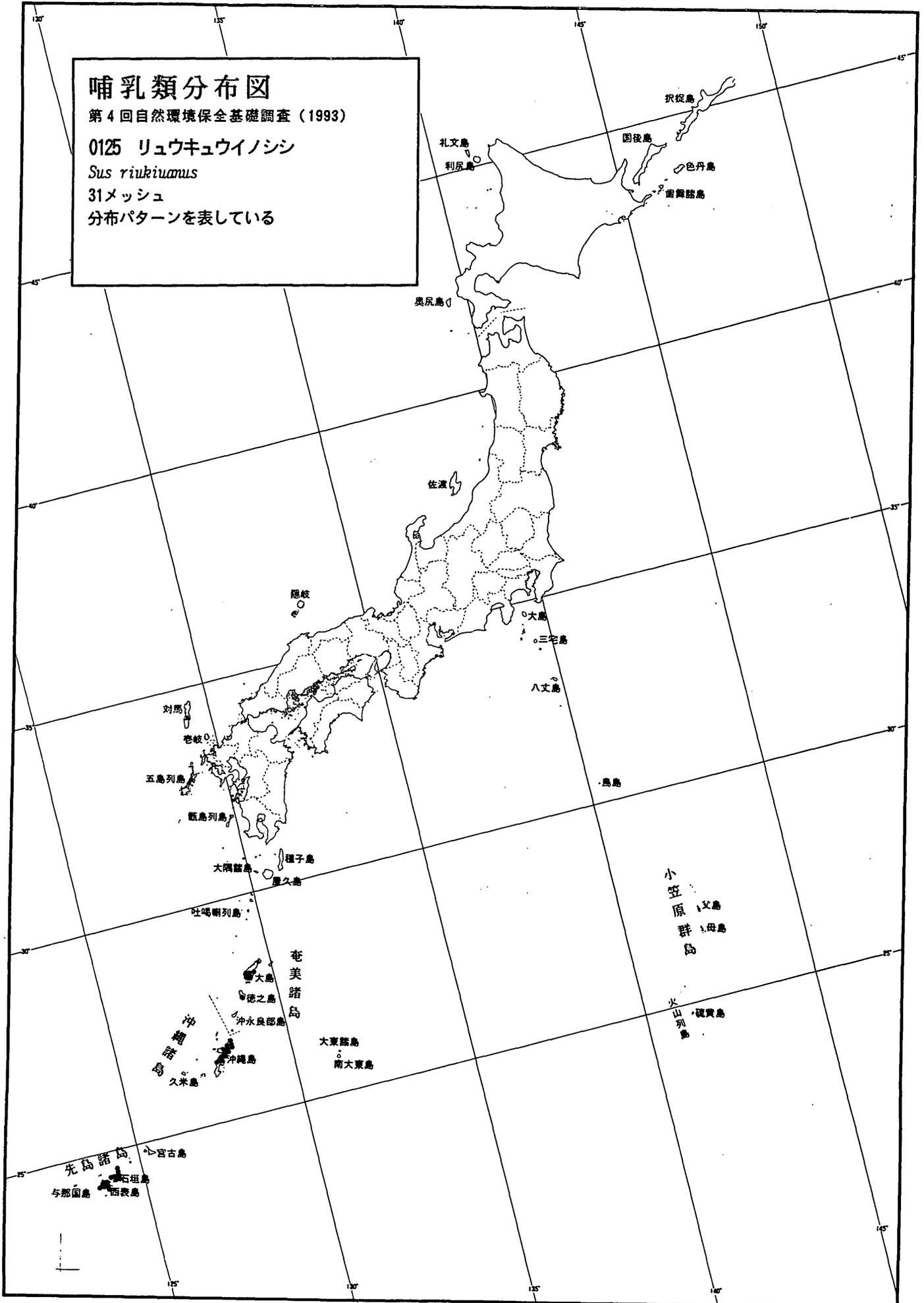
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0125 リュウキュウイノシシ

*Sus riukiuanus*

31メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

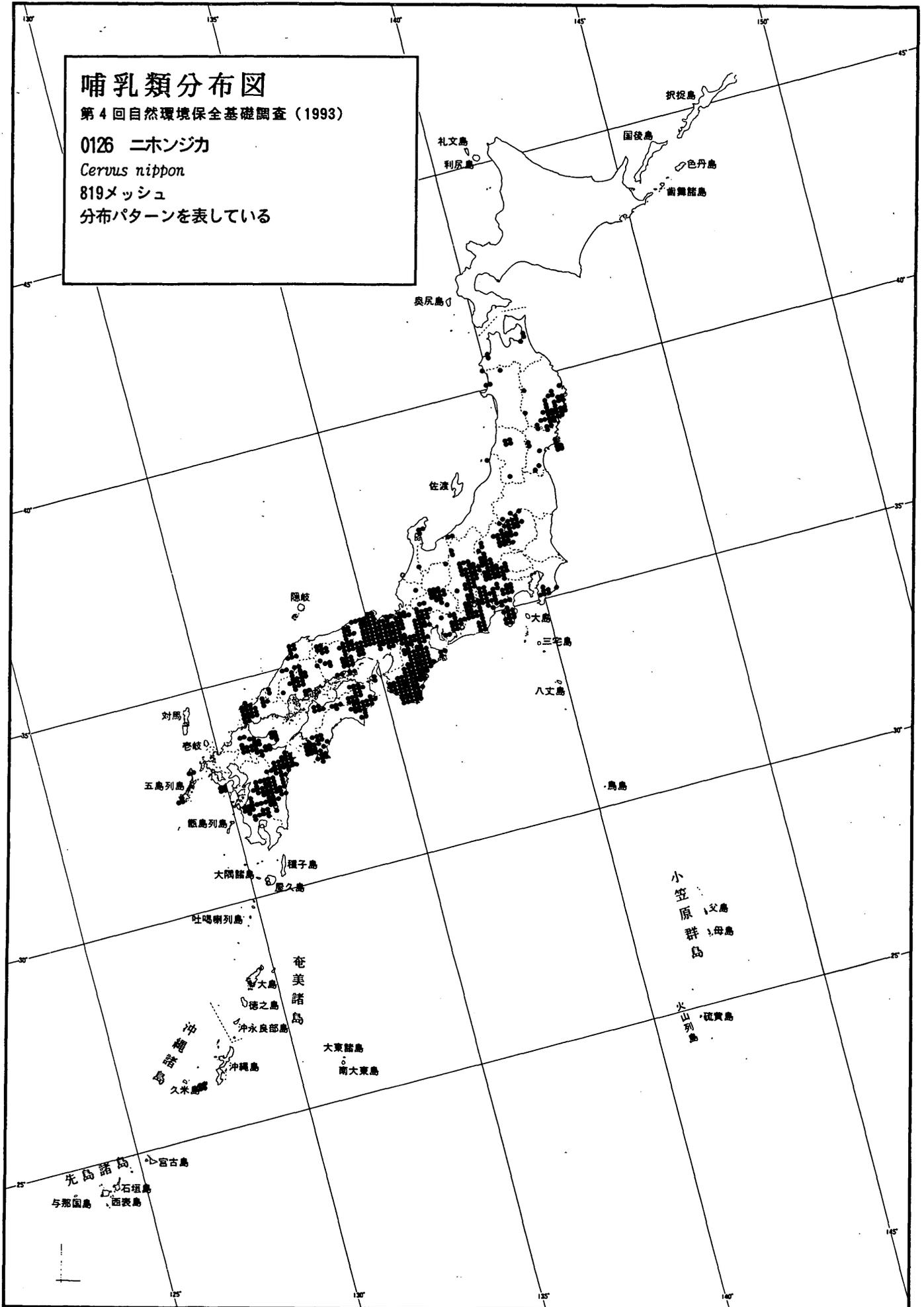
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0126 ニホンジカ

*Cervus nippon*

819メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

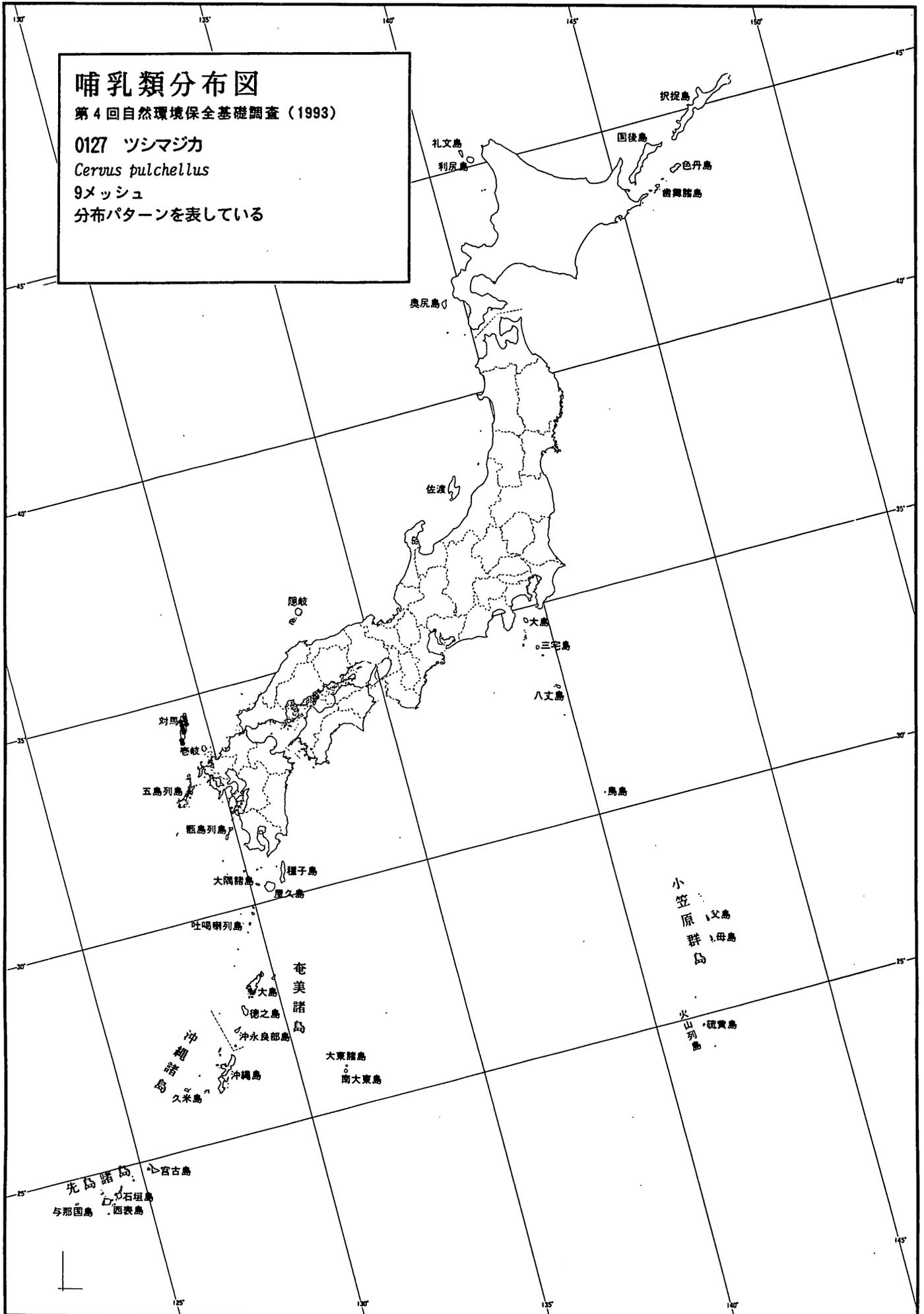
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0127 ツシマジカ

*Cervus pulchellus*

9メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

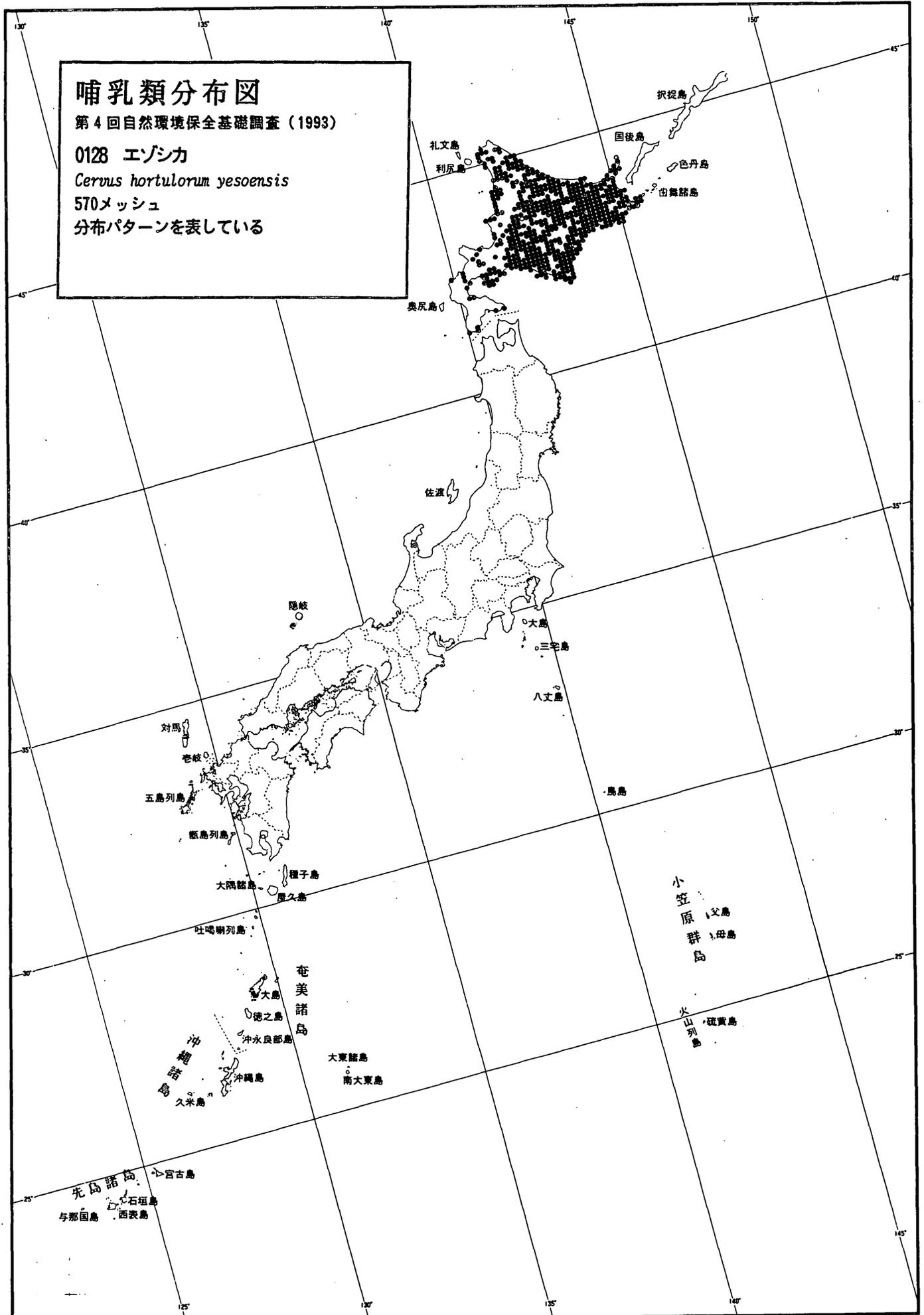
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0128 エゾシカ

*Cervus hortulorum yezoensis*

570メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

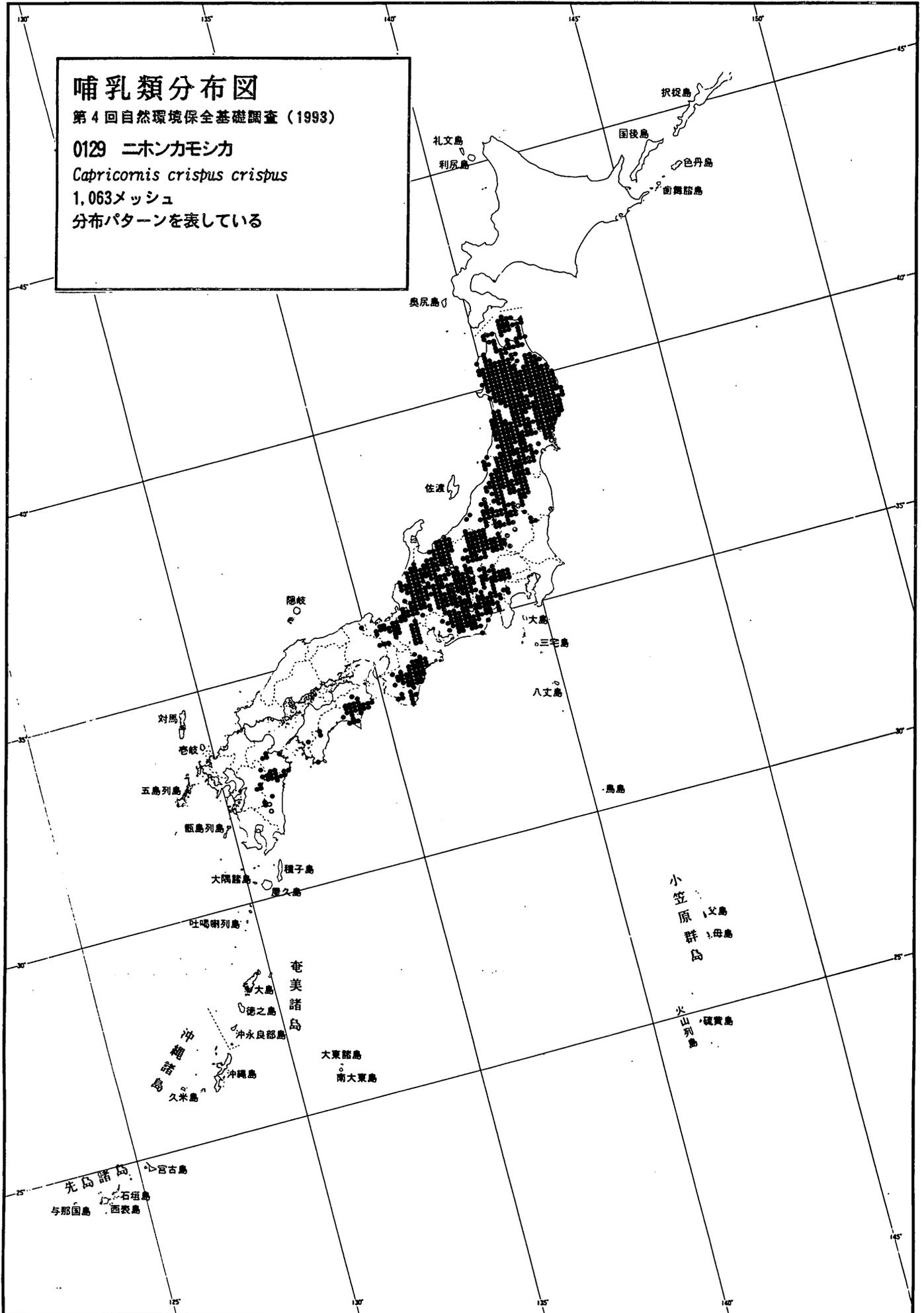
第4回自然環境保全基礎調査(1993)

0129 ニホンカモシカ

*Capricornis crispus crispus*

1,063メッシュ

分布パターンを表している



# 哺乳類分布図

第4回自然環境保全基礎調査(1993)

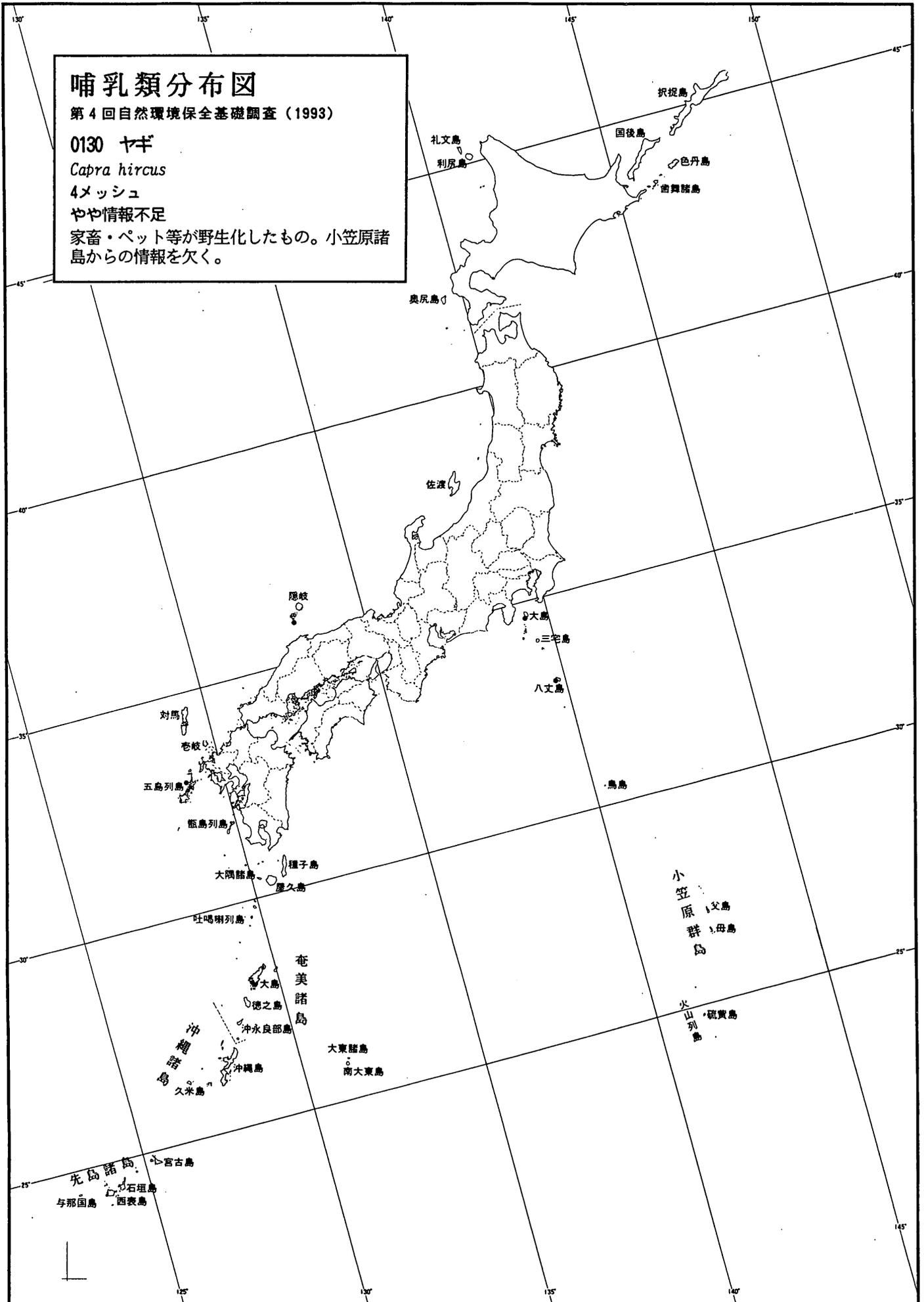
0130 ヤギ

*Capra hircus*

4メッシュ

やや情報不足

家畜・ペット等が野生化したもの。小笠原諸島からの情報を欠く。



## II. 集 計 表

調査対象種について、都道府県別の情報収集状況を把握するため、調査票に記載された3次メッシュ（およそ1 km×1 km）を単位として集計を行った。

配列は、分布図と同様、分類順（巻末資料「調査対象種一覧」に示された調査対象種・亜種の順）である。

なお、集計表に掲載されていない種は、報告が全く寄せられなかった9種（「I. 分布図」参照）の他に、2次メッシュ（およそ10km×10km）の報告のみであった以下の11種（亜種）である。

- 0020 オキナワオオコウモリ
- 0021 オガサワラオオコウモリ
- 0133 ヤエヤマコキクガシラコウモリ
- 0026 クロアカコウモリ
- 0029 ウスリホオヒゲコウモリ
- 0030 オゼホオヒゲコウモリ
- 0134 エゾホオヒゲコウモリ
- 0039 クロオオアブラコウモリ
- 0136 オガサワラアブラコウモリ
- 0137 コウライオオアブラコウモリ
- 0108 カウウン

本集計表は、報告のあった3次メッシュを種別・都道府県別に集計したものである。従って、分布図上に示された地点（2次メッシュ）数とは必ずしも一致しない。

同一種、同一3次メッシュにおいて、複数の調査員からの、あるいは異なる調査年月日の報告があった場合には重複を排除し、1件として集計した。

3次メッシュと都道府県との対応関係は、第3回自然環境保全基礎調査植生調査で作成された磁気データファイルによった。このデータファイルでは、3次メッシュが複数の県にまたがる場合、3次メッシュの中央に1/5万地形図上で直径5mmの測定円（約5ha）を設定し、その円内で最大面積を占める県をそのメッシュの代表県としている。このため、A県とB県にまたがる3次メッシュから情報が寄せられた場合、調査票にB県名が記入されている場合でも、A県の情報として集計されている可能性がある。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	北	青	岩	宮	秋	山	福	茨	栃	群	埼	千	東	神	新	富	石	福	山	長	岐	静	愛	三
	海	森	手	城	田	形	島	城	木	馬	玉	葉	京	奈	潟	山	川	井	梨	野	阜	岡	知	重
	道													川										
0001	アズミトカ	リネズ	ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	5	0	0	0	0
0002	チビトカ	リネズ	ミ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0003	カラフト	ヒメトカ	リネズ	ミ	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0004	シツウトカ	リネズ	ミ	119	4	10	0	0	1	6	0	0	1	0	2	1	10	0	3	18	1	0	0	0
0006	オオアツトカ	リネズ	ミ	181	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0131	サドトカ	リネズ	ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0007	コジ	ネズ	ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0008	オナカ	ジ	ネズ	ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0009	ジ	ネズ	ミ	5	6	5	4	0	1	4	0	1	0	5	0	7	3	0	1	8	6	6	27	1
0010	オリジ	ネズ	ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0011	ジャコウ	ネズ	ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0012	カワ	ネズ	ミ	0	3	1	2	0	0	0	0	5	0	0	1	0	3	0	0	4	3	3	6	0
0013	ヒメヒズ		0	9	11	1	0	3	22	0	0	1	2	0	1	3	4	11	0	4	26	2	7	0
0014	ヒズ		0	1	13	8	0	4	49	0	0	1	21	0	2	23	1	8	24	1	6	48	11	19
0015	ミズ	ラモク	ラ	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	0	4	8	1	2	0	1
0016	モク	ラ	0	1	10	15	2	0	6	0	0	0	13	0	9	20	6	0	7	0	3	19	5	9
0017	コウ	ベ	モク	ラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	3	1	0	10	2	8	26
0018	サド	モク	ラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0019	クビ	ワオ	コウ	モリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0022	キク	カ	シラ	コウ	モリ	0	6	23	1	3	0	0	0	0	5	0	2	0	4	6	0	0	1	7
0023	コキ	カ	シラ	コウ	モリ	0	4	8	1	0	0	0	0	2	0	4	0	2	3	0	2	1	2	3
0024	イリオ	モテ	コキ	カ	シラ	コウ	モリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0132	オキ	ナワ	コキ	カ	シラ	コウ	モリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0025	カ	ラ	コウ	モリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0027	モ	モジ	ロ	コウ	モリ	3	5	7	1	2	0	0	0	0	1	0	3	0	3	1	0	0	2	1
0028	ド	ベ	ント	コウ	モリ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0032	シ	ナ	ホ	オ	ヒ	ケ	コウ	モリ	0	4	23	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	5	2	0
0033	ヒ	メ	ホ	オ	ヒ	ケ	コウ	モリ	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0034	ク	ロ	ホ	オ	ヒ	ケ	コウ	モリ	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
0135	フ	ジ	ホ	オ	ヒ	ケ	コウ	モリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
0035	カ	グ	ヤ	コウ	モリ	6	4	20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	3	0	0	0
0036	ノ	レ	コウ	モリ	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0037	ア	ブ	ラ	コウ	モリ	0	2	2	4	0	0	0	0	5	0	7	0	0	1	0	0	1	8	3
0038	モ	リ	ア	ブ	ラ	コウ	モリ	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
0040	ヒ	メ	ホ	リ	カ	ワ	コウ	モリ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合
	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	広	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖	計
	賀	都	阪	庫	良	山	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	島	縄	
0001	アズミトガリネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0002	チビトガリネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0003	カラフトヒメトガリネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54
0004	シントウトガリネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	183
0006	オオアソトガリネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181
0131	サトトガリネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0007	コジネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
0008	オナガジネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7
0009	ジネズミ	3	1	0	1	0	1	1	0	1	0	4	0	1	3	6	0	0	9	1	1	12	0	143
0010	オリイジネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
0011	ジャコウネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	11	6	19
0012	カワネズミ	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	41
0013	ヒメヒミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	112
0014	ヒミス	6	2	0	1	2	5	2	2	1	5	1	2	0	3	0	8	0	8	10	2	0	10	349
0015	ミスラモグラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
0016	モグラ	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142
0017	コウハモグラ	0	0	0	3	3	0	2	0	5	0	2	0	1	0	9	0	5	3	3	0	16	0	111
0018	サトモグラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0019	クビワオコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	7	12
0022	キクガシラコウモリ	7	0	0	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	10	0	0	13	0	108
0023	コキクガシラコウモリ	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	14	1	59
0024	イリオモテコキクガシラコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
0132	オキナワコキクガシラコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
0025	カグラコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
0027	モモンロコウモリ	2	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	42
0028	トヘントソコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0032	シノホオヒゲコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
0033	ヒメホオヒゲコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0034	クロホオヒゲコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0135	フジホオヒゲコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0035	カグラコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
0036	ノレンコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	8
0037	アブラコウモリ	0	0	6	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	9	0	80
0038	モリアブラコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0040	ヒメホリカワコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	北	青	岩	宮	秋	山	福	茨	栃	群	埼	千	東	神	新	富	石	福	山	長	岐	静	愛	三	
	海	森	手	城	田	形	島	城	木	馬	玉	葉	京	奈	潟	山	川	井	梨	野	阜	岡	知	重	
	道													川											
0041	クビ`ワコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
0042	ヤマコウモリ	2	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	8	1	0	0	0	
0043	コヤマコウモリ	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0044	ヒナコウモリ	0	6	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
0046	チチブ`コウモリ	3	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0047	ウサキ`コウモリ	5	2	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	3	2	1	1	0	0	
0048	ニホンユビ`ナガ`コウモリ	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	13	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	
0049	リュウキュウユビ`ナガ`コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0138	ニホンテンク`コウモリ	1	2	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4	0	1	1	2	0	7	2	
0051	ニホンコテンク`コウモリ	10	3	20	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	0	4	3	0	0	
0052	クチハ`テンク`コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0053	オヒキコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0054	ニホンサル	0	90	12	61	52	146	185	3	87	377	90	183	67	29	307	215	28	122	251	462	432	250	220	412
0055	タイワンサル	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0056	ナキウサキ`	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0057	アマミノクロウサキ`	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0058	ユキウサキ`	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0059	ノウサキ`	2391	693	3198	846	3373	1906	1264	629	165	982	508	404	111	110	1716	680	434	147	208	1218	1476	1007	523	519
0060	カイウサキ`	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0061	タイワンリス	0	10	21	7	0	16	3	0	5	22	3	7	64	18	12	195	0	0	0	21	75	15	0	10
0062	エゾ`リス	1891	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0063	ニホンリス	0	211	1930	336	970	851	522	62	50	339	78	87	50	43	363	107	39	69	127	615	437	262	135	164
0064	シマリス	923	0	0	8	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	65	6	0	1	43	19	41	20	5	0
0065	ホント`モモンガ`	0	4	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	1	0	0	8	1	0	3	0	0
0066	エゾ`モモンガ`	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0067	ムササビ`	0	36	223	87	168	305	275	87	17	100	32	0	58	9	393	132	34	55	51	122	236	73	39	41
0068	ヤマネ	0	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	0	1	20	0	0	6	0	0
0069	ミカト`ネズ`ミ	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0070	エゾ`ヤチネズ`ミ	201	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0071	シコタンヤチネズ`ミ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0072	リシリムクゲ`ネズ`ミ	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0073	ミヤマムクゲ`ネズ`ミ	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0074	ニイガ`タヤチネズ`ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3	3	3	0	1	28	3	0	0	0	0
0075	トウホクヤチネズ`ミ	0	0	7	0	0	3	43	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0
0076	ワカヤマヤチネズ`ミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合
	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	広	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖	計
	賀	都	阪	庫	良	山	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	児	縄	
0041	クビ <sup>ワ</sup> コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0042	ヤマコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	25
0043	コヤマコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0044	ヒナコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
0046	チチブ <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0047	ウサキ <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
0048	ニホンユビ <sup>ナカ</sup> コウモリ	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	33
0049	リュウキュウユビ <sup>ナカ</sup> コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	9
0138	ニホンテング <sup>コウモリ</sup>	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	47
0051	ニホンコテング <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
0052	クチハ <sup>テング</sup> コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0053	オヒキコウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	6
0054	ニホンサル	306	211	2	92	230	24	10	348	278	474	565	88	33	134	142	10	13	5	108	106	95	33	7388
0055	タイワンサル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
0056	ナキウサキ <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
0057	アマミノクロウサキ <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7
0058	ユキウサキ <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91
0059	ノウサキ <sup>コウモリ</sup>	258	1047	95	317	525	356	363	1219	1936	3082	1814	430	138	717	745	218	175	374	756	811	470	248	40602
0060	カイウサキ <sup>コウモリ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0061	タイワンリス	4	6	1	3	5	8	0	0	0	0	0	0	50	41	0	0	0	0	0	1	0	0	623
0062	エゾ <sup>リス</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1891
0063	ニホンリス	165	331	12	73	169	15	0	7	105	149	50	131	13	282	147	2	3	0	5	1	20	0	9527
0064	シマリス	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1143
0065	ホント <sup>モモンカ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
0066	エゾ <sup>モモンカ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
0067	ムササビ <sup>コウモリ</sup>	33	34	1	6	134	13	13	198	27	5	198	183	48	240	201	19	0	0	196	90	130	58	4400
0068	ヤマネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	50
0069	ミカド <sup>ネズミ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114
0070	エゾ <sup>ヤチネズミ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201
0071	シコタンヤチネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0072	リソリムクゲ <sup>ネズミ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
0073	ミヤマムクゲ <sup>ネズミ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
0074	ニイカ <sup>ヤチネズミ</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
0075	トウホクヤチネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
0076	ワカヤマヤチネズミ	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	北	青	岩	宮	秋	山	福	茨	栃	群	埼	千	東	神	新	富	石	福	山	長	岐	静	愛	三	
	海	森	手	城	田	形	島	城	木	馬	玉	葉	京	奈	潟	山	川	井	梨	野	阜	岡	知	重	
	道													川											
0077	か	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	2	0	0	0	0	4	18	2	4	7	0	
0078	スミス	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	4	4	1	0	7	3	6	2	1	
0079	ハタ	0	5	10	26	3	4	23	0	0	1	6	0	3	6	2	1	2	0	1	20	0	3	14	0
0081	アカ	159	7	10	9	0	8	78	2	4	1	45	0	11	28	4	4	14	3	2	64	17	14	49	5
0083	カラフト	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0084	ヒメ	123	5	10	9	0	6	79	1	0	1	16	0	2	21	3	5	12	5	7	69	11	13	22	1
0086	カヤ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	4	4	0	0	0	1	0	1	1	1	26	1
0087	ハツカ	17	0	1	2	0	1	2	0	0	0	4	0	2	7	0	0	4	0	0	4	1	1	22	0
0088	オキナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0089	アマミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0090	クマ	4	0	0	5	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	3	0	1	4	0	
0091	トブ	35	1	0	7	0	0	3	0	0	1	6	0	3	2	1	0	1	0	0	9	1	0	6	0
0092	ケナガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0093	ヌートリア	0	31	1	4	0	0	0	0	0	2	9	2	0	0	0	1	0	37	10	188	4	29	39	
0094	ヒク	1793	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0095	ツキノ	0	146	854	237	915	784	383	0	49	323	15	0	28	4	504	433	159	73	113	455	434	30	1	13
0096	アライ	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	12	49	0	5	0	
0097	タヌキ	1144	262	1778	622	691	1264	790	386	127	788	230	319	45	88	866	341	310	97	232	829	769	609	218	409
0098	キツネ	8279	187	2250	480	810	489	663	111	194	512	100	0	30	45	300	230	312	86	291	878	532	385	242	234
0099	ノイヌ	18	9	5	12	0	1	23	12	9	19	5	7	2	0	3	0	9	0	9	9	4	23	4	0
0100	テン	17	227	1029	306	826	940	502	11	36	256	26	29	29	20	622	281	347	82	34	464	619	77	47	140
0101	クロテン	444	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0102	チョウセン	0	33	3	0	154	32	0	4	0	8	2	0	0	0	1	40	26	0	1	10	8	0	13	7
0103	イタチ	660	142	906	274	814	712	633	345	165	401	473	321	36	24	564	301	301	109	83	357	569	409	240	389
0104	イズナ	36	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0105	オコ	4	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	2	0	0	6	0	0	0	0
0106	ミンク	891	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0107	アナ	0	82	643	86	267	349	158	1	3	136	24	16	2	14	266	158	77	61	18	76	283	51	36	111
0110	ハク	77	14	0	63	4	338	419	93	13	59	17	2	8	14	51	60	18	3	58	183	158	282	126	7
0111	インド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0112	ノネコ	25	7	9	25	0	1	16	4	2	14	3	3	1	0	6	1	7	0	7	18	0	21	5	0
0113	ツシマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0114	イリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0116	トト	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0117	オット	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	広	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖	合
	賀	都	阪	庫	良	歌	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	児	縄	計
0077 ｶﾞﾞﾞﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
0078 ﾏﾞﾞ	7	1	0	1	2	0	2	0	1	0	2	25	0	2	0	3	0	0	3	4	0	0	0	85
0079 ﾊﾞ	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	3	0	0	0	143
0081 ﾏﾞ	4	5	2	5	4	5	2	2	1	1	3	3	0	0	0	13	0	17	11	4	0	15	0	635
0083 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
0084 ﾋﾞ	6	10	0	2	7	8	1	0	1	1	2	4	0	2	0	8	0	14	9	3	1	6	0	506
0086 ﾎﾞ	2	1	2	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	2	0	5	4	0	0	3	0	74
0087 ﾊﾞ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	5	0	4	3	0	0	14	1	101
0088 ﾎﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
0089 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
0090 ﾎﾞ	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	34
0091 ﾏﾞ	0	0	2	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	4	0	91
0092 ﾎﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
0093 ﾏﾞ	0	143	0	33	2	0	13	4	797	66	40	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1460
0094 ﾋﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1793
0095 ﾏﾞ	109	138	0	45	36	4	52	128	26	124	75	7	1	1	3	0	0	0	9	5	0	0	0	6716
0096 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72
0097 ﾏﾞ	322	866	44	555	340	135	433	1281	1459	2359	1814	229	78	598	489	142	143	438	507	638	551	294	0	26929
0098 ﾏﾞ	424	753	16	400	181	14	254	646	1130	1086	1154	19	12	531	144	96	101	116	158	222	92	11	0	25200
0099 ﾏﾞ	11	11	1	5	24	12	1	10	12	12	37	8	25	11	11	7	14	14	10	5	9	11	11	455
0100 ﾏﾞ	123	363	10	130	99	21	213	439	151	266	523	118	24	103	40	16	54	135	279	206	120	27	0	10427
0101 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	444
0102 ﾏﾞ	55	123	4	75	31	2	27	51	146	1987	380	3	55	91	4	4	40	30	7	95	4	15	0	3571
0103 ﾏﾞ	406	582	12	228	191	22	182	459	719	1375	1248	355	50	504	649	181	177	267	280	443	471	142	9	18180
0104 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
0105 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
0106 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	891
0107 ﾏﾞ	95	220	1	26	16	14	71	187	42	9	251	60	4	55	72	5	2	7	71	108	30	14	0	4278
0110 ﾏﾞ	0	3	0	12	14	23	0	2	17	0	81	221	1	381	255	2	8	0	0	0	1	0	0	3088
0111 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
0112 ﾏﾞ	4	10	0	4	13	16	1	17	11	6	18	2	5	4	2	3	36	16	6	1	10	7	13	380
0113 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	19
0114 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
0116 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0117 ﾏﾞ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

	1 北 海 道	2 青 森	3 岩 手	4 宮 城	5 秋 田	6 山 形	7 福 島	8 茨 城	9 栃 木	10 群 馬	11 埼 玉	12 千 葉	13 東 京	14 神 奈 川	15 新 潟	16 富 山	17 石 川	18 福 井	19 山 梨	20 長 野	21 岐 阜	22 静 岡	23 愛 知	24 三 重
0119 セニガタサザン	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0120 ゴマアサザン	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0121 ワモンアサザン(フイリアサザン)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0124 ニホンイノシシ	0	8	2	52	0	0	216	235	53	209	46	10	35	40	0	4	13	66	254	565	715	607	287	665
0125 リュウキュウイノシシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0126 ニホンジカ	0	14	429	50	3	12	10	0	140	173	29	92	80	31	33	1	5	42	113	445	166	307	106	527
0127 ツシマジカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0128 エゾジカ	6640	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0129 ニホンカモシカ	0	525	2379	351	2143	1475	899	39	46	680	33	0	76	11	563	455	179	116	105	1407	868	355	287	185
0130 ヤキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	合
	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	広	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖	計
	賀	都	阪	庫	良	山	取	根	山	島	口	島	川	媛	知	岡	賀	崎	本	分	崎	島	縄	
0119 セニカ <sup>タ</sup> アサ <sup>ラ</sup> シ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0120 ゴマアサ <sup>ラ</sup> シ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0121 ワモンアサ <sup>ラ</sup> シ(フイリアサ <sup>ラ</sup> シ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0124 ニホンイノシシ	412	570	26	659	646	702	249	1255	1065	2730	2395	282	5	666	600	155	141	62	491	1081	582	740	0	19596
0125 リュウキュウイノシシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	236	247
0126 ニホンジカ	303	629	33	708	486	411	34	54	200	280	349	72	13	115	282	17	0	34	202	334	256	59	12	7691
0127 ツンマジカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	143	0	0	0	0	0	143
0128 エゾジカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6640
0129 ニホンカモシカ	249	84	3	0	252	34	0	0	0	0	0	74	0	1	37	0	0	0	17	59	39	0	0	14026
0130 ヤキ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

### III. 考 察

#### （総 論）

(1) 本邦から記録されている哺乳類135種のうち126種について分布情報が得られた。前回より総種類数がふえているのは、主として一部専門家による種認定に変化があったことによるものであるが、わが国の哺乳類にはまだ分類上に問題を残しているものが多い。したがって、得られた情報の中には一部に種判定等の誤認と思われるものがあつたものの、必ずしもそうとはいえないもの、すなわち、異なる種認識の立場から判定されたと思われるものもあつた。この場合、提供された分布情報だけから今回の基準による種判定に合わせて分布を調整することは難しいものである。前者に属するものには鹿児島県のモグラ、本州でのユキウサギ、エゾリス、エゾシカ、ヒグマ、クロテンなどがある。また、後者としては、離島など地理的分布境界の明らかなものを除き、例えば本州におけるスミスネズミとカゲネズミのように、2種を同種とする立場から寄せられた分布情報の場合、どこでそれらを分割するかは必ずしも容易でない。これらに関しては分類の完成（一般的合意）を待たなければならないものである。これに類するものには北海道におけるリシムクゲネズミとミヤマムクゲネズミ、本州におけるニイガタヤチネズミとトウホクヤチネズミなどがある。なお、既往の知見からみて現情報の完成度を分類すると次のとおりである。

#### A. およその分布パターンを示すもの

今回の調査によって、多くの種では前回のものに比して著しく情報量が増加した。特に前回全般に情報が少なかった広域分布種や普通種についての分布情報が増加した結果、それらでは既往知見に近い分布状況を示すものとなった。もちろん、生息が予想される区画での情報を欠いている部分はまだ多いけれども、今回の調査により、以下のB、Cを除く日本産哺乳類の大部分の種の分布はその概要が示されたといえる。

#### B. やや情報不足のもの

一部の種においては、既知分布域内主要部の情報は得られたものの、一部の地域ではそれを完全に欠いている。そのような例としては次のようなものがある。すなわち、キクガシラコウモリとコキクガシラコウモリは北海道、ヒナコウモリは北海道と四国、チチブコウモリとウサギコウモリは四国、ナキウサギは夕張岳山系、ホンドモモンガとヤマネは四国など、そのほかオナガジネズミ、カワネズミ、ユキウサギ、オキナワハツカネズミ、クロテン、オットセイなども一部の地域での分布情報を欠いている。

#### C. 情報が著しく不足しているもの

回遊性のトド、ゼニガタアザラシ、ゴマフアザラシ、ファイリアザラシなどは情報提供者や分布情報がきわめて限られている。また今回情報が全く得られなかったものは、すでに絶滅したと考えられているオキナワオオコウモリ、エゾオオカミ、ホンドオオカミ、アシカのほか、回遊性で情報提供者の得られなかったラッコ、アゴヒゲアザラシ、クラカケアザラシ、セイウチ、また、分布が限られ情報のなかったものにオガサワラオオコウモリ、オゼホオヒゲコウモリ、エゾホオヒゲコウモリ、ウスリホオヒゲコウモリ、クロアカコウモリ、オガサワラアブラコウモリ、クロオオアブラコウモリ、コウライアブラコウモリ、マスクラット、セスジネズミ、カニク

イアライグマなどがある。

- (2) わが国あるいはその一部において本来の土着動物でないもの、すなわち、導入動物が帰化定着している情報が多数寄せられた。タイワンザル、カイウサギ、タイワンリス、シマリス（本州、四国、九州）、ヌートリア、アライグマ（カニクイアライグマを含む）、テン（北海道）、チョウセンイタチ、ミンク、ハクビシン、インドマングースなどがそれである。これらはいずれも種間競争という形で土着動物に大きな影響を与えるものと考えられるが、詳しい調査はほとんど行われていない。物理環境に変化がない場合でも、帰化動物と土着動物の種間競争によって劣性種が絶滅あるいは著しく個体群を縮小させることがある。北海道における侵入イタチとの関係によるオコジョの減少、ミンクとの関係によるイタチ個体群の著しい衰退などがそのよい例である。したがって、導入動物の野外放逐などを厳しく規制する措置が必要である。
- (3) 現今各種の学術調査、学術研究用の捕獲許可とその事後報告、環境調査あるいは各種開発事業にともなう環境影響調査等の中で、多くの哺乳類についての膨大な分布資料が採集されている。しかし、現在のところこれらの情報を機能的に収集するシステムは作られていないため、多くの情報が無為に消失あるいは埋もれているものと思われる。これらの情報をメッシュデータとして収集記録するシステムを作るべきである。

（阿部 永）

## 〈各 論〉

### 1. モグラ目（食虫目）

日本では18種の食虫類が記録されており、それぞれについて分布情報が寄せられた。なお、第4回調査の情報は第3回調査での情報空白地帯のものが中心となっているものの、北海道北部の情報が総じてまだ少ない。

アズミトガリネズミの既知の分布は長野県を中心とした本州中部の山岳部（今泉、1970）に限られており、また、チビトガリネズミ（トウキョウトガリネズミ）に関する最近までの正確な記録は北海道内の6箇所（阿部、1961、小宮、1972、近藤、1986、島崎・正富、1986、Ohdachi & Maekawa, 1990）に限られており、今回の分布情報はそれらをほぼ満たしている。

カラフトヒメトガリネズミは礼文島、利尻島を含む北海道のほぼ全域に分布するが、道央の平地や道南部では稀で、道北部、道東部の平地および道央部の高地では普通種である。今回の分布情報では道南のものを欠き、道北での情報も少ない（阿部、1984、小原・奈良、1984）。

シントウトガリネズミのうち亜種シコクトガリネズミは愛媛県佐々連尾山、下兜山、徳島県剣山、亜種ホンシュウトガリネズミは本州中部以北の山地、また亜種エゾトガリネズミは北海道本島全域に広く分布している。しかし、今回の調査結果では本州北部の情報が増加し、この地域における分布の連続性を示唆する状態となった。北海道では道北、道南の記録を欠くか、または少なく、調査が進めば分布はさらに連続的に広がるものと予想される。

オオアシトガリネズミは礼文島、利尻島、厚岸大黒島などを含む北海道において最も優勢なトガリネズミで、生息数も多い。今回の結果は道北、道南など広い地域で情報を欠く部分をもつが、調査が進めば少なくとも本島ではほぼ全区画に出現するものと予想される。

サドトガリネズミは既知分布を示している。

コジネズミ（チョウセンコジネズミ）は、わが国では対馬の南北両島にのみ分布しており、今回の情報は既知分布を示している。河畔や低地林縁では決して少ない動物ではないと思われる。

オナガジネズミ（ワタセジネズミ）は奄美大島、徳之島、伊江島、与論島、沖縄本島、沖永良部島などから知られており（今泉、1970）、奄美大島などでは生息数が多く、普通種である。今回の情報はまだ不完全である。

ジネズミは日本列島に広く分布している。すなわち、吐噶喇列島中之島、種子島、屋久島、五島、沖ノ島、九州、四国、山口県見島および相島（宮尾ら、1981）、隠岐島、佐渡、粟島（宮尾ら、1982）、伊豆七島新島、本州、北海道である。今回の調査では前回よりも情報量が著しく増加し、本州全域での分布を示唆するまでになった。しかし、本州、四国、九州ともまだ未記録県が多く、今後埋めていくべきである。北海道では石狩低地帯周辺以南でごく少数が記録されているだけで（Nakata、1981）、今回の記録はほぼ既知分布の現状を満たしている。

オリジネズミは奄美大島に限産し、今回の記録は分布の現状を満たしている。

ジャコウネズミは長崎、鹿児島、五島および南西諸島に分布する。今回の調査では奄美大島や宮古列島などの情報を欠いているものの、前回よりは既知分布に近いものとなった。

カワネズミは本州、四国、九州に分布するが、今回の調査では四国からの情報を欠き、本州での分布情報も前回よりはふえたものの、中部を除けば各地に孤立している状態である。調査が進めば山岳地にもう少し広く分布するものと思われる。

ヒメヒミズは九州では祖母山と九重山で（内田・吉田、1968）、四国では愛媛県石槌山、佐々連尾山、下兜山（Abe、1967）、本州では中部以北の高山（今泉、1970）および紀伊半島大台ヶ原山（Kobayashi et al., 1970）などから知られている。今回の調査では本州中部以北の情報が増加し、この地域での分布の連続性がみられるようになった。

ヒミズは本州、四国、九州、五島、対馬、山口県見島（宮尾ら、1981）、隠岐島、粟島（宮尾ら、1982）などに分布しているが、今回の結果では小さな離島からの情報を欠いている。本州、四国、九州の情報は前回に比して著しく増加したが、まだ少数の県においてそれを欠いている。調査が進めば山岳地帯ではほぼ全区画に出現することが予想される。

ミズラモグラは広島県の山地、本州中部の山岳地、岩手県、青森県の山地など、限られた孤立分布地が知られている（今泉、1970）。今回の分布情報はその主要部を満たしているが広島県や京都府のものを欠いている。

モグラは長野県付近を境界として本州の中部以北に広く分布し、その他に広島県の山地、紀伊半島の山地、小豆島、愛媛県石槌山、徳島県剣山などにも小個体群が分布している（Abe、1985）。今回の分布情報はその概要を示しているが、広島県や京都府の孤立分布を欠き、本州北半部の情報欠失部でも平野部では連続した分布がみられるものと思われる。

コウベモグラは本州中部以南の大部分と、四国、九州、種子島、屋久島、五島、対馬、隠岐島などに分布しており、今回の分布情報はその概要を示している。この地域の情報欠失地域でも、少なくとも平野部には連続した分布がみら

れるものと思われる。

サドモグラは佐渡と新潟平野のうち佐渡寄りの中心部分だけに分布しており、この平野の周辺においてアズマモグラと分布を接している (Abe, 1967、今泉、1970)。今回の分布情報はこれらの分布の主要部分を示しているといえる。

(阿部 永)

## 引用文献

- 阿部 永、1961. 北海道にて採集された稀種オヒキコウモリ及びトウキョウトガリネズミについて、哺乳学誌. 2:3-7.
- Abe, H. 1967. Classification and biology of Japanese Insectivora (Mammalia). I. Studies on variation and classification. J. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 55:191-265.
- 阿部 永、1984. ネズミ類、トガリネズミ類. 北海道の自然. 23:25-29
- Abe, H. 1985. Changing mole distributions in Japan. Contemporary Mammalogy in China and Japan (Ed. T. Kawamichi). pp.108-112.
- Arai, S., T. Mori, H. Yoshida & S. Shiraishi. 1985. A note on the Japanese water shrew. Chimarrogale himalayica platycephala from Kyushu. J. Mamm. Soc. Japan. 10:191-203.
- 今泉吉典、1970. 日本哺乳動物図説、上巻、新思潮社
- 今泉吉晴、今泉忠明、1970. 新潟平野におけるコモグラとサドモグラの種間関係. 1、地理的分布. 哺乳学誌. 5:15-18
- Kobayashi, T., H. Abe & K. Maeda. 1970. Faunal Survey of the Mt. Ohdaigahara Area. JIBP supplementary area-IV. Report of the small mammal fauna of the Mt. Ohdaigahara Area, Kii Peninsula. Ann. Rep. JIBP/CT-S Fisc. Year 1969. pp. 317-320.
- 小宮輝之、1972. 北海道産トウキョウトガリネズミの採集記録. 5:195
- 近藤憲久、1986. 哺乳類. 道立自然公園総合調査 (厚岸道立公園) 報告書. 北海道自然保護協会. pp.129-139
- Nakata, K. 1981. Notes on Crocidura dsinezumi (Temminck) from Hokkaido, Japan. J. Mamm. Soc. Japan. 8:213-214.
- 宮尾嶽雄・花村肇・酒井英一・植松康・子安和弘・高田康司、1981. 山口県見島および六島諸島の哺乳動物相. 哺乳学誌. 8:203-210
- 宮尾嶽雄・高田靖司・酒井英一・植松康・子安和弘・花村肇、1982. 新潟県粟島の哺乳動物相. 哺乳学誌. 9:37-91
- 小原良孝・奈良典明. 1984. 青函トンネル及び津軽海峡沿岸部の食虫類、ネズミ類 (I) 分布調査. 昭和55-58年度特定研究報告書. 青函トンネル開通が陸上生態系に与える影響に関する調査研究 (弘前大学教養部) pp.5-17
- Ohdachi, S. & K. Maekawa, 1990. Geographic distribution and relative abundance of four species of soricine shrews in Hokkaido, Japan. Acta Theriol. 35:261-267
- 島崎伸子・正富宏之. 1986. サロベツ原野長沼周辺のとガリネズミ類. Wildlife Report 4:49-56
- 内田照章・吉田博一. 1968. 九州のヒメヒミズ Dymecodon pilirostris True とくに分布と形態について. 哺乳類化学. 16:17-26

## 2. コウモリ目(翼手目)

Corbet & Hill(1991), Corbet & Hill(1992)は世界の翼手類について、その種数を977種とし、げっ歯類につぐものとしている。Corbet & Hill(1980)は同類を950種と記録し、約10年の間に27種も種数が増加している。このように、種の数や種の分類学的地位には変動がある。とくに、小型の哺乳類には新種の発見や分類学的地位の変動が大型または中型のものより多い。日本の翼手類においても同様で、前回においては種数は35種(前田,1984,1986)とされていたが、今回は4種が追加され、39種の情報が網羅されている。4種の内訳は新記録のもの(Yoshiyuki et al. 1989)、分類学的に再査した結果、種として昇格したもの(Yoshiyuki, 1989)などが含まれている。

### (1) 翼手類の分布の概要について

前回よりかなりの情報を網羅することができた。なお、この度、追加した情報には、古い情報も含まれている。なお、北海道から九州まで分布している種においては日本の全県の85-87%に及ぶ県に分布していることが明らかになり、また県内において、数多くの小個体群なども記録され、分布の精度が密になったと思われる。

### (2) 分布図の完成度について

日本の翼手類の種の構成から類似間系図(吉行, 1990)を用いて分けられた区分によると、つぎの11区にわけられる。

北海道地区、本州地区、四国地区、九州地区、対馬地区、大隈諸島地区、トカラ列島地区、奄美諸島地区、大東諸島地区、八重山諸島地区ならびに小笠原諸島地区である。この中で日本列島には各属島はそれぞれ固有の種または亜種が分布している。これらの各地域の面積は狭いが、まだ情報が少なく、詳細な分布地点が明らかでなく、今後調査をすすめる必要がある。

なお、哺乳類などは島によって、種または亜種の分化がみられるので、分布の調査には島別に分ける必要があると思われる。

(吉行 瑞子)

## 引用文献

- Corbet, G. B. and J. E. Hill. 1980. A World List of Mammalian Species. 226 pp. Oxford University Press.
- , 1991. A World List of Mammalian Species (3rd ed.): viii+243 pp. Oxford University Press.
- , 1992. The Mammals of the Indomalayan Region: A Systematic Review viii+488 pp. Oxford University Press.
- 前田喜四雄、1984. 日本産翼手目の採集記録。(1). 哺乳類科学. 49: 55-78.
- , 1986. 日本産翼手目の最終記録。(2). 哺乳類科学. 52: 79-97.
- Yoshiyuki, M. 1989. A Systematic Study of the Japanese Chiroptera. vi+242 pp. National Science Museum Tokyo.
- , S. Hattori and K. Tsuchiya, 1989. Taxonomic analysis of two rare bats from the Amami Islands (Chiroptera, Molossidae and Rhinolophidae). Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (22) :215-225.
- 吉行瑞子、1990. 日本のコウモリ相. 種分化の例と類似関係. 採集と飼育. 52:468-473

### 3. サル目（霊長目）

日本に自然分布するサルはニホンザル1種であるが、他にタイワンザルが一部の地域で野生化している。また、カニクイザル、アカゲザルが野外で目撃されているとの情報もある。このうちニホンザルの全国分布については、長谷部言人による1923年の調査（岩野、1974）以降、数回（岸田、1953；竹下、1964a, b；ニホンザルの現況研究会、1977a, b, 1978 a, b, c；哺乳類分布調査会科研グループ、1979；環境庁、1979等）にわたって行われ、分布域の時代的变化も含む詳しい情報が得られている。ただし、ニホンザルの現況研究会の調査を除き、これらの調査は聞き取りやアンケートによる間接的情報に基づいている。

ニホンザルは、本州、四国、九州、金華山島、淡路島、小豆島および屋久島に分布する。かつては種子島にも生息していたが現在では絶滅している。今回の調査では、環境庁調査（1979）で明らかにされたのとほぼ同様の分布パターンが示されているが、生息が知られていなかった宮城県牡鹿半島、福島県南部太平洋岸、茨城県などにも分布情報がある。これらが群れの生息を示すものであれば新知見であるが、ヒトリザルまたは他種の可能性もあり、確認のための調査が必要である。

野生化したサル類では、タイワンザルの分布情報が神奈川・静岡県境付近、伊豆大島、青森県下北半島から得られ、本種の野生化の現況を示していると考えられる。調査対象に含まれていない他のサル類に関する情報はないが、野外における異種間交雑の危険性をはじめ、ニホンザル自然個体群の保護上重大な問題があるため、今後タイワンザルを含め野生化したサル類についての調査が必要である。

（阿部 學）

### 引用文献

- 哺乳類分布調査科研グループ、1979. カモシカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布. 生物科学, 31: 96-112.
- 岩野泰三、1974. ニホンザルの分布. にほんざる, 1: 5-62.
- 環境庁、1979. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書（哺乳類）, 全国版, 91pp.
- 岸田久吉、1953. 代表的森林棲哺乳動物ニホンザル調査報告. 鳥獣調査報告第14号. 林野庁.
- ニホンザルの現況研究会、1977a. 東北地方のニホンザルの分布. にほんざる, 3: 9-10.
- ニホンザルの現況研究会、1977b. 関東甲信越地方のニホンザルの分布. にほんざる, 3: 23-26.
- ニホンザルの現況研究会、1978a. 中部・近畿地方のニホンザルの分布. にほんざる, 4: 1-4.
- ニホンザルの現況研究会、1978b. 中国・四国地方のニホンザルの分布. にほんざる, 4: 32-34.
- ニホンザルの現況研究会、1978c. 九州地方のニホンザルの分布. にほんざる, 4: 47-48.
- 竹下完、1964a. 野生ニホンザルの分布及びポピュレーション（上）. 野猿, 19: 6-13.
- 竹下完、1964b. 野生ニホンザルの分布及びポピュレーション（下）. 野猿, 20: 12-21.

#### 4. ウサギ目・ネズミ目（兎目・齧歯目）

はじめに

昭和48年度に開始された第1回自然環境保全基礎調査では、動物分布についてはわずかに「すぐれた自然」の調査中で、文献等により主要な生息地等について調査が行われたに過ぎない。昭和53年度の第2回調査では一応主要な動物についての分布調査を実施したが、哺乳動物については大型8種に限定して行われた。また、昭和59年度の第3回調査では、全哺乳動物を対象として専門家による分布調査が行われた。さらに、平成2年度～3年度の第4回調査では、専門家に加え各都道府県の鳥獣保護員、猟友会員の協力による調査が行われた。

このように概ね5年を周期として調査を実施する背景には、各動物の分布が四囲の環境変化に伴ってどのように変化していくかを探ることにある。しかし、筆者が担当したウサギ目と齧歯目に属する全動物のうち、数種類は過去の調査で報告されないものもあり、経年的な分布域の変動については比較できなかったものもある。そこで狩猟動物については、環境庁発行の鳥獣統計を中心に、その他の動物については関連文献をそれぞれ参考にしながら考察を行った。

考察の視点は、帰化種については分布の現状と、これと生態的地位を同じくするものとの競合、捕食／被食関係について、在来種については環境との関連から分布域の拡大、縮小に注目してそれぞれ考察を行った。考察は紙面の都合上、特筆すべきものに重点を置いた。なお、本文中、特に断わりのないメッシュ数は、3次メッシュ数のことである。

ウサギ目、齧歯目は全体として情報量が急増した。それはこの自然環境保全基礎調査が広く国民の間で認識され、理解を深めた結果の産物であると考えられる。情報量が著しく増えた種は、たとえば、ニホンリス、エゾリス、シマリス、タイワンリス、ナキウサギといった昼行性動物や一般によく親しまれている動物で目立った。夜行性動物でもムササビ、ノウサギといった知名度の高いものにもこの傾向が見られ、鳥獣保護員及び猟友会員の幅広い参加を明確に裏付ける結果となった。これに対し、専門家でなければ普段の生活の中で名前すら触れることのないノネズミ類、モグラ類の情報は、一般的傾向として初回から大きな情報増は見られなかった。

今回の分布情報の分析を行った結果の反省としては、ノウサギとユキウサギの情報が北海道と本州で混同されたことである。今後、調査に先立ち、本州にはノウサギが、北海道にはユキウサギが生息することを明確に表示しておくか、ノウサギ一本に統一して調査し、後刻、集計の段階で調整するかの選択が迫られている。

次に、本調査の結果として浮き彫りにされた問題点は、タイワンリスの分布情報が全国レベルで急増したことである。帰化種であるタイワンリスが余りにも急速に増加しているが、調査者がニホンリスとタイワンリスを明確に識別しているか否かが大変気に懸かることである。当該地域の専門家によるチェックが必要である。この急速な分布拡大が事実とすれば、動物地理学上由々しいことになり、何らかの対策が急がれる。これと同じ現象がシマリスとエゾリスで見られ、これも全国レベルで急増している。本州に限っていえば、ニホンリスとタイワンリスのように、直接競合する種はいないが、むやみに外来種を放獣したり、ペットを籠抜けさせたりする背景が問題である。北海道の場合、シマリスと記載があればエゾシマリスと分類され、処理されているが、都市近郊の個体については、外来種であるチョウセンシマリスかどうかを確認する必要がある。殊に、山岳地帯に

住むエゾシマリスとの交雑の危険性があり注意を要する。

これらの事実から動物のむやみな移動を禁止する法的措置もさることながら、国民の理解を深めるためのキャンペーンが必要であろう。

#### 4-1 ウサギ目

##### (1) ナキウサギ科

###### ① ナキウサギ：A 分布パターンを表わしている。

本種は北海道にのみ生息する種で、過去の文献によれば、大雪山系の黒岳、旭岳、忠別岳、十勝岳、富良野岳などの高山帯と、それらの周辺の置戸、然別湖付近、夕張山系の夕張岳、芦別岳、日高山系の幌尻岳、札内岳などに分布している（芳賀、1957、内田、1960）。第3回の基礎調査では、22メッシュで分布情報があったが、第4回では26メッシュに増加している。増加箇所は十勝管内のもので、相変わらず空知管内の夕張岳周辺からの報告はない。

芳賀（1957）は、ナキウサギの分布は一般的には原産地である置戸をはじめ、然別湖、大雪山一帯、夕張岳、芦別岳、日高山脈その他といわれているが、夕張岳や芦別岳ではもうほとんど姿を見ることができないと述べている。このことから、夕張山系では絶滅したとも考えられるが、本調査では分布していないことと、情報が得られなかったこととの区別が明確でないところから、実態をさらに混沌とさせている。この点を明確にするための追跡調査が必要である。

##### (2) ウサギ科

###### ① アマミノクロウサギ：B やや情報不足。

本種は1属、1種からなり、奄美大島と徳之島にのみ分布している。筆者らが1972年に両島を調査したとき、奄美大島の湯湾岳、ヤクガチョボシ岳などを中心に、徳之島では剝岳、井之川岳、犬田布岳などを中心に、それぞれ広い範囲にわたって生息していることが確認されている。

桐野（1977）によると、標高695mの湯湾岳と、646mの井之川岳の山頂部は、3000～4000年ほど前に、日本列島的一部分が水没した際に海上に残ったところで、アマミノクロウサギはここに生育していた薄暗い原始林地帯に生息していたと述べている。ただ、本種は奄美大島全島に分布しているのではなく、島の北部に位置する笠利町のように、標高が低く、原生林が存在しない地域には分布していない。アマミノクロウサギはこのような低標高地には元来分布していなかったのか、分布していたが、人為の影響で絶滅したのかは定かでない。この点に関しては、歴史的に追跡する必要がある。

アマミノクロウサギは、奄美大島、徳之島に生育する原生林に好んで生息しているが、昨今はパルプ材として原生林の伐採が進んでおり、分布域に変動が生じている可能性が高い。また、1972年頃にはリュウキュウマツ、スギなどの造林木に対する食害が両島の各所でクローズアップされていた。それは原生林の伐採跡地、即ち、アマミノクロウサギの生息圏内に植林が行われるため、ここでも林木の生産と野生鳥獣との競合がみられる。早い時期にアマミノクロウサギの存続のための保護区の設定などの方策が検討される時期にきている。

第3回の調査では、奄美、徳之島両島で4地点から報告されていたが、今回は7箇所からの報告がある。但し、2次メッシュでは徳之島の1箇所が減少した。第4回の調査結果を見る限りでは、もっと広域に分布していると考



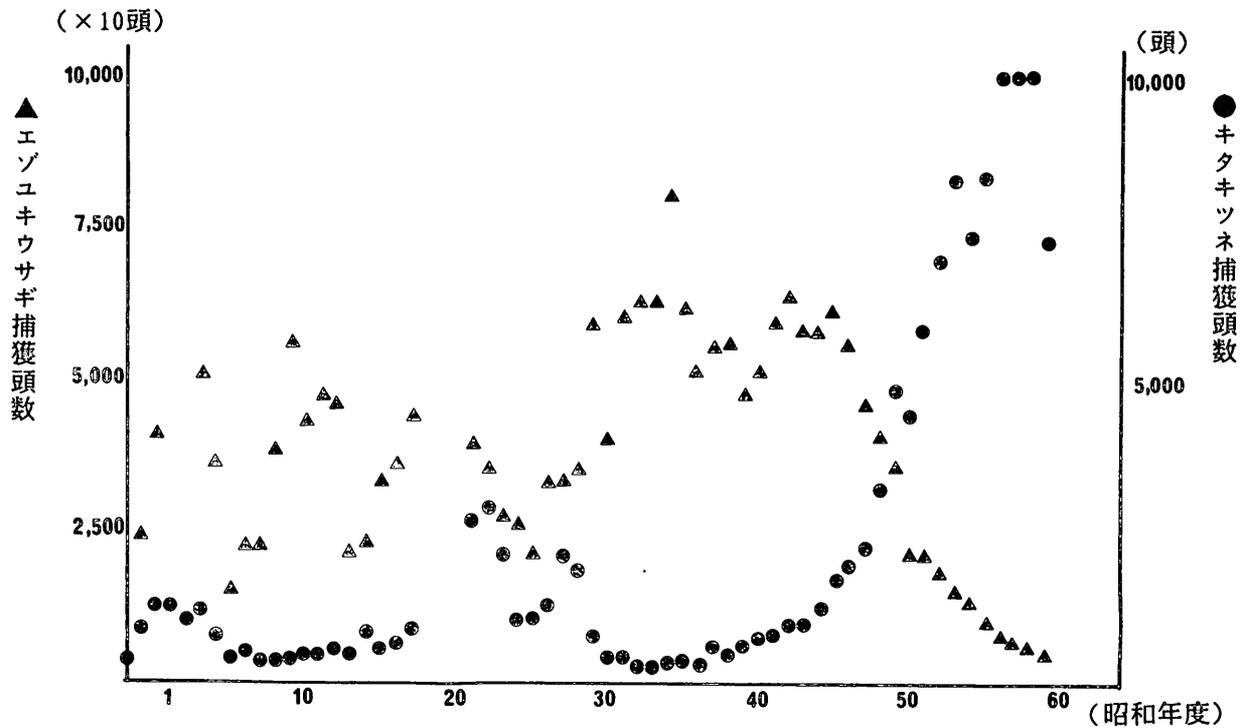


図 2 - 2 北海道におけるエゾユキウサギとキタキツネの捕獲頭数の推移

今回の調査ではエゾユキウサギもキタキツネも細部地域にわたる分布情報がないので、地域別の相互関係は明らかではない。しかし、今後情報が増えればこの関係はより明確になるはずである。

キタキツネは北海道に多い風土病であるエキノコックスの媒介者として駆除の対象となっており、今後の個体数の変動と、被食者であるエゾユキウサギの個体数の変動を追跡していく必要がある。

③ノウサギ：A 分布パターンを表わしている。

ノウサギは北海道と沖縄県を除く地域に分布しているが、隠岐にはオキノウサギが、佐渡にはサドノウサギが、本州、四国、九州にはトウホクウサギとキュウシュウノウサギが各々分布している。前回の調査では、鳥獣関係統計その他の情報により生息が確認されているにもかかわらず、情報不足から四国、佐渡、隠岐の各島からの分布情報は全くなかった。また、前回の調査では 104メッシュであったものが、今回は沖縄を除く全都道府県から報告があり 40,602メッシュに達した。しかし、これは分布域が拡大したのではなくて、調査精度が向上したに過ぎない。環境庁発行の鳥獣関係統計（捕獲個体数）と、各県のメッシュ数の分布とを対比した結果、よく一致したことから、分布調査は実態を反映しているものと考えられる。

ノウサギとキツネの捕獲頭数の推移を図 2 - 3 に示した。この場合でも北海道と同様に両者の間に相関がみられた ( $n=23$ ,  $p < 0.01$ )。

サドノウサギについては、豊島ら (1970) の報告がある。

④カイウサギ：B やや情報不足。

本種は元来わが国には分布しないウサギであるが、毛皮動物、実験動物、ペットその他の目的で外国から移入されたものである。前回は北海道と宮城

県から計5メッシュが報告されている。2次メッシュでは鹿児島県の島嶼でも記録されている。実際には北海道の渡島大島、渡島小島（1984年7月20日放獣）、岡山県の瀬戸内海の茂床島に生息していることが知られている（豊島ら、1968）。また、奄美諸島のさる小島にも放獣されているともいわれているが明らかではない（柴田義春、私信）など、まだ完全な記録とはいえない。

本種が離島に放獣された理由は明らかではないが、おそらく毛皮や肉を必要とした時代にこれを目的として放飼されたものと思われる。渡島大島で筆者らが1966年に調査した結果では、野生化した多数のカイウサギが元来貧弱な島の植生を食い荒している上に、地中に穴を掘って生活するカイウサギと、同じく地中に穴を掘って営巣するオオミズナギドリとが生活の場をめぐって競合し、オオミズナギドリが全く営巣できないという事実があった。また、地中に巣食うドブネズミも多く、オオミズナギドリの卵を食い荒し、営巣を阻害していた。天敵不在の新天地に移入された鳥獣が数を増やし、自然植生を破壊したり、在来の野生鳥獣を絶滅させた例は多い（Temple, 1978）。

(×100,000頭)

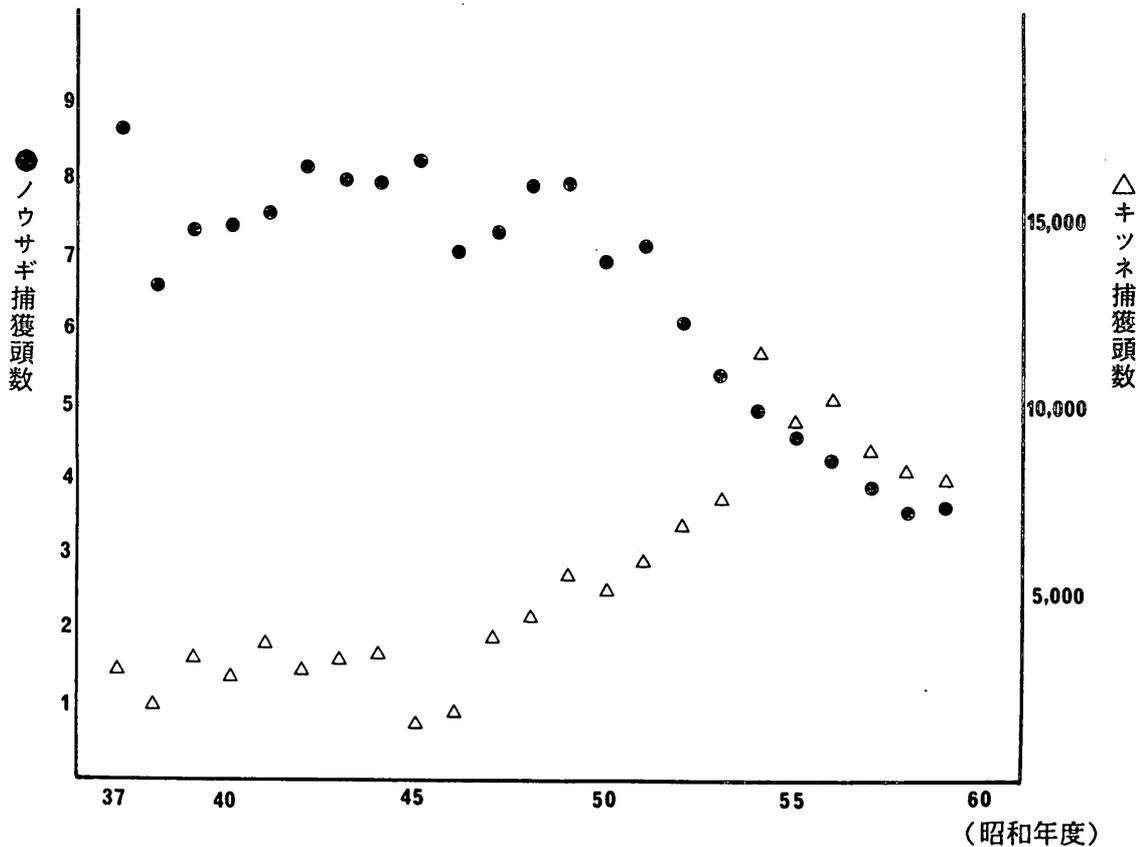


図2-3 本州におけるノウサギとキツネの捕獲頭数の推移

## 4-2. ネズミ目

### (1) リス科

#### ① タイワンリス: A 分布パターンを表わしている。

本種は1933年に台湾から伊豆大島の動物園に移入された動物であるが、これが逃げ出して数を増やしたものである。

このところ急速に分布域を広げ、第3回調査時には31メッシュであったものが、今回は623メッシュに増加しており、分布域が急速に拡大している。これが実際に増えているとしたら、ニホンリスとの競合という見地から由々しきことである。

東京都町田市の福祉施設と茨城県にあるさる霊園では、伊豆大島産のタイワンリスを人間が入れる大きな檻の中で飼育、展示している。また、埼玉県の大宮市では、エゾリスを放獣する計画がある。過去の事例から帰化種の多くは動物園、公園などで飼育していたものが逃げ出して増加したケースが多いことを考えると、動物の移動に対して何らかの法的規制が必要と考える。静岡県伊豆半島でもタイワンリスが増加し、電話線を切断する被害が続出し、対策協議会を発足させて対策を検討中である。秋田県、岩手県の県境付近の十和田八幡平国立公園付近、宮城、秋田、岩手の県境付近の栗駒国立公園の観光地にも出没した。内陸の1,000m前後の高標高地に出没していることから、ニホンリスとの競合が懸念される。これまでの調査で伊豆大島と瀬戸内海の友ヶ島、瀬戸内海の沖ノ島、神奈川県江ノ島、鎌倉、東京の新井薬師、石神井公園、姫路城公園、神戸のロックガーデンにおける生息が知られている(宇田川、1954、朝日、1967、尾崎、1986)。

本種が動物公園から逃げだした事例を除いて、各地に分布しているものがどのような経緯で出現したかは不明であるが、鎌倉ではペットとして給餌しているタイワンリスが樹皮を嚙り枯損させるという弊害が出ている。また友ヶ島では樹木に相当な被害が出ているという(朝日、1967)。

一方、タイワンリスと類似した生態的地位を持つニホンリスとの競合から、在来種を駆逐する危険性も高く、移動の制限、現存個体の除去などの対策が望まれる。鳥獣関係統計によると、東京都では毎年1,000~2,000頭前後のリス類が捕獲されていることになっているが、これらの中には伊豆大島におけるタイワンリスが大きな比率を占めている。東京都が狩猟者に対して行ったアンケート調査によると、昭和60年度の全捕獲数1,196個体のうち99.5%に当たる1,190個体が伊豆大島で捕殺されたタイワンリスである。今後、東京都以外の府県でもタイワンリスの分布拡大の動向を知る手段として、狩猟または有害獣駆除、或は学術研究用として捕獲されたものについては、報告を義務づけることが望ましい。

#### ② エゾリス: A 分布パターンを示している。

本種は北海道にのみ分布する種であるが、それに付随する島嶼からの報告はない。第3回調査時には14メッシュであったものが、今回は1,891メッシュに増加している。分布図の上から見る限り飛躍的増加に見えるが、調査精度が向上したに過ぎない。今回のメッシュ数はほぼエゾリスの分布の実態を表わしていると考えられる。

鳥獣関係統計では、狩猟による捕獲数は1980年には21,422頭であったものが、1986年には1,299頭にまで激減しており、何らかの保護対策が望まれる(図2-4)。

本州の調査者の中にエゾリスと記した人があるが、埼玉県大宮市でエゾリスを放獣する計画があることから、本来の分布域である北海道以外の地域に存在する可能性はある。

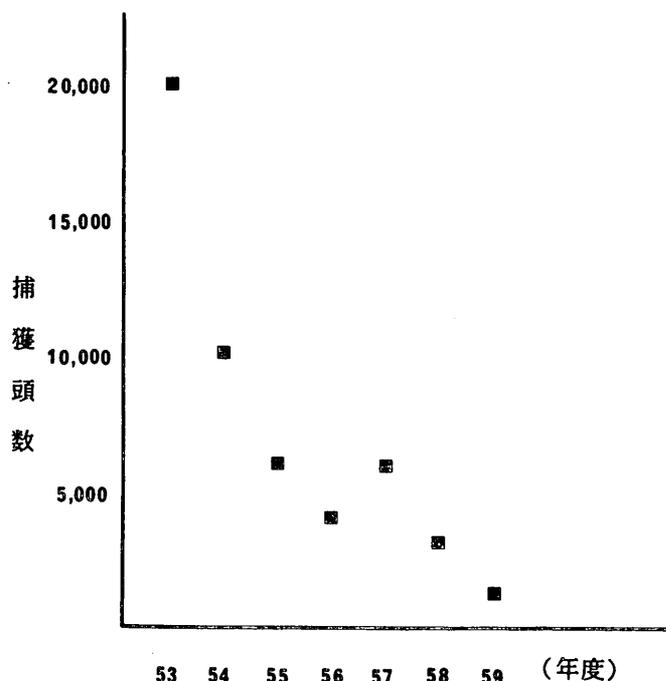


図2-4 エゾリスの年度別捕獲頭数

③ ニホンリス：A 分布パターンを示している。

本種は北海道を除く本州、四国、淡路島、九州に分布していることが知られている(今泉、1960)。第3回調査時には72メッシュであったが、今回は9,527メッシュに増えた。この飛躍的増加は、分布域の拡大ではなく調査精度の向上と見るべきである。

前回の分布調査では、宮崎、熊本、鳥取、島根、岡山など34県でゼロであったが、今回は、もともと分布しない沖縄を除いて、鳥取、長崎、鹿児島3県から記録がない。この3県は前回はゼロであった。このうち宮崎、熊本両県は狩猟による捕獲がゼロなのに、今回の調査で出現しているし、鹿児島は1986年に18個体、1989年には2個体が捕獲されている。これがニホンリスであるのか、タイワンリス、シマリスであるのかを確認する必要がある。仮に、ニホンリスであるとしたら、保護のために狩猟獣から除外して回復を図る必要がある。いずれにしても西日本一体では、前回の調査時と同様に希薄な分布パターンを示している。従って、このような地域においてこそ経年的な分布動向を知る必要があると同時に、その結果に基づいた対策を立てる必要のある地域ということになり、この意味から詳細な情報が望まれる。タイワンリスの項でも触れたが、ニホンリスとの競合の結果、ニホンリスの分布域の縮小が予想されることから、両種が接する地域での情報収集は5年周期よりも短いことが望ましい。また、このような地域では年々の分布域の変動を記録することは意味のあることである。

④ シマリス：A 分布パターンを示している。

わが国には北海道にのみ分布する在来亜種のエゾシマリスと朝鮮半島などからペットとして移入されたチョウセンシマリスが籠抜けして生息している。しかし、移入されたチョウセンシマリスについては情報不足からその実態は明らかではない。

前回は北海道の26メッシュ以外はどの県もゼロであったが、今回は北海道で923メッシュ、16都県で220メッシュが報告されている。シマリスは千葉県野田市、山梨県鳴沢村の富士山麓で観察されているが、千葉県からは

これに関する報告がない。いずれにしてもこれほど多くの地域に外来種が出現していることは、動物地理学的に由々しいことである。特に、北海道におけるシマリスの分布が、北海道のエゾシマリスなのか、朝鮮半島などから移入された外来種であるのかを確認する必要がある。北海道に外来種が侵入すると、近縁種であるエゾシマリスとの交雑が懸念される。

今回の調査でも、シマリスとして情報の提供を求めたという経緯から、上記2種の明確な識別はなされていないが、北海道以外のシマリスは外来種であると見てよかろう。しかし、北海道のシマリスは、在来種なのか外来種なのかを明確にする意味において、詳細な調査をする必要がある。

チョウセンシマリスの輸入の実態は明らかでないが、これまでの情報では札幌の北大植物園内に過去9年間にわたり外来種のシマリスが放獣されていたという。本州方面では、山梨県南都留郡鳴沢村の富士山麓にあるスバルランド森林公園から逃げ出したと思われるシマリスが生息しているほか、新潟県の弥彦山、角田山にも生息していたという（風間辰夫、私信）が、その後のことは不明である。

⑤ ホンドモモンガ：B やや情報不足。

本種は本州、四国、九州などに広く分布しているが、夜行性であるところから人目に触れる機会が少ないので情報数が少ない。前は3県から13メッシュが報告されていたが、今回は9県から24メッシュが報告された。いずれも愛知県以北からである。

本種は狩猟獣でないところから、当調査以外の資料による情報収集が困難であるが、まだまだ情報不足による空白県が多いと思われる。

⑥ エゾモモンガ：B やや情報不足。

本種は北海道にのみに生息する種である。前は7メッシュであったが、今回は13メッシュに増加した。しかし、既往の知見からいって正確な情報が得られているとは考えられない。今回の調査でも石狩、十勝、網走、根室地方からわずかに報告があるが、もっと広域に分布していると考えられるので、より一層の情報収集に努めるべきである。ホンドモモンガと同様、非狩猟獣であることから、資料が乏しく考察が難しい。

⑦ ムササビ：A 分布パターンを示している。

本種は北海道を除く本州、四国、九州に分布しているが、生息する地方によってニッコウムササビ、ワカヤマムササビ、キュウシュウムササビの3亜種に分類されている。

前は12都県から53メッシュが報告されているが、今回は千葉県、佐賀県、長崎県の3県を除く43都府県から4,400メッシュが報告されている。

前回の調査では、中国、四国方面からは皆無であったが、今回は報告があった。従って、今回報告がなかった3県についての詳細な調査が望まれる。本種は夜行性であるが、独特の鳴き声と、夜間滑空することから比較的人目につき易いこともあり、夜行性にしては目撃情報の多い動物といえる。

(2) ヤマネ科

① ヤマネ：B やや情報不足。

本種は1科、1属、1種の日本固有種で、北海道を除く本州、四国、九州地方に生息している。前は青森、長野の2県から20メッシュが報告されたが、今回は11県から50メッシュが報告された。京都府を始め他県にもいる

はずであるが、今回の調査では極く限られた情報しか得られていない。夜行性である上に冬眠するという不利な条件により情報が少ないものと考えられる。

### (3) ネズミ科

#### ① ミカドネズミ： A 分布パターンを示している。

本種は北海道にのみ分布する種で、北海道内では比較的広く分布すると考えられている。前回には72メッシュであったものが、今回は情報量が多くなり114メッシュに増加した。それでも道北と道南部からの情報が少ない。これは研究者の分布の偏りや採集の有無を反映しているように思われる。しかし、詳細は不明である。

#### ② エゾヤチネズミ： A 分布パターンを示している。

本種は北海道にのみ生息する種で、本州におけるハタネズミと同様に若齢造林木を食害するところから、その被害防止のための研究が良く行われてきた。従って、ネズミの仲間でも分布や生態が非常に良く解明されている種といえる。

今回は123メッシュであったが、今回は201メッシュに増加し、情報量が多くなった。

#### ③ シコタンヤチネズミ： A 分布パターンを示している。

北海道にのみ分布する種である。今回は利尻島から2メッシュのみが報告されていたが、今回も同じく2メッシュで変化がない。種の特異性や分布の地理的特性から、これ以上の大幅な情報収集は望み薄である。本種の実態は不明な点が多い。

#### ④ リシリムクゲネズミ： A 分布パターンを示している。

北海道北部の利尻、礼文両島に分布していることが知られている。(Imaizumi, 1971)が、両島内における分布や個体数に関する情報は乏しい。

今回は5メッシュであったが、今回は12メッシュになった。北海道本島内にも分布が見られるようになった。

#### ⑤ ミヤマムクゲネズミ： A 分布パターンを示している。

本種は北海道の日高山系からの分布情報があるが、これまでも詳細な分布調査が行われていないので、分布の精度などについては考察できない。

前回の調査と今回の調査でまったく同じ18メッシュが報告されている。

#### ⑥ ニイガタヤチネズミ： A 分布パターンを示している。

本種は本州の中央部から分布情報が寄せられているが、これまでの知見でも、本州中部及び関東地方の高山及び亜高山となっている。今回は30メッシュであったが、今回は44メッシュが記録され、かなり増加した。今回の分布情報は妥当なものと考えられる。

#### ⑦ トウホクヤチネズミ： A 分布パターンを示している。

本種は青森、岩手、福島各県に分布していることが知られている。今回は13メッシュであったが、今回は60メッシュに増えた。紀伊山地から2例の情報が寄せられているが、これまでの採集例も少なく、詳細は不明である。

#### ⑧ ワカヤマヤチネズミ： A 分布パターンを示している。

今回は和歌山県と奈良県から各1メッシュが記録されたが、今回は同じく両県から6メッシュが記録された。

#### ⑨ カゲネズミ： A 分布パターンを示している。

本種は関東及び中部地方に分布していることが知られている。

前回は5県から3メッシュが記録されたが、今回は7県から48メッシュが記録された。しかし、既存の知見を下回る情報しか得られていない。

- ⑩ スミスネズミ：A 分布パターンを示している。

本種は富山県以西の本州、四国、九州及び隠岐島に分布していることが知られている。前回は8県から18メッシュであったが、今回は22府県から85メッシュが記録された。最も北では福島県から2メッシュが記録されたが、分布域かどうか確認する必要がある。今回の調査では隠岐島からの報告がないほか、本州西部で欠如している県もあり、より一層の努力が必要である。

- ⑪ ハタネズミ：A 分布パターンを示している。

本種は本州及び九州に広く分布していることが知られているが、今回の調査では分布情報が極端に片寄っている。ハタネズミは北海道におけるエゾヤチネズミと同様に造林木を食害するため、分布、生態に関する調査は他のノネズミに比べて良く行われているが、その割には情報提供が少ない。佐渡にも分布していることが知られている（宮尾ら、1968）。

前回は67メッシュであったが、今回は143メッシュに増加した。しかし、西日本には分布が希薄である。

- ⑫ マスクラット：C 情報不足。

本種は北米産であるが、毛皮として日本に輸入された後、逃げだしたり、毛皮価格の低迷で放逐されたものが野生化し、1947年頃から東京都江戸川付近でみられるようになったほか、埼玉県でも捕獲された例がある。

今回の調査では1件の情報も見られなかったことから、絶滅したのではなかろうか。

- ⑬ アカネズミ：A 分布パターンを示している。

本種は本州、四国、九州、壱岐、五島に分布していることが知られている。北海道を含む佐渡、伊豆大島などの島嶼のものはそれぞれ別亜種とされている。

前回は269メッシュであったが、今回は635に増加した。本種は世界的規模で分布しており、わが国でも全国的に分布していることが知られているが、その割には分布情報が少ない。

- ⑭ カラフトアカネズミ：A 分布パターンを示している。

北海道に分布することが知られており、今回の分布情報は比較的妥当なものと考えられる。前回は31メッシュであったものが、今回は49メッシュに増加した。

- ⑮ ヒメネズミ：A 分布パターンを示している。

本種は全国に広く分布しているが、島に分布しているものは各々別亜種とされている。前回の調査では206メッシュから今回は506メッシュに増加した。これでも情報数が少なく、完全な分布図とはいえない。

- ⑯ カヤネズミ：C 情報不足。

本州の関東以西に広く分布していることが知られているが、今回の調査では西日本で情報量が少ない。前回は31メッシュであったが、今回は74メッシュに増加した。本種は淡路島にも生息していることが報告されている（宮尾ら、1983）が、淡路島から依然として報告がないなど、まだまだ十分な分布域を表しているとは限らない。

- ⑰ ハツカネズミ：B やや情報不足。

本種は日本全国に分布していることが知られているが、島嶼に生息するも

のはそれぞれ亜種に分けられている。

前回は44メッシュであったものが、今回は101メッシュに増加したが、25府県から報告がないなど、十分に分布域を表わしていない。今回の調査でも総体的に分布情報に乏しいが、徳之島、沖縄本島、小笠原などの島嶼からの情報の多いことが特徴である。淡路島からの分布情報もある(宮尾ら、1983)。

⑱ オキナワハツカネズミ：A 分布パターンを示している。

奄美大島と徳之島の両島から2メッシュが記録されている。

⑲ アマミトゲネズミ：A 分布パターンを示している。

奄美大島と徳之島の両島から5メッシュが記録されている。

⑳ クマネズミ：C 情報不足。

本種は全国的分布種である。前回は北海道と本州から18メッシュが記録されたが、今回は34メッシュでやや増加した。本種はほぼ日本全国に分布していると思われるのに空白箇所が35府県に及んでいる。これまでに西表島、沖縄本島、小笠原諸島などから報告があったほか、八丈島(今泉、1967)と鳥島(Yabe, 1982)からも記録がある。

本種は人類の移動に伴って世界各国に分散した種であるが、ドブネズミと共に島嶼に上陸して在来種を捕食し、大きな打撃を与えることが知られている。セイシェルメジロは侵入してきたネズミ(*Rattus* sp.)によって殆ど絶滅させられたと考えられている(Temple, 1978)。

ドブネズミ：B やや情報不足。

本種は全国的に分布していることが知られている。

前回は60メッシュであったものが、今回は91メッシュに増加したが、空白地帯が27府県もあるなど必ずしも実態を反映していない。この現象はクマネズミなどの普通種でも共通した傾向を示している。このような種は、今後、一般国民に参加を呼びかけても、クマネズミとの識別が困難なので、実態に即した情報を得るには研究者の協力に頼る以外に方法がなからう。

ケナガネズミ：A 分布パターンを示している。

前回は報告がなかったが、今回は3メッシュの記録があった。

#### (5)ヌートリア科

①ヌートリア：A 分布パターンを示している。

ヌートリアは明治末期にわが国に移入されたといわれている(三浦、1976)が、詳細は不明である。その後、毛皮獣として本格的に移入されたのが1930年代といわれ、今では飼育されていたものが逃げ出したり、毛皮価格の低迷で放逐されたりして野生化している。

前回は全く記録がなかったが、今回は1,460メッシュと急増した。これは分布域を拡大したのではなく、調査の精度が向上したものと考えられる。

本種は農業被害、例えば、そ菜類の食害、水田の畔に穴を掘るなどの被害が各地で報告されており、有害獣として1963年以降、狩猟獣に指定されている。鳥獣関係統計によれば、岡山、広島、兵庫、京都、神奈川などで捕獲記録がある。今後、分布の動態を把握していく必要がある。

### 4-3. むすび

ウサギ目、齧歯目の分布調査結果を通じての特徴の一つは、情報が偏在していることである。例えば、ノウサギ、ニホンリス、ムササビなどに見られるように

集まった情報を見ると、長野、宮城、東京、千葉、愛知の各県に集中しており、日常茶飯事に遭遇しているであろう府県からの情報が少なく、情報源の偏在傾向が著しい。

前回調査時には9府県からは、他の哺乳類も含めて1件の情報提供もなかったが、今回はさすがにこのような無情報府県はまったくなかった。それだけこの調査がこれまで無関心であった府県を啓蒙したことになる。調査結果が片寄っているのは、調査を担当した研究者の分布や研究者が持つ調査地の分布とよく一致しているように思われる。今後、全国的規模で精度を上げて行くためには、まず情報源の拡大を図らなければならない。これに反して、対象種が特殊なものや、分布が特定の島嶼やごく限られた地域の場合、例えば、ナキウサギ、タイワンリス、ミヤマムクゲネズミなどは、比較的情報数も多くかつ確度の高い情報が得られている。これは研究者の関心が高いため調査がよく行われ、報告書が出ているためと、古くから既知の事実となっており、分布域の把握が容易なためと考えられる。これに対し、極く普通に数多く分布しているノウサギ、ユキウサギ、ニホンリスなどは意外と情報量が少ない。これら普通種の情報数を増やすためには情報源の拡大を図る以外にない。

今回の情報提供者となった研究者が今後調査地を拡大して行かない限り、この形式の情報収集を図っても、飛躍的に情報量が増加することは期待できない。従って、今後は信頼のおける小中高の教員を始め、博物館、郷土資料館等への協力要請も検討すべきである。今後、当調査が継続されるに従って、特定の種については順調に情報数が増えるのに対し、ハツカネズミのような研究者の関心の薄い普遍種の情報は集まりが悪くものと考えられる。例えば最も身近に住んでいるドブネズミ、クマネズミであっても専門の研究者以外の方が目視によってこれを識別し、情報を提供するという可能性は極めて薄いことから、この方面の情報数を増やし、精度を高めるにはどうしても研究者の協力が必要である。従って、上記3種を含めたネズミの仲間の分布図作成の成否は、いかに研究者の協力を取り付けるかにかかっているように。

前回の調査で、齧歯目ネズミ科のアマミトゲネズミ、ヌートリア科のヌートリアなどは現存するにもかかわらず、情報提供が皆無であったが、今回は情報提供があった。これは今回の調査の精度の向上を示しているといえよう。

このたびの一連の全種を対象とした分布図作成の試みは、わが国では最初のことでもあり性急に多くを望むことは無理であるが、この試みはわが国の野生鳥獣の合理的な保護並びに管理を推進する上で極めて重要な資料を提供するものであり、今後とも、より積極的に取り組む価値がある。

そこで本調査をより効率的に進めるための手段として、過去に出版された種々の文献や資料を引用することを提言したい。今回担当したウサギ目と齧歯目の考察を行うに当たり、身近な文献をひもといただけでも、今回の調査を補完するデータに数多く遭遇することが出来た。文献は学術誌に限らず、各都道府県の刊行物、博物館、資料館等の出版物、自然保護協会等の財団による出版物、さらには開発事業主体の行うアセスメントのための調査報告書等々、有用な資料は数多い。次回の調査実行までの間に全国的規模での資料の収集、解析を実施すると共に、それらの調査資料のデータベース化と集中管理するシステム（データバンク）の確立を提言したい。

さて、帰化種による在来種への影響は、カイウサギの項で一部述べたが、わが国で帰化種のいる場所として、小笠原諸島父島、兄島、ムコ島、八丈島、八丈小

島等のヤギ、宮城県金華山のニホンジカ、本州西部、九州地方のチョウセンイタチなどが知られている。わが国の野生生物保護上、動植物のみだりな移動を制限する何らかの法的措置が望まれると共に、帰化動物の分布とその影響の実態把握を早急に行う必要がある。

奄美群島、沖縄、小笠原、伊豆諸島などの島嶼群は、古くに大陸から孤立したこともあって、生物が極めて特異的な進化を遂げ固有種も多い。これらの島々の生物相は、気候的、地史的あるいは生物の相互佐用によって、長い歴史的過程の中である種の安定を保ってきた。しかし、近年、森林伐採、道路網、観光施設等の整備、人口増、外来種の進入などにより、ただでさえ脆弱な生物相は有史以来の試練を迎えている。例えば、奄美大島における森林伐採、奄美大島、西表島におけるマングースの帰化、三宅、八丈島におけるイタチの放獣等々枚挙に暇がない。このような生息基盤の破壊、強力な捕食者の侵入は対抗の術を持たない島嶼の生物に大きな打撃を与えている。しかし、これらの島嶼における生物調査は1~2の島嶼群を除いて全く行われていないか、10年、20年の昔に行われて以来、記録がないなど実情を知る上で極めて憂慮すべき状況にある。今回の一連の調査結果でも、島嶼における情報量が本州、四国、九州、北海道などに比べて相対的に少ないことが浮き彫りにされた。かかる実状を踏まえて、今回の自然環境保全基礎調査とは別個に、これら島嶼群の生物相を対象とした緊急かつ系統的な調査が望まれる。

(阿部 學)

## 引用文献

- 朝日稔ら、1967. 友ヶ島のタイワンリス. 日本哺乳動物学会誌. 3(6):152-157.  
芳賀良一、1957. ナキウサギの生態と林木被害. 北方林業. 9(11):334-336.  
今泉吉典、1960. 原色哺乳類図鑑. 保育社. 196pp.  
今泉吉典、1967. 住家性クマネズミの分類. 特に八丈島の亜種について. 日本哺乳動物学会誌. 9(2):128-143.  
IMAIZUMI, Yoshinori, 1971. A new vole of the *Clethrionomys rufocanus* group from Rishiri Island, Japan. J. Mamm. Soc. Japan. 5(3):99-103.  
環境庁、1923-1986. 鳥獣関係統計. 野生生物課.  
桐野正人、1977. アマミノクロウサギ. 汐文社. 214pp.  
三浦慎吾、1976. 分布からみたヌートリアの帰化・定着. 岡山県の場合. 日本哺乳動物学会. 6(5/6):231-237.  
宮尾嶽雄ら、1968. 佐渡における小哺乳類の採集結果. 日本哺乳動物学会誌. 4(1):29-32.  
宮尾嶽雄ら、1983. 淡路島南部の哺乳類. 日本哺乳動物学会誌. 9(2):128-143.  
日大農獣医学部、1969. 小笠原諸島の調査. 日大農獣医学部誌. 1969(3):12-51.  
尾崎研一、1986. タイワンリスの植物と菜食行動. 日本哺乳動物学会誌. 11(3/4):165-172.  
TEMPLE, Stanley A., 1978. Endangered Birds. Univ. of Wisconsin Press.  
豊島重造ら、1968. 野生化した家兎の生息数の推定と生態に関する2、3の試みと考察. 新大農園報3:1-5.

- 豊島重造ら、1970. サドノウサギの生態に関する収集資料の検討. 新大農園報.  
4:69-76.
- 内田映、1960. 北海道におけるナキウサギの分布. 北方林業. 12(7):235-239.
- 宇田川竜男、1954. 伊豆大島におけるタイワンリスの生態と駆除. 林試研報.  
67:93-102.
- YABE, Tatsuo, 1982. Habitats and habits of Roof rat. Rattus rattus on  
Torishima, the Izu Island. J. Mamm. Soc. Japan. 9(1):20-24.

## 5. ネコ目（食肉目）

今回の調査では食肉類5科22種を調査対象とし、このうち20種の分布情報が寄せられた。情報が得られなかったのはカニクイアライグマとラッコの2種である。

### (1) クマ科

日本には、北海道にヒグマが、本州、四国、九州にツキノワグマが分布する。両種の全国的な分布状況については、環境庁（1979）の調査結果に詳細が示されている。また、ヒグマについてはその後、北海道自然保護課（1986）による調査が行われている。

今回の調査では、ヒグマの情報は北海道の全域から得られており、地域個体群の隔離状況を含め、従来の結果に一致する。

ツキノワグマについても、従来知られていた分布範囲（環境庁、1979）におおむね一致する結果が得られた。本種が絶滅あるいはほぼ絶滅状態とされる四国、九州からも情報があり、今後これらの地域でのさらに詳しい調査が望まれる。

### (2) アライグマ科

日本では、アライグマ（北米産）とカニクイアライグマ（中南米産）の2種が野生化しているとの情報があるが、今回の調査ではアライグマのみの情報が得られた。前回調査で報告された分布地は1カ所だけであったが、今回、野外での確認記録は北海道、本州の広い範囲にみられ、きわめてまばらではあるが分布域をほぼ示していると考えられる。ただし、上記2種の混同があると思われ、また他地域にも生息する可能性があり、これらの点について今後の調査が必要である。

### (3) イヌ科

日本には、在来種であるタヌキ、キツネ、及び野生化したイヌ（ノイヌ）が生息する。このうちタヌキとキツネの分布状況は、環境庁（1979）により明らかにされている。

タヌキは、北海道、本州、四国、九州、周辺島嶼では奥尻島、佐渡、知夫里島（隠岐諸島）、淡路島、小豆島をはじめとする瀬戸内海のいくつかの島々、壱岐、甬列島、天草上島・下島等に生息する。このうち、奥尻、知夫里の両島には移入されたことが知られている。今回の調査では、前回より大幅に情報が増え、環境庁調査（1979）で明らかにされたのとほぼ同様の分布パターンが示されているが、奥尻、甬列島からの情報を欠いている。

キツネは、北海道、本州、四国、九州、淡路島に生息する。以前は礼文島にもみられたが、現在では絶滅している。前回に比べて情報が大幅に増えた今回の調査では、タヌキの場合同様、分布パターンは環境庁調査（1979）の結果におおむね一致するが、淡路島の情報を欠いている。

ノイヌの分布情報は北海道から沖縄まで、一部の島嶼も含め全国にわたって得られた。分布状況をほぼ反映していると思われるが、今回確認されなかった島嶼部でも野生化している可能性があるため、これらの地域についての調査が必要である。

### (4) イタチ科

日本には10種のイタチ科動物がみられる。このうち、ラッコを除く9種についての情報が寄せられた。

テンは、本州、四国、九州、淡路島、対馬に分布することが知られている。また明治時代、北海道に移入されている。また、佐渡へも移入が行われている（今泉、1986）。今回の調査では、これらの地域から情報が得られ、現状をほぼ反映しているものと思われる。北海道の分布は道央以南に限られるとされる（大森司

・中川, 1988) ので, それ以外の地域からの情報は分布の拡大を示すものと思われるが, クロテンとの混同による可能性もある。

クロテンは国内では北海道のみに生息する。本種は北海道の全域に分布するとされるが, 今回得られた情報はまだ多少まばらである。

チョウセンイタチは, 対馬にのみ自然分布し, 本土にみられるものは移入個体である。今回の調査では本州の関東以西, 四国, 九州を中心に情報が得られているが, これまで生息しないとされてきた本州中部以北にも情報がある。これらはイタチとの混同がなかったか確認が必要である。また, 他に五島列島にも情報があるが, 同様に確認が必要である。

イタチは, 本州, 四国, 九州, 伊豆大島, 淡路島, 小豆島, 奄岐, 五島列島, 大隅諸島に自然分布することが知られている。また, 今泉 (1986) によれば佐渡, 隠岐にも分布するとされる。この他, 本種はネズミ駆除のために各地に放獣されてきた (表 2-1)。今回の調査結果をみると, 上記の自然分布地域全てで確認されている他に, 移入記録がある北海道, 利尻島, 八丈島, 喜界島, 沖永良部島, 宮古島に加え, 甌列島からも分布情報が得られた。北海道におけるイタチの分布については北海道自然保護課 (1985) による調査があり, 北海道の低地のほぼ全域に分布する他, 利尻・礼文の両島にもみられることが分かっているが, 今回の調査では礼文島からの情報を欠いている。甌列島については, 過去に移入された可能性もあり, この点についての確認が必要である。また, 移入記録はあるが今回生息が確認されなかった島嶼についての調査も必要である。

表 2-1 イタチが移入された主な地域 ( ()内は西暦, 今泉, 1986による)

北海道	利尻島 (33), 礼文島 (40), 奥尻 (48), 焼尻島 (50), 大雪山 (61)
東京都	八丈島 (59), 三宅島 (75)
鹿児島県	トカラ列島 (20), 喜界島 (42), 沖永良部島 (49), 奄美大島・徳之島 (54), 与論島 (56),
沖縄県	座間味島・阿嘉島 (57), 石垣島・西表島・北大東島 (65) 南大東島・伊江島・伊良部島・下地島 (66), 宮古島・沖永良部島 (67)

イイズナは北海道と本州北部 (青森, 岩手, 山形) に分布することが知られている (今泉, 1960)。今回の調査では, 情報がまばらであり1986年以降のものが少ないが, 北海道については全域に広く分布するという従来 of 知見と一致する。本州では, 青森県下北半島だけから情報が得られ, 他地域からの確認がなく, さらに情報収集の努力が必要である。

オコジョは北海道と本州中部以北に分布する。北海道では, 以前は平地にもみられたが, 移入されたニホンイタチとの競合の結果, 明治以降急減し, 現在では山岳上部の森林限界上のみ生息すると考えられている (大泰司・中川, 1988)。今回の調査結果は, 本種のおおまかな分布状況を示しているが, 奥羽山脈主要部,

越後山脈、関東山地など既知の産地（今泉，1960）からの情報を欠いている。

ミンクは北海道において飼育場から逃げだしたものが野生化している。本種の分布状況については北海道自然保護課（1985）の調査があり、北海道の低地のほぼ全域および利尻島に生息することが分かっている。今回の調査では、既知の分布地域に加え、奥尻島からも情報が得られている。

アナグマは本州、四国、九州、小豆島に分布する。本種の全国的分布状況については環境庁（1979）による調査で明らかにされている。今回の調査結果はこれにほぼ一致するが、小豆島からの情報を欠いている。

カワウソの分布情報は今回、高知県南西部から得られ、これは従来の知見と一致する。

ラッコは調査対象種に含まれているが、今回の調査では分布情報が得られなかった。本種は近年、北海道東部沿岸でしばしば目撃されている（大泰司・中川，1988）。

#### (5) ジャコウネコ科

日本にはジャコウネコ科動物としてハクビシンとインドマングース（種名には疑義がある）の2種が生息する。マングースは沖縄諸島に移入されたことが明らかであるが、ハクビシンについては日本に移入されたものか否か両論がある。

ハクビシンは、1950年代には東北地方南部、関東・中部地方南部のいずれも太平洋側、および四国にそれぞれ隔絶した分布域がみられた（今泉，1960）が、近年は分布域が拡大しているとされる。今回の調査では、4大島のほぼ全域から情報が得られ、とくに東北地方南部から中部地方まで分布が連続し、日本海側にも分布が及んでいること、四国でも全域に分布していることが示されている。なお、今回の調査では確認されなかったが、北海道では奥尻島にも生息情報がある。

マングースの分布情報は沖縄本島からのみ得られているが、奄美大島でも定着していることが知られている（阿部ら，1991）。なお、阿部ら（1991）は、奄美大島で野生化している種はジャワマングースの可能性が高く、沖縄本島のものも同種ではないかと指摘している。

#### (6) ネコ科

日本に分布するネコ科動物には、在来種であるイリオモテヤマネコとツシマヤマネコ、及び野生化したノネコがある。

イリオモテヤマネコは沖縄県西表島の固有種であり、今回の調査でも西表島からのみ分布情報が得られている。

ツシマヤマネコは国内では対馬にのみ分布する。本種は日本野生生物研究センター（1988）の調査によれば、個体数はきわめて少ないものの長崎県対馬の上島、下島ともに生息していることが分かっており、今回の調査でもこれが確認された。

ノネコの分布情報は北海道から沖縄まで、一部の島嶼も含め全国にわたって得られた。分布状況をほぼ反映していると思われるが、今回確認されなかった島嶼部でも野生化している可能性があるため、これらの地域についての調査が必要である。

（阿部 學）

## 引用文献

- 阿部慎太郎・高槻義隆・半田ゆかり・和秀雄、1991. 奄美大島におけるマングースの定着. 哺乳類科学31: 23-36.
- 北海道自然保護課、1985. 野生動物分布等実態調査報告書, 野生化ミンク. 115pp.
- 北海道自然保護課、1986. 野生動物分布等実態調査報告書, ヒグマ・エゾシカアンケート調査報告書. 115pp.
- 哺乳類分布調査科研グループ、1979. カモシカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布. 生物科学, 31: 96-112.
- 今泉忠明、1986. イタチとテン. 自由国民社, 126pp.
- 今泉吉典、1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 196pp.
- 環境庁、1979. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書(哺乳類), 全国版, 91pp.
- 日本野生生物研究センター、1988. ツシマヤマネコ生息環境等調査報告書. 106pp.
- 大森司紀之・中川元(編著)、1988. 知床の動物, 原生的自然環境下の脊椎動物群集とその保護. 北海道大学図書刊行会, 394pp.

## 6. アザラシ目 ( 鰭脚目 )

日本近海で知られている鰭脚類には8種があり、そのうち5種の分布情報が寄せられた。

トドは北海道周辺に現在でも毎年来遊しており、それにはサハリン沿岸系のものと千島系の2群があるとされている(山中ら、1986)。前者は北海道北部オホーツク海側沿岸および日本海側積丹半島までの沿岸域に来遊し、後者は知床から噴火湾までの海域に来遊している。このような状況から考えると、今回の調査結果は新報告がなくきわめて不完全なものである。但し、海上のものはともかく、上陸地は限定されているので、海獣研究者等から情報を得ることによって今回の分布空白域を埋める必要がある。

日本近海に回遊するオットセイはロベン島およびコマンドルスキー諸系のもので、宗谷海峡を通過して日本海に入るものの大部分は前者である。また、太平洋側では北海道東部沖から常盤沖の海域に回遊している(和田、1971)。しかし、通常は接岸することはない、死体の海岸漂着や魚網への羅網による死亡があると思われるが、記録は少ない。今回も宮城県において2箇所の記録が増えただけである。本種に関しては海上のどの地域までのものを分布図に含めるかという問題があり、記録法を含めた再検討が必要である。

ゴマフアザラシには知床など、北海道東部沿岸に定着している少数のものと、流水期に回遊してくる比較的多数からなる個体群があるが、今回の分布記録は定着性のものについても報告がなくまだきわめて不完全である(大泰司・斉藤、1981)。北海道東部沿岸域ではかなり広範囲の分布があるものと思われる。岩手県、宮城県の記録は新しいものであるが例外的な回遊例であろう。

ゼニガタアザラシは北海道の根室半島から襟裳岬にかけての太平洋岸にきまった定着地をもち、その生息地はかなり詳しく調べられている(伊藤・宿野部、1986)。今回も記録は増加せずきわめて不完全である。伊藤・宿野部(1986)等の報告により、日本におけるほぼ完全な分布域の現状を知ることができる。

ワモンアザラシ(フィリアザラシ)は北海道や本州北部沿岸に回遊するが、回遊数はゴマフアザラシより少なく、流水と共に移動するので、正確な記録に乏しい。今回も新しい記録はなく、前回の例外的記録と思われる本州東北のもの1例のみで、北海道沿岸のものがなく、不完全である。

今回報告のなかったもののうち、ニホンアシカについてはすでに絶滅したという考えもあり、それにはまだ疑問が残っているものの、現在、日本沿岸での生息、繁殖がないことは事実である(伊藤、1979)。

クラカケアザラシは流水と共に北海道東部沿岸に回遊し、氷上で出産する。接岸することがほとんどないため海岸での記録を欠いているものと思われる。これも記録法に問題がある。

アゴヒゲアザラシは日本近海に来遊するアザラシ類の中で最も数が少なく、したがって情報も乏しいが、稀に北海道東部海岸に接岸することがある(大泰司・斉藤、1981)。

以上、日本沿岸に生息する鰭脚類の分布情報またはその収集はきわめて不完全であり、今後は現存情報の追加収集と、乏しい情報の蓄積を継続することが必要である。

(阿部 永)

## 引用文献

- 伊藤徹魯、1979. ニホンアシカ雑感. 哺乳類科学. 39:27-40
- 伊藤徹魯・宿野部猛、1986. ゼニガタアザラシの生息数と生息状況. 和田一雄ほか編. ゼニガタアザラシの生態と保護. 東海大学出版会. pp.18-58.
- 大泰司紀之・斉藤隆、1981. 知床半島沿岸海域の鰭脚類. 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物篇). 北海道. pp.165-181.
- 和田一雄、1971. オットセイの回遊について. 東海区水産研究所報告. 67:47-80
- 山中正実・大泰司紀之・伊藤徹魯、1986. 北海道沿岸におけるトドの来遊状況と漁業被害について. 和田一雄ほか編. ゼニガタアザラシの生態と保護. 東海大学出版会. pp.274-295.

## 7. ウシ目（偶蹄目）

日本に分布する偶蹄類 3 科 7 種の全てについて分布情報が得られた。

### (1) イノシシ科

日本には、ニホンイノシシが本州、四国、九州、淡路島、五島列島に、リュウキュウイノシシが奄美、沖縄、八重山の各諸島に分布する。これらのイノシシの全国分布は環境庁（1979 a）の調査により詳しく明らかにされている。今回の調査結果は、1979年の環境庁調査の結果にほぼ一致するが、群馬県、富山県での分布拡大、青森県、岩手県からの新分布情報が注目される。

### (2) シカ科

日本には、北海道にエゾシカ、本州、四国、九州とその周辺島嶼にニホンジカが、対馬にツシマジカが分布する。これらシカ類の全国分布は環境庁（1979 a）の調査に詳しい。またエゾシカについては、その後、北海道自然保護課（1986）による調査が行われている。ニホンジカは本州、四国、九州、淡路島、小豆島、五島列島、大隅諸島（馬毛島、口永良部島を含む）、慶良間諸島等に分布する。今回の結果は1979年の環境庁調査結果にほとんど一致するが、青森県、秋田県、宮城県南部（前回調査でも情報が得られている）、および能登半島の分布情報は繁殖個体群を示すものであれば新知見である。一方、種子島からは情報が得られなかった。ツシマジカは対馬の上島、下島の両方に分布し、今回の結果もこれと一致する。エゾシカは北海道の中央部から東部を中心として全域に広く分布する。今回の調査でもこのような分布パターンが確認された。

### (3) ウシ科

日本列島に自然分布するウシ科の動物は、本州、四国、九州にみられるニホンカモシカ 1 種で、ほかにヤギが野生化している。

ニホンカモシカの分布状況は哺乳類分布調査科研グループ（1979）と環境庁（1979 b）の調査により詳しく判明しており、本州の近畿地方以北、および四国、九州の一部の山岳地帯に分布することが分かっている。今回の調査でもこのような分布状況が確認された。なお、福島県太平洋岸、静岡県西南部、兵庫県北部、四国西部からの情報は分布域の拡大を示すものとして注目される。

ノヤギの分布情報は、今回、伊豆大島、八丈島、隠岐諸島、五島列島から得られた。本種は小笠原諸島でも野生化していることが知られているが、今回は情報がなかった。他の島嶼でも野生化している可能性があり、さらに調査が必要である。

（阿部 學）

## 引用文献

- 北海道自然保護課、1986. 野生動物分布等実態調査報告書、ヒグマ・エゾシカアンケート調査報告書. 115pp.
- 哺乳類分布調査科研グループ、1979. カモシカ・シカ・ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシの全国的生息分布ならびに被害分布. 生物科学、31:96-112.
- 環境庁、1979a. 第2回自然環境保全基礎調査、動植物分布調査報告書（哺乳類）全国版. 91pp.
- 環境庁、1979b. ニホンカモシカの分布域. 生息頭数の推定について. 48pp.

## IV. ま と め

第4回自然環境保全基礎調査における動植物分布調査の全種調査は、哺乳類、両生類・爬虫類、淡水魚類、昆虫類（トンボ類、セミ類、チョウ類、ガ類の一部、甲虫類の一部）、貝類（陸産貝類、淡水産貝類）を調査対象に実施した。本調査においては、種の同定能力のある専門研究家に協力を要請し、分布情報の提供をいただいたもので、結果として約2,600名の協力が得られ、延べ報告件数はおおよそ53万件にのぼった。これらの分布に関する原情報は、1kmメッシュの情報であるが、分布図に整理する際には10kmメッシュに変換して表示した。分布図は、報告のあった全ての種について作成し、分類群ごとの分冊（哺乳類、両生類・爬虫類、淡水魚類、トンボ類、チョウ類、ガ類、セミ類・甲虫類、貝類の8分冊）として取りまとめた。

### 1. 全種調査全般について

全種調査は、生物地理学、生態学等の自然科学の基礎資料になるとともに、動植物の保護管理のための施策立案に客観的な情報を提供することを目的に、人為的、自然的要因により変化し続ける我が国の生物相を網羅的に記録する事を目指しているものである。

なお、この調査を通じて、特定の目的に利用が限られていた各種の調査結果や、公開の機会が限られていた個人の観察記録などが有効な分布情報として蘇生されるよう期待した。

今回の調査では、ごく限られた期間の内に、約2,300種についての分布情報が得られ、全てが分布図化された。分布情報に空白域があって全ての分布図が全国的な分布状況を表しているわけではないが、半数以上の分布図が「分布パターンを表している」と判定されたこと、分布に関するいくつかの新しい知見が得られたことなどが今回の全種調査の成果である。なお、今回の調査では、第3回調査に引続き、全国の専門家の協力によりデータを収集する、という調査体制が採られたが、前回にも増して多くの専門研究者の理解が得られた。これは、今後の全種調査継続に明るい展望を与えるものである。

しかし、今回の調査を顧みれば、いくつかの問題点も指摘される。まず、調査者になりうる人の絶対数が限られ、かつ調査フィールドの地域的な片寄りもあって、収集された分布情報にも地域的な片寄りが見られ、調査の全国的な均一性はまだ確保できていない。このことから、今回の報告書は前回調査結果より分布情報数及び精度に向上が見られるもののまだ情報の補完の余地が残されているといえる。

また、調査者の負担についての問題として、地域メッシュコードの検索・書き写しに多くの時間を要したこと、調査票の控えが手元に残せなかったことなどが挙げられる。

今後の調査継続の際には、分布情報の空白の解消とともに、調査員の省力化についての改善策の検討が必要である。

## 2. 哺乳類の調査について

哺乳類については、標本採集や接近の困難さから、一つの分布情報を得るにも相当な労力を要する。このたびの調査では、専門家の協力に加え、鳥獣保護員、大日本猟友会員の参加・協力を得、精度の高い貴重な分布情報が多数集められた。

哺乳類についての調査の概況は次のとおりである。

### (1) 調査対象種

我が国に生息する哺乳類の全種（135種）を調査対象とした。なお、情報の収集においては、亜種は区分せず、種単位で調査した。

### (2) 調査員と分布情報

調査は、哺乳類分科会検討員より推薦された大学、林業試験場、博物館、高校などの哺乳類の専門研究者及び鳥獣保護員の内、1,370名が参加協力したほか、(社)大日本猟友会員の多数の協力により実施され126種について225,542件の分布情報が得られた。

### (3) 分布図

分布図は、126枚が作成された。分布図には、それぞれの種の分布がどの程度表現されているか、その程度を判定し短いコメントを付したが、「分布パターンを表している」と判定されたものは82枚、「やや情報不足」と判定されたものは32枚、「情報不足」と判定されたものは12枚である。なお、特に注意を要するものについては個別に短いコメントを付した。

# 第 3 部 資 料



## 1. 第4回自然環境保全基礎調査検討会及び分科会名簿

### \*\*自然環境保全基礎調査検討会

座長	宝月 欣二	植物生態学	東京都立大学名誉教授
	朝比奈正二郎	動物（昆虫類）	元国立予防衛生研究所客員研究員
	今泉 吉典	動物生態学	国立科学博物館名誉館員
	上野 俊一	動物生態学	国立科学博物館昆虫第二研究室長
	奥富 清	植物生態学	東京農工大学名誉教授
	工藤 盛徳	海洋生物学	東海大学海洋学部教授
	黒田 長久	動物（鳥類）	(財)山科鳥類研究所長
	佐藤 大七郎	林学	(財)自然環境研究センター理事長
	高井 康雄	土壌学	東京農業大学農学部教授
	多紀 保彦	動物（魚類）	東京水産大学水産学部教授
	手塚 泰彦	陸水学	京都大学生態学研究センター教授
	中島 巖	航測学	(社)日本林業技術協会主任研究員
	西岡 秀三	情報工学	国立環境研究所地球環境研究センター総括研究管理官
	沼田 眞	植物生態学	千葉県立中央博物館長
	波部 忠重	動物（無脊椎動物）	日本貝類学会長
	古田 能久	陸水生物学	(株)フィスコ顧問
	宮脇 昭	植物生態学	横浜国立大学環境科学研究センター長
	門司 正三	植物生態学	東京大学名誉教授
	山本 護太郎	海洋学	元東海大学海洋学部教授
	吉川 虎雄	自然地理学	東海大学名誉教授

### \*\*哺乳類分科会

座長	阿部 永	北海道大学農学部教授
	阿部 學	森林総合研究所企画調整部研究情報科長
	今泉 吉典	国立科学博物館名誉館員
	吉行 瑞子	東京農業大学短期大学教授

## 2. 第4回自然環境保全基礎調査動植物分布調査実施要綱

### 1. 目的

本調査の目的は、専門研究者のみならず広く一般の自然愛好者の協力も得て、動植物の分布に関する知見を集大成することである。なお、本調査によって次のような成果を期待するものである。

#### (1) 生物相に関する記録の収集と保存

人為的または自然的要因により変化するわが国の生物相を一定間隔で網羅的に記録することによって、生物地理学・生態学等の自然科学の基礎資料となる。

#### (2) 動植物の保護管理のための科学的情報の提供

生物種ごとの分布のパターンや分布域拡大・縮小の傾向等を把握することにより、動植物の保護管理のための施設への客観的判断が可能となる。

#### (3) 環境診断

人間をも含めた動植物の生活の場としての環境が正常に機能しているのかどうかを、特定の生物種を環境指標種として用いることにより、判定することが可能となる。

#### (4) 各種調査データの蘇生

特定の目的に利用が限られていた各種の調査結果や、公開の機会が得られていた個人の観察記録などが、動植物の分布記録に関する体系的・汎用的な方法の提示により、有効な分布情報として蘇生される。

#### (5) 環境教育への寄与

多くの人々が身の回りの自然を注意深く観察し、自然の多様性、自然の仕組みなどに関心を寄せることになり、環境教育の新たな展開が図られる。

### 2. 調査対象

本調査は、特定の分類群に属するすべての種についての分布状況を収集する全種調査および環境指標種として選定された種の分布情報を収集する環境指標種調査からなる。調査対象種は維管束植物、軟体動物、節足動物、脊椎動物の各群の中から、陸域、陸水域で生活史の一部または全部を過ごすものであって

生物学的知見、特に分類学的知見が十分に蓄積されているものを選定する。なお、環境指標種については、多くの人が識別しやすいものから選定する。

### 3. 調査体制及び方法

本調査では、同定能力を有するものの自発的参加を得、調査研究活動や観察活動の際に得られる分布に関する知見の提供を受けるものとする。

(1) 調査の体制およびその役割は次のとおりとする。

#### ア. 環境庁

環境庁は、自然環境保全基礎調査検討会の下に、分類群別に動植物分布調査のための専門家による分科会を設け、次の検討を行う。

(7) 調査の基盤となる分類目録の整備

(イ) 調査対象種の選定

(ウ) 分布情報の点検

(エ) 情報の分析

(オ) 情報の公開・管理基準の策定

(カ) その他、専門的見地からの各種検討、指導、現地調査等

#### イ. 調査員

調査の主旨に賛同し、情報提供を行う者を調査員とする。

ただし、全種調査の調査員は専門的知見を有するものとする。環境指標種調査の調査員は一般公募による。

調査員は動植物の分布に関する必要な情報を調査票に記入し、環境庁に送付するものとする。

(2) 調査は次の方法により実施するものとし、詳細は「調査の手引書」等による。

#### ア. 分布情報の収集

調査員は直接野外観察または過去の観察記録に基づき、調査対象種の分布に関する情報についての必要事項を調査票に記入し、環境庁に送付する。

分布に関する情報は、調査員が直接または自ら採集した記録に基づくことを原則とするが、博物館、大学、個人等が所蔵している標本で必要な要件を備えている場合にはそれによることができる。

#### イ. 情報の集成・管理

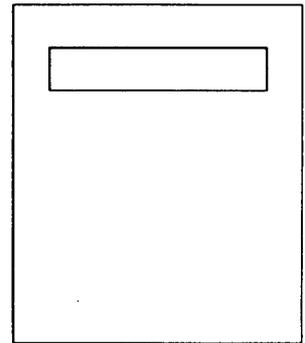
環境庁は調査員から送付された情報を集成し、すみやかに公開するものとする。また、継続的に提供される情報についても整備し、管理に努めるものとする。

### 3. 動植物分布調査票の記入のしかた

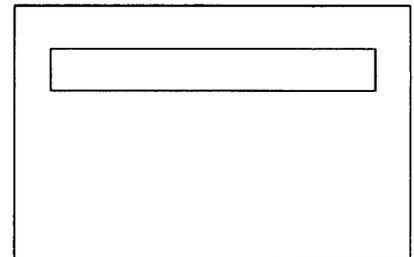
#### I 調査票の種類と使い方

調査票には、大きく分けて2つの種類があります。ひとつはタテ長のカード(1)で、もう一つはヨコ長のカード(2)です。

1. この調査票は、ある区画(地形図をタテ・ヨコに分けたもの)の中に、いつ(年月日)、どういう種類が記録されたかを記入するためのものです。したがって、区画が異なる場合、または期間が2つの月以上にまたがる場合は、原則として新しい調査票を使用してください。



2. この調査票は、ある種類がどの場所とどの場所で記録されたかを記入するためのものです。したがって、動植物の種類が異なるごとに新しい調査票を使用してください。



どちらの調査票を使用するかは各々の調査員の自由で、調査方法(場所を定めてそこにいる種をチェックするのか、あるいはいくつかの種を限りそれらの分布を調べるのか)により、使いやすいものを選んでください。

#### II 記入のしかた

調査者は太枠内の各項目について、記入してください。

1. 調査者名  
調査者名を漢字で記入するとともに、その読み方をカタカナで記入してください。
2. 調査者コード  
調査員証に記載された調査者コードを記入します。調査者コードがない場合は空欄にしておいてください。
3. 調査年月日  
調査を行った時期を記入します。タテ長の調査票の場合、調査をある期間継続して、あるいは断続的に行ったときは、最初と最後の日付を記入します。

1ケタの月、日のときは、数字の前に必ず0を入れてください。

1	9	8	9	0	5	1	0	-	3	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(1989年5月10日から31日)

過去の記録などで月日が不明の場合は該当欄に- (ハ-)を引いてください。ただし、年が不明の場合はデータとして採用しないものとします。

1	9	8	9	1	0	-	-	-		
---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

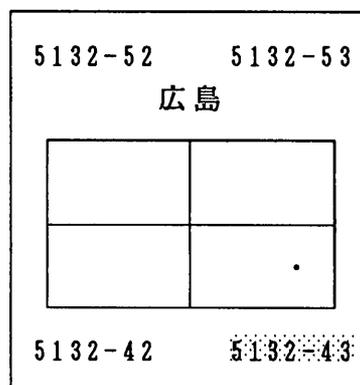
(1989年10月(日不明))

4. メッシュコード (区画番号)

調査地点が含まれるタテ・ヨコの線で囲まれた小さな区画を番号で表すには、次のようにします。

- (1) まず、調査地点が、地図を4等分したどの場所にあるのかを見ます。4等分した大きな区画を表す数字は地図の上と下に表示されている6ケタの数字です。  
 たとえば、調査地点が・印の位置とすると、5132-43がその数字です。  
 したがって調査票にはまず

5	1	3	2	4	3		
---	---	---	---	---	---	--	--



と記入します。

これで、だいたいの位置が決まります。過去の記録に基づいて記入する場合は、基本的には、ここまでの表示で結構ですが、これから調査を行う場合は、さらに詳しい位置を特定するために、次の手順に進んでください。

- (2) 1/5万メッシュ地形図には、上記の4等分した各大きな区画が、さらにタテ、ヨコ10等分され、小さな区画が100あります。  
 そこで、調査地点の・印を含む小さな区画に示されている2ケタの数字を読みとり、メッシュコードの最後の2ケタを埋めます。  
 たとえば、調査地点の・印を含む小さな区画が57であればメッシュコードは

5	1	3	2	4	3	5	7
---	---	---	---	---	---	---	---

となります。

この最小単位の区画(ほぼ1km×1kmに相当)を確定できない場合は、最後の2ケタに- (ハ-)を記入してください。

## 5. 調査地

調査を行った位置の都道府県名、市区町村名を確認して記入します。次に、調査用地形図上で、その地点を含む区画（メッシュ）内に地名を表す文字があれば、市区町村名の後の余白に記入してください。なお、地図上に表示されていなくてもその場所に明瞭な名称がある場合は（ ）書きにして記入してください。

例） （白山神社の森）

調査地が河川（水生昆虫、淡水魚等）の場合は地図上でその地点より川筋を下流または上流に辿り、最初に出会う河川名を（ ）書きにしてください。

## 6. 確認種

### (1) タテ長の調査票

生息または生育を確認した種について、その番号を○で囲んでください。「その他の確認種」欄については、その種名を余白に記入してください。陸産貝類の場合、調査票中に掲げられていないものは、目録中の種名の前の番号を枠内に記入します。陸産貝類以外は「その他の確認種」欄の枠内には何も記入しないでください。

なお、動植物のあるグループでは、種名が印刷されていないものがあります。この場合は、別添の種名目録を参考にして種名コードと種名を記入してください。

### (2) ヨコ長の調査票

タテ長の調査票に記載されている種名と番号、または別添の種名目録を参考にして、種名コードと種名を記入してください。

## 7. 生息環境（ヨコ長の調査票のみ）

調査を行った地点の環境を重要なものについて記入してください。生息環境が確定できない場合は記入しなくても結構です。

## 8. 採集者名、標本所蔵場所（ヨコ長の調査票のみ）

博物館・大学等に所蔵されている標本を調査した場合は、採集者名、標本所蔵場所を該当欄に記入してください。

## Ⅲ 問い合わせ先

調査の内容または調査票の記入のしかた等で、不明の点がありましたら

〒100 千代田区霞が関1-2-2

環境庁自然保護局自然環境調査室

TEL 03(3581)3351(内6439)

までお問い合わせください。

なお、(財)日本野生生物研究センター03(3812)1881でも問い合わせに応じております。

#### 4. 調査対象種一覧

哺乳類

本調査対象種一覧は、第4回調査開始時点（1990年4月）の分類に基づいて作成した。

#### INSECTIVORA モグラ目（食虫目）

##### SORICIDAE トガリネズミ科

0001 <i>Sorex hosonoi</i>	アズミトガリネズミ
<i>Sorex hosonoi hosonoi</i>	アズミトガリネズミ
<i>Sorex hosonoi shiroumanus</i>	シロウマトガリネズミ
0002 <i>Sorex minutissimus</i>	チビトガリネズミ
<i>Sorex minutissimus hawkeri</i>	トウキョウトガリネズミ
0003 <i>Sorex gracillimus</i>	カラフトヒメトガリネズミ
0004 <i>Sorex shinto</i>	シントウトガリネズミ
<i>Sorex shinto shinto</i>	ホンシュウトガリネズミ
<i>Sorex shinto shikokensis</i>	シコクトガリネズミ
<i>Sorex shinto saevus</i>	エゾトガリネズミ
0006 <i>Sorex unguiculatus</i>	オオアジトガリネズミ
0131 <i>Sorex sadonis</i>	サドトガリネズミ
0007 <i>Crocidura suaveolens</i>	コジネズミ
<i>Crocidura suaveolens shantungensis</i>	チョウセンコジネズミ
0008 <i>Crocidura horsfieldi</i>	オナガジネズミ
<i>Crocidura horsfieldi watasei</i>	ワタセジネズミ
0009 <i>Crocidura dsinezumi</i>	ジネズミ
<i>Crocidura dsinezumi dsinezumi</i>	サイゴクジネズミ
<i>Crocidura dsinezumi chisai</i>	ホンシュウジネズミ
<i>Crocidura dsinezumi umbrina</i>	ヤクシマジネズミ
0010 <i>Crocidura orii</i>	オリジネズミ
0011 <i>Suncus murinus</i>	ジヤコウネズミ
<i>Suncus murinus temmincki</i>	リュウキュウジヤコウネズミ
0012 <i>Chimarrogale himalayica</i>	カワネズミ
<i>Chimarrogale himalayica platycephala</i>	ニホンカワネズミ

##### TALPIDAE モグラ科

0013 <i>Dymecodon pilirostris</i>	ヒメヒミス
0014 <i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミス
<i>Urotrichus talpoides talpoides</i>	キュウシュウヒミス
<i>Urotrichus talpoides centralis</i>	シコクヒミス
<i>Urotrichus talpoides adversus</i>	ツシマヒミス
<i>Urotrichus talpoides minutus</i>	オキヒミス
<i>Urotrichus talpoides hondonis</i>	ホンシュウヒミス
0015 <i>Euroscaptor mizura</i>	ミスラモグラ
<i>Euroscaptor mizra mizura</i>	フジミスラモグラ
<i>Euroscaptor mizra ohtai</i>	シノミスラモグラ
0016 <i>Mogera wogura</i>	モグラ
<i>Mogera wogura wogura</i>	アズマモグラ
<i>Mogera wogura minor</i>	コモグラ

0017	<i>Mogera kobeae</i>	コウハモグーラ
	<i>Mogera kobeae kobeae</i>	コウハモグーラ
	<i>Mogera kobeae kanai</i>	ヤクシマモグーラ
	<i>Mogera kobeae coreana</i>	チョウセンモグーラ
0018	<i>Mogera tokudae</i>	サトモグーラ

## CHIROPTERA コウモリ目 (翼手目)

### PTEROPODIDAE オオコウモリ科

0019	<i>Pteropus dasymallus</i>	クビワオオコウモリ
	<i>Pteropus dasymallus dasymallus</i>	エラフオオコウモリ
	<i>Pteropus dasymallus inopinatus</i>	オリイオオコウモリ
	<i>Pteropus dasymallus daitoensis</i>	ダイトウオオコウモリ
	<i>Pteropus dasymallus yaeyamae</i>	ヤエヤマオオコウモリ
0020	<i>Pteropus loochoensis</i>	オキナワオオコウモリ
0021	<i>Pteropus pselaphon</i>	オガサワラオオコウモリ

### RHINOLOPHIDAE キクガシラコウモリ科

0022	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ
	<i>Rhinolophus ferrumequinum nippon</i>	ニホンキクガシラコウモリ
0023	<i>Rhinolophus cornutus</i>	コキクガシラコウモリ
	<i>Rhinolophus cornutus cornutus</i>	ニホンコキクガシラコウモリ
	<i>Rhinolophus cornutus orii</i>	オリイコキクガシラコウモリ
0024	<i>Rhinolophus imaizumii</i>	イリイモテコキクガシラコウモリ
0132	<i>Rhinolophus pumilus</i>	オキナワコキクガシラコウモリ
	<i>Rhinolophus pumilus pumilus</i>	オキナワコキクガシラコウモリ
	<i>Rhinolophus pumilus miyakonis</i>	ミヤコキクガシラコウモリ
0133	<i>Rhinolophus perditus</i>	ヤエヤマコキクガシラコウモリ

### HIPPOSIDERIDAE カグーラコウモリ科

0025	<i>Hipposideros turpis</i>	カグーラコウモリ
------	----------------------------	----------

### VESPERTILIONIDAE ヒナコウモリ科

0026	<i>Myotis formosus</i>	クロアカコウモリ
	<i>Myotis formosus tsuensis</i>	ツシマクロアカコウモリ
0027	<i>Myotis macrodactylus</i>	モモジロコウモリ
0028	<i>Myotis daubentoni</i>	トーヘーントソコウモリ
	<i>Myotis daubentoni ussuriensis</i>	ウスリトーヘーントソコウモリ
0029	<i>Myotis gracilis</i>	ウスリホオヒゲコウモリ
0030	<i>Myotis ozensis</i>	オゼホオヒゲコウモリ
0032	<i>Myotis hosonoi</i>	シナホオヒゲコウモリ
0033	<i>Myotis ikonnikovi</i>	ヒメホオヒゲコウモリ
0034	<i>Myotis pruinus</i>	クロホオヒゲコウモリ
0134	<i>Myotis yesoensis</i>	エゾホオヒゲコウモリ
0135	<i>Myotis fujiensis</i>	フジホオヒゲコウモリ
0035	<i>Myotis frater</i>	カグーラコウモリ

Myotis frater kaguyae	カク`ヤコウモリ
0036 Myotis nattereri	ノレンコウモリ
Myotis nattereri bombinus	ホント`ノレンコウモリ
0037 Pipistrellus abramus	アブ`ラコウモリ
0038 Pipistrellus endoi	モリアブ`ラコウモリ
Pipistrellus savii	オオアブ`ラコウモリ
0039 Pipistrellus savii velox	クロオオアブ`ラコウモリ
0136 Pipistrellus sturdeeii	オカ`サワラアブ`ラコウモリ
0137 Pipistrellus coreensis	コウライオオアブ`ラコウモリ
0040 Eptesicus nilssoni	ヒメホリカワコウモリ
Eptesicus nilssoni parvus	ヒメホリカワコウモリ
0041 Eptesicus japonensis	クビ`ワコウモリ
0042 Nyctalus aviator	ヤマコウモリ
0043 Nyctalus furvus	コヤマコウモリ
0044 Vespertilio superans	ヒナコウモリ
0046 Barbastella leucomelas	チチフ`コウモリ
Barbastella leucomelas darjelingensis	チチフ`コウモリ
0047 Plecotus auritus	ウサキ`コウモリ
Plecotus auritus sacrimontis	ニホンウサキ`コウモリ
Miniopterus schreibersi	ユビ`ナガ`コウモリ
0048 Miniopterus schreibersi fuliginosus	ニホユビ`ナガ`コウモリ
0049 Miniopterus fuscus	リュウキュウユビ`ナガ`コウモリ
0138 Murina hilgendorfi	ニホンテンク`コウモリ
0051 Murina silvatica	ニホンコテンク`コウモリ
0052 Murina tenebrosa	クチバ`テンク`コウモリ

#### MOLOSSIDAE オヒキコウモリ科

0053 Tadarida insignis	オヒキコウモリ
------------------------	---------

#### PRIMATES サル目 (霊長目)

##### CERCOPITHECIDAE ナガザル科

0054 Macaca fuscata	ニホンザ`ル
Macaca fuscata fuscata	ホント`ザ`ル
Macaca fuscata yakui	ヤクシマザ`ル
0055 Macaca cyclopis	タイワンザ`ル

#### LAGOMORPHA ウサギ目 (兔目)

##### OCHOTONIDAE ナキウサギ科

0056 Ochotona alpina	ナキウサギ`
Ochotona alpina yesoensis	エゾ`ナキウサギ`

##### LEPORIDAE ウサギ科

0057 Pentalagus furnessi	アマミノクロウサギ`
0058 Lepus timidus	ユキウサギ`

	<i>Lepus timidus ainu</i>	エゾ ユキウサギ
0059	<i>Lepus brachyurus</i>	ノウサギ
	<i>Lepus brachyurus brachyurus</i>	キュウシュウノウサギ
	<i>Lepus brachyurus okiensis</i>	オキノウサギ
	<i>Lepus brachyurus lyoni</i>	サトノウサギ
	<i>Lepus brachyurus angustidens</i>	トウホクノウサギ
0060	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	カイウサギ

## RODENTIA ネズミ目 (齧歯目)

### SCIURIDAE リス科

	<i>Callosciurus caniceps</i>	ハイガ シラリス
0061	<i>Callosciurus caniceps taiwanensis</i>	タイワンリス
	<i>Sciurus vulgaris</i>	キタリス
0062	<i>Sciurus vulgaris orientis</i>	エゾ リス
0063	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス
0064	<i>Tamias sibiricus</i>	シマリス
	<i>Tamias sibiricus lineatus</i>	エゾ シマリス
	<i>Tamias sibiricus barberi</i>	チョウセンシマリス
0065	<i>Pteromys momonga</i>	ホント モモンガ
	<i>Pteromys volans</i>	タイリクモモンガ
0066	<i>Pteromys volans orii</i>	エゾ モモンガ
0067	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ
	<i>Petaurista leucogenys leucogenys</i>	キュウシュウムササビ
	<i>Petaurista leucogenys oreas</i>	ワカヤマムササビ
	<i>Petaurista leucogenys nikkonis</i>	ニッコウムササビ

### GLIRIDAE ヤマネ科

0068	<i>Glirulus japonicus</i>	ヤマネ
------	---------------------------	-----

### MURIDAE ネズミ科

	<i>Clethrionomys rutilus</i>	ヒメヤチネズミ
0069	<i>Clethrionomys rutilus mikado</i>	ミカトネズミ
	<i>Clethrionomys rufocanus</i>	タイリクヤチネズミ
0070	<i>Clethrionomys rufocanus bedfordiae</i>	エゾヤチネズミ
0071	<i>Clethrionomys sikotanensis</i>	シコタンヤチネズミ
0072	<i>Clethrionomys rex</i>	リシリムクゲネズミ
0073	<i>Clethrionomys montanus</i>	ミヤマムクゲネズミ
0074	<i>Eothenomys niigatae</i>	ニイガタヤチネズミ
0075	<i>Eothenomys andersoni</i>	トウホクヤチネズミ
0076	<i>Eothenomys imaizumii</i>	ワカヤマヤチネズミ
0077	<i>Eothenomys kageus</i>	カゲネズミ
0078	<i>Eothenomys smithi</i>	スミスネズミ
	<i>Eothenomys smithi smithi</i>	ホント スミスネズミ
	<i>Eothenomys smithi okiensis</i>	オキスミスネズミ
0079	<i>Microtus montebelli</i>	ハタネズミ
	<i>Microtus montebelli montebelli</i>	ホント ハタネズミ

Microtus montebelli brevicorpus	サトハクネズミ
0080 Ondatra zibethicus	マスクラット
0081 Apodemus speciosus	アカネズミ
Apodemus speciosus speciosus	ホントアカネズミ
Apodemus speciosus sadoensis	サトアカネズミ
Apodemus speciosus insperatus	オオシマアカネズミ
Apodemus speciosus navigator	オキアカネズミ
Apodemus speciosus tusimaensis	ツシマアカネズミ
Apodemus speciosus dorsalis	セグロアカネズミ
Apodemus speciosus ainu	エゾアカネズミ
0082 Apodemus miyakensis	ミヤケアカネズミ
Apodemus peninsulae	ハントウアカネズミ
0083 Apodemus peninsulae giliacus	カラフトアカネズミ
0084 Apodemus argenteus	ヒメネズミ
Apodemus argenteus argenteus	ホントヒメネズミ
Apodemus argenteus sagax	ツシマヒメネズミ
Apodemus argenteus celatus	オキヒメネズミ
Apodemus argenteus yakui	ヤクヒメネズミ
Apodemus argenteus tanei	タネヒメネズミ
Apodemus argenteus hokkaidi	エゾヒメネズミ
0085 Apodemus agrarius	セスジネズミ
0086 Micromys minutus	カヤネズミ
Micromys minutus japonicus	ホントカヤネズミ
Micromys miuutus aokii	ツシマカヤネズミ
0087 Mus musculus	ハツカネズミ
Mus musculus molossinus	ニホンハツカネズミ
Mus musculus musculus	ヨウシュハツカネズミ
0088 Mus caroli	オキナワハツカネズミ
0089 Tokudaia osimensis	アマミトゲネズミ
Tokudaia osimensis osimensis	アマミトゲネズミ
Tokudaia osimensis muenninki	オキナワトゲネズミ
0090 Rattus rattus	クマネズミ
Rattus rattus tanezumi	ニホンクマネズミ
Rattus rattus diardi	マレーシアクマネズミ
0091 Rattus norvegicus	トブネズミ
Rattus norvegicus norvegicus	ヨウシュトブネズミ
Rattus norvegicus caraco	ニホントブネズミ
0092 Rattus legatus	ケナガネズミ

#### MYOCASTORIDAE ヌートリア科

0093 Myocastor coypus	ヌートリア
-----------------------	-------

#### CARNIVORA ネコ目 (食肉目)

##### URSIDAE クマ科

0094 Ursus arctos	ヒクマ
Ursus arctos yesoensis	エゾヒクマ
0095 Selenarctos thibetanus	ツキノワクマ

Selenarctos thibetanus japonicus

ニホンツキノワクマ

**PROCYONIDAE アライグマ科**

0096 Procyon lotor

アライグマ

0139 Procyon cancrivorus

カニクイアライグマ

**CANIDAE イヌ科**

0097 Nyctereutes procyonoides

タヌキ

Nyctereutes procyonoides viverrinus

ホントタヌキ

Nyctereutes procyonoides albus

エゾタヌキ

0098 Vulpes vulpes

キツネ

Vulpes vulpes schrencki

キタキツネ

Vulpes vulpes japonica

ホントキツネ

0099 Canis familiaris

ノイヌ

**MUSTELIDAE イタチ科**

0100 Martes melampus

テン

Martes melampus melampus

ホントテン

Martes melampus tsuensis

ツジマテン

0101 Martes zibellina

クロテン

Martes zibellina brachyura

エゾクロテン

0102 Mustela sibirica

チョウセンイタチ

Mustela sibirica coreana

チョウセンイタチ

0103 Mustela itatsi

イタチ

Mustela itatsi itatsi

ホントイタチ

Mustela itatsi sho

コイタチ

Mustela itatsi asaii

オオジマイタチ

0104 Mustela nivalis

イヌナ

Mustela nivalis namiyei

ニホンイヌナ

0105 Mustela erminea

オコジ

Mustela erminea orientalis

エゾオコジ

Mustela erminea nippon

ホントオコジ

0106 Mustela vison

ミンク

0107 Meles meles

アナグマ

Meles meles anakuma

ニホンアナグマ

0108 Lutra lutra

カワウソ

Lutra lutra whiteleyi

ニホンカワウソ

0109 Enhydra lutris

ラッコ

**VIVERRIDAE シンシロネ科**

0110 Paguma larvata

ハクビシン

0111 Herpestes edwardsi

インドマンクス

**FELIDAE ネコ科**

0112 Felis catus

ノネコ

0113 *Felis euphilura* ツツヤマネコ  
 0114 *Mayailurus iriomotensis* イリオモテヤマネコ

**PINNIPEDIA アザラシ目 (鳍脚目)**

**OTARIIDAE アザラシ科**

0115 *Zalophus californianus* アシカ  
           *Zalophus californianus japonicus* ニホンアシカ  
 0116 *Eumetopias jubatus* トト  
 0117 *Callorhinus ursinus* オットセイ

**ODOBENIDAE セイウチ科**

0118 *Odobenus rosmarus* セイウチ  
           *Odobenus rosmarus divergens* セイウチ

**PHOCIDAE アザラシ科**

0119 *Phoca vitulina* セニガタアザラシ  
 0120 *Phoca largha* コマアザラシ  
           *Phoca largha stejnegeri* コマアザラシ  
 0121 *Phoca hispida* ワモンアザラシ (フイリアザラシ)  
           *Phoca hispida ochotensis* ワモンアザラシ (フイリアザラシ)  
 0122 *Histriophoca fasciata* クラカケアザラシ  
 0123 *Erignathus barbatus* アゴヒゲアザラシ

**ARTIODACTYLA ウシ目 (偶蹄目)**

**SUIDAE イノシシ科**

0124 *Sus leucomystax* ニホンイノシシ  
 0125 *Sus riukiuanus* リュウキュウイノシシ

**CERVIDAE シカ科**

0126 *Cervus nippon* ニホンジカ  
           *Cervus nippon nippon* ニホンジカ  
           *Cervus nippon yakushimae* ヤクシカ  
           *Cervus nippon keramae* ケラマジカ  
 0127 *Cervus pulchellus* ツツマジカ  
           *Cervus hortulorum* タイリクジカ  
 0128 *Cervus hortulorum yesoensis* エゾジカ

**BOVIDAE ウシ科**

*Capricornis crispus* カモシカ  
 0129 *Capricornis crispus crispus* ニホンカモシカ  
 0130 *Capra hircus* ヤキ

## 5. 調査対象種変更点一覧

第4回調査開始（1990年4月）にあたり、調査対象種について第3回調査から変更された点を以下に示した。

変更された内容を、第3回調査対象種名の右あるいは下側に括弧書きで記した。第4回調査対象種名はその括弧内の変更の結果となる。

第4回調査開始にあたり対象から外された種、亜種については、第3回調査対象種名の右あるいは下側に（削除）と記した。また、第4回調査開始にあたり新たに対象に加えられた種、亜種は第4回調査対象種名の右あるいは下側にその旨記した。

## 第4回

## 第3回

## モグラ目

## トガリネズミ科

0131 サトトガリネズミ *Sorex sadonis* (新対象種)0005 アカイトガリネズミ *Sorex chouei* (削除)

## コウモリ目

## キクガシラコウモリ科

0132 オキナクキガシラコウモリ *Rhinolophus pumilus*オキナクキガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus pumilus*  
(0023 コキガシラコウモリ の亜種であったが種へ変更されたため、  
種コードがつけられた)ミヤコキガシラコウモリ *Rhinolophus pumilus miyakonis*ミヤコキガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus miyakonis*  
(上記に伴い種小名変更)0133 ヤエヤマコキガシラコウモリ *Rhinolophus perditus*ヤエヤマコキガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus perditus*  
(0023 コキガシラコウモリ の亜種であったが種へ変更されたため、  
種コードがつけられた)ミカドキガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum mikadoi* (削除)

## ヒナコウモリ科

0034 クロホビゲコウモリ *Myotis pruinus*0034 コホビゲコウモリ *Myotis pruinus* (和名変更)0134 イヅホビゲコウモリ *Myotis yesoensis* (新対象種)フジホビゲコウモリ *Myotis mystacinus fujiensis*  
(0031 ホビゲコウモリ の亜種であったが種へ変更されたため、  
種コードがつけられた)0135 フジホビゲコウモリ *Myotis fujiensis*0031 ホビゲコウモリ *Myotis mystacinus* (上記の変更のため削除)

## 第4回

## 第3回

0039 クロオオアツラコウモリ *Pipistrellus savii velox*0136 オカサワラアツラコウモリ *Pipistrellus sturdeeii* (新対象種)0137 コウライオオアツラコウモリ *Pipistrellus coreensis*0048 ニホンヒビナガコウモリ *Miniopterus schreibersi fuliginosus*0051 ニホンテンクコウモリ *Murina silvatica*0138 ニホンテンクコウモリ *Murina hilgendorfi*クオオアツラコウモリ *Pipistrellus savii velox*(0039 オオアツラコウモリ *Pipistrellus savii* の種コードが亜種につけかえられた)コウライオオアツラコウモリ *Pipistrellus savii coreensis*

(0039 オオアツラコウモリ の亜種であったが種へ変更されたため、種コードがつけられた)

0045 トウヨウヒナコウモリ *Vespertilio orientalis* (削除)0048 ニホンヒビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus*

(種からヒビナガコウモリの亜種へ変更)

0051 ニホンテンクコウモリ *Murina ussuriensis* (種小名変更)ニホンテンクコウモリ *Murina leucogaster hilgendorfi*

(0050 テンクコウモリ の亜種から種へ変更されたため、種コードがつけられた)

0050 テンクコウモリ *Murina leucogaster* (上記の変更のため削除)

## ウサギ目

## ナキウサギ科

0056 ナキウサギ *Ochotona alpina*イヅナキウサギ *Ochotona alpina yosoensis*

## ネズミ科

## ネズミ科 MURIDAE

## ヌートリア科

## ヌートリア科 MYOCASTORIDAE

0056 ナキウサギ *Ochotona hyperborea* (種小名変更)イヅナキウサギ *Ochotona hyperborea yosoensis* (種小名変更)

第3回におけるキタネズミ科 CRICETIDAE は、第4回のネズミ科 MURIDAE に含まれる。

カプロミス科 CAPROMYIDAE (科名変更)

---

第4回

第3回

---

ネコ目

アライグマ科

0139 カクイアライグマ *Procyon cancrivorus* (新対象種)

アザラシ目

アザラシ科

0119 ゼニガタザラシ *Phoca vitulina*

0120 コマツザラシ *Phoca largha*

コマツザラシ *Phoca largha stejnegeri*

0119 コマツザラシ *Phoca vitulina* (和名変更) \*1

0120 ゼニガタザラシ *Phoca largha* (和名変更) \*1

コマツザラシ *Phoca vitulina stejnegeri* (種小名変更)

ウシ目

シカ科

ニホンジカ *Cervus nippon nippon*

ニホンジカ *Cervus nippon nippon* (和名変更)

ウシ科

0129 ニホンカモシカ *Capricornis crispus crispus*

(0129 カモシカ *Capricornis crispus* の種コードが亜種につけかえられた)

---

\*1 データ処理上、種コードは学名に対応させて与えられたため表記上「和名変更」としたが、実際にはそれぞれの種の学名が変更されたものである。

## 6. 調査協力者名簿

### 哺乳類

調査者 コード	氏 名 (五十音順)	居 住 地 (都道府県名)
0740001	赤間 徹	宮城
0740140	浅川 満彦	北海道
0740005	東 滋	愛知
0060092	阿部 東	青森
0740092	阿部 永	北海道
0740126	阿部 學	東京
0740003	有本 誠	東京
0740149	石原 龍夫	神奈川
0740120	泉山 茂之	愛知
0740102	井上 行雄	埼玉
0740085	今泉 忠明	東京
0740125	今泉 吉典	東京
0740015	岩野 泰三	東京
0740138	浦口 宏二	北海道
0740074	大泰 司 紀之	北海道
0740038	大津 正英	山形
0740072	織田 銚一	愛知
0740121	小野山 敬一	北海道
0740036	小原 巖	東京
0740099	恩地 実	兵庫
0740114	梶浦 敬一	岐阜
0740090	片山 一	静岡
0720303	加藤 良	岩手
0740064	兼松 仁郎	長崎
0740096	川島 由次	沖縄
0740051	川路 則友	北海道
0740020	木村 吉幸	福島
0740159	子安 和弘	愛知
0740168	近藤 明子	東京
0740066	近藤 憲久	北海道
0740118	斉藤 秀生	東京
0740110	斉藤 貴	埼玉
0740136	斉藤 隆	北海道
0740165	笹森 聡	青森
0740144	佐藤 孝則	北海道
0740162	鮫島 正道	鹿児島
0740124	鈴木 さち子	岩手
0720304	鈴木 秀	岩手
0740145	高田 靖司	愛知
0740076	高津 昭三	神奈川
0740094	田代 道彌	神奈川
0740040	立花 繁信	宮城

0720302	田村	松見	岩手
0740122	伊達	功	岩手
0740158	寺西	敏夫	愛知
0740007	出羽	寛	北海道
0740044	遠竹	行俊	東京
0720022	当山	昌直	沖縄
0740087	土岐	惣亮	埼玉
0740106	鳥羽山	照夫	千葉
0740146	友成	孟宏	徳島
0740043	鳥居	春巳	静岡
0740032	中園	敏之	熊本
0740029	中田	圭亮	北海道
0080110	中村	慎吾	広島
0720314	長岡	浩子	東京
0740160	名和	明	愛知
0740034	野崎	英吉	石川
0740055	芳賀	良一	北海道
0740167	博物館	友の会	長野
0740097	浜田	俊	静岡
0740164	林	勝治	広島
0710226	原田	猪津夫	愛知
0740058	原田	正史	大阪
0740009	藤卷	裕蔵	北海道
0740056	船越	公威	福岡
0720272	星野	善一郎	岩手
0740023	前田	喜四雄	奈良
0740152	松村	澄子	山口
0740070	宮尾	嶽雄	愛知
0740098	向山	満	青森
0740161	森田	忠義	福岡
0740028	両角	徹郎	長野
0740155	八神	徳彦	石川
0740153	柳川	久	北海道
0740047	矢部	辰男	神奈川
0720162	山下	典郎	長崎
0710446	山田	勝己	兵庫
0740082	湯浅	純孝	富山
0740137	横畑	泰志	北海道
0740078	吉倉	真	熊本
0740077	吉田	博一	福岡
0740127	吉行	瑞子	東京
0740123	渡辺	鋼樹	岩手

84名

各都道府県鳥獣保護員

1286名

計1370名

上記の他に社団法人大日本猟友会、各都道府県猟友会をはじめ、各支部の会員の方々に御協力をいただいた。

## 7. 分布図索引 (和名50音順)

### 哺乳類確認種和名リスト

0081	アカネズミ	106
0001	アズミトガリネズミ	23
0107	アナグマ	130
0037	アブラコウモリ	62
0089	アマミトゲネズミ	112
0057	アマミノクロウサギ	83
0096	アライグマ	119
0104	イイズナ	127
0103	イタチ	126
0024	イリオモテコキクガシラコウモリ	46
0114	イリオモテヤマネコ	136
0111	インドマングース	133
0047	ウサギコウモリ	73
0029	ウスリホオヒゲコウモリ	53
0128	エゾシカ	146
0134	エゾホオヒゲコウモリ	58
0066	エゾモモンガ	92
0070	エゾヤチネズミ	96
0062	エゾリス	88
0006	オオアシトガリネズミ	27
0136	オガサワラアブラコウモリ	65
0021	オガサワラオオコウモリ	43
0020	オキナワオオコウモリ	42
0132	オキナワコキクガシラコウモリ	47
0088	オキナワハツカネズミ	111
0105	オコジョ	128
0030	オゼホオヒゲコウモリ	54
0117	オットセイ	138
0008	オナガジネズミ	30
0053	オヒキコウモリ	79
0010	オリイジネズミ	32
0060	カイウサギ	86
0035	カグヤコウモリ	60
0025	カグラコウモリ	49
0077	カゲネズミ	103
0086	カヤネズミ	109
0083	カラフトアカネズミ	107
0003	カラフトヒメトガリネズミ	25
0108	カワウソ	131
0012	カワネズミ	34
0022	キクガシラコウモリ	44
0098	キツネ	121
0052	クチバテングコウモリ	78
0019	クビワオオコウモリ	41
0041	クビワコウモリ	68
0090	クマネズミ	113

0026	クロアカコウモリ	50
0039	クロオオアブラコウモリ	64
0101	クロテン	124
0034	クロホオヒゲコウモリ	57
0092	ケナガネズミ	115
0017	コウベモグラ	39
0137	コウライオオアブラコウモリ	66
0023	コキクガシラコウモリ	45
0007	コジネズミ	29
0043	コヤマコウモリ	70
0120	ゴマフアザラシ	140
0131	サドトガリネズミ	28
0018	サドモグラ	40
0071	シコタンヤチネズミ	97
0032	シナノホオヒゲコウモリ	55
0064	シマリス	90
0004	シントウトガリネズミ	26
0009	ジネズミ	31
0011	ジャコウネズミ	33
0078	スミスネズミ	104
0119	ゼニガタアザラシ	139
0055	タイワンザル	81
0061	タイワンリス	87
0097	タヌキ	120
0046	チチブコウモリ	72
0002	チビトガリネズミ	24
0102	チョウセンイタチ	125
0095	ツキノワグマ	118
0127	ツシマジカ	145
0113	ツシマヤマネコ	135
0100	テン	123
0075	トウホクヤチネズミ	101
0116	トド	137
0028	ドーベントンコウモリ	52
0091	ドブネズミ	114
0056	ナキウサギ	82
0074	ニイガタヤチネズミ	100
0124	ニホンイノシシ	142
0129	ニホンカモシカ	147
0051	ニホンコテングコウモリ	77
0054	ニホンザル	80
0126	ニホンジカ	144
0138	ニホンテングコウモリ	76
0048	ニホンユビナガコウモリ	74
0063	ニホンリス	89
0093	ヌートリア	116
0099	ノイヌ	122
0059	ノウサギ	85
0112	ノネコ	134
0036	ノレンコウモリ	61

0110	ハクビシン	-----	132
0079	ハタネズミ	-----	105
0087	ハツカネズミ	-----	110
0094	ヒグマ	-----	117
0044	ヒナコウモリ	-----	71
0014	ヒミズ	-----	36
0084	ヒメネズミ	-----	108
0013	ヒメヒミズ	-----	35
0033	ヒメホオヒゲコウモリ	-----	56
0040	ヒメホリカワコウモリ	-----	67
0135	フジホオヒゲコウモリ	-----	59
0065	ホンドモモンガ	-----	91
0069	ミカドネズミ	-----	95
0015	ミズラモグラ	-----	37
0073	ミヤマムクゲネズミ	-----	99
0106	ミンク	-----	129
0067	ムササビ	-----	93
0016	モグラ	-----	38
0027	モモジロコウモリ	-----	51
0038	モリアブラコウモリ	-----	63
0133	ヤエヤマコキクガシラコウモリ	-----	48
0130	ヤギ	-----	148
0042	ヤマコウモリ	-----	69
0068	ヤマネ	-----	94
0058	ユキウサギ	-----	84
0072	リシリムクゲネズミ	-----	98
0125	リュウキュウイノシシ	-----	143
0049	リュウキュウユピナガコウモリ	-----	75
0076	ワカヤマヤチネズミ	-----	102
0121	ワモンアザラシ (ファイリアザラシ)	-----	141

第4回自然環境保全基礎調査  
動植物分布調査報告書  
(哺乳類)

平成5(1993)年3月  
環境庁自然保護局